

やまなみ

第 10 号



山人あびこ



GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO

岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ

やまなみ

第 10 号



手賀沼

『やまなみ』 第10号発刊に寄せて
第13期（平成20年度）活動方針

平成21年度会長 小川誠二郎

NO.	山 名	山 域	月 日	執 筆 者	ページ
平成20年度(2008年3月～2009年2月)					2008年度
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	3/8-9	外崎蓮	1
577	お天気山～羽賀場山	前日光	3/16	安田みづほ	4
578	子の権現・伊豆ヶ岳（新人歓迎）	奥武蔵	3/30	やまたん	6
579	北八ヶ岳	八ヶ岳	4/5-6	安田みづほ	12
580	勘七の沢	丹沢	4/13	佐々木侑	16
581	笛子雁ヶ腹摺山	中央沿線	4/26	原田和昭	18
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	4/26-27	柴勇、坂巻明	20
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	5/3-6	千葉有子	23
584	二王子岳	飯豊	5/31-6/1	石垣吉朗	27
585	夕日岳	日光	6/1	箕輪カオル	29
586	北八ヶ岳（市民登山）	八ヶ岳	6/7-8	やまたん	31
587	大行沢～カケス沢	東北	6/14-15	千葉有子	41
588	苗場山	谷川	6/15-16	原田君子	44
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	6/21-22	田村光子	46
590	谷川岳山麓（リーダー研修）	谷川	6/28-29	石垣吉朗	49
591	両神山	奥秩父	7/5-6	高橋芳恵	51
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	7/13	細野清子	53
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	7/25-28	佐藤明子	56
594	木曽御嶽山	木曽	8/2-3	坂巻明	59
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	8/10	品田千恵子	61
596	鳳凰三山	南ア	8/14-15	本間恭子	63
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	8/21-23	清家三保子	66
598	奥穂高岳	北ア	8/22-24	坂口よし江	69
599	三ツ峠山	富士周辺	9/7	中村隆泰	71
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	9/21-23	青山寿子	73
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	9/26-28	大串秀雄	76
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	9/26-28	武内勇二	79
603	石裂山	前日光	10/5	高橋重	82
604	黒部峡谷下の廊下	北ア	10/11-13	千葉有子	85

NO.	山 名	山 域	月 日	執 筆 者	ページ
605	本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	10/26	佐藤健一	88
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	10/26	中村八重子	91
607	浅間尾根	奥多摩	11/1	村松敏彦	93
608	茅ヶ岳	甲斐	11/2	小川洋子	95
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	11/9	本田愛子	98
610	御前山	奥多摩	11/23	箕輪完二	100
611	手賀沼一周	東葛飾	12/1	高橋重	102
612	本仁田山～平石山	奥多摩	12/7	武内勇二	104
613	城峯山(忘年山行)	秩父	12/14	やまたん	106
614	八ヶ岳(西岳～権現岳～編笠山) (クリスマス山行)	八ヶ岳	12/20-21	外崎蓮	110
615	笛尾根(楨寄山)	奥多摩	1/10	矢野裕子	114
616	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	1/17-18	小川誠二郎	116
617	斧窪御前山	中央沿線	1/25	瀬田映子	120
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山 (県連ロングハイク)	房総	1/31-2/1	斎藤清一	122
619	伊豆ヶ岳東尾根	奥武藏	2/8	堀口昭二	125
620	金時山	箱根	2/22	坂口よし江	127
資料	推移グラフ(1996年～2008年)			編集者	129
	山行一覧表(2008年度)			編集者	130
	活動の記録(1996年～2008年)			編集者	133
	岳人あびこ山行索引(1996年～2009年2月) 山名			編集者	145
編集後記				編集者	—

*表紙イラスト提供：箕輪完二氏 ハヤチネウスユキソウ(キク科)

＊＊岳人あびこ山行索引は中村隆泰氏の資料を基に編集者が追加修正を行った



「やまなみ」第 10 号発刊によせて

平成 21 年度 会長 小川誠二郎

「やまなみ」も巻を重ねて第 10 号ができました。去る 4 月 25 日から 27 日までの他の会の山行で遭難逝去された岳人あびこ会員坂口よし江さんを失った痛手は厳しいものですが、この悲しみを乗り越えて今後とも山行に精進を重ねて参りましょう。

第 10 号に至る各巻に積み上げられた皆様の山行実績と編集作成の努力、そしてまたこの第 10 号作成によせられた尽力に敬意を表し、第 10 号発刊をともに慶びとするものであります。

前会長中村隆泰さんが昨 20 年 12 月に作成して下さった「岳人あびこ山行索引」のお蔭で「やまなみ」が大変使い易いデータとして生命力を持つようになりました。山の案内書は世に沢山ありますが、我ら仲間の実績に基づく記録は一段と身近な感覚で参考になります。

もちろんの記録を整備し活用する習慣は、日本人にくらべて欧米人の方が馴染んでいるように見受けます。日本人は明治維新と敗戦を経験し、いずれもそれまでの歴史を捨て、新しい未来に取り組む気概から、「歴史はこれから始まる」として、過去の記録を整備し活用することを軽視する気風があるようになります。しかし、過去の記録を整備し活用することは、未来の行動の効率と水準を高めるものと思います。

創刊号の第 1 回山行の会津朝日岳から始まり、すべての山行について記録と文集が整備されていることは素晴らしいことだと思います。日頃馴染みの会員同士の生身の付き合いに加えて、文集を通じて相互理解が深まり結束の絆が強まることにもなるでしょう。

この第 10 号を噛み締めて味わい、そして創刊号以来の各巻を逍遙しましょう。



第13期 岳人あびこ活動方針

スローガン：燃やそう山への情熱、深めよう仲間の絆

気持ちを緩めず安全登山

1. 活発な山行と質の向上

- (1) 自主性ある登山で山への情熱を燃やそう。
- (2) 多様なテーマの登山に積極的にチャレンジ
- (3) 可能性を広げる装備品の活用

2. 基礎力（知識・技術・体力）の向上

- (1) 体力向上のための自主トレーニングの実行
- (2) ストレッチ体操でさわやかに出発
- (3) 基礎的知識・技術向上のため、机上講習、研修山行の実施

3. 安全登山と事故防止

- (1) 危険箇所、特に下山路における声かけの実行
- (2) ヒヤリ、ハット情報収集活用
- (3) 緊急時の処置、連絡方法の徹底

4. 会員親睦とコミュニケーションの推進

- (1) 諸行事、山行に参加し、ひとり一役、仲間の絆を深めよう。
- (2) “やまたん”、ホームページ及びEメールで情報の共有化と迅速化を図る。
- (3) みんなの想い出を“やまなみ”に残そう。

5. 市民や自然との関わり

- (1) 一般市民対象の市民登山の実施
- (2) 障害者対象の“ウィズハイク”的実施
- (3) 自然保護活動への積極参加とクリーンハイクの実施

6. 県連や他の山岳団体との交流

- (1) 県連理事会、各種委員会への積極的参加
- (2) 県連行事への参加を通じ他の山岳団体と交流

以 上



平成20年度

平成20年3月～平成21年2月

<576>

三頭山～笹尾根 (1528m)

外崎 蓮

昔の人の交易の道

3/8 (土) 晴

20年度定例山行の第1番目の山、三頭山～笹尾根に参加した。会員の中では、すでに登っている人が多いためか希望者がなく、リーダーの青山さんは個人山行に切り替えようとしていた。そこへ、肩と膝に故障を抱えた私と村松さんが、リハビリを兼ねて加わった。三頭山には、かつて、奥多摩湖のドラム缶橋を渡って糠指尾根から登ったことがあるが、今回はその西隣のムロクボ尾根をあがる計画になっている。奥多摩駅から鴨沢行きのバスに乗り、私たちが深山橋で降りてもまだ後方に乗客が残っている。雲取山方面をめざすのだろうか。私たちは、バス停から程近い緑色に塗られた橋から歩き出す。対岸に渡った先に、急峻なムロクボ尾根の末端が延びていて、ここからいきなり急登が始まる。まだ芽吹きには早く、空けた木々の間から青い湖面が見下ろせる。木々に掴まってどんどん高度を上げていく。うっかり手を離すと、湖に転げ落ちて行きそうである。

600mほど登って、糠指尾根との分岐のツネ泣峠に着く。暗い林に囲まれているが、それでもわずかに木漏れ日が入ってくる。昼食後も急登の連続。オツネの泣坂あたりから雪道になった。その昔々、あまりにもきついこの坂道に、隣村の男性のもとへ通うオツネさんも泣いたという伝説があるほど。

うっかり通り越してしまいそうな入小沢ノ峰からは、さらに急な坂道になる。その上、張り付いた雪がアイスバーンになっていて滑るために、ついに六本爪のアイゼンをつける。二時過ぎ、ようやく三頭山の西峰に到着。南面からの日ざしを受け、山頂の雪が溶けて地面がぬかるんでいる。春がすぐそこまでやって来ていた。

この時期になると、山頂付近の積雪量の把握が難しい。念のため共同水として1人1.5Lの水を背負ってきた。が、山頂を下った林の中には予想外に積雪があり、表面の雪を掻き出して、

中の汚れていない部分を集め。それぞ大きな袋をぶら下げて三頭山避難小屋に下った。小屋は丸太を組んだガッシリした造りで、道に面して田舎の縁側を思わせるテラスが付いている。ここで日向ぼっこをしながら、今とってきたばかりの雪をガスにかける。ほどなく大きなザックの若者二人が私たちと同方向から下りてきて、小屋の住人となった。あとは誰一人小屋の前を通らない。小屋の中は板の間とコンクリートの土間に分れ、一人分の寝具もあった。土間には丸テーブルがあり、この上で夕食の支度をする。炊事に使う水は、雪を溶かしたものを使用する。生で飲むには雪水の独特の臭いがして、味も悪いのだ。それが、どこかの山で新雪で作ったことがあった。無味無臭で普通の水と変わりなかった。残雪がどうして臭うのか。一冬分の大気汚染が染み込んでいるせいだろうか。

夜中、トイレに起きたついでに外に出てみた。月が林の中の雪を照らし、びっくりするほど明るい。ヘッドライトがなくても歩けそうだ。高い梢の先には、薄ぼんやりと星も見えた。



日だまりの三頭山中央峰

3/9 (日) 晴

小屋泊まりはテントを畳む作業がない分、楽である。隣はまだ寝ているので、そっとドアを閉めて外に出る。今日は笹尾根を歩く。三月とはいえ空気がピーンと張り詰めている。道が凍っているので朝からアイゼンをつける。ひと登りで大沢山を越え、林の中の薄暗い雪道を行く。右手に下る標識のないヤブ道は、下の集落につながっているのだろう。昔は貴重な道だったに違いない。大沢山から1時間少しで、富士山の展望台の楨寄山に着く。正面にとてもいい形の

富士山が見える場所である。今朝の白銀の富士は、心なしか迫力に欠けている気がした。ひと下りで十字路の西原峠だ。右へ行けば郷原へ、左に行けば数馬へ下る。真っ直ぐ東に向かうのは笹尾根の縦走路。私はこれまでこの尾根道を何度歩いたろうか。いつも雪のある時期ばかり。笹尾根には、尾根をはさんで南側の鶴川に沿った集落と北川の秋川に沿った集落を結ぶ道が何本もあって、峠がいっぱいある。今では歩かれていらない道も多くヤブ化しているが、昔はこれらの道を荷物を積んだ馬や人が行き来していた。何となくその頃の雰囲気が伝わってくる。もしや、向こうからひょっこりと、手ぬぐいで頬かむりしたオヤジさんが馬の手綱を引きながらやってきて、「いい天気じゃね」とか言ってくれ違っても夢ではないような…。

次の峠は笹ガ峠。笛吹峠はその次の峠で、南面の桧の林が覆いかぶさり、ここは昼でも薄暗い。道のわきに「大日」と彫られた石碑があるところから、大日峠とも呼ばれているらしい。まもなく丸山の入口に着く。右手の坂を登ると、東西に長い丘状になっていて三角点がある。南面には扇山や権現山が見える。上野原への下山路を右手に見ながら巻き道に戻ると、小櫛峠などというステキななまえの峠がある。

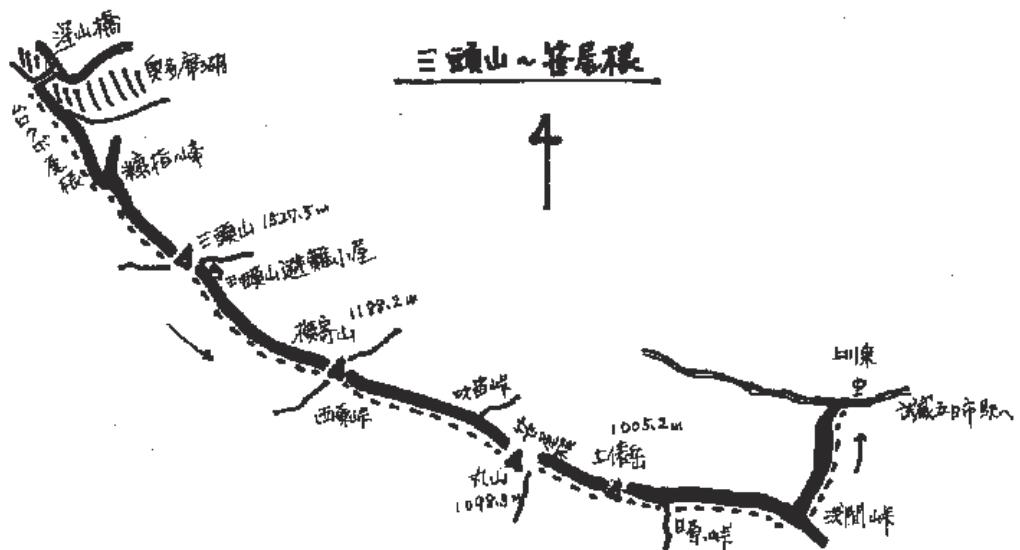
土俵岳は、以前こんなに登ったかしら?とフーフーし始めたころ、だだっ広い山頂に着く。平らな台地の一角に三角点が置かれているが、昔は真っ暗な林に囲まれていて写真も撮れなかつた。今はかなり木が伐採されていて明るく

なっている。次の峠は日原峠。なまえに相応しく、日の当たる道の中に石仏が祀られてある。馬を休ませながら、手ぬぐいで頬かむりしたあのオヤジさんもきっと併んだに違いない。今に生きる私でさえ、石仏を見ると決まって手を併せたくなる。

最後の浅間峠まではピークを二つも越えなければならず、意外なほど遠く感じられた。長い尾根歩きに少々飽きてきたこともある。この峠は笹尾根の中では最も広く、杉の大木と浅間神社とあずま屋がある。ヤレヤレとばかり腰を伸ばしていると、小さなザックを背負った一人の青年が現れた。山中で出会った唯一の人。彼は私たちのシャッターを押すために、タイミング良く現れたかのようだ。

このあと上野原側に下ろうとしたが、何本かの枝が浅間峠からの下山口をふさいでいるので、どこか道が崩れているのかも知れないと思い、予定通り上川乗へ下る。バス停に 13:40 に着いたのに、五日市駅行きのバスは最終便の 15:26 のみ。そこへ、別に待った訳でもないのに良くしたもので、私たちと同じ年恰好の男性が一人下山してきた。すぐに話がまとまり、タクシーを呼んで五日市に出る。ところが駅前には、一番大切な儀式を行う場所がない。仕方なくコンビニでビールを買い、駅前の電話ボックスの裏にまわって、若いお兄ちゃんたちがよくやるようにしゃがんで缶を掲げ、「乾杯、お疲れさまー」。

概念図



概要



三角点のある楨寄山



春を待つ富士山



雪の中の石碑（笛吹峠にて）

山名	三頭山～笹尾根		
月日	平成 20 年 3 月 8 日 (土) ~9 日 (日)		
形式	避難小屋泊	グレード	3 B
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	奥多摩湖・猪丸
目的	笹尾根の雪の景色		
費用	6,000 円	交通機関	JR、西東京バス、タクシー
1 日 目	我孫子 5:33→立川駅 7:00/05→奥多摩駅 8:22/35→深山橋 9:10/30⇒オツネの泣坂 12:00/35⇒入小沢の峰 13:04⇒鶴峠分岐 13:37⇒三頭山西峰 14:15/30⇒三頭山避難小屋 14:55(泊) <快晴 歩行時間：4 時間 35 分>		
行 程	三頭山避難小屋 6:30⇒大沢山 6:43⇒楨寄山 7:55/8:15⇒笛吹(ウズシキ)峠 9:32/40⇒丸山 10:00/13⇒土俵岳 11:00⇒日原峠 11:00⇒浅間峠 12:25/40⇒上川乗 13:30/14:25 (タクシー)→武藏五日市駅 14:50/15:55→立川駅→我孫子 18:10 <快晴 歩行時間：6 時間>		
ル ー ト 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 700～800M付近は落葉の下がアイスバーンになっていて、転倒しやすい。 1000M以上は積雪はあるが、新雪ではない。 オツネの泣坂は積雪した急坂。 		
山小 屋情 報	<p>三頭山避難小屋はログハウス風の気持ちよい避難小屋。登山道脇にあり避難小屋テラスからは富士山、御坂山塊の展望が素晴らしい。</p> <p>内部は結露防止の 2 重窓になっていて、20 人は宿泊できる。</p> <p>毛布、布団が 3 枚あり、小屋は東京都自然保護員（都レンジャー）が管理していて清潔に保たれている。</p> <p>トイレは小屋内にありバイオ清浄になつていて、異臭もない。</p> <p>水場は小屋裏の小沢を下ればあるが、冬季は凍結して使用不可。</p>		
参加 者	青山(L)、村松、外崎 男 1 名 女 2 名 計 3 名		

<577>

お天気山～羽賀場山 (775m)

安田みづほ

地図読みは相変わらず苦手 でも楽しかった岩の山

栃木県新鹿沼駅からジャンボタクシーと普通車の2台で登山口のある大久保田中まで行く。さっそくリーダーから現在地と方向進行を地図で確認するよう指示がある。小川誠二郎さんがトップを任せられた。杉林をしばらく行くと大きな堰堤(349m)に出る。左に踏み跡をたどり堰堤を右に見る。柔らかな土で滑りやすい急斜面をよじ登ると上大久保ルートからの尾根道に出くわす。

(天久山→の板あり、天強山とも言うらしい。)



堰堤を過ぎた辺りで、急斜面を登り尾根に出た。

今日は暑くなるとの予報だったが曇り空で木の間越しに見える山もかすんでいた。早春の3月にしては寒い。しばらく登ると(520m付近)道は二つに分かれ、ここでどちらの道を進むか地図読みだ。コンパスの矢印は左側を示している。左側の道は岩混じりでお天気山への尾根道で、急登すると石の祠(一の宮)でなおも急な岩場をよじ登るとそこがお天気山の山頂であった。小さな祠もあった。リーダーに握手していただき、「安田さんしばらくだねえ」と声かけられ、「本ただなあー」。山頂には〔お天気山 777m〕の可愛い看板があるが実際は770m位か。地図にはお天気山

の名は明記されてない。さほど広くない山頂だが日光方面も見渡せる展望地であるらしい。マンサクの花が咲いていてツツジの木もたくさんある。ツツジの花の咲く様を想像しながらのお昼のひと時、気分がよい。集合写真のあと、羽賀場山方面を地図で確認するがあわててはつきりしないうちに出発になってしまった。



お天気山山頂にて

まずは777m峰を目指す。道は岩場、落葉の下に根っこや石があったり、登り下りの連続にロープがあつたりと緊張しつばなしだ。もろい岩を掴んだ人が大声を出したのでヒヤッとした。地図上ではお天気山から羽賀場山のルートはゆるい広い尾根道と思ったが実際は道は狭くピークがいくつもあってかなり険路である。「地図上の等高線は10m毎に記されてるでしょ、だけど実際それに満たない場合は地図の上には載らない為この山のような小さなピークは地図上では現われないんだよ。」と、リーダーが説明してくれた。小さいピークとは言え、なかなかのものである。地図読みは難しい!いくつかピークを越え急登すると羽賀場山についた。



お天気山～羽賀場山は幾つもの小ピークを越える。



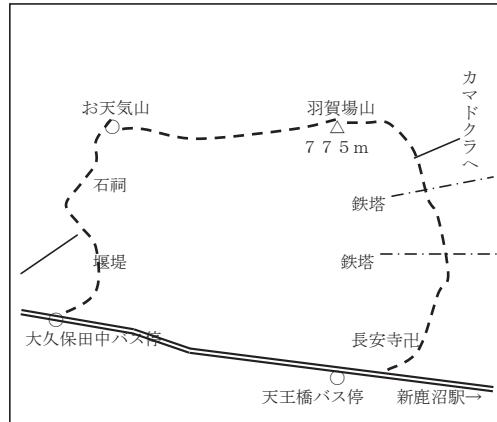
羽賀場山山頂

ヒノキ林に囲まれて薄暗く片方は開けているが、ちょっと広い平地に一等三角点が置かれていた。バスの時間もあるので休憩もそこそこに、踏み跡を南東に下山開始。地図で確認した鉄塔が見えあれを越えるとわかつっていた筈なのに目印(710m 地点)に気づかず、まっすぐ進んだ。「おいおい、どこへ行くんだ? そっちに行くとカマドクラに行っちゃうよ!」とリーダーの声に引き返すと小枝に「ここは 710m 地点」の小さい木の標識がぶらさがっていた。ガイドブックには長安寺を指す目印があるので間違える事はないだろうとあるが、そんなのあつたっけ? それに小枝に架かっていた標識だってほんとに小さい、なんてぶつぶつ…。杉の木にピンクのテープがやたらと付いていたが伐採するとか何かの林業の印なのだろう。私たちは赤いテープを確認しながら送電線鉄塔を2ヶ所越え、バスの時間が心配なので小川さんと青山さんについてどんどん駆け下りた。転ばないように注意しながら。まもなく長安寺の大きな石柱が現われ天王橋バス停 13時27分に充分間に合った。静かな山で誰にも会わないと思っていたが地元の登山者8人に会った。地元の人たちによく登られてる山のようだ。

地図読みは何回やっても身に付かない、その時はわかった気がするのだが実際にはもう忘れているのだ。それにもめげず何度も何度も研修を計画してくださってくれるリーダー達に申し訳ないと思う。感謝しながら、蕎麦や「みっちゃん」でニラそばを戴いた。今日はお天気山・羽賀場山と言う面白い名の山に登らせてもらい、実際岩あ

りアップダウンありで、標高は低いけど縦走を充分に楽しんだ早春の一日でした。

概念図



山行概要

山名	お天気山～羽賀場山		
月日	平成20年3月16(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山域	前日光	地形図 (2.5万)	文挟
目的	①地図読みながら早春の息吹を感じる岩峰へ ②数少ない1等三角点を訪ねる。		
費用	4,100円	交通機関	JR、私鉄、バス、タクシー
行程	東武北千住駅発 6:31→新鹿沼駅 7:57/8:05(タクシー)→大久保田中 8:35→大きな堰堤 9:05⇒一の宮 9:37/9:45⇒二の宮 10:02⇒お天気山 10:20/10:45(昼食)⇒羽賀場山 12:10⇒送電鉄塔 268号 12:35⇒送電鉄塔 219号 12:55⇒天王橋バス停 13:20/13:27(バス)→新鹿沼駅 14:00/15:39→春日部→柏→我孫子駅 18:00		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> お天気山への取り付きは尾根の末端からと大久保田中から堰堤をへて尾根に乗るルートがあるが我々は堰堤ルートにした。 ルートは大久保田中のバス停を少し戻り「心のゆとり交通安全」のアーチの先を左折する。 最初の堰堤を過ぎたあたり、適当な場所を探して左の尾根に向かって斜面をよじ登る。 標高 520m付近でトラバースしてさらに左の尾根に乗る。此処からはお天気山の山頂に向かって忠実に尾根を辿る。 所々、急登箇所があるが慎重に行動すれば問題ない。ロープも張られている。 お天気山から羽賀場山へは幾つもの小ピークを越えるが 2 箇所ほど進路を変える箇所があるので注意する事。特にカマドクラとの分岐は地図上でしっかりとチェックをする事。 羽賀場山からの下山路は登山者が多いせいのかはつきりしている。 		
参加者	村松(L)、清家(SL)、柴田、外崎、原田君、安田、中村八、小川誠、青山、千葉、石黒(ゲスト) 男3名、女8名、計11名		

<578>新人歓迎山行

子の権現・伊豆ヶ岳
(640m) (851m)

やまたんより転載

(総括)

- ・2月の下見山行では強風の為、各コースを歩くことはできず、登山口、下山口、懇親会場の確認だけに終わった。そのため、食担コースもぶつつけ本番で歩いたが、大変味わい深いコースであった。
- ・花桐～伊豆ヶ岳の登山道は最近の地図には一般道として記載していないが、昔は伊豆ヶ岳の最短コースであったのではないだろうか。標識は殆どなく赤テープのみだが、踏み跡ははつきりしていて迷う事はない。標高差600mだが急登でなかなか登り甲斐があった。
- ・下山口では県営名栗げんきプラザで待機中のバス運転手さんが「キャンプ場までの当初のコースでは時間が掛かりすぎ、予定時刻に到着しないので山伏峠～キャンプ場に変更しますが如何です？」と提案され、お任せした結果、予定時刻にキャンプ場に到着した。狭い道路を安全に走行して下さった運転手さんに感謝！ キャンプ場での近年にない盛り上がりに世話役としては安堵した。
(青山)

- ・今回の宴会は、とても楽しく充実した内容でした。

食担の新しいレシピ【中華スープ】は、皆さんから好評で、あっという間に売切れてしまった。トマトの入ったのが特に良かった。そして食担の人数もそろい、短時間で満足のいく食べもの飲み物がそろいました。金額的にも安く上がったのは、それなりの工夫があったからでしょう。Nさんは今回も残念ながら都合によりキャンセルになり、またまたおいしいワインと焼酎の差し入れ、美味しく頂きました。

- ・余興の部は、佐藤健さんの司会も面白く、機知に富んでいて、見る人と演じる人を完全に1つにまとめ、お互いに楽しめたでしょう。
- ・各コース対抗かくし芸会は、それぞれの班で工夫が見られ、準備のために特にBコースは1時間竹寺で時間をさいて予行演習をしたことに脱帽。

A-1コースの認知症予防？ダンスは、いかがでしたか？

A-2コースのラジオ体操に合わせて久しぶりに全員で体を動かした。

Cコースは3曲歌って、4曲目まで歌いたかったのに……残念！

- ・コカリナは、榎原、細野清、清家、箕輪力、佐藤明さんの演奏は、その後の練習がみられ、我が会の定番になりました。
- ・石垣さんの大道芸も新しいパフォーマンスが加わり楽しませてもらいました。
- ・オカリナは、先生の指導が良いのか腕前をあげて、その音色は、山の春の静かさと溶け合って、皆さん的心を和ませてくれました。
- ・新人山行が成功裏に終わることが出来たのもリーダーを初めとして参加者が全員協力的だったことが1番だと思います。ご協力ありがとうございました。
(柴)

(A-1) コース

- ・バス下車地点の法光寺手前から、2万5千分の一地図を見ながらワイワイと、舗装道を子の権現方面へ向かう。ルート選定はいつも、山中よりアプローチの方が難しい。
- ・浅見茶屋の開店はまだ先、この界隈はシャガが多い。A2班としばし休憩。
- ・舗装道をしばらく歩き、降魔橋からジグザグの山道を登り、再び車道を渡ると子の権現の境内に出る。
- ・お賽銭を投じて「足腰丈夫」のお参りをした後、竹寺方面の山道に入る。明瞭な尾根を少し下ると分岐となる。右は天目指峠・竹寺・伊豆ヶ岳方面の道標、左のはつきりとした道へ入るが地図と違う。2万5千図に豆口峠への破線の記号が無い。鉄則どおり元の道を戻り、後から下ってきたA2班の方の昭文社の地図を見せてもらうと、豆口峠への道がしっかりとある。気がついた時点で2種の地図を見れば良かったと反省しつつ竹寺で、牛頭大王や、茅の輪やマンサクなどの花を見て漸く心が和み、今日は「子」を見て、そして「牛」を見て、次は「虎」で締めくくりか？？などとユトリが出る。急降下をして小殿からバスに乗り込んだ。着いたキャンプ場では、美味しい食事、楽しい催し物、そして予想通り酒精による「ウワバミ；巳」が来たら、やはり「虎」が来た？？？
- ・今回の定例山行には、新入会員はいなかったが、新しい靴をはいた方が3名もおられ、今年の山への意欲の程が伝わった？また、車道も山道も、地図に頼ることになったが、「子の権現様」に足腰だけでなく、ルートも聞いておけば良かったと、いつの山も反省ばかりである。(高橋重)



子の権現 金のわらじの前で。▲A-1班と▼A-2班。



(A-2) コース

- ・出発からA 1パーティーの後を追う形となった。吾野駅を過ぎ、道を左斜めに上がったところでようやく子の権現の標識を見つける。
- ・浅野茶屋で休憩。ここまでは沢沿いの舗装道路で、青場戸などの集落がある。沿道に桜や侘び介（椿）が咲き、また、不動堂と滝の標識もあった。
- ・降魔橋というなにやら恐ろしげな橋を渡ると、道はやっと登山道らしくなった。
- ・杉林の中のジグザグ道を登っていく。途中でC Dプレーヤーを出して、宴会出し物のラジオ体

操を全員でリハーサル。その後「あ～た～らしいあ～さが来たっ」とコーラスの練習もしながら子の権現を目指して登る。

- ・子の権現は足腰の神様。我々にはすこぶる大事な神様だ。心をこめて参拝すると、金の大わらじの前で記念撮影。社務所の前で昼食とした。
- ・境内を抜けて豆口峠への道をさがす。A 1パーティーが迷っているようで引き返してくる。「いや、あの道でいいんだ」と、今度はお先に失礼。振り返るとA 1パーティーはまだ地図を広げて熱心に地図読みをやっていた。
- ・天目指峠への道を右に分け、静かな山道を歩く。

- ・豆口峠を過ぎ、竹寺へ。途中稜線沿いを上に登る道と、左側の山腹を巻いて下る道に分かれていた。どちらもタイムは変わらないようなので下る道をとる。
- ・竹寺ではBパーティーと出会った。竹寺は自然に囲まれた明るい雰囲気のいいお寺だ。
- ・少し戻って、小殿への道に行く。下るにつれ、里の音が間近に聞こえるようになり、およそ30分で車道へとおり立った。
- ・今回のコースは利用できるトイレが処々にあった。東郷公園、子の権現下、竹寺、小殿等。
- ・子年に足腰を守ってくれる子の権現に参拝できてとてもよかったです。来年の新人歓迎山行も、干支の丑にちなむ山に登りたいものだ。（千葉）



▲子の権現 金のわらじの前でB班。 ▼伊豆ヶ岳山頂にて C班。

(B) コース

- ・里では、色とりどりの草花が春のおとずれを感じさせてくれましたが、山の木々の芽はまだかたい蕾の状態でした。
- ・上りは山崎から裏参道コース、植林された静かな登山道です。
- ・子の権現は、足腰の神様。参拝しシンボルの大ワラジの前でカメラにおさまる。
- ・竹寺は神仏混淆（交）の寺。季節の精進料理が食べられる。（要予約）
- ・春の花々が鎌倉の古都を思わせる雰囲気でした。
- ・竹寺で時間の調整。（余興の練習をする。）
- ・歓迎会。幹事さんをはじめ食担のみなさん、心のこもったごちそうありがとうございました。スープにトマトを湯むきされたこと、男性陣の事細かさが目立ちました。（中村八）



(C) コース

- ・Cコース（食担コース）は、ゲスト参加者2名が加わって総勢12名。国道299号線畠井集落入口で、一番最後にバスを降りる。挨拶と準備運動を行って山行開始。
- ・沿道の軒先では、まだ梅の花が満開。川に沿って進み、花桐集落のどん詰まりの廃墟のところから登山道となる。堰堤が現れ、道が消えたかに見えたが、その左隅に細々と繞いていた。
- ・登山道は、伊豆ヶ岳直下まで沢を歩く。チョロチョロ流れる荒れた小沢を何度も渡り返す。頼りなげな赤テープを目になると、ホッとする。
- ・沢の開けた明るい地点から右岸の高巻きとなる。ザレ場のトラバースの際には、右下の沢に転落しないよう注意しあう。
- ・やがて涸れ沢となり、薄暗い植林の急斜面をジグザグに登って伊豆ヶ岳の稜線に出た。反対側からは女坂が登ってきてている。右手の50mの岩場はここからは見えない。
- ・稜線を進み三角点のある頂上に到着。30分休憩し、出し物の歌を練習する。するといつの間にか、他のパーティが居なくなっていたのは何故？
- ・下山は山頂南端から子ノ権現方面へ少し下り、分岐から右手に山伏峠へ。急斜面を下って、アツと言う間に車道に出る。右手に10分ほど行くと、高台に名栗少年自然の家があり、トイレを借りる。
- ・駐車場には紫色のバスがお待ちかね。運転手さんの腕の見せ所とばかり、今来た山伏峠方面に向かって、くねくねと細い道をキャンプ場へ。
- ・直ちに食材と鍋類を運び出し、てんやわんやの大忙し。特に皆を大いに喜ばせたのは、坂巻明さんの腕によるトマトの中華風スープである。女性陣から、レシピを教えてと黄色い声があがるほど。これまでの豚汁を脱却し、当会にも新しいメニューの風が吹いてきた感じがした。

(外崎)

概要

山名	子の権現・伊豆ヶ岳		
月日	平成20年3月30日(日)		
山域	奥武蔵	地形図 1/2.5万	正丸峠、原市場
形式	日帰り	グレード 1A	
目的	会員同志、山で交流して、下山後の宴会を楽しむ。		
費用	約3,150円	交通機関 (共通)我孫子 5:20/5:40→三芳 SA (休憩) 6:40/6:55→法光寺 7:40 着。以降各コースに分かれて登山開始	貸し切りバス (宴会)13:00~15:00 キャンプ場発 15:30→我孫子 19:10 着
行程	(A-1)コース 法光寺 7:55⇒芳延橋 8:25⇒浅見茶屋 9:05/ 9:15⇒子の権現 9:55/10:10 ⇒豆口峠 11:10/11:15⇒竹寺 11:40/11:55⇒小殿 12:25/12:35⇒キャンプ場 12:45 《歩行時間: 4時間》		
	(A-2)コース 法光寺 8:10⇒芳延橋 8:30⇒浅見茶屋 9:10/9:17⇒子の権現 (昼食) 10:10/10:30 ⇒豆口峠 11:08⇒竹寺 11:27/11:40⇒小殿バ ス停 12:15 《歩行時間: 4時10分》		
参加 者	(B)コース 山崎 8:00⇒小床 8:50/8:55⇒子の権現 9:20/ 9:35⇒豆口峠 10:20⇒竹寺 10:40/11:40 (昼食および時間調整) ⇒小殿 12:00/12:30 《歩行時間: 3時間》		
	(C)コース 国道299号線畠井集落 7:53/8:05⇒子の権現 分岐⇒花桐集落⇒沢の広い平坦地点 9:15/ 9:22⇒伊豆ヶ岳 10:05/10:35⇒林道(山伏峠) 11:10⇒名栗少年自然の家 11:20/11:35⇒駐 車場 (バス) →大鳩園キャンプ場 12:00 着		
	(A-1)コース 高橋重(L)、安田(SL)、佐々木、原、高橋芳、 柴田、榎原、堀口、柴勇(CL)、大島		
	(A-2)コース 千葉(L)、高橋英(SL)、村松敏、中村美、藤 倉、佐藤明、桐生、飯合		
	(B)コース 中村八(L)、武内(SL)、中村隆、村松峯、矢 野、佐藤健、箕輪完、箕輪力		
	(C)コース 外崎(L)、清家(SL)、青山(CL)、細野清、細 野省、小川誠、石垣、小松、坂巻、早川、 石黒(ゲスト)、矢沢(ゲスト)		
	男性17名 女性21名 合計38名		



→子の権現の二本杉。
(埼玉県指定天然記念物
B 班撮影)

▼オカリナ演奏



▼沢沿いのキャンプ地で懇親会。食担のC
班さん、ご苦労様。



概念図





←コカリナのグループ。美しい音色をありがとう！

▼B班の愉快な演技。



←大道芸。髪を描いての熱演。

▼A-2班のラジオ体操。



<579>

北八ヶ岳
(北横岳～三ツ岳～雨池山)
(2480m) (2325m)

安田みづほ

2年ぶりの雪山山行

もう雪山には行かないだろうと思っていた。山行計画を読んで、行きたい！仕事の都合がついたので参加を申し込みました。リーダーは高橋重さん、S Lに外崎さん、武内さん、小川さん、桐生さん、そして私の6人です。大霧山では6本爪アイゼンを使ったが10本爪アイゼンは2年前の雪の尾瀬・景鶴山以来でした。スノープレートが傷んでいて、古くなつていてお店では扱っていないかったが取り寄せてもらう事が出来ました。現在は雪靴もアイゼンも軽い物が出回っていて、新しい物に取り替えたいがそうもいかない。しばらく遠ざかっていた雪山への不安はかなりありました。

一日目（4/5）

お茶の水駅ポイント故障の為20分遅れのあすさ1号で新宿を出発した。車窓からは桜並木の向こうに甲斐駒や八ヶ岳が姿を現す。茅野からジャンボタクシーで蓼科ピラタスロープウェイ駅に。100人も乗れるというロープウェイでスキー、スノーボードの若者たちと一緒に山頂駅に8分程で到着。お天気は快晴、真っ白な銀世界が私たちを迎えてくれた。時間が早いので縞枯山を往復すると言う。サングラスをかける。早速どっちに行くか地図で確認。

縞枯山荘の前を通り、十字路の雨池峠で荷物をデポして身軽になって縞枯山へ向かう。枝に注意しながら30分ほどで山頂につく。標識は端の方にあるらしく確認できなかった。八ヶ岳が雄大に目の前に、北アルプス、南、中央、御岳、浅間と素晴らしい展望である。風もなく雲ひとつない青空！縞枯れの立ち木が青空に向かう。充分に展望を満喫して雨池峠に戻りお昼となる。リーダーが暖かい紅茶を皆に御馳走してくれた。荷物を少なくする為テルモスは空だった。だから私にとって暖かい飲み物は非常に嬉しかった。



ヤマアラシの山、縞枯山頂で展望が開け、八ヶ岳連峰がスッキリと見える

北横岳へ向かうためいったんロープウェイ山頂駅前まで戻り坪庭に入って行く。一面雪だが庭園らしき木々や黒い溶岩がちょっと顔を出している。分岐からはいよいよ登り。アイゼンは付けず、ゆっくりと登って行く。

北横岳ヒュッテは別荘を思わせるような小さな山小屋だ。手続きを済ませ荷物を置きとりあえず山頂を目指す。15分程で横岳北峰2,472.5mに着く。ここからも360度の大展望である。Tさんが「地球が丸いのがわかるねえ」とつぶやく。私は感激して声も出ない、ただ「来て良かったなあ！」と思うばかり。平地を少し行った所が標識のある2,480mの南峰で北横岳山頂。ここでも白馬、鹿島槍、乗鞍なども確認できて大展望を満喫する。「あれは剣じゃない？」とTさん。金峰方面の五丈岩も見えると言うが私には確認できない。蓼科山を真後ろに聳え、南八ヶ岳は雨池、縞枯山の向こうに両天狗、硫黄、ひときわ雄姿を誇る赤岳、横岳、阿弥陀も編笠山も權現も全て見えるのである。皆10周年山行を思い出して感激しているようだ。リーダーが「今度天狗をやるからね！」とKさんに話している。たっぷりと展望を楽しんでヒュッテに戻る。

もう休みみたいのに今度はワカン歩行の研修だと言う。今まで雪山でもワカンを使った事は私はなかつたのでワカンなんか実際使わんだろうから本当は持つて来たくなかつたのだ。

（そんなに重くはなかつたけれど。）トレースがついている場合はいらぬがラッセルを強

いられる場合に必要だと。会に入りたての頃、本社ヶ丸でラッセルした事を思い出した。少しガニマタに歩く。先頭が歩いた後を忠実にその足跡を踏みしめ次の人も踏みしめ道を固めて行く。疲れないように後者と交代しながら道を作っていくのだ。ヒュッテの脇をきれいな誰も歩いていない雪の斜面を私たちがワカンで模様をつけて行く。うさぎか鹿か、動物の足跡がある。後で小屋主さんから注意されたのだが小屋で確保している水源の近くを私たちがワカンで通ったらしく、「やる前に言って欲しかった」と。Tさんが「なんか感じたんだよね、あっちの方でやつたらと思ったんだけど…」小屋主さんも我々がワカンの練習をするなんてまさか思わなかつたのだろう。



担ぎ上げたワカンで白の雪面に
トレースをつけた後の戯れ

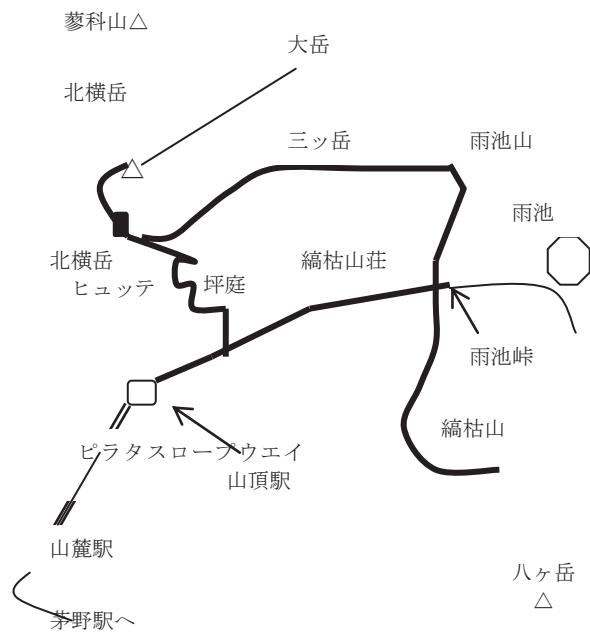
「アイゼンの装着、はずしは外で！」と張り紙してある。ワカンに付いた雪は凍ってなかなかとれないので中に入れて良いかお願いした所ストーブのある土間の端のほうに置いて良いと言ってくれた。岳人の表紙にも登場している小屋主の島立健二さんは二代目、若いがしっかりしていてなぜか、甲斐駒黒戸尾根七丈小屋の管理人さんを思い出しあってしまった。どこかクールな感じだからか、たばこが好きなのか外に何度も吸いに出ていた。

今日は私たち6人と一組のご夫婦のみだと言う。8畳の2階の部屋に8人相部屋だ。部屋にもトイレにもストーブが置いてありトイレも

非常にきれいで「汚れていたら小屋番まで連絡下さい」との張り紙。夕食まで土間のストーブのまわりで一息つく。小屋主さんから「夕食残さないで食べて下さいね。」とのひと言あり。

Kさんが貧血を起こし少し心配したがすぐ回復したので良かった。夕食はびっくりの鍋である。山小屋で鍋が出るなんて初めてであった。肉、豆腐、魚、貝、しめじ、そしてたっぷりの野菜で最後にうどんが出てくる。「こんなに食べられないよ！」と思ったが最後のうどんを3つにしてもらって頑張って平らげた。つゆだけは残ったが。先ほど小屋主さんが言いたかったのもうなづける。他に長芋を厚く切って焼いた物とやはり長芋ときゅうりの合えた物で消化の良いものばかりだった。Kさんも元気に食べられた。私も少し頭痛があったが大丈夫だった。2,400mだから高山病ぎりぎりの所じゃなかつただろうか。

概念図



二日目（4/6）

朝食前に5:30の御来光を拝む為アイゼンを付け横岳に向かった。雲の下からオレンジ色の太陽が顔を出す。青空に春の目覚めだ！仙丈、御岳、笠も見え白馬連峰、浅間と素晴らしい眺め！昨日は判らなかった槍も見える。白銀に輝く太陽の暖かさ！雪山に来ていつも素晴らしい天気で私を迎えてくれる山々に感謝である。振り返れば岳人あびこに入会したばかりで雪山に行くなんて想像すらしなかつた私だった

が、3月のやはり八ヶ岳山行で渋の湯から黒百合ヒュッテ～硫黄岳、そして朝日連峰、安達太良山、尾瀬と晴天に恵まれただけだろうが、雪山の恐さを知らないまま来てしまった。今年の春は雨が多くだったのでなおさらである。セーターを着てなかつたのでやはり明け方は寒い。ヒュッテに戻り圧力鍋で炊いた御飯を戴く。朝食も味噌汁もおかずもとても美味しかった。



春の日の出を見に、北横岳へこの日も登る。モルゲンロート。

7:30 アイゼンを付け七つ池は省いて三ツ岳に向かう。三ツ岳は石がゴロゴロしていて穴に落ちないようにと言わわれているがKさんが1回足を埋めた。Lはサングラスも付けず目は大丈夫なのか？時々はずしてみたが眩しくて付けてにはいられなかった。三ツ岳は三つの岩峰の山、標識のある第二峰でゆっくりとする。振り返ると北横岳ヒュッテが左頭上に見える。東には関東上州方面、荒船山、妙義山、浅間、竜ノ登、菅平方面か！あー、何て素晴らしいんだろう！



春の光が眩しい三ツ岳頂上で蓼科山と背後に北アルプス。ここでゆっくりと日本の高山を眺める。

三ツ岳から雨池山への急下降が凄い！ストックと木につかり枯れ枝に顔を打たないよう少し間をおきながら下りて行った。アイゼンがないと危険だ。ピッケルは持ってきたが結局使わなかった。雨池の大きい白い湖面が樹林の向こうに見える。雨池山に登り返したが山頂はどこか分からぬ。雨池峠に下りる前の最後の展望を楽しむ。雨池峠までもやはり急降下だが三ツ岳からの方が急だった。

縞枯山荘でアイゼンをはずし、コーヒータイムを取りロープウェイの時間を確認した。（私なんかはただ飲んでいただけだったがLやS Lはちゃんと確認していた。）少しづめのコーヒーだったが精神安定剤かホットする。この小屋も綺麗に管理されているようだった。



すっかり春山気分。誰にも会わぬ気持ちよさ

明日からロープウェイはゴールデンウイーク前の点検でしばらく営業中止になるとか。

リーダーはちゃんと調べて計画を立てていたのだ。11時発のロープウェイで山麓駅に着く。25分の茅野駅行きのバスに乗り茅野で臨時のあづさ76号（信玄さくら祭り号と銘打っていた。）を予約して駅前の蕎麦屋で反省会をたっぷりやった。

お天気に恵まれた事は最高でしたがリーダーの高橋重さんは私の参加は内心心配だったと思います。「冬山基礎研修」と言う事で、ゆっくりと歩いていただき、「春の山を楽しむ」とても思い出深い山行となりました。行きのあづさの切符を忘れてくる大失敗でしたが後日払い戻しをしてもらいました。一緒に二日間共に歩いたリーダー及び仲間に感謝すると共に雪山はもうこれが最後かも知れない。でも本当

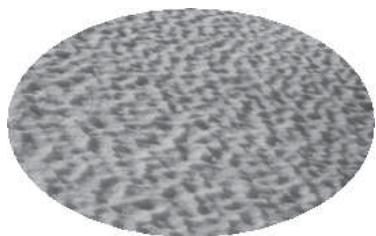
にこの真っ白な世界を縦走できて幸せでした。リーダー、メンバーの皆さんに感謝します。ありがとうございました。



鎖も梯子も雪で隠れ、白と緑と青のおとぎの国を貸切状態でルンルン気分。

山名	北八ヶ岳		
月日	平成 20 年 4 月 5 日 (土) ~ 4 月 6 日 (日)		
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	蓼科・蓼科山
形式	小屋泊	グレード	3 C
目的	冬山基礎研修 (春の山を楽しむ)		
費用	24,700 円:交通費 13,200 円 (JR・タクシー・バス・ロープウェイ)、宿泊費 + 反省会費 = 11,500 円	交通機関	J R、タクシー、ロープウェイ、バス
行程	我孫子駅 5:31 → 新宿 7:18 (あずさ 1 号) (ポイント故障の為遅れ) → 茅野 9:27/9:35 → (ジャンボタクシー) → ピラタス蓼科ロープウェイ駅 10:07/10:20 → (ロープウェイ) → ピラタスロープウェイ山頂駅 10:29/10:55 ⇒ 縞枯山荘 11:08 ⇒ 雨池峠 11:33/11:43 ⇒ 縞枯山 12:17/ 12:26 ⇒ 雨池峠 12:40/13:00 (昼食) ⇒ 山頂駅前 13:15 ⇒ 北横岳分岐 13:35 ⇒ 13:50/14:00 (休憩) ⇒ 北横岳ヒュッテ 14:20/14:34 ⇒ 北横岳 (南峰) 14:50 ⇒ 北横岳 (北峰) 14:57/15:15 ⇒ 北横岳ヒュッテ 15:27 (泊) <晴れ 行動時間 4 時間半 休憩含む>		

2 日 目	北横岳ヒュッテ 5:00 ⇒ 北横岳南峰 5:15 / 5:40 ⇒ 北横岳ヒュッテ 5:52 (朝食 6:30) 出発 7:30 ⇒ 三ツ岳 8:06 / 8:30 ⇒ 9:02 / 9:10 (休憩) ⇒ 雨池山 9:36 ⇒ 9:42 / 9:52 (急降下の前の休憩) ⇒ 雨池峠 10:00 ⇒ 縞枯山荘 10:10 / 10:38 (コーヒータイム) ⇒ ロープウェイ山頂駅 10:53 / 11:00 → (ロープウェイ) → ロープウェイ駅 11:07 / 11:25 (茅野行きバス) → 茅野駅 12:15 (反省会) 14:53 (あずさ 76 号) → 東京 17:30 → 上野 18:02 → 我孫子駅 18:36 快晴 <行動時間 4 時間 20 分 休憩含む>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 雨池峠から縞枯山へは殆ど一直線の登り。よく歩かれているが、頂上近くまで眺望は得られない。 坪庭から北横岳ヒュッテの間もしっかりトレースが付いている。 小屋の近辺の、歩かれていない雪面でワカン歩行をした。雪は稜線以外は 150 cm 程。 ヒュッテ～三ツ岳間はあまり踏まれておらず、標識も殆ど見えないが、地図と目印を頼りに歩く。所々岩の間に大穴もある。 三ツ岳から雨池山との鞍部へは激下り。 2 日目はヒュッテ～雨池峠間一人にも会わず。
小屋状況	<ul style="list-style-type: none"> 夕食は鍋、素晴らしい具沢山。大きな山芋や漬物なども豊富で最後はうどん。 朝食の量も多い。水とお湯は有料。缶ビール @ 500 円。 トイレも暖房がしてあり、とてもキレイで心遣いが感じられる。 宿泊は我々 6 名の他に 2 名のみ。
参加者	高橋重 (CL)、外崎 (SL)、武内、小川誠、桐生、安田 男 3 名、女 3 名 計 6 名



<580>

勘七ノ沢 (表丹沢四十八瀬川)

佐々木 倖

人気の渓での沢開き

丹沢はわが町我孫子からはいつもながらうんざりするほど遠く感じる。早朝5:33発の千代田線で小田急渋沢駅8:06着、バス終点大倉着は8:35で此処まで3時間、すでにお疲れさんでーす。

この日の天気は前夜からの雨模様を引きずり、どんよりと曇り空でしたが天気予報が大きく外れることを願いつつ、約1時間歩行後二股の入渓地点到着、ここで登攀装備を装着しました。何時もの事ですが装備を身に纏うと気が引締まり沢登りへの遡行意欲が湧いてきます。空模様と水量の多さを考えて、安全登山のために本日の遡行行程を短縮する案が提案され、F5手前のエスケープルートでの下山が選択肢の一つに取上げられました。兎に角、明るくなりかけた空模様に全員が期待を託し、沢開きを成功させるべく元気に出発です。

最初の5MのF1は、小生にとっては本年初の滝登攀であり体は緊張のカタマリです。リーダーは慣れた感じでスルスルとバランス良く登攀に成功。小生はホールドとスタンスが乏しい中でバランスが上手くとれず二三歩の踏み出しで足を滑らし、ザックもろとも水流の中にドボン洗礼を受けて、早くも下半身ずぶ濡れとなつた次第です。リーダーにザイル確保をお願いし、右岸から時間は要しましたが各自自力でF1を無事越えました。

F2の7Mは左岸からザイル確保をしましたが難なく全員直登。岩肌の一部が非常にもろく、危ないところがありましたので注意深く登攀をしました。

F3(8M)は釜ありの逆くの字の滝で、当日は斜めに流れる強力で大量の水流です。リーダーが左岸からの直登を試みますがあまりの水量で断念、左岸の手前より高巻きすることにしました。足元の悪い斜面を注意深く高巻きF3を越えたところから懸垂下降で渓に戻りました。

F4は2段12Mの滝です。下段を左岸から全員ノーザイルで突破しました。ついでに上段9Mもノーザイルで登攀し直登。この頃から、登攀に対するバランスの取り方や手足のホールド・スタンスを適切に確保できるよう、メンバーの体自体がそれなりに適応できるようになって来たのでしょうか。であれば本日の「沢開き」は成功でしょう。

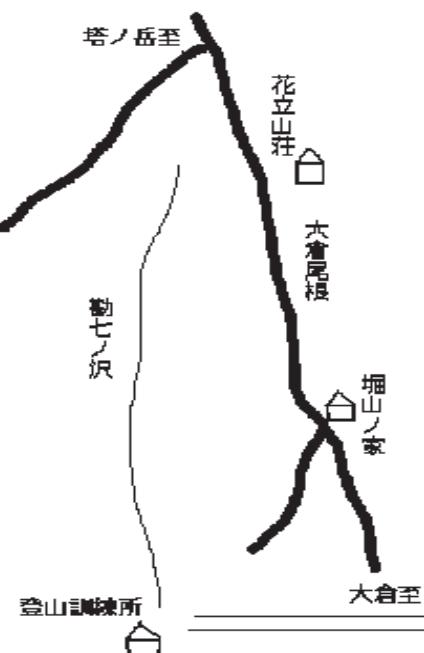
F4を越えて暫らくすると前方に10Mほどの堰堤が立ちはだかります。リーダーは右側から越えましたが、腕に自身を付けた数名の仲間が左側崖からの登攀にノーザイルで挑戦し成功していました。

入渓から4時間が過ぎ、14時を超えて予定時間オーバーとなっていたのでF5(大滝15M)越えを諦めました。この後、右からの確りとした仕事道を辿り堀山の家下の尾根道に到着、装備を解除して蛭などを払いつつ二股へ下山し、大倉バス停に16:15に到着しました。

この日は最後まで天気は回復せずどんよりした曇り空でしたが、幸いにして雨に降られることはませんでした。また、当会のメンバー以外のパーティーにも遭遇せず、勘七ノ沢はこの日だけは専属独占状態でした。

その後、渋沢駅前のメンバー行きつけの小料理屋にて、山菜料理での大反省会が当たり前に執り行われ、当会本年の沢開きは成功裏に終わったことを報告します。

概念図



概要

山名	勘七ノ沢		
月日	平成20年4月13日(日)		
山域	表丹沢	地形図 1/2.5万	大山
形式	日帰り	グレード	3C
目的	沢開き		
費用	3,000円	交通機関	電車・バス
行程	我孫子駅 5:33 → 代々木上原駅 6:57 → 渋沢駅 8:06 / 8:20 → 大倉 8:35 ⇒ 勘七ノ沢入溪・二股 9:47 / 10:25 ⇒ F1 10:40 / 11:25 ⇒ F2 11:37 / 12:25 ⇒ F3 12:45 / 13:08 ⇒ F4 13:35 / 14:00 ⇒ 堀山ノ家下登山道 14:15 / 14:30 ⇒ 二股 15:00 ⇒ 大倉 16:10 → 渋沢駅 16:25 / 17:45 / 18:00 → 我孫子駅 20:26 <歩行時間：7時間45分>		
ルート状況	・水量が多く、曇天の影響でグレードがアップされた。 ・F2は岩がもろく注意が必要。		
参加者	堀口(L)、千葉(SL)、佐藤健、佐々木、青山、佐藤明、中村隆 男 4名 女 3名 計 7名		



勘七の沢入溪地点にて ▶



▲トップを行くりーだーは全ての滝をノーザイルで突破。写真はF1の落ち口。



▲F2 左岸を全員が直登。

◀F4(2段)、今日唯一全員ノーザイルで登れた滝。
この後、堰堤を越えたところで仕事道に入った。



< 5 8 1 >

笹子雁ヶ腹摺山 (1358m)

原田和昭

春の富士山展望を求めて

笹子雁ヶ腹摺山は大月市秀麗富嶽十二景の1山であり、春の富士山展望として計画した。中央線の車窓から見える新緑はガスの中に墨絵のように霞んで見える。天候は悪く富士山展望は望めそうに無い。午後からは雨の予報があるので一抹の不安がよぎる。今回の山行は3名のゲスト参加があるので安全対策としてゲストにアシスタント各1名を付けて登る。県連行事のクリーン登山を参加者の協力を得て開始する。山に入ると急に気温が下がり冷たい風が吹いて身体は温まらない。急坂の連続だが山全体がガスに覆われて、木の葉に溜まった水が風にゆられて落ちてくる。

南斜面から鉄塔のある尾根に出ると風が強く真冬の寒さになる。富士山の展望どころか周りの山並みも見えない。山全体がガスに覆っていた。笹子雁ヶ腹摺山には予定時間より早く到着し、寒さに負けず歓談しながらの昼食を楽しむ。



▲満開のヤシオツツジ（アカ）。

ガスのかかる山頂にて昼食▶

頂上からの下りは急降下の連続で土質も滑り易く、足の置く場所を考えながら降りる。鞍部に下りて米沢山への登り返しは今回一番難所でロープと鎖が連続して設置してある。米沢山から急峻な坂を下ったころから雨が降り出しカッパを全員着用する。非常に滑り易い状態で靴に土が付着して最悪状態になる。クリーン登山はここで中止にする。

天候には恵まれなかったが美しい新緑とヤシオツツジの満開の花、マメ桜の可憐な花が心を慰めてくれた。足もとにはアケボノ、エイザンスマレ、タチスボスマレ、チゴユリ、イカリソウ、ヒトリシズカなどの可愛い花達が多く咲いていた。

お坊山で全員の体調を確認して下山開始する。大鹿峠で道案内標識はあるが景德院方面に下る道が分かり難い、藪の中に狭くて急な階段がある。この階段を登ると下山ルートが明瞭になる。ここからは送電線と鉄塔に沿って下山すると迷うことは無い。

気象条件としては最悪でしたが参加者全員が一緒にになって慎重に行動をし、仲間同士が強い連帯意識を図ることで事故を防ぐことが出来たと思う。

クリーン登山は天候条件で途中中止にしたが参加者全員が事業の趣旨を理解して協力して頂き目的は達成したと思う。ごみの量は予想以上に少なかった。

悪天候の中の長時間コースを参加者の協力で事故も無く終ることが出来ました。歩行時間は昭文社のコースタイムより早く歩いているが、予想以上の難コースで下山時間が遅くて反省会が出来なかつたのが残念です。





概要

山名	笹子駅ヶ腹摺山	
月日	平成 20 年 4 月 26 日 (土)	
山域	中央線沿線	地形図 1/2.5 万
形式	日帰り	グレード
目的	富士山の展望と新緑を楽しむ	
費用	約 2700 円	交通機関 JR
日程・コース	我孫子駅発 5:33 → 新松戸駅 → 西国分寺駅 → 高尾駅 7:21 / 7:26 → 笹子駅 8:33 / 8:45 ⇒ 新中橋 9:24 / 9:27 ⇒ 休憩 10:12 / 10:17 ⇒ ピーク通過 10:27 ⇒ 休憩 10:55 / 10:58 ⇒ 笹子駅ヶ腹摺山 11:15 / 11:40 (昼食) ⇒ 米沢山 12:55 / 13:05 ⇒ カッパ着用 13:15 / 13:25 ⇒ お坊山 14:05 / 14:15 ⇒ 大鹿峰 14:48 ⇒ 分岐箇所で休憩 14:55 / 15:00 ⇒ 鉄塔 15:07 ⇒ 鉄塔 15:35 ⇒ 景徳院 16:00 / 16:15 ⇒ 甲斐大和駅 16:55 / 17:01 → 高尾駅 18:22 / 18:28 → 西国分寺駅 → 新松戸駅 → 我孫子駅着 20:17 曇りのち雨 < 行動時間 8 時間 10 分 内 : 歩行時間 6 時間 45 分、休憩時間 1 時間 25 分 >	
ルート状況	笹子駅から新中橋までは国道を歩く。案内標識は随所に設置してあるが距離や時間の記入	

ルート状況	は無い。山に入ると急に気温が下がり身体は温まらない。 ・急坂の連続だが山全体がガスに覆われて、木の葉に溜まった水が風にゆられて落ちてくる。土は濡れて滑り易く注意が必要。 ・鉄塔のある尾根に出ると風が強く真冬の寒さになる。笹子駅ヶ腹摺山からの下りは急降下の連続で土質も滑り易く、足の置く場所を考えながら降りる。鞍部から米沢山への登り返しは今回一番難所でロープと鎖が連続して設置してある。上から下りて来る登山者が有って慎重に登る。 ・米沢山から急峻な坂を下ったところから雨が降り出したためカッパを全員着用。靴に土が付着して滑り易い状態で歩き難い。 ・大鹿峰の道案内標識はあるが景德院方面に下る道が分かり難い、大鹿山方面の道と平行に藪の中に狭くて急な階段がある。この階段を 7 分程登ると下山ルートが明瞭になる。 ・ここからの下山ルートは送電線と鉄塔に沿って下山すると迷うことは無い。
参加者	原田和(L)、大畠(SL)、斎藤、榎原、高橋英、原田君、箕輪力、品田、小川誠、箕輪完、桐生、本間、小松、田村、穂田(ゲスト)、斎田(ゲスト)、石黒(ゲスト) 男 8 名、女 9 名計 17 名

<582>

赤岩尾根・鳥帽子岳 (1589m) (1182m)

柴 勇
坂巻 明

岩稜歩き再チャレンジ

柴 勇

(1日目 曇り後雨)

天気予報では、曇りだったので安心して登山口に向かったが途中からパラパラ小雨になり、おまけに登山口手前の檜沢あたりまで行くと前面通行止めの看板。止むを得ず、引き返し第2候補の南天山の方向に向かう。大滝温泉で昼食をとった後目的の山に向かって進んだが、雨は止むことなく、さらに時間的にも無理なので山は断念してテント場に向かう。

テント場は、4月から運営している筈なので安心していたが、着いてみるとまだこのシーズンは、営業開始していなかった。とにかくテントを張らしてもらいたいと頼んだところ、テント場の経営者は、「今日は取りあえず夕方までに水道と、水洗トイレが使えるようにします。」と言うことなので、われわれは、雨の中今夜のねぐら(テント)を確保した。

時間が早いのでお茶でも飲もうと言うことになり、500mはなれた龍神水を汲みに行く。静かなテント場で、すぐそばを流れる渓流の音以外は何も聞こえない。アカヤシオの花が雨にぬれて美しい。



赤岩尾根を無事踏破。八丁峠にて。

食担が夕飯の準備を始める。ガスボンベにコンロを装着しようとガスボンベのキャップを外して気がついたがもう遅い。ボンベの受け口がねじ式ではないため接続できない。キャンプ場の主人にボンベの買い置きを譲ってもらい本当に助かった。

食担の明子さんは、準備がよくポトフは、料理済みで冷凍までしてあった。ご飯は竹の子の炊き込み。さらに竹の子は、つまみ用にうま煮にしてあった。食事に時間をかけ、ビール、日本酒、そしてワインと好みに応じていただいた。食後は、まだ時間も有るのでテントを出てかまどの前に向かい合って腰掛、堀口さんのオカリナの演奏に聞き入る。

(2日目 晴れ)

朝は、曇っていたがやがて晴ってきた。食事を早々と済ませ、公民館へ向かう。登山口を歩き出してまもなく、うぐいすとツツ鳥の鳴き声が静かな山にひびき、最初の重い足取りを軽くしてくれる。まもなく、赤岩峰に着き気を引き締めて赤岩岳に向かう。山頂は、今年はまだツツジの花はなかった。西に展望できた山は、たぶん甲武信ヶ岳であろう。1583mの前衛峰の登りは、今日のルートの中で1番難しい。さすがに1番緊張するところ。全員問題なくクリアー。

今回のルートは、主なピークを7つ登ることになるが、山頂に山名の標識のあるのが、赤岩岳だけなのでガイドブックや、インターネットからのデータと照らし合わせてどのあたりを通過しているかを確認しながら歩いた。

八丁峠に着いたときにはほっとした。八丁峠からの逆方向の入口には、【この先危険、立ち入り禁止】の看板が立っていた。この付近からは、アカヤシオが見事に咲いていて疲れを癒してくれた。前回、前衛峰で、雨のため断念し、今回は時間を短縮しての踏破は、特にうれしかった。堀口さんが、折りたたみ自転車を利用してレンタカーを落合橋にとめてくれたことにより更に時間短縮した事と舗装道路歩きがなくなった事に感謝。

赤岩尾根・烏帽子岳に参加して

坂巻 明

テント泊をして、赤岩尾根の岩稜歩きの山行です。グレード3Cは初めての挑戦でした。私の指導係りの外崎さんは肩の具合が悪く、参加断念です。5人パーティになり少々残念です。

山行前の天気予報は両日概ね晴れとのことでしたが、4/26（土）は雨模様になってしまいました。下仁田ICから上野村に向かいましたが、土砂崩れのため去年の秋から通行止めになっていました。仕方なく迂回路を探したが、適当な道がなく一度市街地に戻り、中津川キャンプ場まで2時間半かけて到着しました。天候も雨が降ったり止んだりで、本日の烏帽子岳登山は中止です。

キャンプ場は5月3日から営業開始とのことで本日は貸切りとなりました。さっそくテントを張り、宿泊準備完了です。夕食までには多少時間があり、スケッチをして楽しみました。あたりは桜、梅、山ツツジが満開です。

しばらくして、夕食の支度に取り掛かり、ご馳走が出来たところで宴会となりました。メインディッシュにロシア料理のポトフと竹の子ご飯をいただきました。すごく美味しかったです。食担の佐藤さんご馳走様でした。食後のデザートには堀口さんのオカリナ演奏を頂きました。キャンプ場の方に竹の子ご飯をお裾分けしたら、お返しに手取り山菜（こごみ）をもらいました。時は過ぎ、就寝時間です。相談の結果、テントを野外から屋根付き広間に移動して寝ることにしました。最高の寝床条件になり、ヘッドランプの明かりを頼りに整列し、みんなでマグロになりました。

翌4/27（日）は3時半に起床し、テントを片付けたあと、千葉さんにお湯を沸かしてもらい朝食をとりました。雨は上がり絶好の山行日和となりそうです。

テント場を5時出発、メインイベントの赤岩尾根縦走の始まりです。ロープを肩に背負い、ハーネス・ヘルメットを装着し、準備完了！と、ここまでではよかったですですが、この後がいけません。最初から急な上りが延々と続き、息は切れ、心臓はバクバク、早くもペースダウンです。スタート時から完走できるか不安がよぎります。サブリーダーの堀口さん、佐藤さん、千葉さんははるか先を行きます。「待ってくれ！」

リーダーの柴さんの励ましがあり、尻を叩かれながらもどうにか赤岩山頂にたどり着きました。聞くと標準時間を少々上回っているとのことです。もう少し景色が楽しめればよかったなと思いました。途中、景色のよいところが数ヶ所あります。

した。特に雲海の眺めがすばらしかった。

本番はこれからなのにもうクタクタです。岩場は徐々にきつくなり、P4の難関がやってきました。柴さんから「固定ロープで登れるか、それとも確保しますか？」の間に、私は自信を持って「確保」をお願いしました。堀口さんに確保してもらい、無事に通過できました。

切り立った崖が足をすぐます。足場の悪いところを過ぎて行きます。その後もいくつか難関がありました。柴さんの指導により越えることが出来ました。前を行く千葉さんのヘルメットが見えたり、見えなくなったり、行けども往けども追いつかず、ヘルメットを見つけると「一安心」それは休憩場所のようです。

ふと気がつくとアカヤシオの蕾が大きく膨らんでいました。又、馬酔木の若葉が青々と茂りだしています。

迷惑を掛けながらも、皆さんの優しさに包まれて辛うじて完歩できました。八丁峠で装備を着脱したところで一言、「皆さんの指導なしには体験できない厳しい山行でした。」

最終地点の落合橋までの下山も石ころだらけなので、気を抜かず、一歩一歩慎重に下りました。今月の定例会で柴さんに教えてもらった経済的歩き方が本当に役立ちました。天候に恵まれ、メンバーに恵まれ、最高の山行でした。メンバーの皆さんお世話になりました。



両神山の頂上から北西に見えるギザギザの岩稜が赤岩尾根。整備された八丁尾根と違い、鎖や道標などなく踏み跡も不明瞭。出会う登山者もほとんどいない

概要

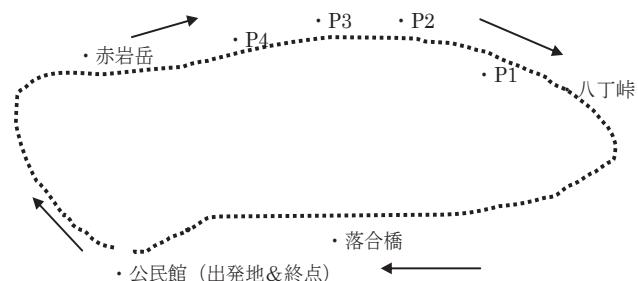
山名 赤岩尾根・烏帽子岳			
月日	平成20年4月26日(土)～27日(日)		
形式	テント泊り	グレード	3C
山域	西上州	地形図 1/2.5万	十石峠、両神山
目的	① 岩稜歩き再チャレンジ ② 山ツツジ、テント泊りを楽しむ		
費用	約10,000円	交通機関	レンタカー
1 日 目	我孫子駅前発 5:30→柏IC→下仁田IC 7:46→南牧村檜沢→大滝温泉遊湯館（道の駅） 昼食 11:00/1130→中津川村キャンプ場 12:50（泊）		
行 程 2 日 目	起床 3:30/中津川村キャンプ場 5:00→小倉沢 5:25（公民館）⇒登山口 5:45⇒休憩 6:13/6:18⇒赤岩峠 6:47/6:57⇒赤岩岳山頂 7:26/7:32⇒P48:45⇒ピーク 9:26/9:36⇒P39:52/9:57⇒ピーク 10:10⇒ピーク 10:43/10:53⇒P1（八丁岳）11:05⇒祠 11:53⇒八丁峠 11:58/12:10⇒落合橋 12:45/12:56⇒公民館 13:04/13:08→大滝温泉（入浴・休憩）13:45/15:25→花園IC 16:47→柏IC 18:38 《歩行時間：7時間（休憩含む）》		
ルート状況	1日目 ・当日は、小雨なのでそのまま目的地の南牧村を経由して上野村の国民宿舎やまびこ荘近くの登山口に向かったが、檜沢辺りから先は前面交通止めでやむを得ず引き返す。 ・キャンプ場は、炊事場が整っている。また、トイレは水洗で新しい。		

2 目 目

- ・公民館は、駐車禁止になっているので、落合橋の付近に駐車する。
 - ・赤岩岳までは、比較的ルートは分かりやすい。赤岩岳を下りて、1583mの前衛峰の登りは、今日のルートの中で1番難しい。岩場に慣れた人でも注意が必要で、安全のためには、ロープでの確保が必要だ。
 - ・全般的に踏み後がかかるにある、その踏み跡もところどころで消えて迷いやすい。国土地理院の25,000分の1の地図は役に立たない。ガイドブックや、その他のデータを持ち歩いて、1ピーカーごとに、今どこを通過しているか確認しながら、しかも経験者と一緒にないと迷ってしまうし、技術的に難しい。また、かなりの体力を必要とする。

参加者 柴勇 (L)、堀口 (SL)、千葉、佐藤明、坂巻
男性 3 名 女性 2 名 計 5 名

概念図



赤岩岳山頂にて。

< 5 8 3 >

涸沢 · 蝶ヶ岳
(2677m)

千葉有子

1月

夜行バスに揺られ、疲れなかつた人、ぐっすり眠れた人——いずれも身支度を整え、上高地を出発する。まわりには化粧ヤナギが花をつけ、梓川のせせらぎが聞こえて、春の気配がここちよい。周りに消え残った雪が点々とするが、道に雪はなく夏と同じ速度で先を急ぐ。やがて、左に圧倒的な迫力で明神が迫り、目を向けるたびにため息が出る。横尾の手前では道が雪でふきがり、梓川河畔に下りて歩く。

横尾に着くと、大橋の向こうに白い剣峰が姿を現す。あれは北穂？それとも涸沢岳？ 大橋を渡ると登山者の世界。道の雪は消えたり、また現れてふさいだり。ぬかるんでいる箇所もあって歩きにくい。左手には屏風岩。先程ヘルメットをかぶり登攀用具をジャラジャラ言わせていたパーティーは、屏風岩に向かったのだろうか。しかし、それらしき足跡も、岩に取り付く人の姿も見当たらなかった。

本谷橋に着いて大休止。多くのパーティーが休んでいる。本谷橋は、積雪と雪崩で壊されないように冬が来る前に取り壊し、連休前にも組み立てる。（レゴブロックじゃあるまいし……。）出発前に涸沢ヒュッテのホームページで調べたところ、「橋は組み立てましたが、まだ雪が多いので沢沿いに登ってきてください」とあった。すでに多くの人が登下降して、雪上にルートができている。一列になって急な斜面をただひたすら登る。私たちが今踏みしめている足元の雪面の下を、あと1ヶ月もすればゴーゴーと沢が流れるのだ。しかし、そんなことなど想像もできない。ところどころにデプリが確認できる。ルートが左へ、そして右へと回り込むと、広大なカールが前方に広がり、やがて涸沢ヒュッテのこいのぼりが見え始めた。あともう少し。道はヒュッテ下で稻妻形になり細かく右へ、左へと進路を変える。

到着したテント村には、鮮やかなテントが300張りほど張られ、多くの人が行きかっていた。まさに村状態。さてどこにテントを張ろう

か、と小屋から歩き出したすぐそこに、ちょうどテントを2張りたたんでいる人が。「よく暖めておいたよ」と言ってくれる言葉に甘え、整地も済んだその場所をちゃっかりいただいた。小屋にもトイレにも近くで都合がいい。

カールの周りには北穂、涸沢、奥穂、前穂の3000mを超える峰々がそびえ、ザイテングラード横の急な斜面には、登山者の姿が散見できる。振り向けば、今登ってきた雪面がだだっ広い滑り台のように東に向かっておちている。その向こうに見えるのは常念、蝶ヶ岳と続く稜線。最高のロケーションの中でビールで乾杯。「これ以上の贅沢はないだろう」、なんて幸せに浸つていると、突然目の前の急斜度の雪面が音を立ててごっそり滑り落ちてきた。雪崩だ。さらに、長野県警のヘリコプターが飛んできてタッチ＆ゴーを繰り返す。ここは厳しい雪山の世界であることを思い知らせてくれた。

一 奥穗高岳付近略図



2月

快晴だった空は夜には怪しくなった。2日目の早朝から出発の奥穂アタックをとりあえず延期して様子を見る。ここはまだ曇り空だが、奥穂の稜線は厚い雲に覆われている。すでに吹雪いているのだろう。小屋に情報収集に行くと、今日は下り坂で午後から雨風。でも明日は回復すること。さて、ではどうしようかと、テントの中で対策会議。



▲本谷橋。

▼ここから上は一面雪の世界。夏道を行かず、涸沢谷の豊富な雪の上を直登する。



プラン1：1日停滞して明日早朝から奥穂アタック、そのまま上高地まで下る。

プラン2：奥穂を諦め、今日このまま上高地まで下りて我孫子に帰る。

大勢の意見はプラン2に傾く。ここまで来て、それはないでしょう。（と思いながら、上高地でのんびりお風呂に入り、ビールを飲む自分の姿がちらついたりして。）

そこへ、清家さんが「他の案はないんですか」。すると、村松さんが「そうだ、蝶へ行くか」と、いうことで

プラン3：今日は徳沢園まで下り、明日蝶ヶ岳をピストンして上高地へ下る。

このグッドアイディアに歓声まで上がり、多数決の結果プラン3に決定。話が決まると行動は早い。あっという間にテントを撤収。昨日登ってきたルートを駆けるように下った。



涸沢のテント場にてテント設営。



梓川越しに見る明神岳。

3日目

昨日の午後からの雨と風は、夜半には止み、朝テントから顔を出すと満天の星空。フライが凍るほどの寒さの中、朝のお茶を飲むのもそこに、徳沢園横の長嶋尾根の登山道に取り付く。パーティーのメンバーで蝶に登ったことがないのは、清家さんと私だ。最初のうちは一本調子の急登。アイゼンのつめをきかせながら登る。高度を上げると左に穂高連峰が姿を現してくれる。深い森に囲まれた登山道はやがて広い尾根に出る。

出発から3時間半。さして目立たないピーク

に10人近くのパーティーが休んでいた。どうやらここが長嶺山の山頂らしい。聞くと彼らは昨日の荒天の中、横尾から蝶ヶ岳ヒュッテまで登り、今朝下りてきたとのこと。私たちも先を急ぐ。長嶺山から少し下ると船窪の鞍部。ここから、夏は湿地や妖精の池と名づけられたお花の咲き乱れるところが続くらしいのだが、それらもすべて雪の下。

やがて森林限界を超え、頂上から続いていると思われる稜線が姿を現した。あそこまで行けば……。踊る胸を抑えながら足を進める。空は昨日とうってかわっての快晴。雲ひとつ見られない。飛び出した稜線は、比類ない名画で私たちを迎えてくれた。長野側に張り出した雪庇に気をつけながら、蝶の頂上にたどり着く。「あれが槍、あれが北穂で奥穂、そこから吊尾根が続いて前穂……、こっちは後立山で、あれが鹿島槍じゃないか」。あれが、あれがと、山座同定もきりがない。とにかく木曽御岳や南アルプスまで見えるのだから。

帰りは登ってきた長嶺尾根をそのまま下った。途中で懲りずに山座同定を繰り返す。

徳沢園で吉川さん振り付けの、変なポーズを取らされて写真撮影。今年もゴールデンウィーク春山登山が無事終了した。来年もどうか、参加できますように。



概要

山名	奥穂高岳（涸沢）・蝶ヶ岳		
月日	平成 20 年 5 月 3 日（土）深夜～6 日（火）		
山域	北アルプス (穂高連峰)	地形図 1 / 2.5 万	上高地、穂高岳
形式	テント	グレード 4 D	
目的	1、美しくも厳しい雪山への挑戦 2、北アルプスの大展望 3、雪と氷の技術の習得 4、雪上でのテント生活を楽しむ		
費用	約 20000 円 交通機関 JR, タクシー、高速バス		
前夜	我孫子駅 20:53 → 新宿 23:00 (高速バスさわやか信州号) →		
1日目	上高地 5:50 / 6:15 ⇒ 明神池 7:00 ⇒ 徳沢園 8:00 ⇒ 横尾 9:10 / 9:30 ⇒ 本谷橋 11:00 ⇒ 涸沢テント場 13:30 (B C 設営) 晴 <行動時間 7 時間 15 分		
行程	起床 3:30 天気の様子見 BC テント撤収 7:05 ⇒ 本谷橋 8:00 / 8:10 ⇒ 横尾 9:20 / 9:40 ⇒ 徳沢園テント場 10:35 テント設営 曇り後嵐 <行動時間 3 時間 30 分 >		
2日目	徳沢園テント場 4:30 ⇒ 2000m 地点 5:55 / 6:05 ⇒ 長嶺山 8:00 ⇒ 蝶ヶ岳 8:50 / 9:25 ⇒ 長嶺山 10:05 ⇒ 徳沢園テント場 12:00 / 13:00 ⇒ 上高地 14:40 (ジャンボタクシー) → 松本駅 16:10 / 16:58 → 新宿経由 → 我孫子 20:48 快晴 <行動時間 10 時間 10 分 >		
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ・横尾の手前数百m、夏道は雪のため通行不能、一度河原（梓川）に降りて横尾山荘手前で合流する。 ・本谷橋より上部は一面雪の世界、一般登山道は雪崩と多雪のため通行不能、夏は水流が激しい涸沢谷の豊富な雪の上を雪崩に注意しながらひたすら上を目指す。 ・涸沢ヒュッテの大きな鯉のぼりが見えながらが遠い。一歩一步雪面を歩むがなかなか着かない。 ・涸沢カールのテント場は色とりどりのテント約 30 張で大賑合い。水、トイレ完備、ビールも。 ・テント場から見上げる穂高の稜線へのルートはザイデングラードを挟んで両脇の急斜面にトレースがついている。 ・徳沢園から蝶ヶ岳への長嶺ルートは最初から標高 2000m 迄は急登の連続。そこから長いアップダウンが続く。 ・長嶺山は山名板が見当たらず（多分雪の下）何処か解らず通過。 ・蝶ヶ岳の広い山頂は平成 16 年、現在の長嶺尾根の先端（ヒュッテの手前）の最高峰に移動した。以前は蝶槍の手前 2644m 地点でした。この結果、長い間もやもやしていた山頂がはっきりしました。 		
参加者	村松(L)、清家(SL)、外崎、北川、青山、千葉、吉川 男 3 名、女 4 名、計 7 名		



▲蝶ヶ岳山頂にて。バックは右から北穂、涸沢、奥穂、前穂の峰々。

←徳沢園にて。今年のこいのぼり山行も無事終了。テント撤収して一路上高地へ。



蝶ヶ岳山頂を後に。行く手には木曾御岳、乗鞍も姿を見せた。

< 584 >

二王子岳 (1420m)

石垣吉朗

頂上から飯豊山系の全眺望を見る

今回の参加者は当初から2名で、最少人数で実施することになりました。

二王子岳と聞いて山の場所（新潟県新発田市）がわかるのは相当に山好きな人でしょうね。交通の便は悪く、また続けて登る山があまりないので、登るのは地元の人が大半でしょう。交通の便が悪いのでマイカー登山となりました。

登山口の二王子神社から一王子避難小屋（3合目）及び5合目までは胸が登山道に触るほどの直登のキツイ登りが続く。この時期は4合目辺りから登山道は所どころまだ雪渓に覆われて歩行注意。5合目以降の登山道は「いわかがみ」「猩々はかま」「カタクリ」の群生地でさながらお花畠の中を散歩状態。



一王子避難小屋は石油ストーブもあり、快適。

一王子避難小屋はきれいで広さも充分あり、石油ストーブも常設され快適であった。参加者が2名で少々寂しい山行であったが、前夜祭は持ち込んだ豪勢なツマミやふんだんな日本酒・芋焼酎・甕仕込で大いに盛り上がった。

避難小屋近くの水場で「水芭蕉」の群生発見。1日目は雨で雷雨もあり最悪の状況であったが、2日目は快晴に恵まれ二王子岳山頂からは飯豊山系の全眺望が手に取るよう得られ感激、感涙。

下山時は沢山の登山者が訪れて、すれ違いに時間を要し下山時間が遅れた。帰路、新発田市内の温泉「あやめの湯」で入浴、極楽気分に浸る。

今回の山行は天候に恵まれ、飯豊連峰の眺望、残雪の間に咲く可憐な高山植物の群落を堪能できました。



5合目より先は登山道も残雪に覆われ歩行には注意を要する。

概念図





**山頂から眼前に展開する飯豊連峰の
絵巻は圧巻である。飯豊本山に感銘。**



山頂に鐘の音が響く

概要

山名	二王子岳			
月日	平成 20 年 5 月 31 日 (土) ~ 6 月 1 日 (日)			
形式	往復登山 (避難小屋泊)	グレード	3C	
山域	飯豊	地形図 1 / 2.5 万	二王子岳 上赤谷	
目的	飯豊連峰の展望と高山植物			
費用	14,000 円	交通機関	マイカー	
日程・コース	1 日 目	我孫子 6:00 → (自動車) → 柏 I C → 聖籠新発田 I C → 二王子神社 13:00 / 13:30 ⇒ 一王子避難小屋 15:00 (泊) 雨 < 歩行時間 1 時間 30 分 休憩含む >		
	2 日 目	一王子避難小屋 5:00 ⇒ 五合目独標 6:00 / 6:10 ⇒ 二王子岳 8:00 / 8:30 ⇒ 二王子神社 11:00 / 11:30 ⇒ 新発田市内あやめの湯 (入浴) 12:30 / 14:00 ⇒ 聖籠新発田 I C → 柏 I C → 我孫子 20:00 <歩行時間 6 時間 00 分 休憩含む>		
ルートの状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山口の二王子神社から一王子避難小屋 (3 合目) 及び 5 合目までは胸が登山道に触るほどの直登のキツイ登りが続く。 この時期は 4 合目辺りから登山道は所どころまだ雪渓に覆われて歩行注意。 5 合目以降の登山道は「いわかがみ」「猩々はかま」「カタクリ」の群生地でさながらお花畠の中を散歩状態。 			
参加者	石垣 (L)、佐々木 男 2 名、女 0 名 計 2 名			



二王寺山頂



二王寺神社が登山口

< 585 >

夕日岳
(1526m)

箕輪カオル

紅葉の雑木山で地図読みの勉強をして、山頂を踏まずに途中下山した昨年の夕日岳。

「あの山にもう一度行って見たい」の願いが叶いました。今度は、新緑の夕日岳です。日光駅から細尾根峠まではタクシーです。その間の道のりは、目にやわらかい新緑と春蟬の大合唱でした。峠に到着すると、タクシーの運転手さんからメロンの差し入れです。

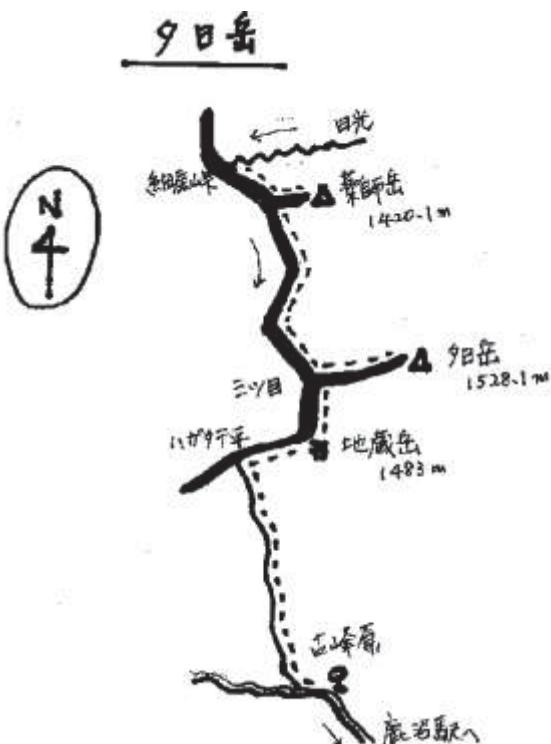
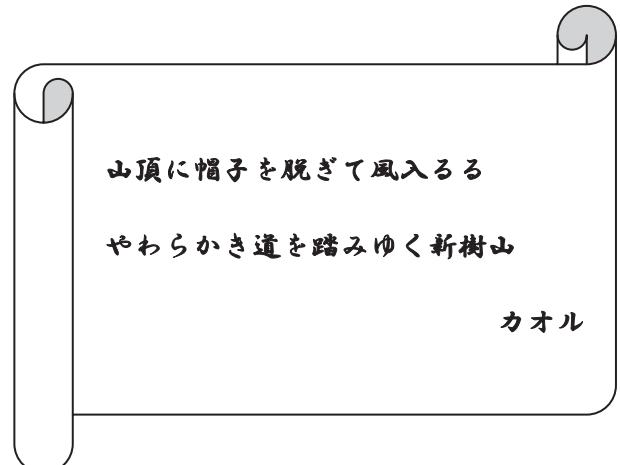
地図とコンパスで薬師岳の方向確認をして出発しました。全山が春蟬の声となっていました。その中を歩くのですから、気分は軽やかです。新緑のあちらこちらに赤や紫のやまつじ、シロヤシオの彩りが私たちを待っていてくれました。もうみんなからは感嘆の声でした。細尾根峠から薬師岳までは春蟬の中にいましたが、薬師岳山頂あたりからは春蟬も聞こえなくなりました。代わりに「トッキヨトカキヨク」の鳴き声のホトトギスが私たちの行く道を先回りして道案内をしてくれました。三ツ目の分岐を通り、夕日岳の山頂はまさしくシロヤシオに包まれていました。（ちょっと気になったのは目纏にまといつかれたこと）ここで昼食をとってしばらくシロヤシオ談義です。中村八重子さんから、シロヤシオは花と葉が根芽（こんが）になっていること、つぼみの方が見分けやすいことを教わりました。



シロヤシオの花。
花と葉が一つ混芽（こんが）になっている。

大勢の仲間がいると、物知りがいていっそう山行を楽しくしてくれます。

下山時には、春蟬やホトトギスから遠のいていました。地蔵岳、ハガタテ平、古峯神社までは、水の音を聞きながら下山しました。山道の左右からの沢が合流して勢いよい川となっていました。わずかに湿ったところに九輪草が咲いていました。古峯神社から鹿沼駅までのバスは超満員でした。鹿沼駅前の蕎麦屋に入り、にら蕎麦の初体験を果たしました。紅葉の頃にもまして、新緑の雑木山を満喫できた一日でした。





夕日岳山頂にて。



地図読み実習。



薬師岳山頂にて



アカヤシオ道

概要

山名	夕日岳		
月日	平成 20 年 6 月 1 日 (日)		
山域	日光	地形図 1/2.5 万	古峰原・日光南部
形式	日帰り	グレード 1 A	
目的	① 地図を見ながら山を歩いてみる。 ② 新緑と山ツツジを楽しむ。		
費用	4800 円	交通機関	JR、私鉄、タクシー、バス
行程	我孫子 5:31 → 北千住 5:53 / 6:31(東武) → 東武日光駅 8:24 / 8:30(タクシー) → 細尾峠 9:05 / 9:30(地図読み研修) ⇒ 薬師岳分岐 10:12 / 10:20(地図読み研修) ⇒ 薬師岳 10:25 / 10:30 ⇒ 分岐 10:35 / 10:40(地図読み研修) ⇒ 三ッ目 11:53 ⇒ 夕日岳 12:10 / 12:45 (昼食) ⇒ 三ッ目分岐 13:03 / 13:10(地図読み研修) ⇒ 地蔵岳 13:20 / 13:25 ⇒ ハガタテ平 13:55 / 14:00(地図読み研修) ⇒ 林道終点 15:25 ⇒ 古峯神社 15:35 / 15:50(バス) ⇒ 新鹿沼駅 16:40 / 17:38(東武線) → 春日部駅 → 柏駅 → 我孫子駅 20:00 晴れのち曇り < 行動時間: 6 時間 05 分 歩行時間: 4 時間 45 分 >		
参加者	外崎(L)、中村八(SL)、中村隆、中村美、原田君、安田、原田和、箕輪力、箕輪完、小川誠、佐藤明、瀬田、早川、石黒(ゲスト) 男 5 名、女 9 名、計 14 名		

<586>市民登山

北八ヶ岳
①縞枯山～ニュウ
②縞枯山～天狗岳

やまたんより転載

樂々A班 リーダーのメモ（原田和昭）

- ・樂々A班は市民参加者(熊澤夫婦)2名と会員4名の計6名でした。熊澤さんご夫婦はお二人で山に行かれているベテランです。今年度、初めて2000mを超える山でしたので高度障害の心配をしましたが何も有りませんでした。
- ・第一日目は天候に恵まれて、新緑と八ヶ岳の大パノラマを楽しむことが出来た。コースに残雪が残り注意が必要な所もありました。夕方の全員参加による懇親会も楽しかったです。
- ・第二日目は雨の音で目覚めた。雨対策を万全にして定刻に樂々さんの先頭で出発する。白駒湿原を越えて樹林帯の中で突然、踏み跡も目印のテープも見えなくなりルート調査をする。残雪で見えなかつたが沢が有つて道が消えていたようだ。ルート判明後は快適に急登を登ることが出来た。
- ・心配していた雨も止んで目的の山、岩陵のニュウ(乳)の頂上に全員で登ることが出来た。北八ヶ岳と蓼科山の360度の展望を楽しむことが出来た。下山ルートは残雪と急坂で滑り易くぬかるみに悩まされたが、新緑と自然の青い苔の美しさを楽しみながらゆっくりと下山する。最後に林道に出てから安心したのか遠回りして駐車場に到着する。二日間の全行程を無事に踏破できて満足です。仲間に恵まれて有難う御座いました。

樂々A班 感想文（熊澤 幸隆）

我孫子市民登山「北八ヶ岳登山」に参加して

「樂々A班は、原田リーダー・佐々木サブリーダー・連絡係りの飯沼さん・救急係りの早川さんの「岳人あびこ」の4名に、私たち夫婦が加わり総勢6名。ほとんど、私たち夫婦のために編成していただいたようなチームで、行程中、私たちの登山レベルにあったキメ細かいサポートをしていただき、大変快適な二日間でした。

ピラタス・ロープウェイ山頂駅よりスタートし

ましたが、バス、ロープウェイの乗り継ぎで高度をあまり感じていませんでしたが、「坪庭」を過ぎる頃には、シラビソの匂いが漂い、縞枯山に取り付いたころには残雪も多く、ヒンヤリとした雪とシラビソの匂いが混ざり合い、高山へ来ることを実感しました。また、コメツガなどの原生林や青苔の絨毯、まだ固い蕾の石楠花の群生など、多様で神秘的な北八ヶ岳に接し、十二分に森林浴を味わうことができました。

山小屋「青苔荘」では、山の歌や、コカリナの演奏、そして全員参加の盆踊りなど、楽しいひと時を過ごさせていただきました。また、山小屋とは思えないご飯の美味しさ、山盛りの山菜の天ぶら、そして、ゆったりしたスペースで横になることができ、快適な一夜を過ごすことができたのは感激でした。

二日目の早朝に一時雨が降りましたが、出発の頃には雨も上がり、ニュウの見晴では、天狗岳や前日走破した長い行程の山並みを望むことができました。雨に降られることもなく、山を堪能し、全員無事・安全に下山できたのは、常日頃心がけのよいメンバーと、「岳人あびこ」の皆さんの方々の準備、そして、山行中の的確なサポートのおかげと感謝します。「岳人あびこ」の皆さん、本当にありがとうございました。



茶臼山の頂上で



自然の倒木と薄日に輝く青い苔



岩稜の山ニュウの頂上にて

樂々B班 リーダーのメモ（佐藤健一）

樂々コースB班として7名の山屋が集められた。しかしこのネーミングは、樂隱居のビリチームに似てなんとも面白くない。そこで、チーム別に配られた黄色いリボンにちなんで“幸せの黄色いリボンチーム”と勝手に改名した。

そのメンバーは美人ぞろいの5人のお姉様方で、口も立つし足も揃っていた（直径の意ではない）。ただ、残り2名が・・・。リーダーはテキトウを絵に描いたような我輩と、残りの一人も昔は当会の優れた司令官だったが今は☆☆もない中高年氏（オット失礼！）。『どうなっちゃうの？』という不安を抱えながら第一日目をスタートした。

しかし、初日のコースは名前通り樂々であった。全班が一緒にケーブルで登り、縞枯山、茶臼山、麦草ヒュッテ、白駒池と縦走するものの、300名くらいの中学生の集団が前を歩いていてブレーキ役をなし、休み休みとなった山行は、装備に金かけた熟年チームの最も得意とするところ。早々と白駒池湖畔の青苔荘に到着し、小屋泊とテント泊とに分かれて散会した。

2日目は天候異変から始まった。出発準備に取り掛かる5時頃には雨が降り出した。健脚と自称している2チームを見送り、彼らの尻拭いの後片付けをして、樂々コース出発の時間になった。このとき“幸せの黄色いリボンチーム”は体調不良の中高年と看護の2名がリタイヤして、5名に変更になった。

持論であるが山行パーティの員数は少ないほど調子が出る。二人には気の毒だったが、この日の“幸せの黄色いリボンチーム”は快調そのもの。先行する他のチームをたびたび追い越し、先頭に立って縦走スピードの流れを形成した。そこまで

は良かったのかも知れない。

イイカゲンを絵に描いたようなリーダーが最後にその役割を見事に演出した。ニューからの下りでトップに立った5つの“幸せの黄色いリボン”は快調にしゃくなげコースを下り、林道に誰よりも早く降り立ったとき、『終わった』という幸せな気分になってしまって、山行での初步的な作業を迂闊にも怠り、コースを間違え、それから林道歩きを延々と30分以上メンバーに強いてしまった。

本来ならゴールのみどり池バス停地点を幸せ一杯でテープカットする筈だったのに、《ウサギと亀》よろしくビリ亀に追い越されてしまって、亀さんから冷やかしの追い討ちをかけられてしまったメンバーの皆さん、御免なさい。みんな私が悪いのです。でも柳さん、若々しかったよ。誰かも言うたけど、文隋さん美しかったよ。来年も懲りずに又来てくださいネ。

樂々B班 感想文（文隋英子） 北八ヶ岳山行

この度、兄の誘いを受け、主人と二人市民登山に参加させて頂きました。

私にとって、主人以外の方との山行きは初めてで有り又、北八ヶ岳も初めての山でしたので、大変楽しみにしておりました。

私たちのグループは5名で、リーダーの佐藤さんは優しい方で又、メンバーの方たちは、可愛い草花を素早く見つけいろいろな花の名前を教えてくださったり、主人と二人だけの山歩きとは違った楽しさがありました。

山小屋には、早めに着き屋外でのパーティもみんなで歌ったり、踊ったり又、役員の方の手作りの漬物など頂き、家庭的な暖かさを感じ楽しい一時でした。



白駒の池にて

二日目は、私にとって慣れない雪山で、滑ったり転んだり、足元を見ると私だけが泥だらけでした。幸せの黄色いリボングループで、楽しく歩くことが出来ましたし、偶然の出会いも有り思い出に残る北八ヶ岳でした。

岳人あびこの皆様には、大変お世話になりありがとうございました。紙面をお借りし、お礼申し上げます。



茶臼山山頂にて



ニュウ山頂にて

樂々C班 リーダーのメモ（松本豊）

北八ヶ岳は大きな大きな山でした。針葉樹と苔の道が延々と続き所々雪が残り北国の様相です。苔は若干茶がかかっていましたが雪から解放された直後だからでしょう。夏から秋には深い緑色の景色が眺められることと思います。

市民参加の皆さんもベテラン揃いででした。歩調も合い順調な山行ができました。皆様のご協力に感謝いたします。

雪解け直後で花は少なかったですが麦草峠では水芭蕉、ショウジョウバカマに出会うことができました。リスに会うことを期待していましたが残念ながら会うことはかないませんでした。ただ他の班でカモシカを見たとの情報がありました。自然が深い山ですからね。

天狗岳コースの皆さん頑張りました。おかげさまでほぼ計画通りの山行ができました。市民参加の皆さん来年も皆様との出会いをお待ちしております。来年も頑張りましょう。

樂々C班 感想文（浅井芳郎）

私は日本最古と言われる四国道後温泉の近郊の村で生まれた。小学校低学年の頃は戦争の余韻が残る中、裏山で木を切り、チャンバラゴッコ、「戦争ゴッコ」をして遊んだ。そして高学年・中学生時代はキノコ狩り、穴に煙を送り込み燻りだすキツネ狩り、又鳥もちによるメジロ捕り等が山との接点であった。そんな事を今思い返してみると

「生きていること、動植物と同じ庸に存在していることを充実したもの」として感受していたということだったのか？

高校生になって初めて山登りの山が存在した。石鎚山（1982米）とその山系の1000～1200米の山に小グループで登山をした。それは高いところを征服するために若人のエネルギーをぶつける極めてスポーツ的な意味合いのものであったようだ。

社会人になり登山部の仲間に誘われて4～5年に1度程度大名登山をさせていただいたが、それは成果主義が生み出す社会的ストレス解消以外の特別な意義はなかったと思う。

そして今日、定年になり月1回の頻度で山歩きを楽しむようになった。今、山歩きは存在の地の部分に歓びを見出す感受性を有する人々との出会い、また自然の地の部分との出会いに無償の喜び、安らぎを感じることに大きな意義を抱いている。その空間を見つめ時間を重ねてゆく感受性のある人々に下界でも1人でも多く出会えることを願い、また1年後そういう感性の風薫る岳人の出会いを楽しみにしている。



縞枯山山頂への登りはまだ雪道



最盛期の花畠を想像しながら 麦草峠湿原



東天狗・西天狗をバックに(ニュウ山頂)

樂々D班 リーダーのメモ (清家三保子)

1日目

- ・ロープウェー乗り場で全員顔を合わせ改めて自己紹介をする。ストレッチをし、いよいよ出発だ。
- ・縞枯山、茶臼山への北斜面は非常に雪が多い。茶臼山へ向かう途中、何と学校登山中の柏の中学生に会う。この雪山登山にはびっくりだろう。「何人位が山を好きになってくれるかな?」とチラッと思う。運動靴の200名以上の団体の後ろになり、富士山のシーズン最高の渋滞のように進みが遅く、この急登は苦しい思いもせぬ山頂へ着く。展望台は風が強く早々に青苔荘に向けて歩く。
- ・青苔荘で夕食前のひと時、飲む、歌う、踊るの交流もでき、テントを見学したいと言う人と共にテントを覗いて歩く。
- ・夕食は岩魚の塩焼きとタラの芽、コシアブラ、フキノトウ、ニセアカシアの花穂等の山菜天ぷらで、6,000円としてはとてもよかったです。お風呂の希望者7,8人が入浴する。

2日目

- ・予定通り7:00に出発する。早朝に降った雨は出発時ほぼ止む。メンバー全員とも元気だ。雪道の歩きづらい中山のコースは変更され、ニュウへ向かう。このニュウの名前は刈った稻を円錐形に高く積み上げた形とも、乳ともある。(低い乳もあるが...) 山頂へ最後の岩を攀じ登り、この梅雨時のラッキーな眺望を楽しんだ。
- ・今日は朝から苔の美しさに魅せられ歩いたが、ニュウを下山してからが最も美しいハイライトか。今回花は少なかった。その分もっと苔に目が行きこんなに苔を見たのは初めてと思う。大久保さん、吉田さんが「雪が所どころ残っているのがいいね」と話していた。確かにふんわりした優しい緑の濃淡、モスグリーンの間の残雪はきれいで、苔をさらに引き立てている。大木を二人で抱えてみる。木に着いていた苔に頬がさわった。何と溶けそうな柔らかさであった。
- ・「樂々コース」は思ったよりはラクではなく、十分な歩きに皆さん満足の様子であった。
- ・バスの中で「又参加したい」との声を聞くとともに嬉しい。二回、三回参加の方も増え同じ会員同士の気分だ。やっぱり山が好き、自然が好きな仲間は一緒ですね。

樂々D班 感想文 (高橋 潔) 「市民登山」にあります

会員を辞して2年あまり、今回のコースが昨年のほぼ同時期に他のテント山行に備えて計画したものとほぼ同じで、久しぶりに皆さんお会いしたくなったということもあって市民の一人として参加させていただいた。

天候がこの時期にしては幸いといえる状態になったこともともに喜びとしたい。思うところあって「樂々コース」を選んで大きな荷物で歩いたが、残雪を甘く見たようで楽ちんコースではなかった。残雪の件は全体にも当てはまりそうである。

大勢での山行ともなるとやはりひと味違うところがあって、飲んで騒いで、久しぶりに猛獣のオリの中で居眠りするがごとき夜となった。お互いに恨みっこなしでご苦労さまでした。

市民の目からすると、多少いかがなものかという点もみられたが、それはそれとして、今後の会の健闘を祈りたい。最後になったが、武内さんを始めとして大きな団体をまとめる多大な労を執られた方々には心より感謝したい。



1日目茶臼山山頂にて



2日目青苔荘出発直後白駒池にて
(楽々D班)



2日目ニュウ山頂にて
後方は天狗岳方面

健脚E班 リーダーのメモ (柴 勇)

1日目 天気晴れ

・さすがに一気に2000mまでロープウェーで山上駅に到着すると、長袖でも寒さを感じた。1日目はほぼ平坦な道の歩きであり散歩気分で歩くことが出来た。

・茶臼岳の途中まで登ると、前方からにぎやかな声が聞こえてきた。ジャージーにスポーツシャツの中学生が残雪に足を滑らせながらキャーキャー叫びながらの登山。聴いてみると柏の中学生で、研修旅行で、250名が2グループに分かれて行動中。少なくともこの渋滞のため30分は、タイムロス。展望台で全員を抜き去ることが出来た。展望台からは、中山のルート上に残雪がはっきり分かり明日の行程が気になる。天狗岳には、残雪は無かった。夕方の小パーティーは、市民との交流が良い形で出来た。

2日目 天気 雨のち曇り後晴れ

・出発する頃に雨が降り出し、全員雨具を着る。高見石小屋で小休憩し、高見石に登り、昨夜テントを張った白駒池がかすかに確認できた。雨は止んでいた。

・中山の登りは、前情報で残雪がかまぼこ型に残り表面がカチカチになっているとのことだったが昨夜の暖かさと、今日の雨で溶けてアイゼンなしで登ることが出来た。

・中山峠に着いた頃には、風が出てきたが曇っていたものの明るくなり、うす曇りの状態。Sさんを除いて全員どうしても西天狗岳まで行きたいとの熱い要望。これに応えて、西天狗岳に登ることを約束。(雨のときは、中山峠で引き返す心算だった。)

・東天狗までは、残雪あり、岩場あり、鎖場ありで、登りは相当の体力を要した。(昭文社の所要時間1時間10分は、無理)途中、東、西天狗岳を背景にE班、F班それぞれ記念写真を撮る。

・山頂で、F班と合流して記念写真を撮る。山頂では、まもなくガスがかかり始め視界が悪く、展望は望めなかった。

・西天狗岳に着いたときには、黒百合小屋が短時間確認できたがやがてガスの中。西天狗岳に三角点があり高さは2,645.8m。帰つてから調べたが東天狗岳は、2,640mで、西天狗岳に最高地点がある。

・中山峠から松本さんに無線連絡したが連絡が取れない。時刻は11時25分。ここから休憩なしで合流地点のみどり池バス停までが2時間40分。14時到着では、合流時刻を1時間オーバー、皆さんに迷惑をかけることになる。われわれE班は、残雪と、氷と、ヌカル急坂を休憩なしに急いだ。どうにか、25分遅れで合流点に到着。でも、途中で、中年夫婦が、溪流のそ

ばで腰を下ろし、ムツマジク会話しながら楽しんでいる様子を横目で通り過ぎたときは、うらやましく、次の山行のあり方を考えさせられた。

健脚E班 感想文（須賀一良） 北八ヶ岳市民登山に参加して

山岳会の方々に同行する登山は今回が初めての事で大変貴重な経験をさせて頂きました。この機会を与えて下さったのは、スポーツクラブのジムで一緒にしている当会の柴様です。

北八ヶ岳登山に一般参加できるとお話しで、細かな募集内容は市広報誌に載ることでした。広報誌の発行日を待ちその日のうちに申込み葉書を投函しました。参加希望の理由の一つは、山岳会の山行はどんな行動をとるのか興味があったことです。二つ目は、人ととの新しい出会いに対する好奇心からです。

事前説明会の通知が届き、説明会に出席してからは、こんなにシッカリとした山岳会の方々の登山行動に追いつくか、自分の山登りのレベルも分からず参加申込みをした無謀さを後悔しました。追い討ちを掛けるように、班編成の通知が届き、市民参加者の健脚組は2班5人だけだったの更なる後悔と不安が増しました。

当日は少しでも迷惑を掛けたくないとの思いから5時前には集合場所に行きました。先着はバスのみ、一つ不安が解消。

青苔荘前の広場で開催された懇親会は、懇親会（酒飲会）以外の経験が無い自分には非常に新鮮に思われ、なんとなく遠い青春時代を思い出しました。流石に岳人の方々は節度有る動きをしていると感心させられました。

2日目の朝は出発時間頃から雨が降り出し、リーダーの方から天候を考慮して当初計画の天狗岳はバスするとの話が有り、内心ガッカリしましたが安全優先の会の判断に納得し、出発しました。

残雪と氷による足場の悪さにはほんとうに苦労しました。途中から天候も回復し、当初の計画通り天狗岳へ登ることになり、嬉しさはありましたルートの状況が悪く尻込みしたい心境でした。残雪の壁と岩を一步一步慎重に登り、東天狗岳に到着した瞬間にリーダーの柴さんが右手を差し出しました。一瞬なんだか分かりませんでしたが握手をしてお互いに健闘をたたえあった時は近年にない感動をもらいました。西天狗岳登頂はガスも出てきたので諦めても良いかと後向きになりました。

たが班の皆さんに背中を押されて登る事が出来ました。班の皆さんとは三角点のある西が本物の天狗岳だと満足し合いました。

中山峠の下りは想像以上の足場の悪さに苦戦を強いられました。こんな悪条件にも拘わらず無事に計画通りに登山できた事はリーダーとパートナーのお陰です。感謝しています。

また同じ条件下で登るか問われれば、現時点では即NOの返事が出ると思います。

最後になりましたが、今回の企画・運営にご尽力頂いた会幹部の方々および関係者の皆様にお礼を申し上げます。有難うございました。



縞枯山



茶臼山山頂にて



東西天狗岳

健脚F班 リーダーのメモ (外崎 蓮)

1日目

・健脚F班は、その名に少し外れた、のんびりやさんチーム。わが道を行く個性派揃いで、返つて頼もしいほど。市民の戸田 健さんと田代裕子さんを加え、メンバーは8人。お二人とも足には自信があるので、リーダーとしては安心である。

・縞枯山の登りは、思いのほか雪が多く滑りやすかった。

・本日の行程は歩きやすく、北八ヶ岳の雰囲気を充分に堪能できたのではないかと思う。

2日目

・テントを撤収し終えた頃より雨となる。雨具を着込んだ健脚コース2つの班は、小屋の人や実行委員に見送られて、定刻の4:50、青苔荘を出発する。

・白駒池の湖畔に沿って進み、まだ眠っているような白駒荘のわきから樹林の中に入る。濡れた木道の先は、残雪の悪路となる。



健脚コース(E班・F班)東天狗岳に大集合

・E班と同時刻に高見石小屋に着く。ガスが濃かったが、小屋のわきの大岩を伝って展望台に上がつてみると、白駒池が霞んで見えた。

・中山に来ると、幾分空もようが明るくなってくる。ここから、楽々班が通るニュウに行けるが、健脚班は中山峠までは行くことになっているので先を進む。

・両班が中山峠に着いたところで、今後の行動について相談した。E班では、一名を残して、全員が西天狗に足を延ばしたいという。私のF班は、全員一致で東天狗岳まで行くことになった。

・晴れていれば、北八ヶ岳第一と言われる東天狗岳

からの展望はなかったが、それでも岩場や残雪を踏み越えて、無事に登頂できたことを皆で喜び合う。

・まもなくE班が西天狗岳へ。F班は、E班の一名を預かって下山開始。中山峠で小休止のあと、ミドリ池に向かって急斜面を下る。

・ミドリ池湖畔のしらびそ小屋に着いて間もなく、E班に追いつかれる。F班がまだ休憩中に、E班は帰着時間を守って下山していった。

・とにかくF班も一生懸命に歩いた。下山口に広がる美しい緑のカラマツが、やさしく出迎えてくれた。ミドリ池のバス停には30分遅れで到着。一番最後の私たちを、今度はバスの皆さんが待っていてくれた。

・時間的に無理なことであるが、入浴後の食事が班毎にできたらもっと良かったと思う。歩きっぱなしで終った感じがして…。

健脚F班 感想文 (戸田 健) 市民登山に参加して

今回の市民登山(北八ヶ岳)は3年連続での参加でした。

初日は縞枯山、茶臼山からの景観に加え、辿り着いた青苔荘そばの白駒池が、神秘の湖面を湛えている景に感動しました。

2日目は実力を省みず健脚コース(Fチーム、外崎L)を選んだゆえのきつい1日でしたが、何とか大きな荷物にならず?ほっとしました。中山峠から天狗岳へのコースで目にした南信濃の大パノラマが今も印象鮮明です。

私の場合、一線を退いたあとに趣味の一つとして選んだのが俳句。自然観察鑑賞の必要から始まった「公園廻り」が「野山散策」を経て「小登山(筑波クラス)」となり、やがてワンランクアップを志向。その最中に「岳人あびこ」の活動を知る所となり、即断即決で参加させてもらったのでした。

平地での吟行とは大違いで、ハードで忙しいというのが率直な感想ですが、それは当然というもの。会員各位のご指導とご助力により「充実した安全な山行市民登山」ができるのは大きな魅力です。これからもいっそうの素晴らしい企画の提供をお願いしてお礼に代えさせていただきます。ありがとうございました。



茶臼山展望台にて



東天狗岳頂上にて



東西天狗岳

北八ヶ岳感想

・思いがけない残雪で心配でしたが楽しい山行でした。有難うございました。

(大久保昭子)

・雪が多かった事にビックリ。歩き方がわからなかつたがリーダーに教えてもらいました。先に雨が降りどうなるかと思いましたが素晴らしい景色とマイナスイオンをたっぷり浴びられよかったです。山小屋の料理もおいしかつたです。

(田代裕子)

・たかがコケ。されどコケ。こんなにも美しいものとは今まで思ってもみませんでした。リーダーの方々、雪道、清々しい緑にすべて感激。

(吉田喜美子)

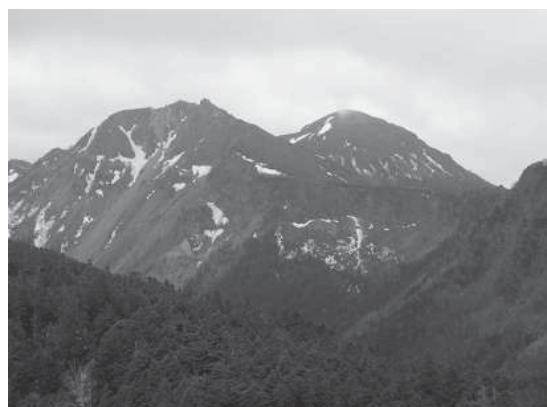
- 非常に良かった。会員のご努力に感謝。(戸田健)
- 厳しい登山でしたが大変満足できる企画でした。詳細は感想文を出させて頂きます。(須賀一良)
- 残雪に足をとられて新緑を見れなかつたのが残念でしたが充分に自然と会話が出来て日頃の金を中心とした心を洗いました。ありがとうございました。(浅井芳郎)
- すばらしい苔の原生林と残雪の山行はとても楽しかつたです。(野口恵子)
- 楽と思って来ましたがなかなかたいへんでした。残雪などを歩けて楽しかつたです。(熊澤史子)
- 初心者向と聞いていましたが思っていた以上に厳しい山でした。又思っていた以上に残雪があり歩行に苦労しました。(熊澤幸隆)
- 雪道登山、青苔とても楽しかつたです。ありがとうございました。(柳日出子)



茶臼山展望台よりハケ岳連峰



茶臼山頂上にて



ニュウから見た天狗岳



キャンプサイトでの食事

市民登山「北八ヶ岳」を終えて

岳人あびこ市民登山実行委員長

武内勇二

岳人あびこの市民登山も今年で 14 回目を迎えました。これまで、石老山、扇山、丹沢、八ヶ岳、両神山、雲取山、巻機山、安達太良山、早池峰山・栗駒山、赤城山、会津磐梯山、男体山、カヤの平・奥裾花に足跡を残しております。初期の石老山、扇山、そしてブナ林探訪を目的とした昨年のカヤの平・奥裾花を除けば、百名山に名を連ねる有名な山ばかりです。

「今年はどこにするか？」市民登山の実行委員に選出されて大いに悩んだ末に、様々なルートが取れる北八ヶ岳と決めました。そして、雲取山以来 8 年ぶりにテント泊も加えてみようと計画を練りました。

北八ヶ岳はなんと言っても、樹林帯と池沼に特徴がありますので、「池畔に泊まり樹林帯を歩こう」とまずは目的を定めましたが、計画を練っているうちに段々と欲が出て、北八ヶ岳の雄たる天狗岳も加えました。一般の方が天狗岳を登るにはやや骨が折れすぎるので、これを健脚コースとし、楽々コースは中山～ニュウへのルートと計画を固めました。

ところが、例年ない残雪は予想外でした。5 月のゴールデンウイーク明けに他の実行委員 2 名と白駒池周辺の下見に出かけた折も、季節はずれの降雪があり樹々はまさにクリスマツリーの有様。白駒池は凍結し、青苔荘も 1m 近くの積雪に覆われていました。このとき小屋のご主人（山浦さん）から、「雪の状態が悪く中山の登りは難渋が予想される。」と脅されました。「ちゃんと歩けるようになるかどうかは、今後の気温と雨次第とも。」

今年の 5 月は雨が多かったものの、気温は低い

日が続きました。6 月に入り、山浦さんに状況を確認した時、「雪はかなり溶けたが、やはり中山の登りは一般の人達を連れて登るのはやめたほうがよい」とのアドバイスを受け、即座に楽々コースのルート変更を決めました。実際に山行に出かけ、やはり変更してよかったとつくづく思いました。

第 1 日目の縞枯山では思わぬ渋滞に巻き込まれました。聞くところによると、柏市の光が丘中学校の 2 年生とか。雪の山をスニーカーで登るのは、いくら身が軽いといっても大変です。計画した先生方も、この時期にこんなに残雪があるとは予想していなかったのでしょう。お陰で、我々のほうは予定期間をかなりオーバーして白駒池に着きましたが、途中、体調不良を訴える方はほとんどなかったことを考えれば、2000m 以上の高度に身体を慣らすにはかえってよかったかもしれません。

市民を交えての野外での懇親会は岳人あびこの市民登山では初めての試みでした。参加していただいた市民の方の感想文にも「よかったです」とのコメントをいただきました。ファイアーもなくやや寒かったものの、山でのひと時を楽しんでいただけのことと思います。

2 日目の楽々コースで、白駒湿原を越えてしばらく行ったところで、黄色いテープがあるにも拘わらず、雪上の踏み跡が消えていて暫し立ち往生しました。樹林帯のだだっ広いところで道を失うと厄介なことになりますが、地図上で現在位置のめぼしがついていましたので、磁石で進行方向を確かめ、直ぐにルート上の赤テープを見つけました。岳人あびこでは常に地図読みの勉強会を開催して技術の向上に努力しています。市民の方をご案内している大切なときに、普段のトレーニングが役に立ちました。

健脚コースの方々には、行程の割には集合時間の設定がややきつく、余裕のない山行になってしましました。この点、計画者として申し訳なく思っています。しかしながら、天狗岳に登り、八ヶ岳の主峰赤岳を眺望し、北アルプスや南アルプスの山々、浅間山や秩父の峰々を遠望できたことは、きっと永く皆様のご記憶に残り、きつかったことはやがて忘れて楽しい思い出だけが残ることとなるよう望んでいます。

本年の市民登山も、無事終了することが出来ました。これも、ご参加いただいた市民の方々のご

協力があってのことです。そして、バスの中で佐久のミニガイドをしてくれた箕輪さん、そのほか、市民登山の成功のため力を結集してくれた会員の皆さんに実行委員として感謝申し上げます。

これからも、市民の方々に山を楽しんでいただけるよう、岳人あびこの総力をあげ市民登山の開催に取り組んでゆきたいと願っています。また来年も、お会いしましょう。

概要

山名	①縞枯山 ~ ニュウ ②縞枯山 ~ 天狗岳		
月日	平成 20 年 6 月 7 日 (土) ~8 日 (日)		
山域	八ヶ岳	地形図 1 / 2.5 万	蓼科、松原湖
形式	山小屋またはテント	グレード	① 2B ② 3B
目的	静寂な森と神秘の湖を訪ねる。 市民との交流。		
会費	16,000 円	交通機関	貸切バス
1 日 目	(全員)A 班の記録 我孫子駅北口 5:30/5:37 → (バス) → 柏 IC 5:55 → 談合坂 SA 7:30/7:50 → 中央道原 PA 9:20/9:33 → 諏訪 IC 9:40 → ピラタスロープウェー駅 10:30/11:00 → ロープウェー頂上駅 11:07/11:10 ⇒ 雨池峠分岐 11:30 ⇒ 休憩 11:48/11:53 ⇒ 縞枯 山 12:05 ⇒ 昼食 12:15/12:35 ⇒ 茶臼山 13:20 ⇒ 中小場(休憩) 13:35/13:40 ⇒ 大石峠 14:15 ⇒ 麦草峠 14:30/14:35 ⇒ 白駒池 PA 15:05/ 15:15 ⇒ 青苔荘着 15:35 <歩行時間 3 時間 40 分>		
行 程 2 日 目	樂々コース) A 班の記録 B~D 班は省略 青苔荘 7:00 ⇒ 分岐 7:20 ⇒ 白駒湿原 7:33 /7:38 ⇒ ルート調査 7:55 ⇒ ニュウへの分岐 8:12/8:20 ⇒ 尾根の分岐 8:53 ⇒ ニュウ頂上 9:10/9:25 ⇒ 尾根の分岐 9:50/10:05 ⇒ 小休止 10:20/10:25 ⇒ シャクナゲ尾根分岐 10:35 ⇒ 休憩 11:23/11:30 ⇒ 林道 12:20 ⇒ みどり池入 口バス停 13:05 (合流) <歩行時間 5 時間 10 分> (健脚コース) E 班の記録 青苔荘 5:10 ⇒ 高見石小屋 6:05/6:22 ⇒ 中山 7:32/7:40 ⇒ 中山峠 8:12/8:25 ⇒ 東天狗岳 9:40/9:50 ⇒ 西天狗 10:05/10:10 ⇒ 東天狗下 10:25/10:30 ⇒ 中山峠 11:12/11:25 ⇒ しらび そ小屋(みどり池) 12:17/12:25 ⇒ みどり池 入口バス停 13:25 (合流) <歩行時間 6 時間 55 分>		
翌 日	(健脚コース) F 班の記録 青苔荘 ⇒ 中山峠 E 班に同じ ⇒ 東天狗岳		

	9:40/9:55 ⇒ 中山峠 10:55 / 11:00 ⇒ 本沢温 泉分岐 12:10 ⇒ しらびそ小屋(みどり池) 12:15/12:30 ⇒ 車道 13:20/13:25 ⇒ みどり池 入口バス停着 13:30 (合流) <歩行時間 7 時間> (全員) みどり池入口バス停 13:40 ⇒ 八峰(ヤッホー) の湯 14:00/15:30 ⇒ 佐久甲州街道 ⇒ 佐久 IC ⇒ 横川 SA ⇒ 柏 IC ⇒ 我孫子駅北口 20:10
参 加 者	本部 : 中村隆、村松敏、武内 (CL) 樂々 A 班 : 原田和 (L)、佐々木 (SL)、飯沼、 早川、熊澤幸 (市民)、熊澤史 (市民) 樂々 B 班 : 佐藤健 (L)、細野省、細野清 (SL)、 榎原、箕輪力、柳 (市民)、文隋英 (市民) 樂々 C 班 : 松本 (L)、大串秀 (SL)、中村美、 原田君、藤倉、浅井 (市民)、野口 (市民) 樂々 D 班 : 清家 (L)、箕輪完、安田 (SL)、瀬 田、高橋潔 (市民)、大久保 (市民)、吉田 (市 民) 健脚 E 班 : 柴 (L)、青山 (SL)、品田、佐藤 明、小松、須賀 (市民)、文隨明 (市民)、園 田 (市民) 健脚 F 班 : 外崎 (L)、高橋英 (SL)、小川誠、 坂巻、高橋芳、桐生、戸田 (市民)、田代 (市 民) 男 22 (会員 15、市民 7) 女 24 (会員 17、市民 7) 合計 46 (会員 32、市民 14)

略図



大行沢～カケス沢 (標高差 355m) (標高差 380m)

千葉有子

ズズン、という低く重い響きを下腹と耳に感じた。「来たな！」。声に出す間もなく、足下の巨岩がグラグラと震えた。(抱えられないような岩が転がり落ちてくるかもしれない。) 上流を見上げる。しかし、そんな恐れをあざ笑うかのように、崖上の灌木がザワザワッと動いて、小石がパラパラと落ちてきた。

「地震だな。」誰かが声にしたが、そんなことは気にも留められないほど、これから待ち受けるゴルジュに心奪われていた。

6人のパーティーで仙台西、二口山塊の大行沢に入ったばかりだった。2008年6月14のことだ。“おおなめさわ”と読む大行沢はその名の通り、素晴らしい滑が続くという。しかし、その前に大きなゴルジュ帯があり、滑だけ楽しむなら沢沿いの大東岳登山道を登り、ゴルジュ帯が終わるあたりで沢に下りればいい。しかし、「下部ゴルジュ帯を通過しないで大行沢をやったとは言えねえ」という、何の根拠もない佐藤リーダーの主張に異論を唱える者もなく、秋保ビジターセンター近くの大行沢出合から入渓する。



▲入渓地点。この後、10~20分後に地震が。



下部ゴルジュ帯でのへつり。落ちれば淵は深い

普段より水量が多いのか、ゴルジュ帯は予想以上に難しい。よく磨かれたツルツルの側面、豊富な水量と速い流れ。何度もドボンし、ザックを下ろして泳ぐことを繰り返した。ザックはロープで水流伝いにたぐり寄せるものの、流れの速さと水を吸ったザックの重さで一つを通過させるにも多大なエネルギーを要する。

ゴルジュ帯が終わると巨岩帯、そしてゴーロが始まる。沢は開けて明るくなり、滑へ滑へと足を速めた。しかし、足はゴルジュ通過で疲れ果てていた。大小の石が沢シューズのフェルト底を通して足裏に直接響く。ゴーロは果てしなく続くよう感じられた。

結局、肝心の滑に行き着く前に日は暮れ、樋の沢避難小屋に泊まるはずが河原にタープを張って幕場とした。そこは入渓地点からほぼ3kmの地点。私たちは朝から夕方まで水と格闘して、わずか3km進んだだけだったのだ。疲れ果てていた体は、満天の星、焚き火の炎に心と共に酔いしれ、沢音を枕にぐっすりと眠った。「明日の沢はうまくいくだろうか」、なんて心配もしたが、おおむね不安はなく、みんな幸せだった。





無自覚の遭難パーティー

翌朝は快晴。歩き始めていくらもしないうちに滑に突入。緑葉に囲まれた滑は秩父や上越のものとはまた違った趣が感じられる。やはり東北ならでは。といって、どこが違うのか。滑の間に点在する釜の美しさか、スラブの緑を帯びた色の違いか、周りのブナの森の違いか。それとも沢の広さと射しこむ北国の日の光のせいか。

樋の沢避難小屋にたどり着いたのは8時前だった。昨夜避難小屋に泊まったというパーティーが、地震で新幹線が停止したことを教えてくれた。これが山行中、私たちが地震について知ることのできた唯一の機会だった。でも仙台駅に着いてすぐ山に入った彼らにもそれ以上の情報はなく、軽く聞き逃してしまう。

避難小屋から登山道を下る佐々木さん、明子さんと別れ、大行沢を戻ってカケス沢に入った。天然の造形、北石橋(きたしゃっきょう)を見物に行く計画だ。しかし、沢に入って間もなくその荒れよう、人の入った形跡がないことからどうもカケス沢とは違うぞ、と気づく。しかし、引き返すほどの時間的、体力的余裕もない。しかたなくそのまま名も知らぬ沢を遡る。直登できない滝にぶつかればブッシュのひどい急斜面を高巻き、一步間違えば釜まで滑り落ちそうな微妙な斜度の滑を慎重に登り、つめでは急斜面を灌木につかまりながら体を引き上げ、やっとのことで沢から抜けた。



(後でわかったのだが、カケス沢の出合には右岸上部に、北石橋への案内立て札があり一目で出合の確認が出来るらしい)

稜線近くの斜度の緩やかな場所を見つけて腰を下ろし、沢装備の解除を始めた。その時だった。堀口さんと私の携帯がたて続けに鳴り始める。

(ちなみに佐藤さんの携帯は前日のゴルジュで水没していた) 見ると、夥しい数の着信履歴。家から留守電が2件。村松リーダー部長からの留守電1件。留守宅本部の川下さんからも。あとは市外番号02で始まる知らない相手。留守電の内容は「どうしているか、とりあえず連絡しろ」。

「あれしきの地震で何を騒いでいるのだろう」と、その時は思った。電波が悪かったので、尾根に抜けることを優先させる。斜面を登るとすぐに道が見つかった。道といつても素直な道ではない。途中危うげなロープに捕まりながら這い上がる場所もあった。しばらく行くと、糸岳から下りてきた道と合流。尾根に出ると眺望も良くなり、周囲には二口山塊が見渡す限り広がる。大行の谷は左の足もとのはるか下。もちろんここからは見ることができない。

景色を楽しんでいる暇もなく、堀口さんの携帯が鳴り始めた。「そうだ、連絡しなくては」。まず娘に電話する。「どこにいるの、地震でみんな心配している。無事なら会に連絡して」。次にリーダー部長に電話。「今どこにいる? みんな無事か? あとどれくらいで下りられる?」「い、いと岳からの登山道に出ました。い、いち時間半くらいかな……」矢継ぎ早の問い合わせにしどろもどろに答えていく。「とにかく無事でよかった。下りたら磐司山荘に挨拶しに行くように。家族と会長にはこちらから電話しておく」。一方、堀口さんにかかる電話の相手は仙台南警察署であることが判明。なんと、私たちは佐々木夫人の救助要請で、お尋ね者になっていたのだ。



2日目やっと「大行(おおなめ)沢」の名にふさわしい美しい滑が……。ゴルジュ帯の悪戦苦闘で忘れていたけれど、これが見たくて来たのです。

途中の磐司岩の展望台で岩をバックにとりあえず写真を撮る。林道に出る直前の川は橋が流されていて、滑りそうな川床を渡渉するおまけつき。林道に着いた地点でへたり込んでしまった。先に登山道から下りていた佐々木さんたちと合流。彼らの車にはパトカーが横付けされ、「佐々木さんですか」と声をかけられたという。明子さんは「佐々木さん、どんな悪い事したのだろう」と、手錠をかけられ、連行される姿を想像したとか……。

秋保ビジターセンターに寄り、駐在していた警察官に挨拶。二口温泉磐司山荘では、主人に挨拶して、ついでに温泉で汗を流す。実を言えば、その時もまだ「みんな何をそんなに騒いでいるのだろう」と戸惑うばかりだった。どうも昨日の地震は自分達が考えているよりはるかに大きかったらしい……。

その戸惑いが氷解したのは、家に帰り、テレビを見た時。画面には栗駒山の爆発的な地すべりの映像が映し出されていた。私たちが遭遇したのは、岩手・宮城に甚大な被害をもたらし、歴史に残ることとなった岩手宮城内陸地震だったのだ。

概要

山名	大行沢～カケス沢		
月日	平成20年6月14日(土)～15日(日)		
山域	東北 二口山塊	地形図 1/2.5万	作並、山寺
形式	沢中幕営	グレード	4D
目的	天国のナメ滝で緑の風と水遊びし、芸術的な北石橋〔未達成〕と磐司岩の鑑賞		
費用	約10,000円	交通機関	レンタカー
1 日 目	柏公設市場集合 3:30→JH 東北道→仙台南IC 7:10→二口キャンプ場駐車場 7:50/8:30 大行沢入渓⇒下部ゴルジュ IN8:40⇒下部ゴルジュ OUT12:00⇒京淵沢出合 15:14⇒8M2段の滝 15:50/16:54⇒テント場 17:10 <歩行時間：8時間00分>		
行 程 2 日 目	テント場 6:10⇒化物沢出合 6:36⇒カケス沢出合 7:11⇒樋ノ沢避難小屋 7:40/8:12⇒カケス沢出合 8:35⇒カケス沢右俣遡行中止⇒カケス沢左俣分岐 9:13⇒沢の源頭 11:30⇒登山道 13:00⇒糸岳分岐 14:00/05⇒望洋平 14:20⇒糸岳登山口 15:35⇒二口林道 15:55/16:10⇒秋保ビジターセンター⇒磐司山荘 16:40/17:30⇒仙台南IC 18:30⇒柏 IC 22:00⇒我孫子帰着 22:35 <歩行時間：9時間00分>		

ルートの状況	<p>【初日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画書は秋保ビジターセンターに提出した。 入渓地点の大行沢出合には駐車場とトイレがある。装備後ここから入渓。 下部ゴルジュは距離は短いものの水量多く、通過に半日要した自分の技量に改めて自信をなくした。 これに続くゴーロ地帯も平凡だが長い。前のゴルジュで体力消耗し、低温で寒く感じるときは体のバランスを崩すことに要注意。 <p>【二日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8m 2段の滝が、初日で遡行できる唯一滝らしい滝であった。下段は水流左を攻め、上段は堀口講師が流芯に近い右側を果敢に攻めてルート開拓。ザイルをおろしてもらって全員通過。 幕営地は樋ノ沢避難小屋もカケス沢出合いも諦め、ケヤキ沢出合い付近の右岸にとったが、意外にここは快適な所で、水にも焚き木にも不自由しなかった。
ルートの状況	<p>【二日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕営地から 30⇒40 分は昨日のゴーロ歩きの続き。その後、期待のナメに突入。 ここから樋ノ沢避難小屋まではルート上の問題は何もない。 避難小屋からカケス沢出合迄の戻りは、沢沿いの山道を辿って、再び入渓。 予定通りカケス沢の右俣を進んだが崩落が激しく、カケス沢左俣に転進する。 傾斜が強くて長いナメ滝が現れるが、直登や巻きを繰り返しながら進んだ。 2段 60m 滝は 2/3 までは水流の左を直登したが、上部は滑りやすく、左側を灌木伝いに巻き気味に登った。 東北のヤブは密集していて粘っこく手強い。巻き道もかなりの時間と体力の損耗を強いられた。でも A さんだけはちっとも困らず嬉しそうに見えた。 源頭部の涸れ沢は、もろく崩れやすいガレ場になっており、灌木地帯に逃げ込んだが、ここも気を緩めると転落しかねない急傾斜になっていて、油断がならなかった。 北石橋と磐司尾根を結ぶ山道に這い上がって装備解除した。この道も細くて踏み跡が明瞭でなかった。 望洋平で携帯が繋がった。着信履歴が多くその後警察からの無事確認の電話が頻繁に入り、留守家族と当会関係者の心配を知った。 下山道の右側に大きなナメ沢が現れ（糸滝沢）、その後行く手をさえぎるように二口沢と遭遇して一時的に登山道が消える。しっかりと地図読みすれば問題ない。 下山道の右側に大きなナメ沢が現れ（糸滝沢）、その後行く手をさえぎるように二口沢と遭遇して一時的に登山道が消える。しっかりと地図読みすれば問題ない。
参加者	佐藤健(L)、堀口(SL)、佐々木、千葉、青山、佐藤明 男 3名 女 3名 計 6名

< 588 >

苗場山 (2145m)

原田君子

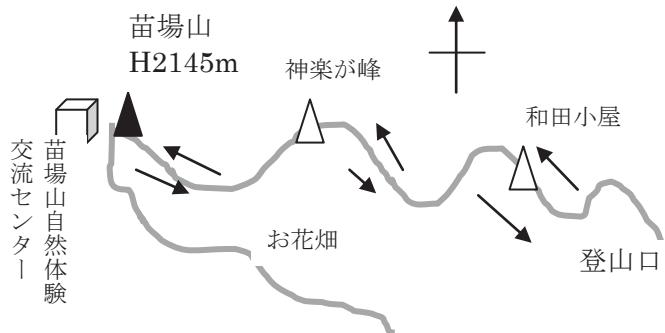
花・写真・池塘

「苗場山は越後第一の高山なり、魚沼郡にあり、登り二里という。絶頂に天然の苗田あり、依て昔より山の名に呼なり。……」鈴木牧之「苗場山」の書き出しである。

6月15日16日で苗場山に行く。今年は例年になく雪が多いと聞いていたが、なるほど和田小屋まで行くとスキーのゲレンデにはまだ雪が残っている。それでも木々は芽吹き出し、新緑がとてもきれい。ゲレンデ脇ではオオカメの木・たむしばの白い花が迎えてくれた。登山道は大小の石がゴロゴロとした道で、雪解け水が小川の様に流れていってとても歩き難い。登山道の脇にはショウジョウバカマがいたるところにピンクの可愛いらしい花をうつむき加減に咲かせている。上を見れば、ムラサキやしおつづじ・まめ桜の花が満開。この時期にまだ桜が見られると喜んでいると足元がおろそかになり、水溜りに入ってしまう。

六合目を過ぎると登山道にも雪が残っており八合目の神楽ヶ峰まではほとんど雪山同然。八合目を超えて南斜面に出ると、雪はなく春真っ盛りの花畠。シラネアオイがいっせいに艶やかな装いで今を盛りと咲いている。ナエバキスマレは暖かい岩場で、春が来たことを喜び大きな口をあけて歌いだしたようだ。花畠を過ぎるときつい登りがあり、木の根をつかんだり、岩をつかんだり大変。でも、急な登りは小さな花も目の前に見える。

登山ルート概略図



久しぶりに目にしたピンクの小さな花、サル? イワ…早速写真に撮り山小屋の主人に見てもらう。イワナシでした。



湿原の肩に出ると広い雪野原。ところどころに雪解けの水溜りがある。あと何日かするとすっかり湿原に変わり苗場になるのでしょう。山小屋は我々の他にはお客様は一人だけ。ゆっくり午後のティータイムを楽しむが山小屋に水場がないのにびっくり。こんなに雪があるのに…。お茶の後はみんなで雪の苗田を散歩する。

残雪が多いため下りは予定を変更して同じ道を降りることにした。一日のことだが、花の様子がぜんぜん違う。シラネアオイはいちだんと咲きそろい、昨日は咲いていなかったツバメオモト・サンカヨウはあちこちに白い花をみせている。山の春は駆け足でやってくる。それを実感する一日でした。

シラネアオイ・ショウジョウバカマ・たむしば・おおかめの木・ミズバショウ・むらさきやしおつづじ・みやまかたばみ・ミツバオオレン・あずましやくなげ・ナエバキスマレ・ツバメオモト・サンカヨウ・まめ桜・えんれいそう・つくばねそう・イワナシ・等々沢山の花に会えてとても幸せな山行でした。



雪渓の残る美しい山肌



苗場山山頂にて



1日目。上の芝あたり。



一面は真白い雪原



雪が深くて踏み跡がなく危険だと言うことで往路を下山したおかげで、往路では咲いていなかったツバメオモト（左）を復路で見ることができた。右はナエバキスミレ。

概要

山名	苗場山		
月日	平成 19 年 6 月 15 日(日)～16 日(月)		
形式	山小屋泊	グレード	3B
山域	谷川	地形図 1/2.5 万	苗場山・佐武流山・三国峠
目的	「花」「写真」「地塘」と高山植物を楽しむ		
費用	23,000 円	交通機関	JR・タクシー

日程 ・ コース	我孫子 5:31→上野 6:05/6:38(上越新幹線)→越後湯沢 8:04/8:14(タクシー)→和田小屋駐車場 8:42/登山開始 8:55⇒和田小屋(五合目)9:20/9:25⇒六合目 10:05/10:10⇒下ノ芝 10:43/10:48⇒中ノ芝 11:30/12:00(昼食)⇒上ノ芝 12:15⇒天下の霊觀(股すり岩)12:28⇒神楽ヶ峰 12:45/12:50⇒雷清水 13:15⇒九合目 13:43⇒雲尾坂 13:53/14:00⇒苗場湿原の肩 14:20⇒苗場山頂上 14:30/14:40⇒自然交流センター着 14:45 苗場山センター(泊)晴れ時々曇<行動時間 5 時間 50 分 内、歩行時間 4 時間 45 分>
	センター発 7:05⇒九合目 7:45⇒雷清水 8:00/8:45(朝食)⇒神楽ヶ峰(八合目) 9:12⇒天下の霊觀 9:25⇒上ノ芝 9:38/9:43⇒中ノ芝 9:55⇒下ノ芝(七合目) 10:30/10:40⇒六合目 11:10⇒和田小屋 11:50/11:55(タクシー)→江神温泉着(入浴) 12:50/13:35⇒反省会 13:45/14:40⇒越後湯沢 14:55/15:05 新幹線→上野 16:34/16:54→我孫子 17:30 晴<行動時間 4 時間 45 分、内、歩行時間 3 時間 45 分>
ルートの状況	<ul style="list-style-type: none"> 苗場山市営駐車場から和田小屋まではゲレンデに沿って登り小屋を過ぎて登山道に入る。登山道両側のヤブは綺麗に刈り込んである。沢に沿って大小の石が重なる道を登る。標識はポイントになる地点に設置してある。 六合目を過ぎる辺りから残雪が出て来た。下ノ芝を過ぎた頃、下山して来た登山者がストックを出した方が良いですよ、と教えてくれる。残雪が一段と多くなり足が滑って歩きにくくなる。 七合目から八合目に掛けて約六割は残雪を歩く。残雪が沢の流れで消えているので赤テープを目印にして登る。沢の石と雪の上を交互に歩くため非常に歩き難い。小松原への分岐標識は良く分る場所に設置してある。 八合目の神楽ヶ峰から鞍部に向けて下る。道はザレている所が有るが問題は無い。お花畑の登山道は快適で花を充分に楽しむ。 花畑を過ぎてから最大の急登を登る。約200mの高低差を慎重に登る。一番急な所は木杭と土砂で階段状にしてある。湿原地帯の肩に登ると一面は真白い雪原である。所どころに木道が出ている。 小屋で「予定した赤湯温泉に下るルートは残雪が多く危険」と言う情報を得たので変更して、登って来たルートの神楽ヶ峰から鞍部に向けて下る。道はザレている所が有るが問題は無い。お花畑の登山道は快適で花を充分に楽しむ。
参加者	原田和(L)、村松峯(SL)、本間、矢野貞、瀬田、小松、坂巻 男 3 名、女 6 名、計 9 名

<589>

温泉ヶ岳～根名草山 (2333m) (2330m)

田村光子

第1日目（21日）

昨日から雨が降っていて、天気予報では21、22日とも降水確率が80%以上という事だったので、山行は中止になるのかなと思っていたところに、リーダーから「行きます。」との連絡がはいり、あわてて支度に取りかかりました。

案の定、朝家を出る時には雨が降っていて、今日1日は雨の中の山行と覚悟して傘を差し駅に向かった。北千住駅でリーダーが日光のタクシー会社に人数の変更の電話を入れると、意に反して「日光方面は晴れているよ。」言われ、思わず「本当？」と叫んでしまった。

家を出た時とは打って変わって気分が楽になった。電車は意外と混んでいて皆ばらばらに何とか座ることができた。日光駅から金精トンネルまではタクシーで入り、トンネルの入り口の脇に割と広い駐車場があり、そこが温泉ヶ岳の登山口となっている。登山口から30分ぐらいで金精峠に着いた。峠には小さな神社があり、これから山行の無事を祈る。

峠からはアズマシャクナゲとオオカメノキが咲き競っていて、目を楽しませてくれた。こんなにたくさんのシャクナゲを見ることが出来るとは思ってもいなかつたので、特した気分になった。

日光沢温泉に人数の変更の連絡を入れると、「私たちの前に38名のツアーが登っているので、残雪が多くあるが足跡が付いているので間違える事はないですよ。」と教えてくれた。



▲雪の残る温泉ヶ岳のルート。

温泉ヶ岳の直下から残雪が現れ、登山者の靴の泥跡をたどりながら頂上に向かった。頂上は登山道から少しそれていて、急斜面を登りきった所にポツカリ開けていて、誰もいなくて静まりかえっていた。記念写真を撮り、登山道まで下り根名草山に向かう。温泉ヶ岳から根名草山までは残雪がかなりあり、非常に歩きにくく滑らないように注意する。

途中に念佛平避難小屋があるが、あちこちの板壁が腐って隙間ができるで、文字通りの避難小屋である。

根名草山の頂上はガスがかかって展望はなかったが、晴れていれば鬼怒沼湿原などが見えるそうです。4時前に日光沢温泉に到着し、ゆっくり温泉に浸かり1日の疲れを取り、夕食も山菜やいわなど美味しいいただくことができた。露天風呂でツアーカーといっしょになり、朝6時半ごろから登りだして温泉に着いたのは3時ごろだったとのことでした。



温泉ヶ岳山頂にて。温泉ヶ岳と書いて、「ゆせんがだけ」と読む。

第2日目（22日）

朝4時に起きると外は雨が降っていて今日の行動をどうするか。予定通り鬼怒沼を往復して女夫淵温泉に下るか、沼を縦走して大清水にでるか、と言うことになり大清水からはバス便もよいことがわかり、大清水に下山することになった。

宿を出発するころには雨も上がり鬼怒沼へと向かった。途中のオロオソロシの滝はもやの中で見ることは出来なかった。2030mにある鬼怒沼湿原は雪解けが終わったばかりで、高山植物もワタスゲとショウジョウバカマがちらほら咲いている程度で、周りは真白なガスに覆われて視界はほとんどなかった。

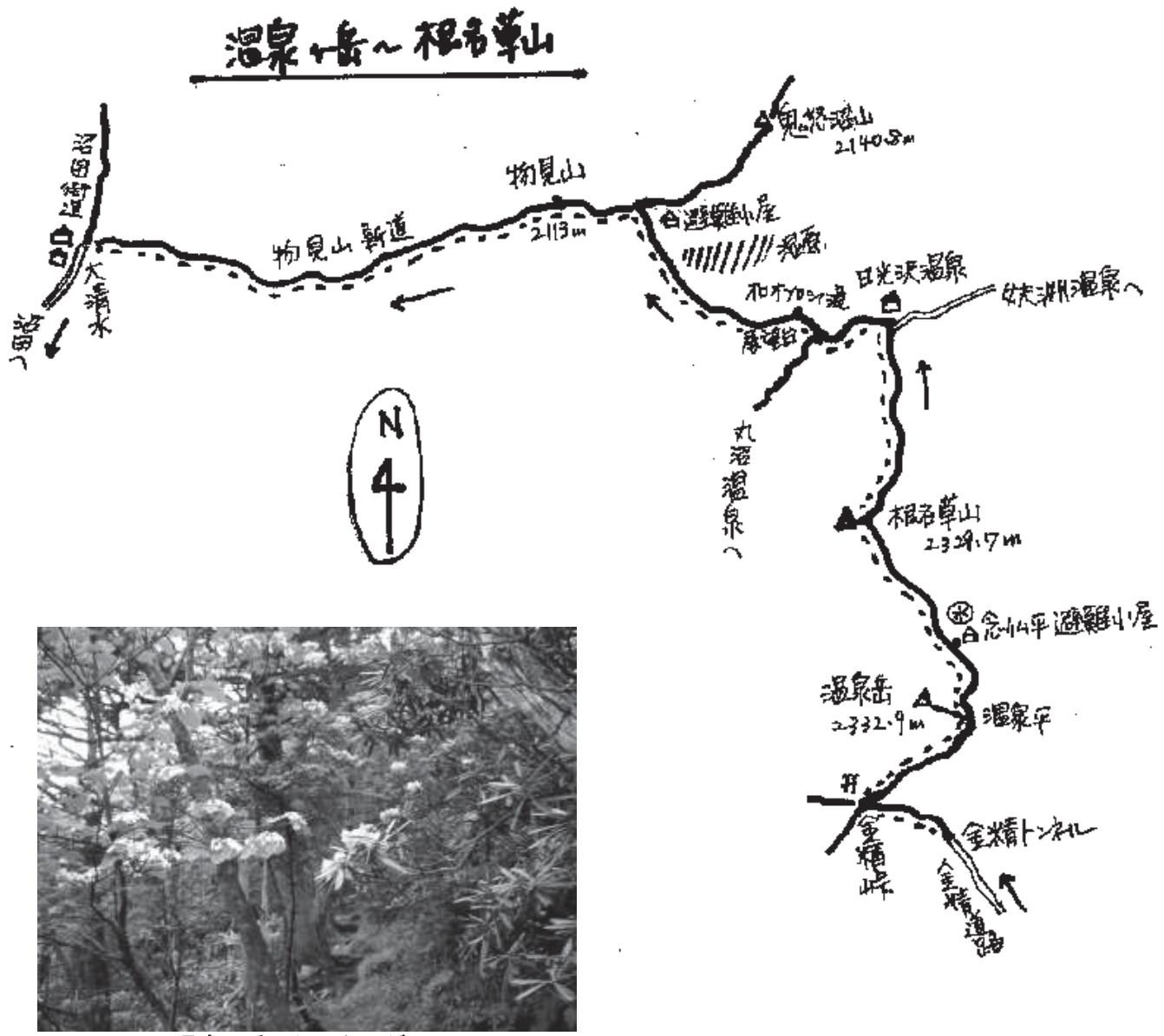
物見山の下りは皆が初めてで、思っていた以上に足場の悪い急坂が2時間近く続き、気をぬく事ができなかった。途中に見かけた白いイワカガミが気持ちを和ませてくれた。

湯沢出合に着いてほっとしたが橋がなく、注意して石伝いに滑らないように渡渉し、無事大清水に下る。

大清水で打ち上げをしている頃に雨が降り出し、雨を気にしながらの山行であったが、ほとんど雨にも降られず、充実した山行で皆様にお世話になり本当にありがとうございました。



根名草山山頂にて。



概要

山名	温泉ヶ岳～根名草山～鬼怒沼			
月日	平成 20 年 6 月 21 日（土）～22 日（日）			
山域	奥鬼怒	地形図 1/2.5 万	男体山・川俣温泉	
形式	山麓温泉泊	グレード	3B	
目的	① 奥鬼怒の静かな山域を歩く。 ② 日本一高所にある鬼怒沼湿原を歩く。			
費用	約 10 千円	交通機関	JR、私鉄、タクシー、バス	
行程	1 日 目	我孫子駅 5:31 → 北千住駅 6:31（東武日光線） → 東武日光駅 8:24/8:30（タクシー）→ 金精トンネル入口 9:25/9:30 ⇒ 金精峠・金精神社 10:00 /10:05 ⇒ 温泉ヶ岳 11:00/11:10 ⇒ 念仏平 避難小屋 12:00/12:10 ⇒ 根名草山 13:20/13:30 ⇒ 手白沢温泉分岐 14:50/15:00 ⇒ 日光沢温泉 15:45 着（泊） 曇時々薄日 <歩行時間：5 時間 30 分>		
	2 日 目	日光沢温泉 5:35 ⇒ オロオソロシの滝 6:27 ⇒ 鬼怒沼湿原入口 7:55 ⇒ 木道の突端 8:10 ⇒ 物見山（又は毘沙門山）8:40/8:45 ⇒ 湯沢出合 10:45 ⇒ 大清水 11:30/12:55（バス）→ 沼田駅 14:30/14:55（上越線）→ 高崎駅 15:51 → 上野駅 17:48/18:02 → 我孫子駅 18:35 着 早朝雨のち薄日 <歩行時間：5 時間 50 分>		
ルートの状況	・当初、日光駅前からバスで中禅寺温泉まで行き、そこから金精トンネルまでタクシーを利用する計画であったが、中禅寺温泉にあったタクシー会社がなくなり、日光駅前から金精トンネルまでタクシーで行った。（駅前からバスを乗り継いでも、湯元温泉が終点なのでバスもダメ）			

ルートの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、日光駅前からバスで中禅寺温泉まで行き、そこから金精トンネルまでタクシーを利用する計画であったが、中禅寺温泉にあったタクシー会社がなくなり、日光駅前から金精トンネルまでタクシーで行った。（駅前からバスを乗り継いでも、湯元温泉が終点なのでバスもダメ） ・金精トンネルの入口の脇に、割と広い駐車場がある。ここが温泉ヶ岳の登山口となっている。 ・金精峠からは、一帯がアズマシャクナゲとオオカメノキの咲き競う林となる。これほどの華やかな光景を、なかなか目にすることは出来ない。温泉ヶ岳は、日光地方でも有数のシャクナゲの群生地であるという。 ・温泉ヶ岳の直下から残雪が現れてくる。薄暗い樹林の中は道が不明瞭のため、雪の上についた登山者の靴の泥跡を忠実に辿る。ポツカリと開けた山頂は、昼寝をしたくなるような静かな所であった。 ・不ぞろいの丸太の階段を昇り降りする念仏平避難小屋は、あちこちの板壁が腐って隙間ができる、少しの寝具とヤカンなどがあったが、文字通りの避難小屋。 ・温泉ヶ岳から根名草山の間は、登山道にこんもりと雪が残り、非常に歩きづらい。林の中にもまだかなりの残雪があった。 ・根名草山の山頂からは、晴れていれば燧ヶ岳や鬼怒沼湿原が見えるそうであるが、遠くの山々は白い雲に覆われて望めなかった。
参加者	外崎(L)、村松(SL)、田村、桐生 男 1 名 女 3 名 計 4 名



日光沢温泉にて。2日目の早朝は雨が降っていた。

<590>リーダー研修

谷川岳山麓

石垣吉朗

テーマ：山で事故に遭遇したら

リーダー研修を実施しました。

内容は①遭難救助訓練、②ケーススタディ、③ロープワークの3種類でした。

①遭難救助訓練 28日 10:30～14:30

2隊に別れ遭難救助訓練開始。A班は今倉山周辺で負傷したメンバーの救助に向かう。遭難者Aより携帯電話で連絡が本部及びA班に連絡があり、ホワイトバレスキー場でAを発見し、ストックを使った松葉杖で下山。B班は谷川沢筋で消息を絶ったメンバーの救助に向かった。谷筋で視界も狭く、沢の音で声や笛の音も聞こえず、また携帯電話、無線も通じず、谷筋は山ヒルがうようよ。発見・救助には困難を極めた。牛首周辺で遭難者Bを発見。やっと見つけた遭難者を落ち着かせて手当後、危険な個所はロープを使って安全を確保しながら自力で下山。遭難者のメンバーはご苦労様でした。

②ケーススタディ 28日 15:30～17:00

議題：遭難救助訓練の結果を振り返って
<主な感想>

救助隊：「登山届」の有用性と必要性が身にしみた。谷筋は声も笛も音がかき消されてしまう。

本部：救助隊との対応で手一杯。更にマスコミ、家族との対応があると大変。

遭難者：救助隊より見つけやすい場所への移動の指示があった。水を貰ったときホッとした。

指導：携帯や無線が通じない場所では、伝令が走ることも必要。

まとめ：遭難後の対処についての討論に終始し、遭難原因等への言及がなかったのが残念。

③ロープワーク 29日 8:00～11:30

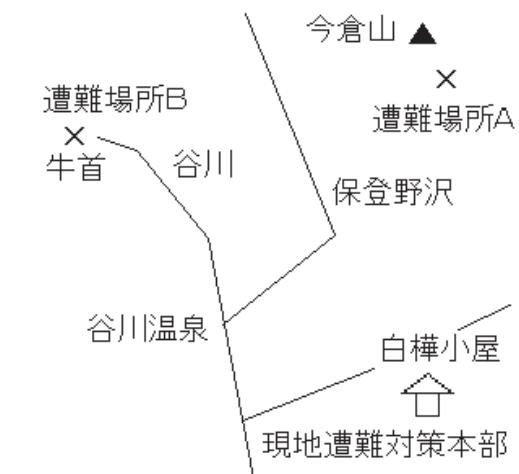
机上と実技：小屋の梁を利用して、エイトノット、ガーダー・ピッチ、チェストハーネス、バックマンノット、トラバースノリードなどを演習。本来であればマチガ沢、西黒沢の現地講習を予定していたが、雨のため断念。室内であったが密度の濃

い実技が出来た。

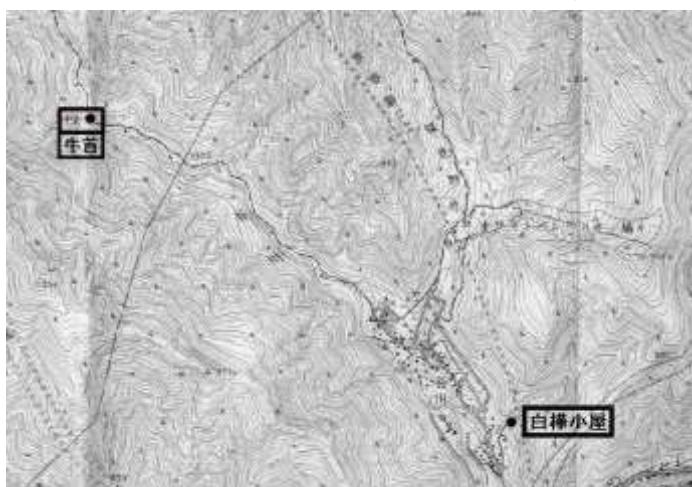
リーダーになってはいるが、リーダーに必要な知識や経験を裏づけるための勉強が不足気味。今回の研修はそのためにもとても有意義なものでした。

研修に使用した白樺小屋はとても快適な小屋でした。ありがとうございました。

遭難救助訓練概念図



出発前の遭難者役のお二人と、現地本部の会長。





A隊は遭難者をホワイトバーレースキー場で発見。手当て後、ストックで作った松葉杖を使ってスキー場ヒュッテまで下山した。

ストックで作った松葉杖を使つ



B隊の遭難者は谷筋にいたため、発見は困難を極めた。発見、手当て後危険な箇所ではロープを使って安全に確保した。



左腕骨折、右足首捻挫の重傷者？を手当て。



ロープワーク

概要

山名	谷川岳山麓(谷川温泉～今倉山・牛首)		
月日	平成20年6月28日(土)～29日(日)		
山域	谷川岳山麓	地形図 1/2.5万	水上
形式	白樺小屋泊	グレード 2B/1C	
目的	リーダー研修 (①遭難救助訓練、②ケーススタディ③ロープワーク)		
費用	約14,000円	交通機関	貸切バス
1 日 目	我孫子駅5:30 貸切バス発→柏 IC5:08→水上 IC8:55→白樺小屋下 8:53⇒白樺小屋 9:10 (待機) 遭難救助活動開始 10:50⇒訓練終了 後谷川温泉入浴 14:30/15:15 報告と総括 15:30～17:00 懇親会 17:00		
行 程 2 日 目	起床 5:00 朝食 6:00/6:40 雨のため小屋の中での研修に決定 8:00 ロープワークの講習と実技 11:10 装備の片付けと荷物整理 11:10 /11:30 昼食 11:45/12:15 小屋の清掃 12:15/12:55⇒白樺小屋下バス発 13:25→水上 IC 13:50→柏 IC16:30→我孫子 17:10 解散		
参 加 者	川下(L)、高橋重(SL)、柴、清家、村松敏(講師)、外崎、武内、大串秀、高橋英、中村隆、小川誠、原田和、石垣、坂口、千葉、佐藤健 ※大串秀はテーマ①、佐藤健はテーマ②まで参加。③のみ参加予定の中村八、青山は、降雨による屋外研修中止の為武藏野線内で帰還。 男12名、女4名、計16名		
メモ	<ul style="list-style-type: none"> 遭難者との連絡が、第1班は携帯電話で連絡が取れたが、第2班はかなりの時間とれず、難儀した。結局、遭難者が携帯の通じる地点まで出て来て連絡が取れた。遭難者が発見され易いように、遭難者も救助隊も行動を取ることが課題。伝令に頼るケースもありうる。 遭難者への接し方、明るく応対するなど、も訓練した。 T型ストック2本を縦につないで松葉杖を作る方法を試みた。 ロープワークは常々訓練を行って習熟することが肝要。いざとなって、えーと、では間に合わない。 		



<591>

両神山 (1723m)

高橋芳恵

10年ぶりに両神山に登る

もう一度登りたい山はいくつかあるけれど、そのうちの一座、両神山に再び登る機会を得た。

平成11年の公開登山に登って以来、10年ぶりの山行となった。その当時はまだ岳人あびこに入会したばかりであり、初夏のヤシオツツジがわずかに残り、特に夜の仏法僧と呼ばれるコノハヅク、早朝の野鳥の素晴らしい鳴き声が感動的であった。今回、リーダーの小川さんの呼びかけに何を置いても参加させていただいた。コースは1日目が日向大谷から清滝小屋、両神頂上へ。2日目が再び両神頂上から清滝小屋、日向大谷に。なんと頂上を2度踏むという「これでもか」というプランである。さすが我が尊敬する小川リーダーは一味ちがいます。

西武秩父駅から西武観光バスに乗り、小鹿野町役場下車。持続する村営バスに乗り換え、終点日向大谷から登山口に入る。清滝小屋までの登山道には次々に石碑が現れ、古くから信仰の山として人々の生活に関わってきたことが伺われる。両神の山名もイザナギ、イザナミの両神を祭られているところからつけられたとい。会所からたちや掘、八海山の間に3回沢を横切り、常に水の音を聞きながら沢沿いの道を歩くのは心地よい。俳句を一句浮かんでは消えたりしながら、約2時間半で清滝小屋に到着した。清滝小屋は以前の記憶よりなんとも小さい小屋であった。休憩所では若者グループがグルメに焼肉を囲んでいる。小屋のアイドル犬「さくら」がお客様の到来を喜んで迎えてくれている。



私たちは昼食を摂った後、空模様を心配しながら、清滝小屋の背後から産泰尾根に続く急坂を登り、鎖場やはしごを越え、30分程で両神神社に到着した。この狛犬はよく見ると狼の「阿吽像」で、この地方が狼信仰であったのだと登山者から学んだ。さらに30分で山頂に立つことができた。山頂の視界には恵まれなかつたが、心配していた雨は小屋に到着したころパラパラした程度であった。



清滝小屋前にて



両神山山頂にて

若者に占有されていた珍しい山

この山に入り驚いたことに、近年珍しく若者が大勢であったことである。高校総体の登山部門が8月初旬に開催されるため、下見の教師と生徒が何組も上がってきていた。小屋のキャンプ場には東京の高校生が訓練の為テントを張っていた。日帰りの登山客も多く、「東京から気楽に登れる百名山として若者に人気がある」

と登山者の一人から聞くことができた。しかし、小屋の泊まり客は我々のグループと高校生に付き添ってきた教師が1名と貸切状態で広々と休むことができた。残念ながら、コノハズクや野鳥の声は聞くことがなかった。

2日目の行動として朝食前に山頂を往復するため、朝食を遅らせてもらうことを管理人に交渉した。まさに「朝飯前の早朝登山」となった。結果として頂上は二度踏むことは正解であり、早朝に踏む山は同じ山頂でもまるで別の山のようにすがすがしく有難く感じることができた。

両神山は「夏山には向かない山でほとんど小屋も泊まる人もない」と管理人の話だが秋は素晴らしいとのこと。この日はことに暑い日で汗びっしょりになって下山した。樹林の下を終始したので日焼けは免れたのは助かった。下山後秩父の暑さはこの夏一番の猛暑であった。この2日間、リーダーは愛用ストックを使うことなくその若さを強調して訓練されたのには余程の決意があったとのことを後で知ることとなった。

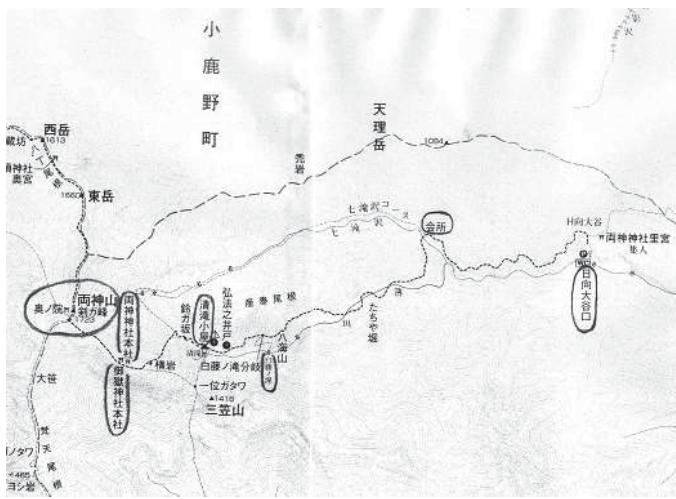
再び登ることができた両神山、さすがに素晴らしい「奥秩父の異端児」と呼ばれるにふさわしい名山であった。「また度々来ます。そのときもよろしく！」。

概要

山名	両神山		
月日	平成20年7月5日(土)～6日(日)		
山域	奥秩父	地形図1/2.5万	両神山
形式	山小屋泊	グレード	2A
目的	夏場の低山		
費用	12,000円	交通機関	JR、西武、小鹿野町営バス、西武観光バス
1 日 目	我孫子駅5:31→日暮里→池袋6:20西武池袋6:50(特急秩父号)→秩父駅8:16/8:25(小鹿野町営バス)→小鹿野町役場8:53/9:03→日向大谷登山口9:38/9:47⇒清滝小屋(昼食)12:20/13:00⇒両神山14:50/15:05⇒清滝小屋16:34(泊) <歩行時間5時間22分>		
行 程	清滝小屋4:07⇒両神山5:40/5:50⇒清滝小屋7:05(朝食)/8:10⇒日向大谷登山口10:10/11:56(小鹿野町営バス)→小鹿野町役場12:35/13:09(西武バス)→西武秩父駅13:40(反省会)/15:07→飯能駅15:58/16:00→池袋駅16:58/17:10→我孫子駅着17:52(解散)<歩行時間4時間30分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 鎖場などあり、滑落、転倒、捻挫、骨折の機会は随所にある。 終始樹林の中。 コースの表示はペイントやテープで判りやすい。 小屋の水場は水量豊富。小屋の主人は好意的だった。 小屋のトイレは別棟。和式。水洗式ではない。紙あり。ヘッドランプ必要。 登山道は頂上手前の両神神社の参道。神社の狛犬は狼。日本武尊に因む。 自家用車で来て、日向大谷登山口に駐車して登山する人が多く居た。バスの便が多くないので、その方が効率的。
参加者	小川誠(L)、原田和(SL)、原田君、高橋芳、大串秀、大串恵、小松、本田、石黒(ゲスト) 男5名、女4名、計9名

概念図



両神山山頂にて

明神ヶ岳～明星ヶ岳
(1169m) (924m)

細野清子

昨夜は熱帯夜、今朝も駅までのわずかな距離にも額には汗が噴出し、たらたらと首筋に流れるほどの暑さ。2人あわせて2.7Lの水分を持ったが大丈夫だろうか？

導了尊にて参拝後、大きな和合下駄のある登山口入り口で、今日の目的のひとつである地図読みをする。地図を広げて現在地の確認や明神ヶ岳はどっちの方向？と地図読みをしてから2班に分かれて登山開始。そんなに急登でもないのに汗は止め処もなくでてくる。少し歩き始めると樹林帯のなかを涼風が吹きホットする。『今日はひょっとしたら熱射病と日射病と両方体験か』などとワイワイしながら、昨日の集会のときの宿題の熱中症と日射病の手当ての仕方の答えをおさらいしてもらい歩く。対処がまったく反対で間違ったら、大変なので手帳に書きとめた。熱中症は頭を下げ、日射病は頭を上げることが大切。水分不足どちらの症状にも言えること。

足元には思いのほか可憐な花が咲いていて、暑さをやわらげてくれた。また、中腹までは針葉樹林帯なので比較的涼しいが、樹林帯を抜けるともう休むための日陰さえない。途中2箇所に水場があった。最初の水場の「神明水」で涼をとる。冷たくておいしい。我孫子の水を捨て入れ替える人もいる。少し離れたところに2箇所目の水場。さつき涼を取ったばかりなのにもう冷たい水が恋しく離れられない。ここでは手ぬぐいを冷やし首筋に巻いてみた。ひんやり



最乗寺境内

として気持ちがよく、なんだか足取りが軽くなった気がした。昨日の雨のせいか足元がわるいところもあった。もうすこしで分岐という急坂で、足つり者1名である。

これだけ汗をかけば塩分も水分も不足するだろうが、日ごろの鍛錬がものをいうのかなと思った。少し休んだりいろいろの手当てのおかげでよくなって歩き始めたが、しばらくすると今度はもう片方の足がつった。サポートをはいているからと安心はできない。

整体の先生が昨年膝の怪我をしたときに『サポートは膝の保護はしてくれるが筋肉の鍛えにはならない。スポーツを終えたならば日ごろの鍛錬を怠らない』と、教えてくれたことを思い出した。明日はわが身かもしれない。毎朝行っているラジオ体操やストッレチを休みなくやろうと肝に命じる。継続は力なり。

ともあれようやく分岐のところまで無事登ってこれた。この分岐は直登か、回り道かの分岐で、山頂まで5分の急登の方をいく。



金時山（中央）の向こうに富士山は見えなかった。

頂上では360度の展望。しかしながら本當なら金時山の向こうにそびえる富士山が見えるはずなのだが、今日は残念ながら霞んで見えなかった。金時山はすぐ手が届きそうなところに見えた。大湧谷も噴煙を上げていた。頂上には休む木一本もなかったが、ちょうど日もかげりそれぞれが岩に草に腰を下ろし昼食をとる。雲行きもあやしいし下山後のバスの込み具合も心配なので、ほどほどで明星ヶ岳に向かって出発。ここまでで男性群のシャツはもちろんズボンも腰からしたまで汗で色がかっわっている。どれほど汗をかいたかうかがい知れるもの。これからはさらにカヤトの尾根通りで太陽にさらされっぱなし。このあとどのくらい汗をかけ

ばよいのか？水は途中神明水で補充したので十分足りる。雷がゴロっと1回うなった。来たか！と緊張が走る。しかし、その後は音沙汰なく夕立もなく、下山までさらに暑さが続いた。

明星ヶ岳への尾根歩きは右手に金時山が見え隠れ、太陽も雲に隠れたり、風も時々吹き思ったより歩きやすかった。白いヤマボウシやバラの花があっちこっちに咲いていてこれも暑さをやわらげてくれた。随分昔に金時山頂上から明星ヶ岳を踏み、宮城野に降りる分岐で、明星ヶ岳方面を見たことがあったが、まっすぐに萱との道が伸びていたような記憶がある。その分岐は今は木や笹が伸びてその展望はなかった。

分岐のところで少し遅れ気味の私たちの班を、リーダーが待っていてくれた。ヤマボウシの木々の間をしばらく行くと、萱とを刈りきれいに並べてあるところがあった。何のためかあとでわかったのだが、どうやら大文字焼きに使うためのものらしい。

明星ヶ岳は、何だこんな所なのとがっくりの場所だった。〔神様に失礼かな？〕

早々に頂上と別れを告げ下山。といつてもしばらくは平坦な山道を引返し分岐で下りに入る。のぼりの山容とくだりの山容がこんなに違うものか。下りは花は何もなく萱との間をおり、とても暗い感じがする。大文字焼きの行われる火床に出る。京都の大文字山の火床はレンガとコンクリートを使って火事の出ないようにきちんと整備されているが、ここはなんと大雑把なやり方。近くになればもっと刈り込むのであろうが、周りの木々に点火しないのかな？と心配になる。少し離れてみると大の払いの文字がみられた。

少々歩きにくい道をしばらく降りると別荘などが建っている歩きやすい道にて、今日の山行もこれまで。誰も熱中症にも日射病にもからなくてよかったです。花もたくさん見ることができ満足のいく山行であった。

温泉にて汗を流しさっぱり気分で自宅に向かう。帰りは小田原まで小田急で帰った。

《山行中たくさん咲いていた花々》

リュウノヒゲ〔白〕・ホタルブクロウ・バラ

〔白〕・イチゴ〔青い実〕・シモツケ〔カノコ〕

ギボウシ・シシウド・ヤマボウシ・卯の花〔白〕
トラノオ・アザミ・ウツボグサ

概要

山名	明神ヶ岳～明星ヶ岳		
月日	平成20年7月13日（日）		
山域	箱根	地形図 1/2.5万	関本、箱根
形式	日帰り	グレード 2A	
目的	箱根の外輪山を歩く展望コース、夏トレ		
費用	約4500円 ホリデーパス利用	交通機関 電車、バス	
行程	我孫子駅 5:31→上野駅 6:05/6:12→東京駅 6:20/6:34→小田原駅 7:59/8:13 伊豆箱根鉄道→大雄山駅 8:34/8:40 (バス) →道了尊着 8:50 (地図読み研修)/9:05⇒最乗寺参拝 9:15⇒ A班 ：登山口 9:25⇒最初の林道出合 9:43⇒ 二度目の林道出合 10:15⇒見晴小屋 10:25⇒ 神明水 10:55⇒水場 11:42⇒尾根分岐 12:15 ⇒明神ヶ岳 12:30/12:55 (昼食)⇒宮城野分岐 13:33⇒分岐 14:17⇒明星ヶ岳 14:20/14:25⇒分岐 14:28⇒大文字の場所 14:40⇒宮城野橋バス停 446m 着 15:35 <行動時間 6時間10分 内、歩行時間 5時間15分、休憩時間 55分> B班 ：登山口 (最乗寺) 9:25⇒見晴小屋 10:30 ⇒明神ヶ岳 12:30/12:55(昼食)⇒宮城野分岐 13:30⇒明星ヶ岳 14:10/ 14:25⇒宮城野橋バス停 15:25 宮城野橋バス停発 15:45 →湯本温泉入口着 16:30⇒弥次喜多の湯(入浴) 16:40/17:25⇒箱根湯本駅 17:36 発→小田原→東京 19:35/ 19:38→上野→我孫子駅 20:26 (解散) 晴れのち曇り<行動時間：6時間10分、歩行時間：5時間15分>		
	・アクセスの方法は小田急利用（新宿→新松田→関本/大雄山→道了尊）とJR利用（東京→小田原→大雄山→道了尊）の2通りあるが、 ① 小田急利用は新松田～道了尊間のバスの連絡が悪く到着が35分遅い、 ② JRのホリデーパスを利用すれば割安である、 という理由でJR利用に変更した。それでも早起きしても現地到着が9時とは箱根は遠い。 ・真夏の低山は暑さとの戦いである。この山も夏トレにふさわしく大変厳しかった。それでも中腹までは針葉樹の植林帯のため、日影が多く、時折吹く風にホッとさせられる。樹林帯を抜けると休むための日陰さえない。カヤトの尾根は太陽にさらされっぱなしである。頭がボ一となったら熱中症だ。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・登りの途中水場が二か所ある。ひとつは「神明水」という名水で涸れることはないらしい。我孫子の水を捨てて、名水を満タンにしている人もいた。水割りに使えばなおいいかも。でも長期保存はできないから気を付けて。 ・外輪山の稜線に出ると、箱根山の展望がいい。明神ヶ岳の山頂は360度の眺望。金時山の向こうにある富士山は残念ながら霞の中だった。 ・昼ごろ雷がゴロっと一回鳴ったので、来たかと一瞬緊張するもその後音沙汰なく、幸か不幸か夕立もなく下山まで暑さが続いた。 ・下山口の宮城野にも温泉は多いが、休日の午後は道が混んでくるので、できるだけ電車の駅まで下りておく方が無難。
参加者	<p>中村隆(CL)、 A班：飯沼(L)、田村(SL)、細野省、細野清、 中野、安田、原田和、箕輪完 B班：大畠(L)、箕輪力(SL)、高橋英(研修)、 原田君(医療)、中村八(記録)、小川誠、 瀬田、石黒(ゲスト) 男7名、女10名 計 17名</p>

概念図



▲明神ヶ岳山頂にて。

< 5 9 3 >

爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳
(2956m) (2931m) (2864m)

佐藤明子

8月25日夜、都庁の大型バス駐車場で出発を待つ私達は、偶然にも単独で扇沢に向かう当会のAさんにお会いした。別々のバスに乗り込み、焼酎の力をお借りして程なく眠り込んだ。

早朝の扇沢は騒々しい。少し下るようにバス通りを歩いて、登山口から柏原新道を登り始める。紅葉坂と呼ばれる急坂をつづら折れに登っていくが、よく整備されていている上に樹林の中なので日差しが遮られて快適に歩ける。一時間程でケルンに到着。正面の稜線に小さく種池山荘が見えてきた。

ケルンから少し登った先に「登山道危険個所」の注意書きがあった。突然、雪渓が現れる。ここで落ちたら怪我だけでは済みそうにないが、歩きやすいように切ってくれていた。やがて傾斜もきつくなり登りきって石畳の道の稜線に立つ種池山荘に着いた。雷鳥の親子連れや色とりどりのお花畑を楽しみながら爺ヶ岳の南峰、中峰を直登し、北峰を巻いて14時には宿泊の冷池山荘に着いたのだが、すでに大混雑している。寝場所を確保してから山荘の外で宴会をする。まだ日は高く、顔に熱線が突き刺さり、飲むのも辛い。

夜は暑くて狭いのを嫌がった男性二人がシュラフカバーを携えて廊下に避難してくれたので残った私達四人は余裕のスペースで眠ることができた。



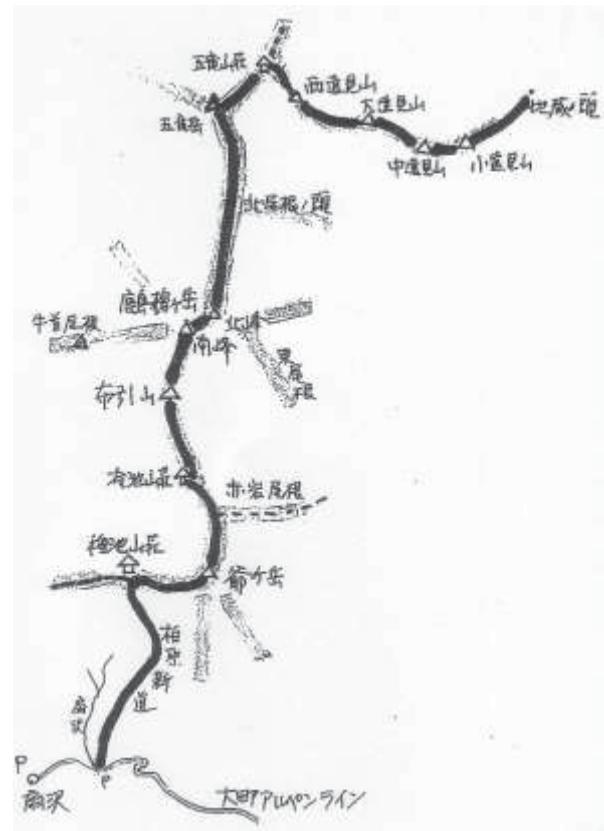
種池山莊直下の雪渓



爺ヶ岳中峰山頂にて

2日目は早朝の4時に冷池山荘を出発した。歩き始めはランプをつけたが直ぐに不要になった。2時間で主峰の鹿島槍ヶ岳南峰に到着した。360度の北アルプスの大パノラマ、こんな天気の中こうして歩ける幸せをかみしめながら北峰への急坂を下り、取付点のコルにザックをデポし空身で往復する。背の荷物がなくなり嬉しさ倍増で樂々と山頂に立てた。

概念図





鹿島槍ヶ岳山頂にて



キレット通過

本日の一番難所の八峰キレットは、大キレットや不帰のキレット程の距離はないものの、気は抜けない。緊張の登り下りの連続で体力を消耗する。ようやくキレット小屋についてほっとした所ですかさず武内さんのお汁粉が振る舞われた。いつもながらこんなに急峻な登山の時でも重いあんこを担ぎあげて頂いた事に感謝しながら賞味した。

しかし小屋を過ぎてもまだキレットは終っていなかった。鎖と梯子の難場が次々に現れる。一旦途切れた緊張の糸を取り戻しつつ岩場の登り下りを繰り返していると、ロノ沢のコルを過ぎた下りの斜面で 12 人程のパーティに出会った。トップの男性がザックを二つ担いでいる。下を見ると最後部の人が女性を背負っているではないか。聞けば商業登山ツアーの人たちで女性は骨折したらしいとのことで、これからキレット小屋まで行くとの事。我が身だけでも難所の通過に難儀し

ているのに、女性とはいえ人を背負ってのキレット超えに心配になってしまう。背中の女性は道を譲ろうとした私達にそちらから先に降りて下さいと下から叫んでいる。痛みもあるだろうに気丈な人だと驚いてしまう。無事を祈りながら私達も気を引き締めながら登っていると、一時間余り後に富山県警のブルーのヘリコプターがキレット小屋付近の上空を旋回し、やがて雲間から勢いよく富山湾の方へ飛び立っていくのが見えた。あの人が救助されたのだと他人事ながら安堵した。

北尾根ノ頭辺りまで進んだ頃、信州側がガスに覆われて来て、間もなく雷音がしあじめた。雨具をすぐに出せるように準備し始めた頃には雨が落ちてきた。直ぐに本降りの雨になり雷様が間断なく鳴り始める。岩場の中で、周りには非難する場所など無く、リーダーの決断で強行することになった。雷と雨に濡れた滑りやすい岩にへばりつくように五竜への登りを続けた。綾線上に出たが山頂はここから奥の 50m 先にあるらしいが、この状況下では安全を最優先にして走るように下った。そして飛び込むように五竜山荘に辿りついた。山荘は突然の雷雨でテントから逃げ込んだ人々、唐松山荘に宿泊予定だった人など予定外の人達でごった返ししていた。冷池山荘よりは空いているかもしれないとの淡い期待は見事に外れ、宿泊場所は大混雑していた。それでも素泊まりの人用の炊事室は空いていて鹿島槍ヶ岳南峰で知り合った我孫子の K さん達と夕飯までお酒を飲みながら山の話で盛り上がった。



キレットを過ぎ、五竜へ向かう

3日目、未明から窓を打つ風雨の音で何度も目覚める。朝食の5時になんでも雨風は止まず、皆で協議した結果、予定の唐松岳～八方尾根へのルートを断念し、遠見尾根のエスケープルートを取ることになった。

覚悟を決めて雨具をつけて出発する。雨と雷は中々止まないし、風も強く岩も滑りやすい。雷は午後だけかと思っていたのが間違いだったと知らされた。大きなケルンが現れる頃になると雨は上がり薄日も差し始めてきた。アルプス平駅までは公園のようなお花畠が続き、じゃこう草など沢山の花々でやっと緊張が解けるのを感じた。

ルートの変更で早々と下山してしまったのでのんびり入浴し、反省会含みの宴会も豪勢に楽しむことができた。事故を見聞したり、雷様に追われたり、沢山の出来事が盛りだくさんの山行でした。

概要

山名	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳		
月日	平成 20 年 7 月 25 日(金)～28 日(月)		
山域	北アルプス 後立山連峰	地形図 1/2.5 万	黒部湖、十字峠、 神城、白馬町
形式	山小屋泊	グレード	3 C
目的	キレットを超え、梅雨明け直後の雲上縦走		
費用	34,000 円	交通機関	バス [さわやか 信州号]
前夜	我孫子駅 20:27→新宿駅 21:23→新宿都庁大型バス駐車場 22:30→扇沢		
1日目	扇沢着 5:25/同出発 6:20→爺ヶ岳登山口 6:35 →ケルン 7:47/7:55→石畳 9:10→石ベンチ 9:30/9:40→種池山荘 10:40/11:00→爺ヶ岳南峰 12:10→爺ヶ岳中峰 12:35/12:55→冷乗越 13:42→冷池山荘 14:00 <歩行時間：6 時間 30 分>		
2日目	冷池山荘 4:00⇒布引岳(2683m)5:10/5:15⇒ 鹿島槍ヶ岳南峰(2889m) 6:05/6:40⇒鹿島槍 ヶ岳北峰(2842m)7:16/7:20⇒キレット小屋 8:45/9:25⇒口ノ沢コル 10:50⇒北尾根ノ頭 11:17/11:28⇒五竜岳 13:50⇒五竜山荘 14:30 <歩行時間：9 時間 00 分>		

3 日 目	五竜山荘 5:50⇒西遠見山 6:55⇒大遠見山 7:25/7:30⇒中遠見山 8:07⇒地蔵ノ頭 9:25/9:30⇒アルプスだいら駅 9:50/9:20→ 白馬五竜エスカルプラザ 15:00→新宿 19:30 →我孫子到着 20:48 < 歩行時間：3 時間 45 分 >
-------------	---

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・石畠、水平道付近から登山道は狭くなり、ガレ場や崩落があるが、通過に問題はない。 ・種池山荘直下で雪渓を横切る。歩道はしっかりと造られており、通過に危険はない。冷たい風が心地よい。 ・種池から爺の南峰、中峰を経て冷池に至るルートで特に危険な箇所は無い ・鹿島槍ヶ岳南峰から北峰への吊尾根は、下界から双耳峰として眺める優雅な斜度ではなく、ほぼ真下に下りていくようで険しい。 ・キレットは何処をとっても危険に満ち満ちている。安易に取り組めるルートではないが過剰な恐れも禁物。3点確保の原則をしっかりと守れば問題ない。 ・エスケープの遠見尾根には雪渓が残っていたが、下山に問題は無かった。
参加者	佐藤健(L)、小松(SL)、大畠、武内、佐藤明、田村 男 3 名、女 3 名、計 6 名



<594>

木曾御嶽山 (3067m)

坂巻 明

特異な霧囲気の漂う信仰の山

1日目

天候に恵まれ、印象的で、すばらしい山行でした。登山スタート地点の田の原駐車場に当初計画より一時間半遅れの到着です。ここは観光地とあって、お土産の店が沢山並んでいます。準備OK！ 大きい鳥居をくぐり登山開始！

大江権現までは平坦な砂利道がつづきます。道脇の休憩所で、小さい子供の親子が何組か遊んでいました。道は狭くなり、登り坂となり、階段を登ると大江権現です。昔、これから先は女人禁制でした。

樹林帯のなか、石段を登っていく。やがて視界が開け「あかっぱげ」に着く。田の原駐車場が眼下にみえます。あたりを見回すと、いろいろな人たちが登っています。観光客やら、修験者やら、さすが「信仰の山」と、一人感心していました。

金剛童子をみて、九合目を過ぎて、王滝頂上山荘となり、トイレ休憩をする。ここまで来ればもうすぐ、頂上がすぐそこに見えます。剣が峰に行くには御岳神社の鳥居をくぐらなければなりません。日の権現様に挨拶をして、御嶽山頂上山荘にむかいます。

2, 900メートルを超えて、空気がかなり薄くなっています。高山病が心配されましたが、皆、無事に登ることができました。山荘は大変込んでいて、通路まで寝ている有様です。冷凍マグロの状態で寝ました。

2日目

翌日は早起きをして、日の出を見に頂上の展望台へ行きました。天気はよく、ご来光を拝むことができました。御嶽山は独立峰、360度の眺望です。南アルプスの山なみシルエットが、素晴らしい。又、遠くに富士山が顔を覗か



明け方、御嶽山頂上より富士山を望む。
手前右のとんがりは塩見岳

せていたのが印象的でした。振り向くと、乗鞍岳や、北アルプスの山々がはっきりと見え、手招きしているよう。

朝食を済ませ、二日目行程の始まりです。頂上は風が強くて、からだが飛ばされそう。それに夏だというのにすごく寒い。台地の散策し、二の池をひと回りして下山です。二の池は日本一の高山火口湖、万年雪を背負って神秘の姿を見せていました。

下山途中、行者の歌う「六根清浄、：？？」が聞こえてきて異様な霧囲気です。下山して、最後に、田の原大黒天に御札の報告をしました。皆さん、お疲れ様でした。



六根清浄。お山は快晴

概要

山名	木曽御嶽山			
月日	平成 20 年 8 月 2 日(土)~3 日(日)			
山域	木曽(長野・岐阜県境)	地形図 1/2.5 万	御嶽山、御岳高原	
形式	山小屋泊	グレード	3 B	
目的	日本最大の独立山塊。夏場の手頃な山。			
費用	約 16,500 円	交通機関	自家用車	
行程	1 日 目	我孫子駅 5:35→柏 IC 5:55→中央高速 7:30 →大月 8:50→双葉 SA 9:38→塩尻 IC 10:25 国道 19 号(木曽路)→JR 木曽福島駅 11:30/坂巻合流/11:40→道の駅 11:55→田ノ原登山口駐車場(標高 2200m) 13:05/13:15⇒八合目 14:15⇒八合目石室避難小屋 14:40⇒九合目 15:20⇒九合目石室小屋 15:50⇒16:30/王滝頂上山荘/16:40⇒御嶽頂上山荘 17:25(泊) <歩行時間 4 時間 10 分> 御嶽頂上山荘 6:00⇒火口周辺のピーク 6:20 ⇒火口一周⇒二の池 7:20⇒王滝頂上山荘への分岐 7:40⇒8:20/王滝頂上山荘/8:30⇒九合目 8:55⇒九合目石室小屋 9:35⇒八合目 10:05⇒田ノ原登山口駐車場着 10:40/10:50 →奈良井宿散策、坂巻離脱(昼食) 12:20/ /14:00→道の駅信州蔦木宿(入浴) 15:30/16:40⇒小淵沢 IC 17:00→大月 18:00→談合坂 PA(夕食) 19:00/19:40⇒八王子 IC 21:30 C→我孫子駅着 23:00 <歩行時間 4 時間 10 分>		
ルートの状況	2 日 目	<ul style="list-style-type: none"> さしたる急坂は無く、一本調子の登りと下り。岩場もよじ登るほどのものではない。滑らない岩がほどよい階段状になっているところが多い。 頂上のお釜巡りのコースはベンキで○や←→が書かれていて、ルート選定に悩むことはない。 雪渓はあったが、登山道に雪は残っていなかった。 山荘のトイレは洋式。水洗ではない。清潔。明かりあり。ペーパーあり。 山荘では水道あり。二の池からポンプで汲み上げ、濾過している由。その水道の水は飲めると言う。 2,200m から 3,067m までの標高差を登るので、高山病の可能性があつて厳しい。勾配やルートはさして厳しくはない。 		
参加者	小川誠(L)、外崎(SL)、中野、箕輪完、箕輪力、坂巻			男 3 名、女 3 名、計 6 名



朝、頂上にて



日本最高位 2905mに位置する高山湖、
頂上の二の池にて。

概念图



<595>

掃部ヶ岳～杏ヶ岳
(1449m) (1292m)

品田千恵子

花好きの心騒がす花、レンゲショウマ

心配されていたお天気に恵まれ、本日も山行日和。下山後に沼ノ原のユウスゲの花を見に行く計画だったが、足の便が良くないため、計画を変更して沼ノ原へ直行。

ユウスゲは高原の花、夕闇に隠れるように百合に似た淡い黄色の花を開くらしいが、午前中も早かったため、マツムシ草、クルマユリ、アヤメの中に混じって黄色い花を咲かせているユウスゲを見ることができた。

タクシーで国民宿舎吾妻荘前の登山口で降り、掃部ヶ岳へと登る。風通しの悪い雑木林をしばらく行くと、硯岩分岐に着く。硯岩はロッククライミングの訓練場所になっているらしく、下を覗くと足が竦みそうだ。

掃部ヶ岳からの眺めはお天気も良かったので、榛名湖が青々と光って見えてすばらしいものだった。アップダウンの多い山道を歩き、耳岩を超えて杖ノ神峠へ向かう登山道は背の低い笹が追いかぶさっていて、まるっきり足元が見えず歩きにくく、笹の根に躊躇する人もいた。



ユウスゲを見に沼の平へ。チダケサシやマツムシソウ、クルマユリ、アヤメなども咲いている。

杖ノ神峠を降りると林道に出る。舗装された林道は今は使用されていないようで、車の通りが全くなかった。その場で昼食をとる。あとで

杏ヶ岳から下りたら、この林道を榛名湖へと下る林道となる。



アップダウンの多い山道を歩き苦の生えた
耳岩を超えて杖の神峠へ向かう。

昼食後、林道の反対側にある杏ヶ岳の登山口へと入る。林の中の尾根道は歩きやすく、夏山低山はさぞ暑いだろうと覚悟しての山行でしたが、榛名湖から吹き寄せる涼風がとても心地よく、これ本当に夏山の低山山行なの?という感じでした。しかも途中でのレンゲショウマの花を見ることが出来た。私は3回目にしてようやく自然に群生しているショウマを見ることができた。あまり人に知られてないらしく、薄暗い緑の中で静かに咲いている。何ともいえない透き通るような色合いで、下向き加減に咲いている。何と神秘的な花なんでしょう。写真を撮ったり、近くに寄ったり、臭いを嗅いだりしてそれぞれ皆さん感激していました。物知り高橋重さん曰く、別名「森のランプ」とも言われているとの説明がある。(なるほど納得)



レンゲショウマ、緑の中に透き
とおる瑞々しい妖精?皆で感激!!

杏ヶ岳の山頂は、狭くて石宮が3つあるだけの物静かな所でした。昼食をとった林道まで戻り、榛名湖へと歩く。その途中、オレンジ色に熟した「木イチゴ」の群生を見つける。そのみごとな群生にはビックリしてしまう。たくさん実をつけ、その重みで垂れ下がった実は、まるでオレンジ色の滝のよう。手に届いた実を皆で頬張ってみると、甘酸っぱい夏の味がした。1時間ぐらい歩き、吾妻荘に着いた。時間を気にしながらあわただしく汗を流す。あわただしい入浴だったが、それでもサッパリとする。

計画は前後したものとの予定のコースは全てクリアでき、楽しい夏山低山山行でした。もしかしたら、夏山低山の穴場かも？

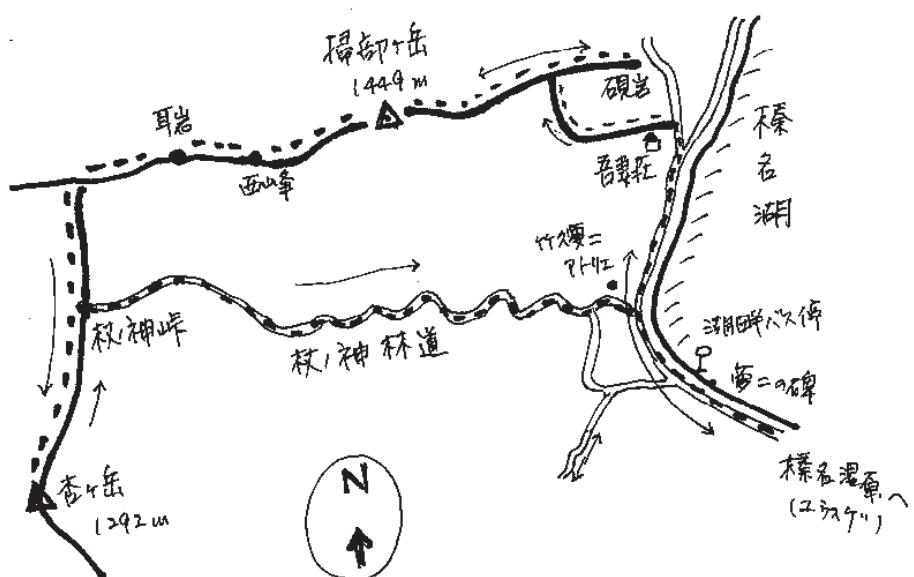


概要

山名	掃部ヶ岳～ 杏ヶ岳		
月日	平成 20 年 8 月 10 日 (日)		
山域	榛名山	地形図 1/2.5 万	榛名湖・伊香保
形式	日帰り	グレード 2 A	
目的	① 榛名山群最高峰からの展望。 ② 榛名高原のユウスゲの花。		
費用	約 7000 円	交通機関 JR、タクシー、バス	
行程	我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:16→高崎駅 8:04/8:15 (タクシー) →沼ノ原湿原 9:10/9:25→榛名吾妻荘 9:30/9:40⇒硯岩分岐 9:55⇒硯岩 10:00/10:10⇒硯岩分岐 10:13⇒掃部ヶ岳 10:45/11:00⇒西峰 11:20/11:25⇒耳岩 11:50⇒杖ノ神峠 12:20/12:40 (昼食) ⇒杏ヶ岳 13:35/13:50⇒杖ノ神峠 (林道) 14:40/14:45⇒榛名吾妻荘 15:40/16:10 (入浴) ⇒湖畔バス停 16:25/16:35 (バス) →高崎駅 18:00/18:15→赤羽駅 19:47/20:00→上野駅 20:08/20:18→我孫子駅 20:50 着 <行動時間:6 時間 歩行時間:4 時間 50 分>		
参加者	外崎(L)、高橋重(SL)、清家、細野省、細野清、品田、矢野、坂巻 男 3 命、女 5 名、計 8 名		

高崎から車で一気に榛名湖畔へ。
そして硯岩を経て榛名山最高点へ登る。

掃部ヶ岳～杏ヶ岳



<596>

鳳凰三山
(薬師岳～観音岳～地蔵岳)
(2780m) (2840m) (2760m)

本間恭子

南アルプス初心者コース、鳳凰三山を訪ねて

20年8月14日、我々一行7人は新宿7時発あずさ1号に乗り、甲府の2つ手前ある石和温泉駅で降りた、この駅で下車したのはリーダーの知人のタクシーがここで待っていてくれたからだ。タクシー2台に分乗し夜叉神登山口に向かった。運転手の道すがらのガイドも良かったが差し入れてくれた本場の葡萄は縦走中の喉の渇きを癒してくれ、其の心づかいが嬉しかった。登山口で軽い体操して10時少し前登り始める。

夜叉神峠までの高低差は約400m、カラマツやミズナラの多い樹林のつづら折りの道が続く。足元には高山植物がいくつか可憐な花をつけていた。1時間かけて夜叉神峠に着く、夜叉神小屋の辺りは明るく開けていてヤナジランは見事だった。

この日のように晴れていれば、峠から西の方に白峰三山（北岳・間ノ岳・農鳥岳）が望めるのだが真夏の昼近くともなれば雲がわき立ち遠見は出来なかつた。

ここから杖立峠までは、再び樹林帯の中に入りアップダウンを繰返し高度400mをかせぐ。途中かるい昼食をとったが私はもうバテ気味だった。峠から山腹を巻いて行くと階段状の岩の道になり、其の岩陰にホタルブクロ、イチヤクソウ、ヤマハハコグサ等幾種類もの花が咲き競っていた。小休憩をとって苺平へ向かう。春の苺平は白いシロバナヘビイチゴの花が咲き乱れるというが、苺平は木立に囲まれ展望も悪く私の抱いていたイメージに無い風景があった。苺平から苦むした樹林を下ると青いトタン屋根の小屋が見え、それが今夜宿泊する南御室小屋だった。15時着。平凡な小屋だがこの小屋の目玉といえば湧き水だ、花こう岩の地下から湧き出た水が竹の樋に導かれ、ふんだんに流れ落ちている。下界ならボトル一本100円はするに違いない天然水で顔を拭く爽快さは格別だった。水場周辺にはオタカラコウ、トリ

カブトの花が咲いていた。又テント場にはいろいろの色をしたテントが10張り位あった。1日目の予定を無事終えたことを祝してビールで乾杯する。雑談後、夕食を済ませ1人一枚の布団に眠れることが何よりです。

南御室小屋(左)とテント場(下)



翌日15日、宿の朝食を済ませ5時40分に出発、いきなり急登、前夜の寝不足がたたつてか急登は辛かったが我慢して皆に歩調を合わせる。暫く歩くと樹林帯が途切れ展望が一変に開け、風化した花こう岩の多い道になった。足下の白い砂礫に憧れのタカネビランジシロバナタカネビランジが咲き誇っていた。



タカネビルangi。(薬師山頂にて)



薬師岳頂上にて

7時に薬師岳に到着。昨年9月末の山行では悪天候のため薬師岳で青木鉱泉へ引き返したが、この日は快晴で山頂からの展望に感激は極まった。西方に白鳳三山、北に目を向けると仙丈岳と甲斐駒ヶ岳の雄姿が目に迫ってきた。もちろん、振り向けば秀麗な富士山の姿が見えるが、この稜線上では主役ではない。

巨岩の多い白砂の稜線から周囲の風景を楽しんで30分も歩くと観音岳に着いた。

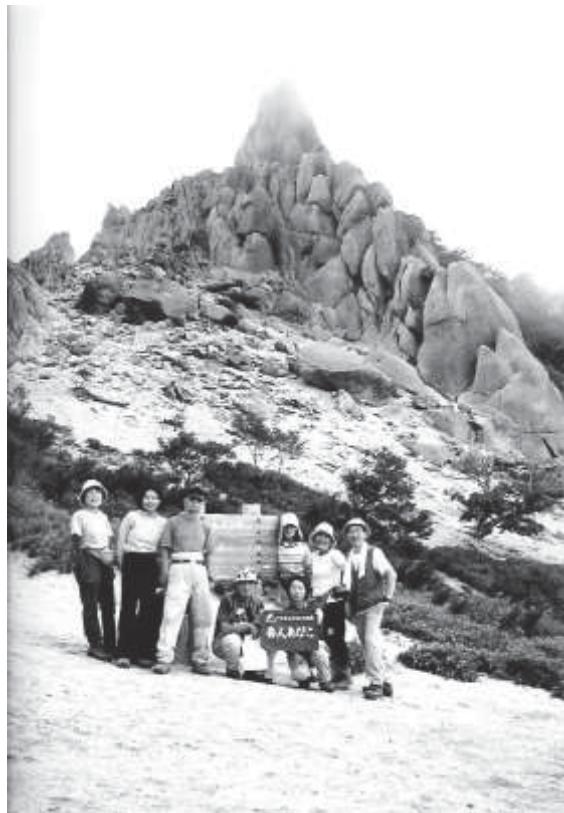
観音岳を8時に出発し地蔵岳へは、はい松をぬって一気に250m下るがこの暗部で村松さんに会った。村松さんは一人で仙丈岳から北沢峠を通り、早川尾根・地蔵岳・薬師岳を経て夜叉神へ下る予定だったそうですが、予定を変更して我々と合流と相成った。

全くタフな人である。この暗部から縦走最後の登りになる。疲れで体中痛いが、何せこの稜線の展望は満点だ。岩陰にホウオウシャジンを見た。9時過ぎに地蔵岳に着く

この山上からの展望も感動的だった。鳳凰三山の首座は中央に位置する観音岳、地蔵岳は三山中一番低いが、尖がったオベリスクは三山の指標となっている。

そのオベリスクの基部に着いたとき、私は鳳凰に登ったという実感をおぼえた。風化して丸みを帯びた柱状のオベリスクを近くで見上げるとお地蔵さんの立ち姿に見える。

この塔の周りの巨岩群は薄墨色の法衣をまとった僧の姿にも見える。地蔵岳からの眺望を満喫して9時半ごろ下山を開始、10時過ぎ鳳凰小屋を素通りする。当初の計画ではこの小屋に泊る予定だった。地蔵岳に登る手前で下山する見通しがたち、リーダーが小屋に電話を入れたのだが、当日のキャンセルは何となくきまりが悪い、列を散らし小屋の前を静かに通過した。ここから青木鉱泉まではドンドコ沢を下る。



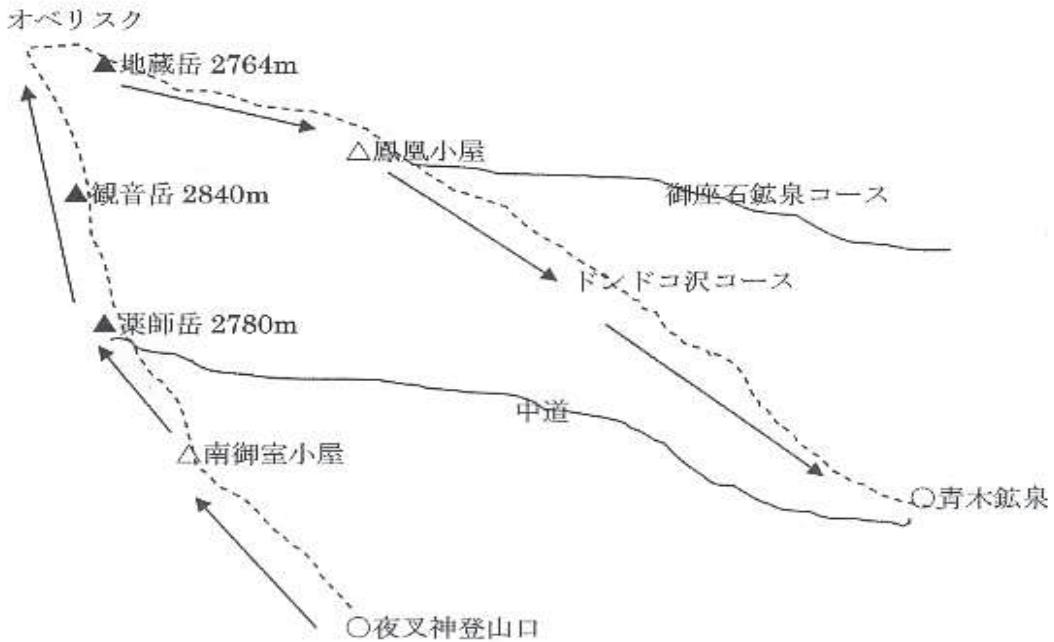
オベリスクをバックに。地蔵岳山頂。

この沢は、子授けを切に願う近所の人たちがドンドコドンドコ太鼓を打ち鳴らして登ったことからこの名が付いたとか。そういうえば、山頂近くの賽の河原には子授け地蔵が安置され、其の周りに無数の古い石仏があった。鳳凰小屋から急坂とザレ場を通りジグザグ道を足を引きずりながら下る。転ばずに歩くことが精一杯で、下山中見える五色の滝や花の名も記憶に薄く残っているだけだ。4時間かけて14時半頃、青木鉱泉にたどり着く。鉱泉の湯で汗を流し、タクシーを呼んで17時前、韮崎駅に着いた。

当初の計画を1泊短縮しての1泊2日の山行だったが、体力の無い私が無事下山で来たのは、リーダーを初めメンバーのお陰だと感謝しています。



観音岳頂上



概要

山名	鳳凰三山		
月日	平成 20 年 8 月 14 日 (木) ~15 日 (金)		
形式	山小屋泊	グレード	2B
山域	南アルプス北部	地形図 1/2.5 万	鳳凰山
目的	南アルプス縦走初心者コース		
費用	24,000 円	交通機関	JR、タクシー
行程	我孫子駅 5:31 → 日暮里 → 新宿駅 7:00 → 石和温泉駅 8:22 / タクシー発 8:30 → 夜叉神登山口 9:45/955 ⇒ 五本松 10:30 ⇒ 休憩 10:35/10:40 夜叉神峠 11:00/11:10 ⇒ 昼食 12:20/12:35 ⇒ 杖立峠 12:45 ⇒ 休憩 13:30/13:35 ⇒ 莓平 14:20/1425 ⇒ 南御室小屋 15:00 (泊) 晴 <歩行時間 4 時間 35 分>		
行程	南御室小屋 5:40 ⇒ ガマの石 6:20 ⇒ 稜線 6:35 薬師小屋 7:50/8:00 ⇒ 薬師岳頂上 7:15/7:20 ⇒ 観音岳 7:50/8:00 ⇒ 鞍部 8:25 休憩 9:05/9:15 ⇒ 地蔵岳 9:30 オベリスク 10:00 ⇒ 凤凰小屋 10:15 ⇒ 五色の滝 10:50/11:10 (昼食) ⇒ 白糸の滝 11:30 休憩 11:50/12:00 ⇒ 凤凰滝 12:15 ⇒ 休憩 12:50/12:35 南精進ヶ滝 12:50 ⇒ 休憩 13:15/13:20 ⇒ 14:00/1405 ⇒ 青木鉱泉 14:25/15:50 (入浴) タクシー → 菩崎 16:50/18:35 ⇒ 甲府駅 18:58 → 新宿駅 20:50/21:00 ⇒ 上野 → 我孫子駅 22:00 晴 <歩行時間 7 時間 30 分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 夜叉神峠登山口の駐車場はマイカー車でいっぱい。 登山口からの登りは最初の頃は緩やかではあるが、アプローチが長い。 登山道は整備されている。杖立峠の直前と莓平の直前は急登がある。 南御室小屋は収容人数 70 名前後である。この日は布団一枚に一人。 テント場はこの日 10 張り位あった。ここは水が豊富である。 南御室小屋から薬師小屋までは樹林帯中を歩き、やがて巨岩の連なる稜線に出る。薬師山頂手前が急登。 薬師岳から観音岳、そして地蔵岳までは 150 m 前後の差はあるが歩き易い。 地蔵岳から鳳凰小屋までは途中までは砂場の下り、その後は樹林帯で倒木があり道幅が狭い。 鳳凰小屋から青木鉱泉まではドンドコ沢を下る。途中の五色の滝は見事である。 長い石ころの道を下り、ようやく川沿いに来て山側コースと川側コースの分岐。川側コースを青木鉱泉まで下る。
参加者	高橋英(L)、千葉(SL)、箕輪完、箕輪力、田村、瀬田、本間 男 2 名、女 5 名、計 7 名

<597>

塩見岳～蝙蝠岳
(3047m) (2865m)

清家三保子

1994年の秋、もうそんなにも前、村松リーダーの塩見～間の岳、北岳と南アルプスを横断するダイナミックな縦走をした。この時主稜線から離れポツンとそしてきれいに両裾を広げた山が目に入った。「あれは何」「蝙蝠岳だよ」と教えてもらった。真青な空にそれは印象的で、いつかは登りたいなあと思っていた。機会はその5年後位に細野省リーダーの計画で訪れたのだが、行けずついであった。こうなつたら自分で計画して行く他はないと決心し計画を始めた。

計画に際してできれば縦走がしたいと思った。それには1日目に塩見の小屋迄入りたいのだが前日に出ていなくては無理だ。以前の南ア横断の時は、新宿を夜行で出て、辰野駅のホームでゴロ寝した。(両脇の線路を通過する貨物列車の地響きと音が恐くて眠れなかった)そして飯田線一番列車で、伊那大島駅下車、タクシーそして塩見小屋迄入った。しかし今ホームにゴロ寝は無理だろう。蝙蝠岳を入れるが為に、頭を捻る。結果はピストンがベストと思い今回の計画になった。

1日目 8月21日(木) 晴

新宿を7時の高速バスに乗る。中央高速は全く順調に松川インターに着く。インター隣りの駐車場から予約のジャンボタクシーに乗る。鳥倉林道は大鹿村の人達の生活道路でもあるとの事で、曲がりくねった山道であるのに車の行き来は多い。説明して下さる運転手さんが道から目を離すと恐いが、全く平氣で慣れた様子だ。山の奥で生活する人の通勤者も多く、近道を取る為のトンネル工事が始まっていた。大鹿村の神楽の行われる舞台ちらっと見えた。

季節登山バスを利用すれば歩行時間40分先迄入れるのに、タクシーや車の駐車場より歩き始める。バスの時間をもう少し考えてくれれば良いのに、12:15に乗ると、三伏峠小屋に順調でも17:00近くになってしまふ。翌日の行程を考えたら少しでも早く小屋に着きたい。

残暑厳しく舗装道路の40分はジリジリと正午の日を受け逃れようもなく辛い。登山道に入り樹林帯の中は日陰ではっとする。15:25に、ほぼ予定通り小屋に入れた。9人という人数が良かった

のか10人部屋を用意してくれリラックスできた。明日に備え乾杯と歌声とで1日を終る。この小屋は衛生上の理由とかで、水はペットボトルで500ml、300円。水場は往復30分である。小屋より40分程前の水場の水は地を這っている位で殆ど無かった。



▲三伏峠へはいくつもの桟橋を越えてゆく。

2日目 22日(金) 晴

いよいよ今日がメインである。累積標高差は1,420m。遙かなる蝙蝠岳が待っている。昨日頼んだ朝食弁当を持ち、3:30に出発する。出発準備は忍者の如く、皆静かで速い。ヘッドランプで足元を照らしながら歩き始める。小さな山伏山に登ると雲の間にオリオン座が見える。雲の流れは速く天候は安定していない。今日の長い一日の晴天を祈る。

薄明かりに、マルハダケブキの黄色が明るく、白い小花はぼんやり見える。私は夏の長丁場の朝メシ前の歩きは好きだ。涼しいのと足元に神経を使うのとで思ったより距離が歩く気がする。

塩見の小屋には6:35に着く。ここで余分の荷を置いて行く。長い先の事を思うと一刻も早く出発したいのにトイレの説明が入る。小屋では1回1回トイレ袋に用を足す。(男性小用のみ別)宿泊者は女性3枚男性1枚の袋をもらう。後は1枚100円、返品もできる。山や水を汚さない事を思うと、又慣れれば清潔で良いが、シーズン時トイレ2ヶ所では少ない。説明がやっと済み部屋に案内される。かまぼこ型の離れで10人用との事で私達の

パーティーのみで確保できた。塩見小屋は40人収容で今日はほぼ一杯の様だ。

結局、小屋では35分取られてしまった。ここ迄はウォーミングアップだ。ここ迄歩いた3時間は無かった事にしたいが無理だろうか？新たな気持ちで塩見岳に向かう。今迄深いガスで殆ど周りが見えていなかったが、小屋を出る頃にはガスが上がり始めた。岩を捉み登った山頂では360°の展望である。遠く北アルプスの槍を見つけ山なみを辿り、中央アルプスの宝剣を見つけ山なみを辿る。どっしりと木曽御獄山。蝙蝠岳に続く稜線の左側に甲斐駒、仙丈たちが、右手には手が届きそうな荒川三山。富士山も見えている。このド真中の稜線を歩くのだ。塩見岳の山頂を後にし、蝙蝠岳に向かう。北俣岳の分岐から往復6時間となる。小屋には4:00には帰りますと告げて来た。あまりにも遅れる様ならば途中から引き返しも考える事にしようと思う。



▲ペンキに導かれて塩見岳西峰の岩場を登る。

この南アルプスド真中、稜線歩きのプロムナードとはとんでもない。北俣岳分岐の先は北俣岳を巻く岩場のアップダウンが続き、あのコウモリの羽根を広げている様な、なだらかに見えていた稜線も結構なアップダウンだ。やがて3分の2も過ぎたと思う頃は、顔、胸丈の灌木に悩まされたり這松に押し戻されたりして歩きづらい。山頂が見えてからの最後の登りも長く、山頂は遠かった。この苦労して歩いた山頂からの展望は申し分無かつた。時間も11:00。20分程ゆっくりしてから長い帰路に着く。後ろの品田さんとお天道様にいっぱいお願ひした。山頂では360°の眺望を、雷はダメよ、雨もダメよ、行きは山々を見ながら歩きたいし、帰りは少し曇ると涼しいからと。そうしたら願い通りに経過してくれ感謝である。

塩見岳は往復2回登頂する。この美しい名峰を2回登頂できたのも遥ばる蝙蝠岳まで行ったご褒

美か。しかし疲れもピークに近い。この北俣岳と塩見岳の登、下降は最も注意して歩いた。塩見小屋には15:00着。本日の行動は中高年向けの歩行時間で何と13時間15分。これはとても無理かと思った。途中迄でも良いと思った。でもやった。バンザイの思いだ。離れ小屋では夕食迄の間。早速全員の登頂を祝ってカンパイ。そして夕食の後もカンパイと歌声と。

概念図



▲蝙蝠岳への稜線漫歩。

3日目 23日(土)くもり後雨

今日は下山のみ。小屋での朝食は4:30。南アルプスは小屋での食事は割と早くしてくれる。5:05に出発する。もっと遅れるかと思っていたのに、皆トイレも上手にやりくりし早く出発できた。ジャンボタクシーは11:00~12:00過ぎで、連絡が無くても、待っていてくれると言う。全く有難い。気分的にすごいゆとりである。

昨日はヘッドランプで歩いていて気付かなかった、河原なでしこのピンクや梅鉢草、白いおだまき草、ホタルブクロ、フウロもまだ咲いている。

三伏峠小屋に7:45に着く。昨日挨拶もしないで出発したので、挨拶をして、小屋前で武内さんの「おしるこタイム」をする。何とこの長丁場の山行に「おしるこ」とは。山行にゆとりと豊かさを感じ嬉しくなる。ますます元気となったパーティーは10:30には下山できそうだ。タクシーを30分も待たせなくてはだ。

途中ペースを落としてみたが、10:50に着いてしまった。同時に雨が本降りとなつた。時々「我慢できないよー」とパラついた雨を「待ってね」と待ってもらっていたのだ。

タクシーも11:00に到着。計画よりも1時間早い。高速バスの予約の変更も考えたが回数券でややこしい様なので、お風呂でゆっくりする事とする。清流苑は入浴料400円で広くきれいで気持ち良い。ここで反省会も済ませる。高速バスは松川インターで15:36に乗り、新宿着は19:55であった。

長い行程の山行であったが、天候にも恵まれた。(蝙蝠岳は雷中止、雨、ガス、中止と決めていた)この山行中、下山まで願い通りに見守って下さつたお天道様には大感謝であった。メンバーの出発時間も予定通り(トイレの面倒もあったのに)といった協力も大きな力となった。地球に向かって万物に大感謝の気持ちだ。



▲塩見岳東峰、奥に蝙蝠岳。

山名	塩見岳～蝙蝠岳		
月日	平成20年8月21日(木)～23日(土)		
山域	南アルプス	地形図 1/2.5万	信濃大河原、塩見岳
形式	山小屋泊	グレード	3C
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスの展望 ・主稜線から離れた山、蝙蝠岳に登る 		
費用	28,734円	交通機関	高速バス、タクシー
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿(高速バス) 7:00→松川インター 10:27/10:35(タクシー)→駐車場 11:45/12:00⇒登山口(バス停) 12:35/12:40⇒水場 14:50⇒三伏峠小屋 15:25 <歩行時間:3時間25分、休憩含む>		
行 程	三伏峠小屋 3:30⇒三伏山 3:42⇒本谷山 4:40/4:47⇒塩見小屋 6:35/7:10⇒塩見岳西峰 8:20/8:35⇒塩見岳東峰 8:40⇒北俣岳分岐 9:05/9:15⇒蝙蝠岳 11:00/11:20⇒北俣岳分岐 13:15/13:25⇒塩見小屋 15:00 <歩行時間:11時間30分、休憩含む>		
2 日 目	塩見小屋 5:05⇒本谷山 6:35/6:45⇒三伏山 7:30 ⇒三伏峠小屋 7:45/8:10⇒水場 8:45⇒登山口 10:10/10:15⇒駐車場 10:50/11:05(タクシー) →清流苑(入浴・反省会) 12:00/15:15→松川インター 15:25/15:36(高速バス)→新宿 19:55→我孫子 21:11 <歩行時間:5時間45分…休憩含む>		
3 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・中央高速バスは渋滞を考え20日過ぎの木曜出発、土曜帰りを計画した。行きは予定通り、帰りは30分遅れであった。 ・季節登山バス(7月19日～8月31日)はタクシーワン車の駐車場より歩行40分先の登山口まで入るが、6:45と12:15の2便のみ、帰りはその折り返し便(片道2,580円1時間50分) ・三伏峠小屋30分程手前の水場は殆ど無かった。 ・三伏峠小屋から塩見小屋は、ヘッドランプでも歩き易い道である。 ・蝙蝠岳はなんだらかできれいな稜線に見えるが、北俣岳分岐の先は北俣岳を巻いた岩山のアップダウン。登り下りも多く見た目よりはきつい。蝙蝠岳に近くなると這松に押されたり、顔胸丈の灌木に悩まされる。 ・昭文社2005年の地図では、今回の2日目の行程は歩行時間何と13時間15分。私の地図1993年では10時間15分。これでも長過ぎる。(ピストンなので無理はしないと決めてはいたが)新しい地図を持っていたらとてもこの計画は立てられなかつた。岳人さんは古い地図の歩行時間に、メンバーや休憩時間等を考えてプラスすれば良いのではと複雑な気持ちであった。 ・マルモタクシー(0265-36-3333)は、この近辺の登山口は全て分かりますとの事。 		
ルート状況	清家(L)、外崎(SL)、品田、大畠、武内、佐藤健、佐藤明、田村、由布 男2名 女7名 計9名		
参加者			

<598>

奥穂高岳
(3190m)

坂口よし江

新宿西口都庁駐車場より高速バスに乗り、上高地をめざす。上高地に着いて、出発準備をしていると雨が降り出した。曇り時々雨という予報に縋り、強い雨にはならないのではないかと希望的観測を持ち予定通り出発。



河童橋にて

本谷橋で小休止、雨はそれほど気にならないくらいになった。橋を渡るとやや急坂になり登山道らしくなる。お天気がよければ右手に北穂高岳が見えてくるはずなのだが、ガスっていて何も見えない。長い樹林帯の道を抜けると岩稜帯になり、涸沢小屋まであと一歩の距離。沢沿いには雪渓が残っていて、一部が登山道にかかり、凍っている部分があり、足もとに注意しながら慎重に進む。

涸沢小屋で水を補給し休む。濡れているので少しじっとしていると途端に寒くなる。雨はやみそうもなく、このまま上まで行ったものか迷うが、小松さんも坂巻さんもともとお元気で、とにかく穂高岳山荘まで頑張ろうと決める。

小屋の左手にはお天気が良ければ、前穂の北尾根が雄大に広がる景色を見て頂けるのに本当に残念。

岩屑の道を高山植物の花の名残を見ながら、雪渓を横断しながら進み、ザイテングラードの取りつきに到着。



花@涸沢カール。

岩稜帯の急な登りがここから始まる。数か所は手を使っての登高となり、岩も濡れていますのでとても神経を使う。上高地からずっと登り続けてさらに、この岩場の登高はお二人にとってかなりご負担になるのではと心配していたが、お二人ともしっかりと足取りで安心して見てられる。

長い長い道のりをこなして、やっと穂高岳山荘に到着する。雨の中の行動で、寒さにさらされたせいか手が凍えてなかなか暖まらない。3000m近い稜線では夏でもこのような状況になってしまうのだと改めて納得させられる。

さすがに、上高地から一気に穂高岳山荘までできてしまう人は少ないようで、部屋はゆったりと使うことができた。涸沢小屋では、一枚の布団に3人ということだったので、ここまできた甲斐があったというもの。翌日の天気予報は、やはり雨。あまり強い雨でなければ、予定通り奥穂高岳に登ろうと決めて眠りにつく。

目覚めると、なんとどしゃ降りの雨。少し待ってみたが、やみそうにない。奥穂高岳の下部には悪場があり、この雨の中では危険なので、涸沢岳ピストンに変更。少し体調の悪い坂巻さんを残し、小松さんと二人で涸沢岳に向かう。小松さんは3000m峰は今回が初めてのこと。奥穂高岳には登って頂けなかったけれど、一応涸沢岳も3000峰、少し気持ちが楽になった。

ほんの少し小降りになった雨の中、下山にとりかかる。本来なら涸沢小屋でもう一泊する予定だったが、このお天気では何も見えずつまらないので上高地に降りてしまうことにした。上高地に近づくころから雨はやみ日がさしてきた。ああなんて残念なのでしょう。今頃になって晴れるなんて…。お風呂にでも入ってさっぱりして帰りましょうと事前に調べておいたホテルの日帰り温泉に行く。当然、入れると思っていたら、もう入浴時間は終わったという。そんなはずはない！と思って抗議しようしたら、私の勘違いに気づいた。当初は涸沢小屋に泊まってから上高地に戻ってくる予定にしていたので、お昼頃には到着し、入浴時間に

は十分間に合うと計算していた。ところが今は、午後の2時。穂高岳山荘から直接降りてきたのをうっかりしていました。雨の中の強行軍で、頑張っていただいたのに、お風呂にも入れずそのまま帰途に着くことになりました。小松さん、坂巻さん、本当に申し訳ありませんでした。反省ばかりが残る、苦い山行となってしましました。



▲ 穂高岳山荘前で。

穂高岳山荘前にて



屏風岩をバックに。



概要

山名	奥穂高岳				
月日	平成20年9月22日(金)夜～24日(日)				
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	穂高岳		
形式	山小屋泊	グレード	4C		
目的	岩稜歩き				
費用	約25,000円	交通機関	高速バス		
行程	前夜	新宿駅西口都庁大型バス駐車場 22:30集合 23:00発(上高地行き夜行バス)			
ルート	1日目	上高地 6:00/6:47⇒明神池 7:40⇒徳沢 8:25/35 ⇒横尾 9:30/40⇒本谷橋 10:42/55⇒潤沢ヒュッテ 12:30/50⇒パノラマコース 13:35⇒穂高岳山荘 15:30(泊)			
		<雨 歩行時間:8時間30分>			
	2日目	穂高岳山荘 6:00⇒潤沢岳 3103m 6:20⇒穂高岳山荘 6:35/55⇒潤沢小屋 7:25/35⇒潤沢ヒュッテ 8:50⇒本谷橋 9:55/10:15⇒横尾 11:10/15⇒徳沢 12:05/20⇒明神池 13:05⇒上高地(バス) 13:50/16:00→新宿 9:00/15→西日暮里 9:40/51→我孫子 10:35			
		<雨 歩行時間:5時間10分>			
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ルート上には随所にペンキマークがあり分かりやすい 一部、雪渓が残っている箇所あり、横断に支障はない 				
参加者	坂口(L) 小松(SL)、坂巻 男2名、女1名 計3名				

概念図

<599>

三ツ峠山 (1785m)

中村隆泰

「忘れられたルート」はあきらめて

年初計画の9月は「伊豆ヶ岳東尾根」の予定であった。この山行計画を検討する過程で、翌年2月に予定している「三ツ峠山東尾根」が気になってきた。少しでも藪こぎを軽くしようとの狙いから冬季を選んだが、しかし逆に雪の心配が出てきた。かつて5周年の富士周辺山行で行った「三ツ峠山」(2001.1.20-21)は突然のどか雪に往生したことが思い出された。そこでこの計画を入れ替えることにした。

当初の計画は「忘れられたルート」の藪っぽい湯ノ沢峠から東尾根を登る予定にしていたが、1週間前に下見した結果、次のような理由で急遽三ツ峠駅からの一般ルートへ変更することにし関係者に連絡した。調査不足のため、藪こぎを期待していた方には大変申し訳なかった。

[理由]8月31日下見に行ってきたが、途中で退却。

- ・林道:路面が荒れてタクシー利用は困難。(歩行1:30)
- ・やぶ:踏み跡はあるが、藪が重く時間がかかる。
(日帰りは無理、下りに使うことも考えた。最近人が通った形跡なし)
- ・クマ:熊の足跡、爪跡発見。登山口に「クマ出没」の看板、どこにもある看板と思ったが、真新しい爪跡には仰天、熊にはかなわないでやむなく鈴を鳴らして退却。

達磨石の登山口からいきなりジグザグの登りにかかる。タクシーで楽をした分、エンジンが温まるまで時間がかかる。急の登りは八十八大師まで続く。途中「股のぞき」など富士山を眺めるポイントがあるが、白雲の壁に遮られて空しく素通りする。



登山口近くの達磨石



八十八大師にて

八十八大師で小休止の後、草むらに隠れるように並ぶ石仏を横目に見ながら出発、しばらく水平移動しながら、崩壊地のガレ場を慎重に過ぎて、クライマーのいる屏風岩の下に着く。見学したい気持ちを抑えて先を急ぐ。鉄の階段を重い足取りで登ると小屋の前に出る。さらに赤土の急斜面を頑張れば頂上である。見えるはずの富士絶景は厚い雲の中、しばし昼食をとりながら憩う。寒風にさらされながら日の出を待ち、やがて来光に赤く燃える富士山に歓声を上げた5周年山行を思い出す。

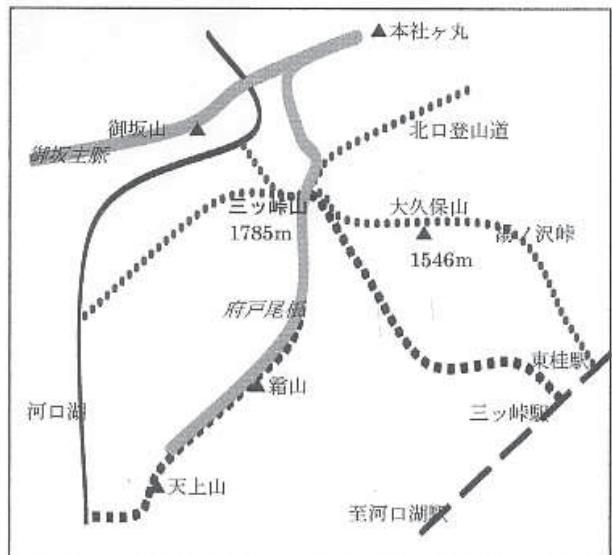
下りは正面に富士山を心に描きながら府戸尾根をひたすら下りる。雷が二、三回ゴロゴロうなる。待ってくれと祈りつつ足を早める。天上山からのロープウェイは雷が近づいているので運転休止。渉外係の交渉が実り、特別に運転してくれた。河口湖駅に着いて間もなく激しい雷雨、間一髪雷雨を避けることができてラッキーだった。

心残りは富士山が一回も顔を見せてくれなかつたことである。雨に合わなかつただけでも幸いであったが。頑張りと幸運に乾杯、そして忘れられたルートをたどる日がいつか来ますように。



ガレ場を慎重に歩く

概念図



▲眼下に河口湖を望む
(ロープウェイ運転休止にドキッ!)



▲三ツ峠山（開運山）山頂。

概略

山名	三ツ峠山（開運山 1785m）	地形図	河口湖東部
月日	平成20年9月7日（日）	1/2.5万	
山域	富士周辺	グレード	2A
形式	日帰り		
目的	富士山展望の山		
費用	5,000円+テー バス利用	交通機関	JR、富士急
行程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:56→西国分寺 6:55→高尾 7:26→大月 8:20→三ツ峠 8:48/8:55(タクシー)→達磨石登山口 9:05(準備) 9:15⇒股のぞき 10:06⇒八十八大師 11:13/11:20⇒一字一石供養塔 11:44⇒富士見山荘 12:10⇒三ツ峠山 12:25/12:50(昼食) ⇒木無山 13:23⇒霜山 15:10⇒天上山 15:50/15:55⇒ロープウェイ頂上駅 16:05/16:10→河口湖畔駅 16:11/16:18⇒河口湖駅着 16:35/17:20→大月駅 18:24→高尾駅 19:33→神田駅 20:35→上野駅 20:49→我孫子駅着 21:30(解散) 晴れのち曇<行動時間 6時間50分歩行時間 5時間30分>		

- ・達磨石までタクシーを使い、長い車道歩き(70分)を避けた。
- ・この時期、花はあまり期待していなかったが、大きなフジアザミ、珍しいフシグロセンノウ、ハクサンフウロウ、トリカブト、マツムシソウなど夏から秋へ移行中の多くの花に出会えて、ガスで展望のない単調な登りの連続に色を添えてくれた。
- ・岩壁のゲレンデでは多くのクライマーが岩登りを楽しんでいた。
- ・頂上からの「富士山展望」は残念ながら雲に包まれてまったくなし。
- ・下山路の府戸尾根の上部登山道は雨水に洗われ、石ころ多く歩きにくい。

参加者 中村隆(L)、高橋英(SL)、外崎、中村美、安田、原、原田和、箕輪力、箕輪完、小川誠、千葉、本田

男5名、女7名、計12名

< 600 >

皇海山～錫ガ岳 (2144m) (2388m)

青山寿子

10年越しの夢達成へ

1日目

10年前の11月下旬、松木川の徒渉を繰り返しながら遡って国境平に1泊し、皇海山～庚申山～銀山平を縦走した。その時、国境平～日光白根山への縦走路（ヤブ）があることを知り是非縦走したいとの10年越しの夢がかなってのスタートだった。

昨年日光白根山～錫ガ岳を縦走し、今年は皇海山～錫ガ岳縦走の機会に恵まれワクワク、ドキドキの山行に神様は無常にも9月20日（土）の台風一過の好天は与えてくれず、皇海橋でジャンボタクシーを降りた途端に大粒の雨が降り出した。

雨具を装着し不動沢のコルまでは流石、「百名山の皇海山」雨が降っても日帰りの登山者と多数すれちがった。



皇海山山頂にて。

皇海山山頂で記念撮影し、いよいよ国境平への標高差550Mの急下降となる。森林の中マーキングを頼りに薄い踏み跡を下降する。

国境平は白砂の台地で晴れていればカラマツが点在する楽園のような所だが生憎の雨模様で

視界は効かず、ニゴリ沢との分岐で焚き火の跡のある場所にテントを設営する。水場は西側に5～6分下ったところにある。この頃には雨は止み、夕食は焚き火を囲んで摂る事になったので火をおこす事になったが薪が濡れているので容易には着火しなく、最後の手段としてマナ板用板をガスで燃やしようやく着火した。沢の中での焚き火は経験あるが、尾根での焚き火は初体験。沢でも尾根でも焚き火は嬉しい。濡れた衣類は乾き、暖をとれホッとする。女性は早々に就寝したが、男性は酒宴続行だった。

夜半雨脚が強くなり明け方には雷雨となったので、雨脚が弱まるのを待って出発することになった。

2日目

出発は30分遅れとなつたが、依然雨は降り続いている。国境平～カモシカ平迄は雨が降っていても視界が利き、皇海山の大きさを確認できるので幾度となく振り返りながら歩く。



皇海山と錫山を遠望。



雨の中、笹原を行く

カモシカ平は白砂の台地で東側に水場がある。カモシカ平～カマ北のコル迄は笹藪の5つのピーク（カマ五峰）を登下降する。オカマノゾキと呼ばれる懸崖の縁を通過しカマ北のコルに到着。カマ北のコルとはここから南に連なる5つのピーク（カマ五峰）の北にあるコルという意味で、カマというのは東面が釜の縁のように切れ落ちているために呼ばれている。

カマ北のコル～三俣山は背丈を越える密笹帯の急登を喘ぎながら全身ずぶ濡れで登る。踏み跡は薄いが赤と黄色のプレートとマーキングを頼りに三俣山に到着。3等三角点は登山道上に埋もれていた。山頂は樹林に覆われていて、展望はないが晴れていれば西側に立つと錫ヶ岳～笠ヶ岳～三ガ峰に続く尾根が見える筈。



三俣山山頂にて

三俣山からの下りは一時的に密笹帯から開放され東に黒檜山への踏み跡が合流する。最低鞍部に向かうに従い又密笹帯となる。

最低鞍部～宿堂坊山の長い道程は雨と密笹との戦いで体力の消耗を加速させる。

宿堂坊山の由来は山頂に山岳修験僧の宿があったことから名付けられた。宿堂坊山到着時にリーダーより雨が激しいのでエスケープルートの宿堂坊山北尾根を下り西ノ湖に下山する事を伝えられる。順調に下山できれば西ノ湖付近の東屋で幕営予定だった。昨夜の大雨で男性用テント内は浸水し（テント下部に穴が開いていた）エアーマット、シュラフカバーが濡れていたので山中の幕営は厳しかったのかも知れない。

北尾根はマーキングを頼りの下山だったが、予定より時間がかかり、途中からマーキングが見当たらなくなって15:30沢に出会う。進退きわまり、リーダーの判断で沢手前の台地に幕営する事になった。テント内で衣類の乾燥と暖をとるためガスを焚く。無常にも雨は降り続く。



宿堂坊山山頂にて。

3日目

昨日とは打って変わって朝から雲一つ無い快晴となった。

7:30 テント場から沢と尾根に分かれ下山道を探すことになった。僅かに戻った分岐で下山道が見つかった。昨日は雨が降り視界も悪かったので全員が見落としてしまったようだ。

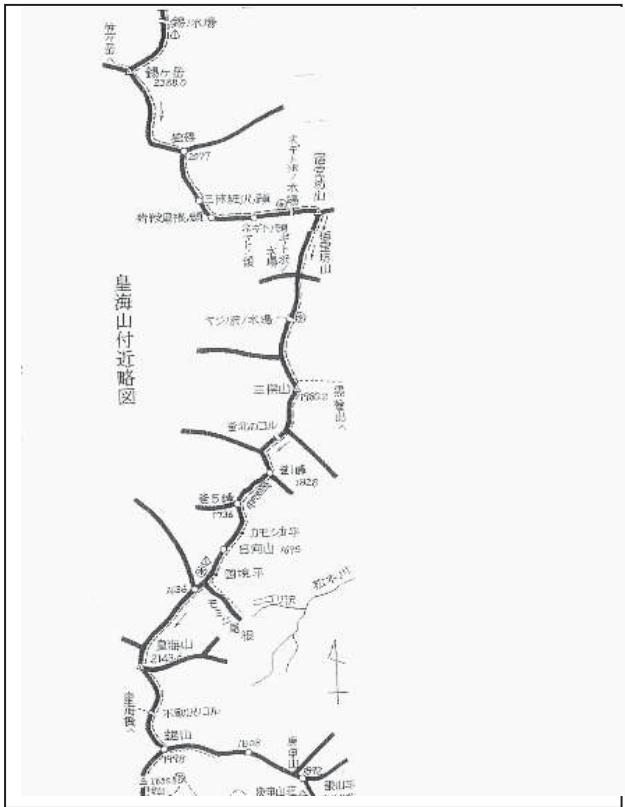
廃道となった林道を沢沿いに下山し柳沢を徒渉するが、昨日の雨で増水しているかと心配していたが、水量は多くなく一安心して徒渉する。

今回繋ぐ事が出来なかった宿堂坊山～錫ヶ岳は来年の宿題となった。村松リーダー宜しくお願ひいたします。



柳沢の渡渉。

概念図



概要

山名	皇海山～錫ヶ岳		
月日	平成 20 年 9 月 21 日 (日) ~ 23 日 (火)		
山域	奥日光 (群馬、栃木県境)	地形図 1/2.5 万	皇海山、丸沼、中禅寺湖
形式	テント	グレード	4 C
目的	1. 群馬、栃木県境のバリエーションルートへの挑戦 2. 白錫尾根残り半分の縦走。		
費用	約 13000 円	交通機関	JR、タクシー、私鉄
行程 1 日 目	我孫子駅 5:31 → 上野 6:14 (とき 301) → 高崎 6:58 / 7:10 → 沼田 7:55 / 8:05 (ジャンボタクシー) → 皇海橋 9:40 / 9:50 ⇒ 不動沢のコル 12:00 ⇒ 皇海山山頂 13:10 / 13:30 ⇒ 国境平 15:10 (泊) 雨 < 行動時間 5 時間 20 分 >		
行程 2 日 目	国境平 6:30 ⇒ カモシカ平 7:15 ⇒ 三俣山 10:50 ⇒ 宿堂坊山 13:45 ⇒ エスケープルート 13:50 ⇒ ビバーグ地点 15:35 (泊) 雨 < 行動時間 9 時間 5 分 >		

3 日 目	<p>下山路探し 6:45 ビバーグ地点出発 8:00 ⇒柳沢徒渉地点 8:45/9:10 ⇒西ノ湖入口 バス停 10:00/10:29(バス)→赤沼 11:10(ジ ャンボタクシー)→日光温泉 12:30→東武日光 駅発 13:59→春日部経由我孫子駅着 17:00 晴<行動時間 3 時間 15 分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沼田駅から皇海橋まではジャンボタクシーでも 1 時間 30 分かかる林道はまさしくダートで非常に荒れている。ちなみに料金は 24,000 円。夜間、天候不純の時は素人ドライバーでは無理ではないか。 ・皇海橋から不動沢のコルまでは不動沢を道標、エフ等頼りに行けば問題ない。 ・皇海山の山頂からは通行止めのロープを潜って国境平まで急斜面を一気に標高差 550m を下る。笹藪は腰の辺まであり、折りからの雨でたっぷり水を含んで全身びしょ濡れ。 ・国境平は名の通り平坦な場所でテント場に適している。水場は左斜面の往復 20 分位の所にある。 ・国境平からは踏み跡も所々なくなり、悪天候の中をルート確認と尾根を外さないよう注意しながら歩を進める。カモカ平には無数の獣の足跡がありテント場にも良さそう。 ・釜 1 峰から釜 5 峰は右側（栃木側）がすっぽり切れて断崖になっているはずだが視界不良のため全然気つかず通過。 ・釜北のコルから三俣山への登りはルート中最も厳しい。岩場交りの急斜面に足場が悪く、そこを通過すると背丈を超える笹やぶが延々と続く。ルートを 12 の眼で確認しながら進む。ベースは自然と落ちてくる。 ・三俣山の山頂は樹林の中にあり、展望はなく暗い。黒檜山へ続く尾根の入り口が右側にのびている。 ・宿堂坊山の山頂には祠と三等三角点あり、こここの山頂も暗い。雨は益々激しくなり、全員の口数も少なくなり疲れも出てきたのでこれ以上縦走を続けることを断念、エスケープルートとして、柳沢林道へのルートへの下降を決断する。 ・宿堂坊山から柳沢へのルートは北に延びていて大きな尾根には入らない事。直下から北西の尾根をトラバースするような感じでエフを探しながら降りる。ビバーグした地点は平らな台地のような場所で水場も近い。 ・古い林道を探して柳沢を渡渉して西の湖バス停に辿り着く。
ルート状況	
参加者	村松(L)、外崎(SL)、武内、青山、佐藤健、佐藤明 男 3 名、女 3 名 計 6 名

< 601 >

岩手山～三ツ石山～八幡平 (2038m) (1466m) (1613m)

大串秀雄

吹雪の秋山山行

事前の情報では、初日はやや強い北風で降雨量ゼロに近い弱雨、2日目以降は徐々に回復し晴れ間も期待できるますますの予報だった。往路の新幹線の中では、山の天気よりも紅葉の具合の方が気に掛かっていた。

ところが…ところがである。岩手山では、観測史上3番目、平年より16日(昨年より18日)も早い初冠雪に遭遇。しかも、猛烈な吹雪と濃霧で、翌朝には積雪数10センチの冬山に急変。このため、『岩手山～三ツ石山～八幡平』縦走を断念せざるを得ず、且つ、次のとおり大幅な行程の変更と1日短縮を強いられる破目に陥った。

1日目

→岩手山(薬師岳)山頂目前で断念。

2日目

→三ツ石山・八幡平への縦走を断念し、不動平(岩手山9合目)避難小屋から直ちに下山。
岩手山山麓の焼走りでテント泊。

3日目

→姫神山へ日帰り山行し、1日早く帰路に。

楽しみだった紅葉の名峰は、想定外の吹雪と濃霧に遮られ、何も見えず仕舞い。紅葉していたか否かさえ全く判らないまま、下山を余儀なくされたのである。

新幹線の車窓からは朝日に映える山々が美しい。日光連山、安達太良山、吾妻小富士～西吾妻連峰、蔵王連山…未だ紅葉に染まっていないようだ。ふと、岩木山、八幡平の紅葉に思いを馳せる。仙台を過ぎると、青空は見えるものの、遠くの峰々にはガスがかかり始め一抹の不安がよぎる。盛岡駅での乗換え時にはすでに曇天。車窓から見える山としては日本一美しいといわれる岩手山だが、目の前に聳え立っているはず名峰も、僅かに裾野のみがシルエットのように見えるだけ。

花輪線大更駅から予約したタクシーに乗り

込み、焼走りキャンプ場の登山口で下車。山頂は雲に隠れていたが、薄曇の明るい空模様からみて数時間は持ち堪えるように思えた。しかし、希望的観測に反し、焼走り登山口を登り始めると直ぐにパラリときた。予報より数時間早い。やはり初日はだめなようだ。暫くは、弱雨が降ったり止んだり、雨具も必要か否か、の状態だった。1251mピークを過ぎ、樹林帯を抜けたあたりから、雨量が徐々に多くなってきたので、雨具を着用することにした。ツルハシ分れ、平笠不動避難小屋まではほぼ予定どおり。避難小屋で一服。残念ながら、一面のガスと霧雨で、周囲が紅葉しているかは判らない。山頂まではもう僅かだ。余裕を持って出発した。火口壁の急斜面に差し掛かった辺りから、冷たい風を感じ始めた。最初は身体を冷やしてもらえるので心地良かったが、徐々に寒風が強まり、遂には手袋を必要とするほどに冷え込んできた。

火口壁の稜線上の分岐に出た途端、猛烈な突風に襲われた。おまけに濃霧で視界は精々10mほど。いつの間にか突風に霰が混じり始めた。一旦は見覚えのある登山道を進み、最高峰(薬師岳山頂)を目指してみたが、とても行き着ける状況ではなくなった。山頂寸前的小ピークで引き返し、九合目避難小屋に向けて降りることにした。途中、手袋をはめることも儘ならないほどの、霰混じりの猛烈な突風に大苦戦。加えて濃霧。このため防寒防風対応に加え、何よりもルート確認には細心の注意を払った。

幸い、前回登頂時の記憶が鮮明だったことと、10m程の視界の中に不動平への小さな道標を全員で確認できたことから、確信を持って、山頂直下に在る避難小屋への下降に専念できた。火山礫の幅広な下降路には、早くも白い物が積もり始めていた。「不動平」の標識に出たが、僅か20～30メートル先の避難小屋は分厚い濃霧に隠れまったく見えなかった。



凍て付く不動平避難小屋は
さながら厳冬期の様相。

不動平(岩手山九合目)避難小屋の中に入つて、取敢えず安堵。先着の同宿者はいないので、今夜は我々が全館を占有できそうだ。先ずは厚着に着替え、余裕十分のガスに点火し、暖をとりお湯を沸かす。次に八合目避難小屋への水汲みと夕食の準備を分担。壁窓共に二重構造で防寒防風対応が完璧な構造のため、小屋内の冷え込みは然程ではない。温かな食事のあとは寒気も治まった。フローリングの床や処理設備の整ったトイレは実に快適。吹雪の音に聞き入りながら熟睡した。

2日目の朝。避難小屋の採光窓は朝日に照られたように明るい。予報どおり天候が回復したのかと一瞬喜んだが、何とそれは雪明りだった。山頂から吹き降ろす地吹雪で、凍て付く不動平避難小屋はさながら厳冬期の様相。加えて、小屋周辺は30~40センチの積雪。9合目の不動平一帯は冬景色そのものだった。これでは八幡平への縦走路は見分けも困難だ。鳩首協議の結果、残念ながら縦走を断念し、安全第一にメイン(かつ最短)ルートでの下山を決断した。暫く様子を見ていたが変化もないで、吹き荒ぶ風雪と濃霧で視界数10メートルの中を下山開始。8合目の3階建て避難小屋も直ぐ脇まで行って漸く確認できたほど。新雪で埋まった登山道を、全員で慎重にルート確認しながらひたすら下る。

7合目辺りで、山頂を目指して登ってきたハイカーと行交う。ルート状況を情報交換でき、先ずは一安心。休日のせいで、そのあとも数組のハイカーと出会う。今日の盛岡地方の予報は晴れのためか、中には軽装者もいた。山頂の積雪や吹雪の状態を話すが、俄かに信じられないらしく、いずれも、8合目避難小屋まで行ってみると、と言しながら登っていった。雪道の下降路は、雪の重みで垂れ下がった落葉前の草木が

覆い、踏み越えるのにも難儀。5合目までは積雪があり、特に転倒滑落に留意しながら時間をかけて慎重に下山した。そのあとも下山口までは、薄日と霧雨が入り混じる変りやすい天気のため、雨具を着たり脱いだりで大忙し。途中、6合目で出会った高校生のグループ10数名が駆け下りてきた。やはり、8合目で断念し引き返してきた由。若者達の賢明な状況判断に、感心するやら安堵するやら。

馬返しの登山口は寒風晴天。岩木山を仰ぎ見たが、5合目から上にはガスがかかり、初冠雪の雄姿はおろか、山腹の積雪の有無も確認できなかつた。ここで、これから予定を協議しながら昼食。八幡平への紅葉山行も考えたが、これもまた雪で通行止のため断念。共同食と燃料を十分に携行していたので、焼走り国際交流センターキャンプ場でテント泊し、様子をみることにした。夕方には青空が広がつたが、岩手山は雪化粧した7合目あたりまで、8合目から上は雲の中に隠れ、ついにその全景を見せてくれなかつた。

翌朝。天気予報はあまり芳しくない。八幡平の紅葉を諦め、姫神山を登つてから帰ることに決めた。姫神山は休日に加え、岩手山を断念したツアーグループでかなり賑わっていた。せめて初冠雪の岩手山を、との思いも通じず、名峰は霧の中に姿を隠したままだった。

今回の山行では、北奥羽高峰の凄さを改めて思い知らされた。一夜にして冬山に急変し、紅葉の名峰を楽しむどころか、紅葉していたか否かさえも確認不能のまま下山を強いられた。

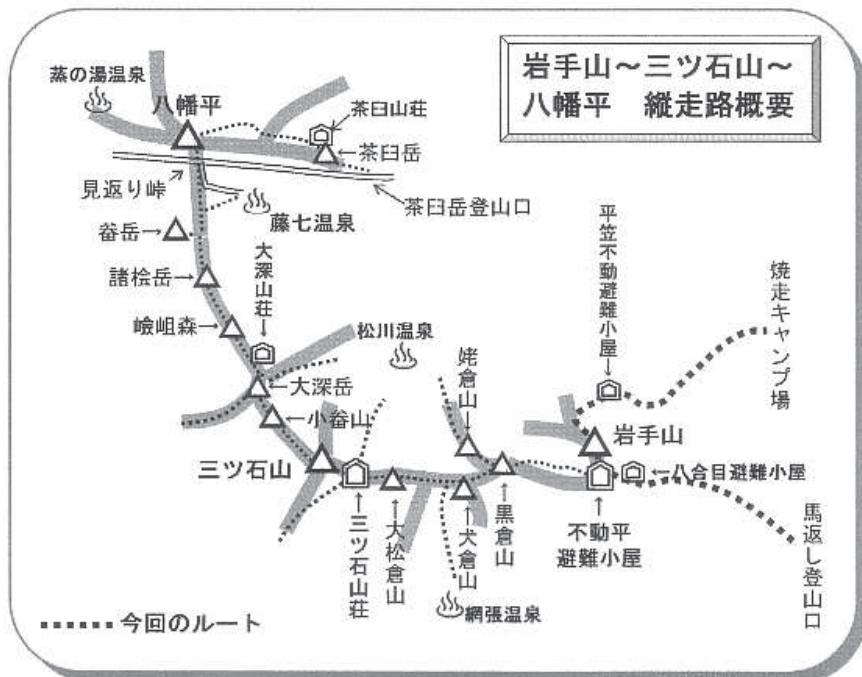
(参考ながら、2週間後の10月11日~13日に同ルートを縦走した知人からの紅葉情報では、標高1000m~1200m辺りが最盛期で、稜線上は既に枯れ落ち葉状態…と。)



5合目あたりまで初冠雪の岩手山…8合目から上は雲の中に隠れ、ついにその雄姿を見させてくれなかつた。(焼走り国際交流センターキャンプ場より)

山にも人生と同様、上り坂、下り坂、「まさか」の三つの坂があった。まさか！楽しみだった紅葉が吹雪と濃霧に遮られ何も見えず仕舞いとは…、まさか！霰混じりの突風に襲われ積雪数10センチの冬山山行になろうとは…。この上、帰路の新幹線もまさか！の大幅遅延と、

「まさか！まさか！」の連続だった。幸い、雪山装備ほどではないが、防寒対策には万全を期していたため落着いて対応でき、「まさか…！」の大事には至らず無事に下山できたことが、何よりだったのかもしれない。



山名	岩手山～三ツ石山～八幡平		
月日	平成 20 年 9 月 26 日(金)～28 日(日)		
形式	避難小屋・ 山麓テント泊	グレード	3B
山域	東北 (岩手)	地形図 1/2.5 万	大更・松川温泉・篠崎・曲 崎山・茶臼岳・八幡平
目的	真っ盛りの紅葉と大展望…南部富士岩手山から、裏岩手連峰を縦走し、高原逍遙と秘湯の八幡平へ		
費用	約 31,000 円 交通機関 JR・タクシー		
1 日 目	我孫子 6:12 → 上野 6:45 / 7:02 (こまち 1 号) → 盛岡 9:22 / 9:46 (JR 花輪線) → 大更 10:24 / 10:26 (タクシー) → 焼走登山口 10:43 / 10:50 ⇒ (昼食) ⇒ 第二噴火口 12:40 → 中間地点 12:52 ⇒ 1251m ピーク 12:55 ⇒ (雨具着用) ⇒ ツルハシ分レ 14:00 ⇒ 平笠不動避難小屋 15:13 ⇒ 外輪山上の分岐 16:05 ⇒ 強風のため引返し 16:10 ⇒ 不動平避難小屋 16:50 (泊) 曇りのち雨のち雪 <行動時間: 6 時間 00 分歩行時間: 5 時間 25 分>		
2 日 目	不動平避難小屋 8:20 ⇒ 八合目避難小屋 8:35 ⇒ 七合目 8:47 ⇒ 六合目 9:15 ⇒ (休憩) ⇒ 四合目 10:20 ⇒ 三合目 10:35 / 10:45 ⇒ 二合目半 11:00 ⇒ 二合目 11:20 ⇒ 馬返し登山口 (昼食) 12:05 / 13:05 (タクシー) → 焼走国際交流センターキャンプ場 13:40 (泊) 雪のち曇り <行動時間: 3 時間 45 分歩行時間: 3 時間 30 分>		

3 日 目	キャンプ場 7:55 (タクシー) → 一本杉登山口 8:30 / 8:40 ⇒ 五合目 9:20 ⇒ 六合目 9:33 ⇒ (休憩) ⇒ 四つ石 9:55 ⇒ 姫神山 10:30 / 10:50 ⇒ 笠石 11:05 ⇒ 水石 11:10 ⇒ 水場 (昼食) 11:43 / 12:00 ⇒ 城内登山口 12:20 / 12:25 (タクシー) → 渋民 12:50 / 13:11 (JR 花輪線) → 盛岡 13:30 / 16:15 (やまびこ 60 号) → 上野 20:30 / 20:41 → 我孫子 21:15 曇り時々小雨 <行動時間: 3 時間 40 分歩行時間: 2 時間 55 分>
ルート状況	・不動平(岩手山九合目)避難小屋は、壁窓共に二重構造で防寒防風対応は完璧。床やトイレなども快適。但し難点は、水場が八合目避難小屋まで往復 20~30 分ほど要すること。 ・岩手山の焼走・馬返しルート、姫神山の一本杉・城内両ルートとともに、整備状況(標識設置を含む)良好。 ・岩手山登山口の焼走キャンプ場(国際交流村)は、炊事場、トイレの設備があり、隣接の温泉施設も利用可。貸テント(6人用)は 3 千円/張。
参加者	大串秀(L)、原田和(SL)、大串恵、高橋潔(ゲスト) 男性 3 名 女性 1 名 計 4 名

尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼 (2163m)

武内勇二

(1日目)

御池でバスを乗り継いで、6時前に沼山峠に到着した。既に夜は明けていたがみぞれが降っている。福島県桧枝岐村の天気予報は曇り、降水確率40→20%、降水量は0mmの予想となっているので、雨は時間が経つにつれて止むとの期待を持って出発した。

尾瀬沼への木道には、所々うっすらとシャーベット状の雪が積もっているので、スリップしないよう注意しながら尾瀬沼畔の大江湿原まで歩む。大江湿原の小淵沢田代分岐で、尾瀬沼方面へ向かうハイカーと別れ、鬼怒沼方面への縦走路に入る。これよりは、後にも先にもわがパーティだけとなつた。

先日来、相当の降水があった模様で、小淵沢田代の湿原では、木道に水が溢れ小川となっていた。湿原を過ぎると木道は土の山道に変り、程なく大清水からのルートと合流する。電発記念碑の辺りは背丈ほどの笹原が広がっているが、ルート上は広く刈り払われており快適に歩ける。緑の葉っぱがまだあるところから刈り払われたのは最近だろう。先週末の皇海山～錫ヶ岳山行で笹藪に難渋したことが思い出された。



みぞれ降る小淵沢田代湿原

相変わらずみぞれ混じりの小雨が降り続く中、赤安清水に到着した。標識が木にぶら下げられている。ここから赤安山付近までは「倒木が多い」と昭文社地図(2000年版)に記載があり、歩行に難渋するのではないかと懼れたが、実際は殆ど気にならなかつた。8年も経てば撤去されたか朽ち果てたのだろう。

赤安山の頂上はルートを僅か北に外れたところにある。倒木を前に一呼吸入れているときに最後尾の佐藤君から「赤安山頂上はこのあたりから入るのかな?」との呟きが出た。標識は見当たらないが、よく見ると縦走路の僅か上に入った木に赤テープがぶら下がっており、かすかな踏み跡がある。当初、赤安山頂上はスキップしても良いと考えていたが、折角ルートらしきものを認めたので、テープに導かれて藪を漕ぎながら山頂を目指すことにした。

藪を搔き分け5分ほどで一番高そうな地点に着いたが、まさに生い茂る樹木と笹の中で展望もない。山頂探しは諦めて戻ろうとした瞬間、硬いものを蹴飛ばした。それが三角点の標柱だった。注意してあたりを見回すと、赤安山と書かれたプレートが木の股に挟んであり、更に注意して見回すと可愛いプレートがもう一枚木に打ちつけられていた。

樹林帯のだらだらとした上り下りを繰り返しながら黒岩山分岐に到達した。分岐を示す標識が道端に置かれている。ここでザックをデポして、黒岩山往復を敢行する。テープはあるものの倒木あり藪ありで難渋しながらも頂上を目指す。30分ほどかけて頂上にあと僅かと思われる稜線に出たが、相変わらずみぞれが降り続き、風も出たのでブルブルブル。寒さに耐えきれず頂上到達はここで断念した。残念!!



黒岩山分岐

黒岩山分岐から小松湿原入口への道は、緩やかに下り、下った分だけ登り返してまた下るといったルート。相変わらず樹林帯を行くので展望は殆どないが、一箇所だけ樹々の間から、先ほど断念した黒岩山を垣間見ることができた。名前に反し岩は殆ど見えず黒々とした樹木の山だった。

根こそぎ倒れている巨木の倒木を乗り越えたり、迂回したりを繰り返しながら小松湿原入口に着いた。目線よりも高いところに、小さなプレートが木にぶら下げられているだけなので、注意していないと気づかずに通過してしまうかもしれない。計画ではここが幕営の予定地点だったが、

雨中の歩行のためずぶ濡れとなっていることもあって、「もう少し先の避難小屋まで頑張ろう」ということで全員の意見が一致した。だが、避難小屋付近には水場がないので、ここで水を補給して持って行くこととした。

水を汲んでいる時、男女2名のパーティが追いついてきた。ここでテントを張るという。水場よりほんの少し離れたところに3張りほどのスペースがあった。

ここから鬼怒沼山への道は、思った以上に長く感じられた。それほどの標高差がある訳ではないが、小さなアップダウンでも疲れた体には応える。それと山の西斜面を通過するときは風を受けて凍えるほど寒い。樹木は薄っすらと雪化粧している。一足早くクリスマスを迎えた感じだが、寒くて景色を楽しんでいる余裕はなかった。

避難小屋が見えたときは正直言ってほっとした。小屋には先客が3名、労山船橋のパーティだった。小屋の前でテントを張っていた。囲炉裏に焚き火があったが、燐ぶって煙いので直ぐに消した。ランタンをつけ、お湯を沸かして焼酎のお湯割りを飲んでもやく落ち着いた。

囲炉裏が邪魔になって、小屋内でテントを張ることが出来ないため、土間にマットを敷いて寝ることにした。有るもの全部着込んで、テント、ツエルトを布団代わりに掛けた。幸いにもそれほど寒さを感じず、ぐっすりと眠ることができた。

(2日目)

荒れた天気も回復し、曇ってはいるが見通しは悪くない。船橋のパーティは黒岩山方面を目指して出発していった。我々も、昨日素通りした鬼怒沼山に登るべく昨日の道を戻った。鬼怒沼山の頂上も、登山道から東にややは外れたところにある。昨日は登り口の標識に気づかず通過していたので、見逃さないよう注意しながら歩いた。上空をヘリが巡回しうるさい。何があったかと訝しい。

やはり標識はなかったが、数箇所テープが巻いてあったので登り口と知れた。テープと踏み跡を忠実に頼って10分程度で鬼怒沼山山頂に着いた。日光白根が雪を被っている。先週歩いた皇海、錫方面の尾根も望めた。

下山にかかったとき、ヘリが上空直ぐ上を通過し爆風が樹木を揺らしたため、木に積もっていた雪を思いつきり剥ってしまった。遭難者を探していたところ、我々を見つけたので、確認のため飛来したのだろう。この直後、テープを見失い下山ルートを外してしまった。下に行けば縦走路に出ると分かっていたので心配はなかったが、北に寄り過ぎたため縦走路に出るまでに20分ほど時間をロスした。

小屋に戻り、荷物をピックアップして下山開始。小屋付近の湿原からは、雪の燧ヶ岳が手に取るように見えた。鬼怒沼湿原は静まり返っていたが、湿原の中ほどまで来たとき、賑やかな女性パーティに出会った。静かな鬼怒沼も、これからは草紅葉を目的としたハイカーで賑うことだろう。

泥濘がひどい下山路の途中、「どこから来たのか」と声を掛けられた。「尾瀬沼から来て、昨夜は避難小屋に泊まった」と答えると、「女性1名を見かけなかったか」と尋ねられた。聞くところによると、「一昨日、加仁湯から軽装で鬼怒沼に向かった女性が帰ってこないので捜索している」とのこと。先程のヘリはそれだった。この後、下山途中で何組もの消防隊員と出会った。かなり大掛かりに探しているようだが、この広い山中での捜索は手掛りがないと難しいと思う。やはり単独行は危険と隣り合わせだ。下山して2日後のインターネットのニュースで、遭難者が発見されたことを知った。沢に迷い込んで、動けなくなっていた由である。「生きる」強い気持ちがこの人を助けたのだろう。

日光沢温泉に着いたが、11時を過ぎていた。コースタイムではここから女夫淵まで1時間45分となっているが、それでは12時45分に出るバスに間に合わない。早めに歩いて1時間15分程で夫婦淵温泉に到着し、悠々とバスに乗り込むことができた。



一足早く雪の山を体験

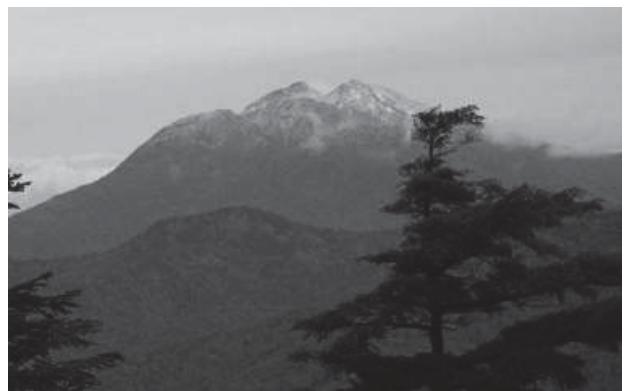


よっこらしょっ

概要

山名	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼		
月日	平成 20 年 9 月 26 日(金)夜～28 日(日)		
山域	尾瀬・日光	地形図 1/2.5 万	燧ヶ岳、三平峠、川俣温泉
形式	テント	グレード 3C	
目的	尾瀬と鬼怒沼を結ぶ静かな尾根を歩く		
費用	9,000 円	交通機関 夜行バス、路線バス、東武、JR	
行程	<p>前夜 我孫子 20:27→新宿→西口都庁大型バス専用駐車場 22:30 発 (直通バス沼山峠・御池ルート) →</p> <p>1 日目 →御池 5:00/5:30 (バス乗換) →沼山峠 5:50/6:15⇒大江湿原小淵沢田代分岐 7:10⇒尾瀬沼分岐 8:05/8:10⇒大清水分岐 8:25/8:30⇒東電竣工記念碑 8:46⇒赤安清水 9:47/9:57⇒赤安山山頂 10:38/10:43⇒休憩 11:47/11:57⇒黒岩山分岐 12:20⇒黒岩山山頂手前 12:55⇒黒岩山分岐 13:14/13:24⇒小松湿原入口 14:15/14:30⇒休憩 15:30/15:35⇒鬼怒沼避難小屋 16:40(泊)</p> <p><歩行時間 9 時間 20 分></p> <p>2 日目 鬼怒沼避難小屋 7:15⇒鬼怒沼山 7:40/7:50⇒鬼怒沼避難小屋 8:45/9:00⇒鬼怒沼⇒オロオソロシの滝展望台 10:20/10:30⇒日光沢温泉 11:04⇒八丁の湯 11:20⇒女夫渕温泉バス停 12:20/12:45⇒鬼怒川温泉駅 14:20/16:44⇒春日部 19:09→柏→我孫子 19:57</p> <p><歩行時間 4 時間 30 分></p>		
ルートの状況	<ul style="list-style-type: none"> 最近(1ヶ月以内と思われる) 笹が刈り取りされていたこともあり、笹藪で悩まされることはない。 黒岩山分岐～鬼怒沼山付近までは、倒木のため迂回を余儀なくされる箇所多い。迂回した場合は、すぐにテープ、踏み跡でルート確認が必要。 赤安山(2051m)、黒岩山(2163m)、鬼怒沼山(2141m)があるが、いずれの頂上も縦走路は通っていない。黒岩山を除いて山頂へのルートを示す標識もない。テープ、踏み跡を見逃すことの無いよう注意が必要。 黒岩清水は認識することなく通過してしまった。小松湿原入口の水場、テン場を示す標識は小さなブリキ板が木にぶら下げるだけなので見逃し易い。 		
参加者	武内(L)、佐藤健、佐藤明、千葉 男 2 名 女 2 名 計 4 名		

概念図



薄っすらと雪化粧の燧ヶ岳



鬼怒沼山山頂にて

<603>

石裂山
(879m)

高橋 重

「新・花の百名山」では春の花の山、「岳人あびこ」で登った古賀志山などが近いことと字面からはガチャボコした山、と思っていた。二荒山（日光）開山前に勝道上人が修験した山という。播隆上人が開山した槍ヶ岳と昨年登った笠ヶ岳の共通点、那須殺生が原の「九尾の狐」を閉じ込めたという「尾裂く」の話、そして二万五千分の一地図の石裂山近くにある「尾ざく」の地名、そして登山口の加蘇山神社は800年代に立てられ「磐裂命（いわさくのみこと：日本書紀卷第一にもあった）」などを祭る、などいわれの多さと歴史の古さを感じ、とてもミステリアスで、楽しめそうな山を予想した。

メンバーが3人減り、新鹿沼駅からバスへ乗ったのは、仲間9人+1名だった。加蘇山神社へ予定より早く着き、二万五千地図に破線記号のないコースを、ミゾソバやカメバヒキオコシ、セキヤノアキチョウジ、キバナアキギリなど秋の花の中を歩く。岩にはイワタバコが多い。「竜ヶ滝」を右手に見るとすぐに千本桂一栃木県天然記念物樹齢千年以上とかーに着く。良い雰囲気である。



千本桂の御神木。

小沢を登り、中の宮に到ると正面に鎖と梯子が見える。出だしの鎖の掛かる岩は濡れており外傾気味、まだアドレナリン分泌不足で少し怖い。「行者還シノ岩、転落注意」と案内があるが皆は平気なのだろうか？登ると「石裂岩」「奥の宮」で、長い梯子が掛かる。メンバーが登る姿を下から見ると、とても良い眺めだ？？大きな岩屋で、なるほど信仰の対象だ、と良い眺めと共に妙に感心する。バチが当たらないように祈った。



奥ノ宮一枚岩にかかる20mの梯子。

ヒゲスリ岩をへづるように梯子で回り込むと尾根に上がる。休みもなく歩き、腹も減ったので一本をお願いし、腹ごしらえする。いつも、「岳人あびこ」の休みは時間も回数も少ない。東西の「剣の峰」からも急な梯子で下り、木の根を目の前に見ながら急登し、分岐を左へ取ると石裂山だった。展望は無かったが、藪中の急斜に落ちたチタンのコップを拾うという、プレゼント付き貸切の頂上だった。月山は今日の最高点、月読命が祭られる社や石の鳥居など古の雰囲気を感じる。これまで一番広い山頂で、「つつじ」の木が多い。春は美しい世界だろう。フタバアオイ、イワウチワも多い。鳥居を潜り急坂を下り、「竜ヶ滝」の東屋で休むと、滝の斜面に多くの白い花が見える。下りるとビッシリとダイモンジソウが咲いていた。加蘇山神社でバスを待つ間に、研修目的（日帰り装備とパッキング）のお互いの生命維持装置？を見せて頂く。軽い荷物が一番であるが、小さなザックでも各自がコンパクト軽量化した維持装置を持っていること、HK氏の非常食ワンパックはとても参考になった。

バス下車15時半、「ミッちゃんそばや」に行き、中を覗くと店の人は休んでいる。開店は16時だという。T氏が、梯子や鎖の登降時も石裂山のゴミを一人で拾っておられた善行を山の神様が天

から見ていて、早く開けてもいいよ！と助けてくれたのだろうか。早く入れてもらうと、すぐに外は雨。反省会の「ニラそば」を食べている1時間半、バタバタと降ったが、酒精にて清めて外に出ると雨は止んでいた。電車に乘ると再び雨、こんなことは雨女のR氏には無いことと、盛り上がったメンバーが言う。出発から一日中登山者にも会わず、プレゼントや、多くの夢や楽しみ、そしてメンバーに幸運を与えてくれた八百万の神様、次もまたお願ひ、と祈らずにはいられない楽しい山行となつた。



月山頂上(900m)信仰の山-月読みの尊



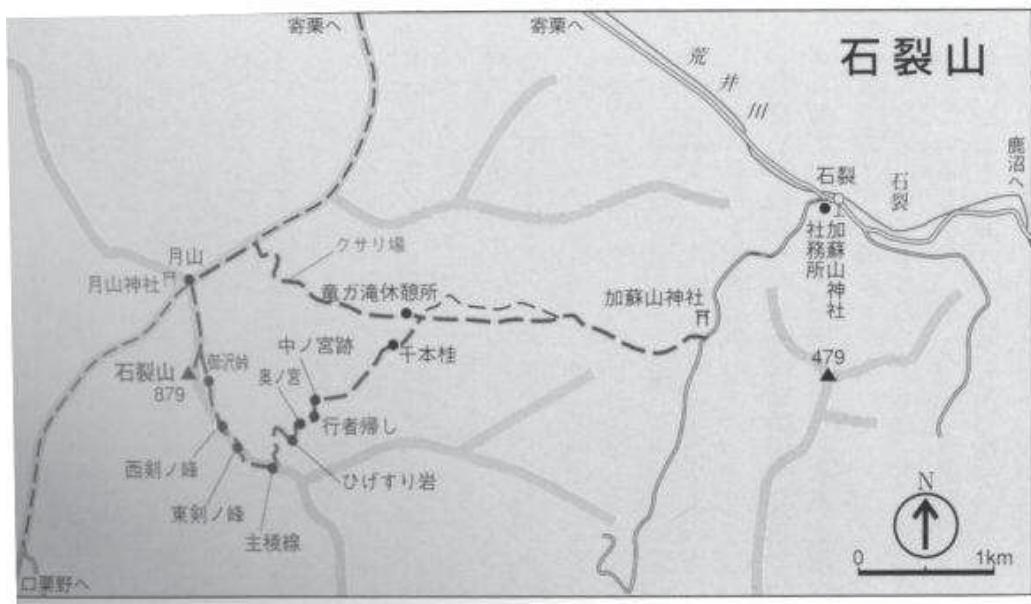
奥ノ宮にて



ダイモンジソウ



石裂山山頂にて。



概要

山名	石裂山		
月日	平成 20 年 10 月 5 日 (日)		
山域	前日光	地形図 1/2.5 万	古峰山
形式	日帰り	グレード	1B
目的	展望とスリルいっぱいの岩稜の山		
費用	約 3400 円	交通機関	JR、私鉄、バス
行程	北千住駅 6:31 → 新鹿沼駅 7:57/8:13 (バス) → 石裂バス停 (終点) 8:40/8:45 → 加蘇山神社 9:02 → 龍ヶ滝休憩所 (分岐) 9:30 → 千本柱 9:35 → 中ノ宮跡 (行者帰しの岩) 9:56 → 奥ノ宮 10:05/10:10 → ヒゲスリ岩 10:32 → 主稜線 10:40/10:45 → 東剣ノ峰 10:55 → 西剣ノ峰 (展望台) 11:07/11:15 → 石裂山 11:30/12:05 (昼食) ⇒ 月山 12:20/12:25 → 龍ヶ滝休憩所 (分岐) 13:23/13:35 → 加蘇山神社 14:00/14:05 → 石裂バス停 14:15/14:55 (日帰り装備の研修) (バス) → 新鹿沼駅 15:30/17:23 (臨時) → 東武動物公園駅 18:25/18:30 → 春日部駅 18:44/18:49 → 柏駅 19:30/19:33 → 我孫子駅 19:37 <行動時間: 5 時間 30 分 歩行時間: 4 時間 15 分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 中ノ宮跡の左手、行者帰しの岩場は、ハシゴと長いクサリが取り付けられ、ホールドもしっかりあるので難しくはない。しかし、取り付け部分の岩が濡れているので要注意。 奥ノ宮への一枚岩を、かつてはクサリにつかまって登ったが、現在は長いハシゴがかかっている。ただ、上部付近のハシゴの横棒が 2 本はずれており要注意。 ヒゲスリ岩に上がる手前の急な尾根は、木の根が露出しており雨の日は滑りやすい。また両側が切れているので、木の根に足をひっかけると転落事故につながる。 ヒゲスリ岩は右側が切れている。過去転落事故があった場所らしいが、現在は安全に通れる。 東剣ヶ峰から鞍部までは、急なハシゴで降りる。 西剣ヶ峰から鞍部の御沢峠まで急なハシゴで降りる。 石裂山直下のハシゴから次のハシゴへ移る際、ちょっとした勇気が必要。 月山からの下山路は、特に危険箇所なし。
参加者	外崎(L)、高橋重(SL)、高橋英、中村隆、原田君、品田、中村八、原田和、小川誠 男 5 名 女 4 名 計 9 名

黒部峡谷 下の廊下

千葉有子

1日目 黒部の奔流に添う

前夜新宿発高速バスに乗った私たちは、秋真っ盛りの扇沢に下り立った。夜も明けきらず、人影もまばらだったトロリーバスのチケット売り場は、明るくなる頃には長蛇の列を成した。

トロリーバスは扇沢から黒部ダムを直線で貫く針の木隧道を、何台も連なって走る。トンネルに入る手前で、周りの紅葉に目を奪われる。うれしい誤算だ。「紅葉にはまだ早い」と思っていた。バスを降りると、空に向かってそびえる黒部ダムを左に見ながら橋を渡り、対岸へ。ダムは放水中で流れは速い。驚くほどの上天気。鮮やかな木々の紅葉が、覆いかぶさるように私たちに迫る。小屋は混むから、とテント装備を背負った肩も心なしか軽い。

下の廊下と言っても、ダムからの歩き始めはまだ緩やかで、のんびりと樹間の道を行く。内蔵助谷出合は巨岩が重なり、その隙間から速い流れが見え隠れする。黒部の巨人（丸山東壁）にクライマー2人が取り付いていた。



内蔵助谷出合にて。

先に進むにつれ、同じ方向を目指す登山者を何人も追い越すようになり、新越沢からは渋滞に立ち止まるようになる。道幅も狭くなり、断崖絶壁を右下に見下ろしながらの歩行となる。写真で見る、下の廊下そのものだ。危険な場所を避けるようにハシゴが取り付けられ、上部を巻いてその先を下りるようになっている。これが渋滞の主因だ。ハシゴの下で待っているのももどかしく、「大丈夫じゃない？」と先行者に続いてそのまま水平歩道を進む。そんな私たちにすれ違いさま「こっちは危ないですよ」と忠告してくれるのは、阿曾原温泉から来たパーティー。後から後からやってくる対向者に成す術もなく立ち往生している。「危ないですよ」と言われた危険箇所はさほどでもなく、難なく通過。ハシゴを登る方がむしろ怖そうに見えた。数箇所あったハシゴはどれも登らずに水平歩道をそのまま通過して、何パーティーをも追い越した。

概念図



唯一ハシゴを使ったのが黒部別山谷出合で、たっぷりの雪渓が沢を塞いでいる。ハシゴが外されれば、雪渓を越えるのは不可能に近い。この雪渓は恐らく消えることなく、次の新しい雪を迎える。根雪になるだろう雪面を、恐る恐る踏みしめながら沢を越えた。

私たちが今進んでいるのは、日電歩道。日本電力が水力発電所建設に先立ち、調査のために黒部川左岸の断崖絶壁にわずかな隙間をうがつような形で建設した。正確には仙人平から黒部ダムまでの延長 16.6 km を指す。一步足を踏み外すと数百メートルの絶壁の下に転落する難コースだ。緊張を緩めることはできないが、黒部の迫力ある白く泡立つ流れを見下ろしながらの歩行は心ときめく。ここにいることの幸せを噛み締める。メンバーは誰も同じ気持ちだろう。黒部の流れに添いたくて来たのだから。

白竜峡を過ぎると次は十字峠。ここまで来れば、今日の行程の半分以上はこなしたことになる。そして半月峠、S字峠が続いて過ぎると、難所もほぼ終わる。



十字峠剣沢にかかる吊橋。

やがて対岸に黒四発電所、関西電力と書かれた2つの大きなトンネル坑が見え始める。これは、地下にある黒部ダムの発電所からの送電線を通すためのもので、雪崩による損壊を避けるために大袈裟な建造物となっているそうだ。道は急降下すると東谷吊橋を渡る。しばらく右岸沿いを歩いて仙人ダムに到着。阿曾原温泉への矢印に従いコンクリートに囲まれた道を行く。中は暖かく微か

な硫黄臭がする。それもそのはず、ここは高熱隧道が貫いていて、ちょうど私たちが通った時、トロッコ電車が作業員を乗せて通り過ぎていった。

仙人ダムについていた時点でもう今日の行程をほとんど終了していた気分でいたのだが、これまでほぼ水平だった道が、突然急な登りに変わる。阿曾原温泉の手前で一山越えなければならなかつたのだ。前を行く青山リーダーの背中に「こんな登りがあるの、聞いてなかったよ」と、身勝手な不平をぶつける。

登りきり、道が水平になった地点で事故はおきた。「あっ！」という声に振り向いた3人の前で吉川さんが足を下にして、ズズズーッと落ちていった。まるでスローモーションを見ているようだった。「止まって、止まって」と必死になって祈ったのを覚えている。7～8 m落ちた地点で、岩に引っかかり止った。怪我はないようだ。しかし、滑落した当人が落ちているのに、上にいる私たちは動転していた。「大丈夫よ、ザイル持っているから」と青山さんが出したザイルは、なぜかこんがらがってどうにもこうにもほどけない。あたふたしているうちに、後続のパーティーのガイドらしき人がすばやくザイルを出してくれて、吉川さんは無事に上がってきた。「怪我がなくてよかった」と喜び合ったけれど、これがあの白竜峡あたりで起きていたら、と思うと鳥肌が立つ。

阿曾原温泉小屋のテント場は、到着時点ですでに満杯。わずかに空いていた水場の前にテントを張る。せっかく來たので温泉に入る。ここ露天風呂は洗い場も、脱衣場も、何もない。囲いもないで360度見渡せる正真正銘の露天風呂だ。時間を区切って男性と女性が分かれて入る。トンネルで囲われた源泉からは、大量の蒸気が噴き出していた。

紅葉、黒部の奔流、危険箇所通過、滑落、山の中の露天風呂……。まるで山行何回分もが、凝縮されたような一日だった。

2日目 休まず歩き通した水平歩道

夜明け前から私たちのテントの前を、幾パーティーもが発していった。今日はトロッコ電車のターミナル櫻平まで行く。阿曾原小屋の情報では、時間が遅くなると観光客があふれトロッコ電車に乗れなくなるとのこと。それでみんな朝早くから櫻平へ向かうのだ。5時30分に出発予定だった私たちも5時にはテントを撤収し、ヘッドランプをつけて歩き始めた。しょっぱなで一山越える登り。つまり阿曾原小屋は、山に囲まれた谷間にあるということだ。高所に上がる頃、夜が明け始め薄明かりの中眼下に小屋が見え始めた。

欅平までは約 13km 続く水平歩道を行く。この水平歩道の開削は、日本電力が黒部川の水利権を得る以前に東洋アルミニウム株式会社の手で行われていたため、厳密には「日電歩道」とは呼べない。日電歩道同様、断崖絶壁にうがたれた狭い登山道で、踏み外せば絶壁の下に転落することに変わりはないが、足元の斜面には木が繁り、それほど恐怖感が感じられない。足並みが揃った青山パーティーは、またぞろいく人もの人たちを追い抜き追い抜き、先を急ぐ。折尾大滝でたくさんの人が一本入れていたが、渋滞を避けるために休みもとらなかつた。



折尾大滝。

欅平までで唯一休んだのが志合谷（しあいたん）出合のトンネル入口。それも立ったまま、ヘッドランプを出す合間に行動食を口に入れただけ。このトンネルは、前年青山さんが通過しようとして首までの水流がありひき返した因縁の場所。真っ暗な中、足元に水は流れるが、明かりを頼りに靴を濡らさぬよう注意して無事通過。

しばらく右岸に見えていた奥鐘障壁も後になると、やがて道は尾根に出る。送電鉄塔の所へ来ると、まるで奥多摩の低山にいるようなのんびりとした雰囲気。そう、下の廊下走破は終わったのだ。鉄塔から道は一気に欅平駅に向かって下る。トロッコ電車の始発が動き出す頃、下の廊下の余韻に浸りながらも、私達は観光客の群れに紛れていた。



欅平からのトロッコ電車

概要

山名	黒部峡谷下の廊下		
月日	平成 20 年 10 月 11 日（土）～13 日（月）		
山域	北ア立山	地形図 1/2.5 万	黒部湖
形式	テント泊	グレード	3 C
目的	紅葉の黒部峡谷		
費用	18,000 円	交通費	JR、高速バス、トロッコ電車
1 日 行 程	我孫子 20:53→新宿駅 22:00/30→扇沢 扇沢 5:30/6:30→黒四ダム 6:45/7:10⇒内蔵助谷 出合 7:59/8:15⇒黒部別山谷出合 9:40⇒白竜峡 10:15⇒十字峠 11:15/25⇒東谷吊橋 12:45⇒仙人 ダム 13:00/15⇒ヒヤリット発生 14:00/20⇒阿曾原温 泉 14:35（泊）快晴<歩行時間：6 時間 35 分>		
2 日 目	阿曾原温泉 5:00⇒折尾谷出合 6:45⇒大太鼓 7:15⇒志合谷出合 7:30/35⇒欅平 9:12/37⇒宇奈 月温泉 11:57/15:01⇒舌山駅 15:25/45⇒黒部 IC 15:50/16:18⇒池袋駅 23:00⇒我孫子 23:51 快晴<歩行時間：4 時間>		
ルート状況	・内蔵助谷出合は増水時は丸太橋が渡れない。 ・新越沢～白竜峡間は雪のブロックが川底や谷沿いに見え、雪渓通過用の梯子が 2 箇所あり高巻となっているが、雪渓が無くなった時期には梯子を登下降しなくてトラバースした方が安全。 ・黒部別山谷出合は雪渓下部に梯子が立て掛けられており、梯子を登り雪渓をトラバースする。雪渓が崩れたら梯子はどうなるのか不安。 ・岩壁をくりぬいて造られた水平歩道には手がかり用の針金番線が取り付けられている。		
山小屋情報	・阿曾原温泉小屋テント場は 20 張程度幕営できるが、今回は 10 月 3 連休だったので 14 時 40 分にはもう適当な場所が無く水場付近に張った。 ・温泉は男女混浴ではなく時間制で交代で入浴する。テント場から 5 ~ 6 分下った場所にあり、露天風呂の傍のトンネル内で源泉が湯煙を上げていて、トンネル内はサウナ状態。入浴料は昨年 300 円だったが 500 円に値上がりしていた。 ・トイレは水洗できれい。		
参加者	青山(L)、千葉、田村、吉川 男 1 名、女 3 名、計 4 名		

本社ヶ丸北面尾根
(1630m)

佐藤健一

魚も肉も野菜も新鮮であればあるほど安全で美味しい。だから料理する時は鮮度を保ちながらすばやく料理しようとする。賞味する側とて似たようなもので、香りが無くならない前に、色彩が変わらぬうちに早く召し上がりとなる。

やまなみ原稿も似たようなもので、編集者に何度も催促されてから書き出し始めるとなると、まず記憶を呼び覚ますことから始まるから厄介だ。“やまたん”を読み返したり、写真を引っ張り出して思い返し、挙句はインターネットで似たような記事を探したりして書き始める。こうなると“やまなみ”原稿作成は心重い負担でしかなくなる。“やまなみ”的担当に指名されたことを恨み始め、しまいには当会の優れたシステムであり、会創立以来の財産である“やまなみ”的存在そのものを否定し始めたりする。

己の怠慢により記憶を危うくさせ、感度(鮮度)を置き去りにして、自分勝手な批判をする事は本末転倒であると、以前当会で重ねられた議論の中での私の結論であった。やむなく当番に指名されたら、潔く、新鮮なうちに、ありのままに書こう、そうすれば何の問題もないなどと思っていた。

しかし、何の負荷も無い状況で理屈を考えるのと、現場で当番になる可能性が極めて高まっている状況・立場で感じること(考えることではない)とはまるで違う。やはり人間社会は建前と本音で成り立っていると得心する。書くことが好きでもない限りはゴメン蒙りたい役柄だと思って、その時も目線をあわせないようにリーダーの背後に立っていた。

そこは笛子の駅であった。朝早く、無人の改札を過ぎて、トイレや身支度を終え、千葉リーダーが挨拶していた。彼女の後に位置する自分は安全圏にあると信じ込んで多少余裕を匂わせていたかもしれない。

突然の「佐藤さんに！」という声に耳を疑った。エー！そんな！俺は悪いことしていない

のに？しかし、心中の狼狽を隠しながら私は無表情を装った。“やまなみ”当番の指名如きで動搖しては蔑まれる。ここは普通に平静を保ちながら、合理的に役目を回避する理由を必死に探してみた。しかし見当たらぬ。そういえば今年は余り担当しなかった。春から夏にかけて2~3本書いたけどあれは全て去年のものだ。待っていても他に自ら名乗り出る人も出て来ない。であれば仕方ないかと諦めることにした。

本社ヶ丸のやまなみ原稿なので少しはそれについて書こう。しかし、平成20年12月号(No.141)にリーダーが簡潔に読みやすく情報を網羅して書いてある。(山行概要メモ参照)“やまなみ”に書く山としては普通の2Bの山で、とりたてて特記することも無い。しかし本社ヶ丸という山名は、改めて思い返すと珍しいということに気づいた。

ホンジャガマルともホンシャガマルと濁らない読み方もある。どちらにしても○○山とか、☆☆岳とか云う一般的な呼称ではない。山名の由来に興味が沸いて、少しばかりネットで検索してみた。以下はそこからの転載である。

『山名の由来は、『甲斐国志』によれば、「八町巣鷹山ヨリ東ニ分レテ壱里余ニシテ本社』丸山ニ至リ（中略）本社丸ト三ツ峠トノ間大幡ヨリ八代郡藤木ヘ出ル山路アリ此間三里余御本社山ノ中腹舟形明神社ノ古社地アリ後世社ヲ里中ニ移ス（後略）』とある。この舟形明神の社があつたことから來た山名であるが、今は知る人もない。』これを何度か読み返してみたが、学識不足のわが身が情けなく、何のことやらよく解らない。

千葉リーダーが意気込んでいたヤブ漕ぎもほんの一瞬で終わり、のこりは踏み後もしっかりと歩いて迷ったところは殆ど無かった。眺望はと云えば、ガスがかかった富士山を見ることは見たけれど、紺碧の空に神々しい真白き富士と申すまでもなく、それなりの満足感を左脳に貼り付け、お腹だけはしっかりと満足させて山を降りることになった。

下りは単調な下降路でコナラやクヌギの落葉で覆われた道をカサカサ、サクサクと踏みしめながら標高差1000m近くを2時間程で降りてしまった。このスピードはさすが山の会である。熟年(?)の脚力にはとりあえず脱帽するが、この足も大抵は下りの場合に限られていて迫力はあまり無い。加えて反省会の生ビールに釣られてとあっては、馬と人参の話と少しもかわることなく、左程ほめられたものではなかつ

た。

ただ今回は珍しいことに、沢やバリエーションを専らとする堀口さんが参加していた。彼のようなクライマーがこのようなハイキング山行に参加しているのを見かけるのも心地よい。彼も老後の対策が始まっているのかなと思つて微笑ましく感じながら、大月の反省会場に向かって一心不乱に山を下つたものだった。



▲51号鉄塔。送電鉄塔も道するべ。

▼黒野田林道横断。32号鉄塔の巡視路へ入る。この後に藪こぎが待っていた。



本社ヶ丸山頂にて

概要

山名	本社ヶ丸北面尾根		
月日	平成20年10月26日(日)		
山域	中央線沿線	地形図 1/2.5万	笛子、河口湖東部
形式	日帰り	グレード	2B
目的	ブナの紅葉と藪		
費用	2,300円	交通機関	JR(ホリデーパス)
行程	我孫子 5:33→西国分寺 6:47/55→高尾 7:22/26→笛子 8:30/40⇒(穴沢林道)⇒丸木橋 9:05/9:10⇒送電鉄塔 51号 9:23⇒黒野田林道横断 10:00/10:13⇒32号鉄塔⇒221号鉄塔 11:00/11:08⇒一本梅⇒1541m地点 12:00/12:05⇒本社ヶ丸 12:30/13:00⇒角研山 14:00⇒30号鉄塔 14:30⇒黒野田林道横断⇒庭洞山⇒50号鉄塔⇒庭洞沢橋 15:15⇒笛子 15:40/15:57→大月(反省会) →我孫子 <歩行時間: 6時 行動時間: 7時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 尾根に取り付くには、穴沢林道右側にある51号鉄塔の白ポールを目印に沢沿いに下り、丸太橋が架かっているところを左岸に渡る。但し、丸太橋は滑りやすく危ないので沢に下りて渡る。浅いので問題ない。 尾根に取り付くと大体踏み跡があり迷うことはない。 黒野田林道を横切ると左前方に32号鉄塔の白ポールがありそこをよじ登る。 32号鉄塔の上は少し藪が濃く、山椒の刺に悩まされた。 稜線に出るまでは急登が続く。 角研山北尾根は角研山山頂、岩の後ろ側から入る。山頂に山名の標識はない。目印は「鶴ヶ鳥屋山⇒本社ヶ丸・清八峰」の道標。 黒野田林道に出ると、左前方に笛子駅の道標が見える。 		
参加者	千葉(L)、高橋英(SL)、中村隆、外崎、堀口、佐藤健、佐藤明、田村 男性4名、女性4名、計8名		
メモ	<ul style="list-style-type: none"> 上野原で奈良倉山パーティーが電車を下りる時には降雨模様だったが、笛子では止んでいた。 藪コースといって募集したため、凄まじい藪を期待してナタを持参した人がいた!!(誰だ?) 上りの32号鉄塔上は少し藪があるものの、草も低木も枯れ、夏ほどではなかった。ただ山椒がたくさん自生していて、その刺が痛かった。(香りは抜群なのだけれど……。) 藪好きの方、期待はまずれません。 ワンピッチずつ、全員にトップを交代して 		

もらった。全行程、踏み跡がしっかりしていて取り付き地点、林道横断時さえ注意すればさほど迷いやすい地点はなかった。

・急登が続くためゆっくりのペースを心がけるつもりだったが、トップに誰が来るかで、俄然スピードが上がり、列の間隔があくことがしばしばだった。

・山頂間近で猟友会の人達に出会った。禁猲期間が終わったとかで、禁猲の看板を外して背中に背負っていた。山頂まで行くと通年禁猲地域とのこと。

・山頂に着く頃、風が冷たく体がすぐ冷えるので昼食、写真撮影を早々に済ませて下山した。

・本社ヶ丸から見える富士山は、冠雪の山頂付近を雲の中に隠していた。真前の三つ峠の山腹が紅葉で美しい。

・少し下ると嘘のように風が止み、暖かさが戻った。

・たどった北面の尾根は、ブナの林が見事。(特に登りのコース)

・下りに使った尾根の角研山、庭洞山とも山頂を示す道標はない。庭洞山には三等三角点の石標がある。

・高橋英さんがいつものように火鉢みとビニル袋を持ち、一人黙々とクリーンハイクを実践。頭が下がります。

・笛子からは大月止まりの電車だったため、「大月で反省会だ」、「いや高尾まで行こう」と散々もめた末、大月駅前に適当な蕎麦屋があり、そこで反省会をした。

・このような鉄塔巡視路を利用した尾根コースを、来年度も計画したい。懲りずに参加してください。



雲に隠れた富士山頂

< 606 >

奈良倉山～鶴寝山～オオマティ山
(1349m) (1368m) (1409m)

中村八重子

気になる尾根

上野原駅前。バスの出発を待つ間、とうとう雨粒が落ちてきてしまった。予定より20分早くバスは発車しました。

鶴峠登山口には、立派な標識が立っていた。三頭山の壮大な山容を背にまばらなカラマツ林のなかを登っていく。キノコ狩りの人でしょうか？登山口付近では、地元の人の姿が見え隠れしていました。

奈良倉山は展望のよいことで知られ大月市の秀麗富嶽十二景の5番山頂に指定されている。お花の山としても知られおり、春から夏にかけてたくさんの花がみられます。今日はりんどうや小菊などがみられました。きのこは残念ながら収穫できませんでした。

汗をかきながら、ひと登りすると山頂の小広い平地に着いた。2等三角点があり、樹林に囲まれ眺めはよくありませんでした。西の方へ少し行くと展望がひらけた。雲が低く富士山の姿は見ることが、できません。いちじくの甘煮を食べ小休止。

松姫峠をめざし山頂から西へ、林道と歩道が並行するゆるい下り、峠は武田家滅亡の際に松姫様が逃げ延びた山道。今は広い鞍部になっていて、大月市へ向かって車道が通じている。車が数台留めてあった。公衆トイレのそばから稜線にでる。展望のあるところで切り株や倒木に腰掛けて昼食をとった。ゆったりした気持ちだ。



鶴峠のバス停。



奈良倉山山頂にて

ふたたび歩き始める。鶴寝山は巻き道を歩く。「春には二輪草の群落がみられるとか？」これより先オオマティ山にかけて、立派なブナ林がみられた。コナラ、ミズナラ、クリホオノ木などが、山中を染めていた。

オオマティ山への取付が分からず時間を費やしてしまった。落ち葉で登山道が隠れてしまっている。（林班界標識を左へ）まもなく三角点に出る。木が茂っているだけでつまらない山頂だった。

「沢ノ入ヌタ」分岐点まで戻り、ワサビ田から小菅の湯方面に下る。山腹を巻くように下って行くと、見事なトチの巨樹に会うことが出来た。近くに立つと見事な太さ、高さが実感出来た。この樹に会えるだけでも嬉しい。



巨木の前で。

やがて沢筋が近くなり、ワサビ田が見えてきた。ワサビ田、沢は昨年の台風で大きく崩れ荒れたままの状態で人の手が入っていない。地元の人に尋ねると高齢であること、人手がないことで、修復のするメドがたたないとのことでした。自然の凄い力をここでもおもいしらされました。この美しい、ワサビ田と清流は戻るのだろうか・・・？



紅葉に見とれ、思わず立ち止まる。



大マテイ山山頂にて。



概念図



概要

山名	奈良倉山～鶴巣山～オオマテイ山		
月日	平成20年10月26日(日)		
山域	中央線沿線	地形図 1/2.5万	七保、猪丸
形式	日帰り	グレード 2A	
目的	ブナ・ミズナラの紅葉		
費用	4,500円	交通機関	電車・バス
行程	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→上野原 8:00/8:08(バス)→鶴峠 9:14/9:20⇒J T の森イベント広場 9:35⇒奈良倉山山頂 10:35 /10:45⇒林道分岐 10:50⇒松姫峠 11:20/(昼食) 11:45⇒オオマテイ山分岐 12:45⇒オオマテイ山頂 13:10/13:20⇒オオマテイ山分岐 13:40⇒わさび田 14:45⇒林道出合 15:05 ⇒小菅の湯 15:25/16:30(バス)→上野原駅 17:50/17:57→我孫子駅 曇りく歩行時間：約5時間		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時バス運行。予定より20分早く出発。 ・鶴峠は仮設トイレが設置されてあったが、鍵がかけられ使用不可。 ・奈良倉山山頂からの展望は不可。南へ2分程先に展望あり。条件がよければ富士山の素晴らしい眺望が楽しめます。 ・鶴巣山の巻き道には二輪草の群生地が保護網で守られていた。 ・牛ノ寝通り、オオマテイ山、山頂への入口が不鮮明。 ・わさび田、沢は去年の台風で大きくくずれ、わさび田は荒れたままの状態で人の手が入っていない。 ・午後の上野原行きのバスは2便のみ。(15:20と16:30) 		
参加者	中村八(L)、日下、小川洋、細野省、細野清、大畠 男2名、女4名、計6名		

<607>

浅間尾根
(御林山 ~ 浅間嶺)
(1078m) (903m)

村松敏彦

疲れない歩き方の真髄は

準定例山行で募集した結果、応募者は0、これではリーダーがあまりにも気の毒だ。それとまだこの尾根は未経験のため山行日の3日前に申し込んだ所、もう1人貴重な方が居て、合計3名の近場ハイキング計画としては、静かなパーティとなった。さて、奥多摩にあって浅間尾根とは何故だろう。しかも浅間を「せんげん」と読ませるのは・・調査した所、浅間嶺山頂の西面に富士浅間神社の祠が奉られている所から来ているらしい。但し、「せんげん」と読むことはまだ解っていない。(地方に行くと浅間神社と書いてせんげん神社と呼ぶ所が多くある) 何処から何処までを浅間尾根というのか解らないが取りあえず、リーダーは数年前東京都が大規模に開発した都民の森から出発した。バスから降りた殆どのは都民の森、三頭山方面に行くため風張峠方面に行くハイカーは居なくなり、やっと静かな晩秋の自然の中に入つて嬉しくなる。風張峠手前の分岐からは昭文社の地図によると破線のルートになつていて何箇所か崩壊箇所があるが注意して歩けば何ら問題ない。駐車場のある奥多摩周遊道路に出ると驚く事に山をすっぽり削って道路と駐車場が出来ていた。自然が痛い痛いと悲鳴を上げているようだ。

三等三角点のある御林山で早い昼食(日帰り山行になると朝4時に朝食を済ませるので12時前に空腹になる)にしていると突然腰に小さなかごを付けた集団が現れ、驚いて聞いてみると茸を探りにきたツアーの団体との事、しかし周りを見ても茸のある雰囲気はないし、団体の皆さんのかごの中は空っぽでした。これではツアーリンクを払って参加した人達にツアーハイクはどう説明するのだろうかと余計な心配をしてしまう。数馬峠にでると右側から浅間尾根登山口からの道が合流する。この辺になると昔の生活道としての面影が偲ばれる箇所が多く見

られる。多分、村から村へ人馬が行き交う生活道として栄えた事だろう。地図上の三角点のある一本松(一本松はなかった)への登山道はまいて付けられていた。人の話し声が聞かれると東屋のある浅間嶺直下の台地のような所に着く、トイレも設置されていて多くのハイカーが休んでいた。(10数メートル手前に富士浅間神社の祠があって、そこが本当の山頂との事だそうだ)此処から50mくらいの急坂を登ると本日の目的の浅間嶺の山頂に着いた。山頂は東西に長く、立派な山名板が設置されていた。リーダーともう1人の同行者Tさん達の平素の山行にふさわしくなく、空は晴れ上がって暖かい。しかし展望は周囲に木があってあまり良くないが、かすかに丹沢と道志の山々が遠望できた。賑やかな山頂を早々に後にして下山に掛かる。

本日の同行の二人は下山に掛かると凄く早い。「別名、下山の達人」と言われている両名です。そこで早く、怪我なく下山するにはどう歩けば良いか検討した結果、まず右足を上げ、着地する前に左足をあげる。又、左足が着地する前に右足を上げる。これを繰り返すことにより、早く、尚且つ足を痛めることなく下山できるようだ。(実際、可能かなあ・・) 御前山、大岳山、等が木々の間に大きく見え始めると時坂峠(とっさか峠)に付く。広い林道を30分ほど歩くと観光客で賑わう払沢の滝(ほっさわのたき)に着いた。30数mの三段の滝は日本の滝100選らしく豪快に轟音を轟かしていた。そこのバス停から満員のバスに乗って五日市駅まで行き、云うまでもなく反省会を心置きなく開いて本日の山行を閉めた。



のんびりとした雰囲気の御林山。浅間尾根を象徴しているかのよう。

概要

山名	浅間尾根		
月日	平成20年11月1日(土)		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5万	五日市、猪丸
形式	日帰り	グレード	2A
目的	晩秋の峠みち歩き		
費用	4,000円	交通機関	JR, バス
行程	我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→拝島駅 7:25/7:35→武蔵五日市駅 7:58/8:25 (バス)→都民の森 9:20⇒森林館 9:30/9:50⇒風張峠への分岐 10:40⇒車道 11:00⇒御林山 11:20/11:45⇒数馬分岐 12:10⇒一本松 12:50⇒人里分岐 13:18⇒浅間嶺 13:35/13:50⇒時坂峠⇒払沢ノ滝入口 15:10⇒払沢ノ滝 15:20/15:25⇒バス停 15:40/15:52 (バス)→武蔵五日市駅 16:20/17:44→立川→西国分寺→新松戸→我孫子駅着 19:55		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 都民の森から浅間尾根に入るには、森林館から鞍口峠に向かってすぐ、右の里山の路に入る。 風張峠への道は途中、崩壊している箇所がある。 		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 奥多摩周遊道路へ下りる道は急で木の根が多く、注意が必要。 周遊道路に下り左へ少しだると、駐車場の右に御林山への登り口がある。この後、時坂峠まで峠道はわかりやすく、危険箇所もない。 浅間嶺には休憩舎とトイレがある。頂上は休憩舎から少し上がったところで、立派な道標がたっている。 浅間嶺までは訪れる人が多いらしく、道もよく人も多い。 		
参加者	千葉(L)、村松(SL)、外崎 男1名、女2名、計3名		



浅間嶺頂にて。

概念図



<608>

茅ヶ岳
(1704m)

小川洋子

深田久弥終焉の山

一百の頂に百の喜びあり一

茅ヶ岳はその奥の金ヶ岳と一体をなし、広大な裾野を引く古い火山であった。先鋒が多いのと裾野が広がっているのが八ヶ岳に似ていることから「ニセハツ」の俗称がある。名はその酸性土壌からカヤが全山麓を覆っていることに由来する。平成9年「山梨百名山」に選定された。

11月2日 佐藤健さんの運転で朝5時我孫子を出発。途中新入会員の矢野さんも柏で合流し、細野清子さんをリーダーとする6人が韋崎経由茅ヶ岳駐車場に着いたのが8時。連休中日とは言え紅葉シーズン真っ盛り、道路事情を心配していたがさほどの渋滞もなく順調に来る事が出来た。各自柔軟体操の後登り始めたのが8時15分。電車で来るよりも、3、40分余裕がある。

深田公園を左に見ながら緩やかな雑木林を落ち葉を踏みしめながら歩く。途中千本桜公園へ通じる林道を横切り、歩を進めると唐松の黄葉が現れるがかなり茶がかっている。少しづつ高度を増すと足元の落ち葉が黄葉、紅葉となり、木漏れ日を浴びながらまた時折見上げる青い空を楽しみながら歩く。

緩やかな坂を1時間30分ほど歩くと、巨岩が立ちはだかる。女岩だ。その割れ目からわずかな清水が滴り落ち、登山ルート中唯一の水場を提供してくれている。日照りが続くと涸れることもあるそうだが、幸い冷たい水で喉を潤しばしの休憩となる。

女岩の右手を行くとここからは少し急坂となるが、ジグザグに登るのでさほどきつさはない。ミズナラ、クヌギの黄葉があたりを明るくしている。黄葉を通して見上げる空は一段と明るく、清潔しい青さだ。思わず深呼吸をする。時折振り返ると富士山が姿を見せ始めた。40分ぐらいゆっくり登ると尾根に出る。右前方には金峰山、後方には富士山、そして眼下には黄葉、紅葉の雑木林。富士山は一幅の青墨画のようだ。

去りがたい気持ちを押さえ、左に尾根を登ると、すぐに深田久弥終焉の碑がある。昭和46年3月深田久弥は頂上を目前にしてここで逝った。



深田久弥終焉の地を示す石碑。花が供えられていた。建立は〇年前の今日。

仲間の「この辺りはイワカガミが咲いてきれいです」との言葉に、すっかり喜び「そうですか」とうなずいたのが最後だったという。突然の脳出血で倒れた。享年68歳。日本全国の山々から百座を選んで約半世紀にわたる登山歴を背景に綴った「日本百名山」。昨今の名山ブームの火付け人だ。頂上に立つこともなく、また雪もあったことだろうと感慨にひたる。

なおも急坂が続き30分ほど登ると茅ヶ岳頂上に出る。11時15分。休憩を入れてちょうど3時間。頂上からは富士山、金峰山を始め、南アルプス、八ヶ岳、遠くに北アルプスとほぼ360度の眺望を楽しむ事が出来る。歩いてここまで来なければ見ることの出来ない光景に歩ける事の幸せをしばし実感する。



八ヶ岳の峰々

頂上は比較的広く、三々五々にお弁当を広げる姿がある。今日は奇しくも新入会員の矢野さんの2歳の誕生日。リーダー細野清子さんお手製の外郎を前に皆でハッピーバースデイの大合唱。矢野さんにとってこの茅ヶ岳が初山行で、登りながら「入会して本当に良かった！」という感想を聞けて、こちらも爽やかな気分になった。

昼食の後12時に下山を始める。食後の30分が特に事故が多い。気を引き締めての下山だ。途中矢野さんの靴底のかかと部分がはがれ始めている事を発見。修理法を考えていたら、そこをちょうど通りかかった東京の山岳会の人々が針金とペンチを出し、手早く修理してくれた。その用意周到さと手馴れた技に皆感激をする。アイゼンの装着と似た方法だが、わが会で針金とペンチまで持参しての山行はどれほどあるだろうかと、皆で反省しきり。名を告げぬその方に感謝を伝え、さらに来た道を下山する。枯葉の下に隠れる小石に足をとられて滑りそうになる事しばしばで、気を抜けない。

車を置いた駐車場まで約2時間。帰路の渋滞も気になるが、時間的に余裕がありそうだということで、近くのサーブリゾートホテルで汗を流す事に。思いがけず安くて（500円）良いお風呂だった。

心配していた車の渋滞も左程ではなく、佐藤健さんの名ドライブで、柏で車を返却したのは7時40分ごろだった。往復ともお一人で運転さ

れたのはさぞお疲れの事であつただろうと申し訳なく思った。

晴天にも恵まれ、想像以上に素晴らしい山行だった。計画をしてくださったリーダーに心からお礼を申し上げたい。

概念図



女岩の前で

概要

山名	茅ヶ岳		
月日	平成 20 年 11 月 2 日(日)		
山域	圭崎	地形図 1/2.5 万	茅ガ岳・若神子
形式	日帰り	グレード	: 2 B
目的	• 深田久弥終焉の山 • 紅葉と南アルプスの展望		
費用	4,500 円	交通機関	レンタカー
行程	湖北台 4:50 → 東我孫子 → たびや → 柏警察入り口 → 深田久弥公園登山口 8:05 / 8:15 ⇒ 女岩 9:30 / 9:35 ⇒ 女岩のコル 10:10 / 10:25 ⇒ 久弥さん終焉の石碑 10:40 / 10:50 ⇒ 茅ヶ岳 11:15 / 12:00 ⇒ 女岩のコル 12:45 ⇒ 女岩 13:10 / 13:25 ⇒ 深田久弥公園下山口 14:25 → 桔梗の湯 14:35 / 15:10 → 鞍ヶ池インター 15:25 → 柏駅 19:35 快晴 <歩行時間 6 時間 10 分、含む休憩>		
ルート状況	• 駐車場は広いが下山時には道路にも止まっていた。 • 登山道は整備されているが、ゴロゴロ石あり注意。標識ははっきりしている • 女岩の所に水飲み場あり水量豊富だった。 • 女岩を過ぎると急登になる。コルで展望箇所あり。 • 深田久弥終焉の地には立派な石碑が建っていた。		
参加者	細野清(L)、佐藤健(SL)、細野省、小川洋、小川誠、矢野裕 男 3 名 女 3 名 計 6 名		



清子さん特製ういろうで、
矢野さんの誕生日を祝う



▼ 茅ヶ岳山頂にて。



<609>

高岩山～鍋割山 (920m) (1084m)

本田愛子

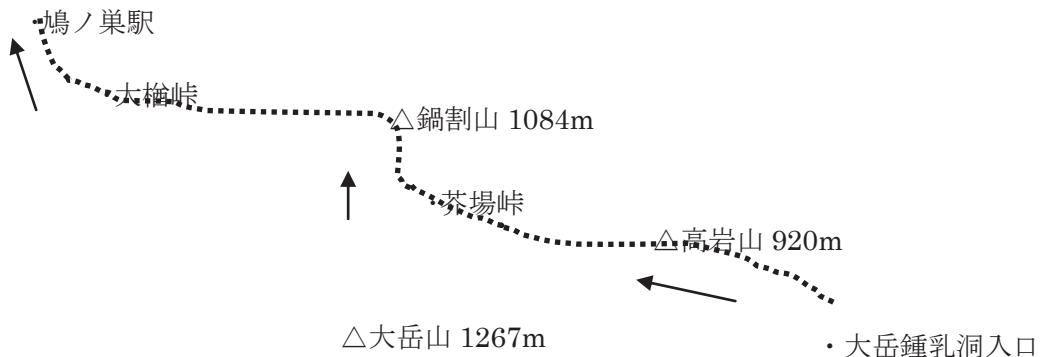
前日は空がどんより曇って小雨まじりの寒い一日だったので気持ちがいまひとつ山行に向かなかつた。

当日、始発のバスがまだない時間でタクシーで柏駅まで行き千代田線に乗ると同じ車輌に我孫子から乗ってきた皆さんと会いホットした。武藏野線、中央線、青梅線と乗り継ぎ五日市駅で降りると空気が冷たく千葉より寒かった。上養沢行きのバスは登山者で満員だった。大岳鍾乳洞入口でバスを降りると神社の鳥居があり階段を登ると養沢神社の境内があつてここでトイレを済ませ準備をした。境内の横から登山道のない急坂を登り始める。木々の間を木につかまりながら三十分位登ると稜線に出た。昭文社の地図では林道をまいて歩くルートが載っていたが今日のルートは、よく見ると薄く点線で記載してあった。高岩山までは緩やかな登りと急登があり登山道がはっきりしない林の中を登る。右に日の出山左に大岳山が見えて木々の間から黄葉が光ってきれいだ。

高岩山は、あまり広くない山頂で目印の古い板がおちていたが木に結んで記念写真を撮った。向かい側に上高岩山展望台が見えたが急降下して登りかえす。林の中のきつい登りも木間の紅葉、黄葉が美しく癒された。

道標はあるものの、高岩山を目指す人は少ない⇒

概念図



上高岩山展望台は、コンクリートの屋根とテーブルがあり御岳山奥の院から奥多摩方面の山が見渡せ気持ちの良い場所だった。数人の登山者がいたがあまり知られていない静かな休憩地で私達は各自持参したうどんを温め、けんちん汁に煮込んで食べた。寒い中で体を温めてくれた。ここからは登山道がしっかりとしていてすぐ芥場峠に着いた。大岳山に行く登山者にも出会った。芥場峠から大岳山方面に少し登ると鍋割山への分岐があり私達はそこから又淋しい道に入る。大岳山を見ながらの登山道は春にかたくりの花が多く見られるとのこと。

鍋割山は急坂を40分位登った所にあり、奥の院が良く見えた。私達は反対側の大檜峠の方へ急下降する。大檜峠にはコナラの大木があり古木の為根元は踏まれないように小石の囲いが置いてあった。大木の側にいると元気になるような気がした。ひと休みして鳩の巣まで下る。1時間程度下ると越沢バットレスに着き向かい側を見るとロッククライミングをしている人達が見えた。

しばらく暗い林道を下っていき古里方面との分岐までくると鳩ノ巣駅や青梅街道が見下せた。足がガクガクしてきたころ駅に着いた。今日は日差しがあまりなくて寒い一日だったが、あまり知られていないコースを歩いて晩秋の奥多摩を充分に満喫できた山行だった。寒い中で食べたうどんは最高のごちそうで、リーダーの方や皆さんに感謝します。





樹齢 500 年のコナラがある大檜峠は、
休憩にちょうどよい。



雑木林の中を登る。



高岩山山頂にて。ここまで来る登山者はまれ。



鍋割山山頂にて。



楽しむ人たち
バットレスでクライミングを

山名	高岩山～鍋割山		
月日	平成 20 年 1 月 9 日(日)		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	武蔵御岳
形式	日帰り	グレード	2B
目的	紅葉と山頂での鍋料理		
費用	約 2,700 円	交通機関	JR、バス
日程コース	我孫子 5:33 → 新松戸 5:55 → 西国分寺 → 立川 7:15 / 7:20 → 五日市 5:57 / 8:20 (バス上養沢行き) → 大岳鍾乳洞入口 8:45 / 8:55 ⇒ 衣服調整 9:10 / 9:15 ⇒ 休憩 9:45 / 9:50 ⇒ 高岩山 10:50 / 10:55 ⇒ 上高岩山(昼食) 11:35 / 12:10 ⇒ 芥場峠 12:30 ⇒ 鍋割山 12:50 / 12:55 ⇒ 大檜峠 13:50 / 14:00 ⇒ 休憩 14:45 / 14:50 ⇒ 鳩ノ巣 15:40 / 17:20 → 青梅 18:30 / 18:40 → 府中本町 18:58 → 新松戸 20:00 / 20:08 → 我孫子 20:20 曇り < 行動時間 6 時間 45 分歩行時間:5 時間 35 分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・バスを降りて直ぐ神社の鳥居をくぐり階段を登る。階段の近くにトイレもある。このバス停からは、大岳鍾乳洞へのハイカーが多い。 ・最初の 30 分位の登りと、高岩山に近づいてからの登りは、傾斜がきつい。 ・上高岩山近くの展望台迄は、ルートがはっきり分かるが、登山者は我々以外はなかった。あまり知られていないルートである。 ・展望台は屋根があり広さも 30 人程度ゆっくり休めるように、中央にテーブルがあり、周囲に長いベンチがある。 ・鍋割山へは、芥場峠を急角度で戻るように向かう。この峠は展望台から 3 つ目の分岐点のはずだが(これが正しい)、現地の標識には 2 つ目が芥場峠と書いてある。標識だけを信じて行動すると、御岳山に行ってしまう。要注意。 ・鍋割山から大檜峠へ向かう途中、尾根道を左に急角度で曲がるところがある。直進しないように×印もある。 ・大檜峠は、休憩には良いところだ。ここから鳩ノ巣駅まで 3.9km との表示がある。 		
参加者	柴(L)、細野清、細野省、村松敏、外崎、中村隆(SL)、原田君、箕輪カ、千葉、坂巻、本田、須賀(ゲスト)、有賀(ゲスト) 男 7 名 女 6 名 計 13 名		

< 6 1 0 >

御前山 (1405m)

箕輪完二

今回の御前山は奥多摩湖畔から登り、標高差1,015Mと急登の多い山行であると聞いて覚悟を決めて行った。登山道入口がちょっと判りにくく、多摩湖畔に沿って上流に向かって行き過ぎてしまったようだ。でもこれが程よいウォーミングアップとなったようだ。

登山道入口に戻り、さっそく急坂に挑んだ。サス沢山まで1時間ほど必死になって登った。それでも休憩時には眼下に広がるエメラルドグリーンの奥多摩湖を眺めることができた。さらに大ブナ尾根と呼ばれる急坂を登り、惣岳山に着いた。ここでも木々の間から雪を戴いた富士山を望むこともできた。これらを眺めることで心身ともに休息をすることができた。

樹林帯をしばらく登り、やっと御前山にたどり着いた。ここで20分ほど時間をとて昼食となつた。

昼食後は下山となつた。すぐログハウス風の立派な避難小屋があり中には布団や毛布も用意さ



眼下の奥多摩湖がエメラルド色に光っていた。

れているようだった。又その付近からは丹沢山系や奥多摩の山々が展望でき、大岳山をめぐって、活発な論議が展開された。さらに下山を続け体験の森などを見学し、途中柄寄大滝を横目で見ながら、下りは快調に境橋へ下りてきた。

バス停ではバスを待つ人々がおり、満員のため乗車できなかつたという情報が聞こえ、それでは奥多摩駅まで歩こうかという元気な岳人もいて、数人歩き出したそのとき、遠方よりバスの姿あり、道路に出て大きく両手を振つた。バスも停まり、何とか全員が乗ることができ、きわめてラッキーであった。

初冬の静かな山歩きがテーマであったが、最近あまり山に行ってない私にとっては、かなりハードな山行であった。御前山は、大岳山、三頭山と並んで奥多摩三山といわれており、その中央に位置している。これで、私もこれら三山を登つたことになる。登り終えた今となつては、とても天気がよく、周りの山々もきれいに見え、登り甲斐のある、良い山行となつた。リーダーはじめ皆さんに感謝です。



御前山山頂にて。



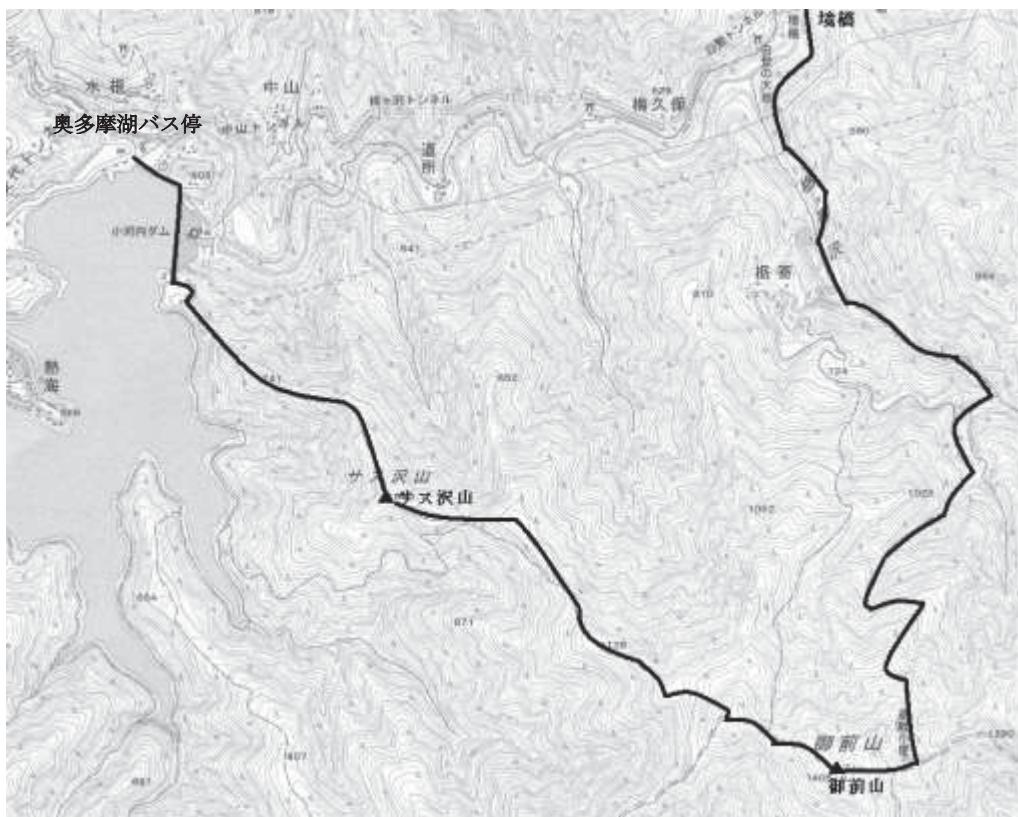
概要

山名	御前山		
月日	平成20年11月23日(日)		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5万	奥多摩湖
形式	日帰り	グレード 2B	
目的	奥多摩三山の一つ 初冬の静かな山歩き		
費用	3,000円	交通機関	JR(ホリデーパス)、バス (バスカード)
行程	我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→立川 7:00/7:05→奥多摩駅 8:22/8:25→(バス)→ 奥多摩湖畔バス停(終点) 8:56/9:05→展望台 (登山口) 9:45/ 9:50 サス沢山 10:50/11:00 ⇒惣岳山 11:55/12:05⇒御前山 12:25/12:45 (昼食) ⇒御前山避難小屋 12:55/13:05⇒車 道 14:40⇒境橋バス停 14:55/15:05→(バス) →奥多摩駅 15:10/16:23→(ホリデー快速) →立川→西国分寺→我孫子 19:00		

ルートの状況	・奥多摩駅発のバスは満員になると、臨時便が出た。 ・御前山避難小屋はトイレもある。水はチョロチョロであった。 ・境橋への下山は急な下りがなく楽であったが、遊歩道がやたら入り込んだり、工事中であったりで少々興奮めであった。 ・境橋からのバスは私達は予定通りだったが、前の人達は満員で2台も見送ったとのこと。奥多摩駅まで歩くと約30分。
	清家(L)、外崎、中村八(SL)、大畠、箕輪カ、箕輪完、小川誠、田村、高橋英、佐藤健、坂巻、矢野裕 男5名、女7名 計12名
参加者	



概念図



<611>

手賀沼一周

高橋 重

昨年のクリーンハイクは手賀沼を愛した白樺派の文人等の史跡に立ち寄ったり、導水路に遡上する鮭を釣り上げた場面や、カワセミを見るなど水辺を楽しんだが「8の字一周」はできずに「満天の湯」で終了となった。

今回は9名、『岳人あびこ』の長老金銀銅の3名が参加され、頭が下がる思いだ。クリーンリーダーの指導で、タバコ・缶・ペットボトル・プラスチックなどの担当を決め、「ハケの道」と呼ばれる我孫子市側を歩き出した。沼の周囲は名勝／旧跡、魚や鳥、花木など自然も豊富だ。武者小路邸は企業の所有となつたが、今年もたまたま庭師の方が来ており入場できた。



武者小路実篤邸跡にて



根戸城跡

湖畔の散策や観賞が出来るよう駐車場の確保や宣伝など市の取り組みも必要、とおしゃべりしながら今日の最高点（20m）我孫子市西端の根戸城跡に登った。大きな屋敷周辺では田畠の作物談義も弾む。

北柏公園で最初の休憩の後、柏市に入る。導水場そばの小川ではモロコを數十匹も釣っている人、タナゴが帰ってきたと糸を垂れる人なども多い。大津川を渡る「ヒドリ橋」近くに来ると、火バサミでゴミを拾うK姐さんの足元から雄のキジが飛び立つ。橋の上には人だかりがあり、見ると「ホオジロカンムリヅル」が近くのネコを気にもせず悠然と草を啄ばんでいる。アフリカの鳥というが、茂原の動物園から逃げたのか、アフリカから飛んで来たかは「ツル」しか知らない。

沼の南西側は人も多くゴミも少ない。「道の駅」で昼食となり3人が下山した。沼の南東、ハスの群生地付近では二羽のカワセミを見た。行程3/4の手賀川曙橋で小休止、フィッシングセンター付近の料理店も先の史跡などと併せて観光コースにすれば良いのに！などと話しながら北東の我孫子市手賀沼遊歩道に入る。この頃には皆の大きなゴミ袋は満杯に近くなり、道脇の人目につかぬところにゴミ袋をデポした。明日、銅メダルのH氏が回収してくれるという。ありがたいことだ。

螢池？から流れる小川を渡る地点はユリカモメやコイ、カモが群れている。上流はH氏によると時々カワセミが見られるという。滝の前団地あづま屋で1.5mほどのシマヘビを見る。ここで会った軽トラックのシルバーセンターの方が、先ほどデポしたゴミを回収してくれるという。柏市側で二回ほど同様の交渉を行い、NOと言われていたので温かさを感じる。翌日H氏が確認に出かけたところキレイになっていたとのこと、気持ちもスッキリする。この後もゴミを拾い市役所下の交差点に到着し、一周が終了した。集めたゴミは17kg超となった。

我々が住む近くにこんなに素晴らしい文学の道や自然があること、きれいな手賀沼になりつつあること、そして我孫子市と柏市のちょっとした違いを感じたクリーンハイクであった。秋に野口健氏のヒマラヤや富士山清掃の講演を聞いた後だけに、組織を越えて、もっと力を合わせて出来ることがあるのではと考えさせられた一日だった。

概要



船戸の森



手賀沼西端の橋をバックに



水の館

山名	手賀沼一周		
月日	平成 20 年 12 月 6 日(土)		
山域	我孫子市 & 柏市	地形図 1/2.5 万	取手
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	• ふるさと手賀沼を巡る足慣らしと親睦。 • 手賀沼をきれいにするため、ごみを拾つて歩くクリーンハイク。		
費用	なし(別途反省会費用)	交通機関	なし
行程	(A) 「水の館」 08:00 集合、出発。 (B) 「手賀沼公園」(アビスタ玄関前) 08:30 集合、出発。 各自 (A) (B) いずれかから参加、アビスタ玄関前で (A)&(B) 合流。 (A) 手賀沼畔の「水の館」駐車場 7:53 集合、7:55 出発 ⇒ 手賀沼北側遊歩道を西へ ⇒ 8:25/8:30 手賀沼公園にて (A)&(B) 合流 ⇒ 手賀沼北側の道(自動車道路と平行の北側の道)を西へ ⇒ 根戸公園 ⇒ 武者小路跡 9:00 ⇒ 根戸城址 9:25/9:30 ⇒ 北柏公園 9:40/9:55 ⇒ 北柏ふるさと大橋 ⇒ 手賀沼南側の遊歩道を東へ ⇒ ヒドリ橋(ホオジロカンムリヅルを見た) 10:30 ⇒ 道の駅沼南にて昼食(持参弁当) 11:05/11:30 ⇒ 手賀沼南側遊歩道を東へ ⇒ フィッシングセンター手前のあずまや 13:45/13:50 ⇒ 手賀沼北側遊歩道を西へ ⇒ 水の館前 14:10 ⇒ 手賀沼大橋北側若松交差点着 14:30 ⇒ COCO'S にて反省会 17:00 解散。 <行動時間 6 時間 35 分、内、歩行時間 5 時間 30 分、休憩時間 1 時間 05 分>		
A 集合	小川誠(L)、原田和、日下、箕輪完		
B 集合	高橋重(L)、大串秀、大串恵、桐生、石黒(ゲスト)		
男 7 名、女 2 名、計 9 名			

<612>

本仁田山～平石山 (1225m) (1075m)

武内勇二

白丸駅から青梅街道に出て日向部落まで約15分程歩いたところで部落内の道に入る。民家のおじさんから、「本仁田山かね。熊がいるから大声で話しながら登ったがいいよ」と声をかけられた。持ってきたベルをリュックに付けたが、思えば今年はこのベルに世話をなる機会が多くかった気がする。人気の少ない静かな山の登山が多かったということだろう。

今日のルートは、ゴンザス尾根から本仁田山に登り平石尾根を下山するという、一般のハイキングルートとは一線を画す、まさにリーダーの青山さん好みの計画となっている。地形図はかなり等高線が混み合っており、かなりの急登を覚悟せねばならないだろう。この計画に、ゲスト2名を含む8名が集まった。

登山ルートはうっかりすれば見過ごしそうな民家横の細い階段の登りから始まる。「NHK施設」と書かれた白杭に導かれて、鬱蒼とした杉林を登る。地形図では等高線に対し直角に登山路が描かれているが、実際は斜面を横切るような形で道がついている。それでもかなり急な登りではある。途中で折り返して薄っすらと尾根らしい様相となったあたりから直登が始まった。相変わらず杉林の中の登りで、見通しは全く効かない。

登り始めて約40分、木々が切り払われた明るいところに出た。NHKの電波塔で、ここで暫し憩う。冷たい空気だが陽射しが眩しく正に冬晴れ、清々しい気分である。

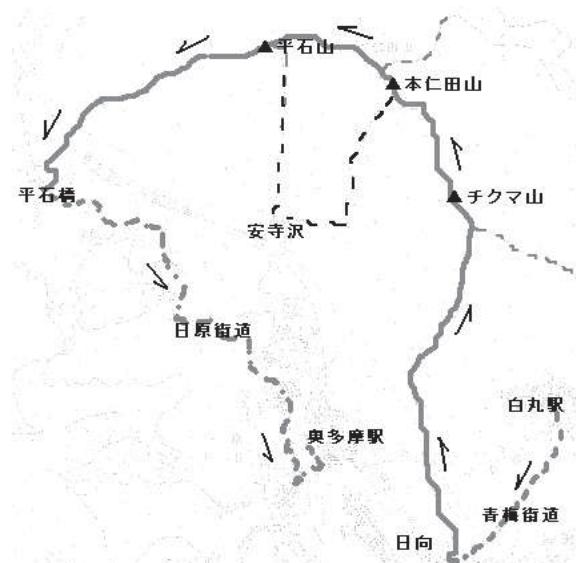
更に、多少斜度の緩くなった尾根を進み、共同アンテナが立っている地点に出た。さすがに東方には遮るもの無く、新宿のビル街も見通せる。ここで電波をキャッチして山間の家々にケーブルで送られるのだろう。送電線鉄塔を過ぎ更に尾根道を行く。東斜面は植林の針葉樹、西斜面は広葉樹林と尾根を境に樹相が異なっている。展望は余り良く無いが、葉の落ちた木々の枝越しに、奥多摩の町や鷺ノ巣山、雲取山が見え隠れする。テープも道標も無いが踏み跡はしっかりとしており、尾根を忠実に辿って行く。やがてやや東寄りに向きを変えるが相変わら

ずの急坂が続く。南西方面の山の合間に純白の富士がそそり立っているのが望めるようになった。かなり高度を稼いだ証である。

鳩ノ巣駅から花折戸尾根を登ってくるルートと合流すると間もなくチクマ山(1040m)である。山頂を示す小さなプレートが木に打ち付けられている。ここまで全く人に会うことも無かつたが、ここからは一般ルートとなり、早速中高年ハイカー3人に出会う。花折戸尾根を下山することである。尾根の東斜面も急ではあるが、それにも増して西斜面はすっぱりと切れ落ちており、奥多摩の山の急峻さが実感できる。それでも高い木々が斜面にへばりつくように生えており展望を妨げている。しかし今の季節、葉っぱが落ちているため、枝越しに山々が見えるのは多少の救いではある。

前方に円錐状の本仁田山が見えてきた。山全体が黄土色に見えるのは、落葉樹に覆われているためだ。チクマ山から少し下った鞍部から愈々本仁田山への急な登りが始まる。ブナとクヌギの雑木林で、全て落葉し明るい陽射しが降り注いでいる。小さいジグザグを交えながらの急登もほぼ15分で終わり、安寺沢へ下る分岐を分けると道はなだらかになりほどなく本仁田山の山頂に着いた。崩れかけた東屋がある。三角点の真後ろに「本仁田山」と書かれた大きな立て札が立っている。折りよく登ってきたハイカーに頼んで、全員で記念写真を撮った。山頂には他にも数名のハイカーが陽射しを求めて憩っている。

概念図



東方面が大きく開け、関東平野を一望できた。緑豊かな大地の一角に新宿のビル街をはじめとする大きな建物が立ち並び、日本のダイナミックを感じさせる。筑波山は識別できなかつたものの、遠くに雪をいただく山はおそらく日光、那須の山々に違いない。昼食を探りながら思い思いに景色を楽しんだ。

平石山へは川苔山方面へのルートを北に分け、東方向への急斜面を真っ直ぐに下る。落ち葉の絨毯を踏みしめ、中に潜む石を落とさないよう注意しながらぐんぐん下る。鞍部に降りて小さく登ると平石山である。山というよりは尾根上の出っ張りの感じで、平石山の標識がなければそれと意識せずに通り過ぎるに違いない。平石山山頂手前で安寺沢に下るルートが地形図には描かれているが、道標も無くこれまた通り過ぎてしまったようである。

ここからの下りがまた凄まじい。2ヶ所程平原な地点があったが、赤テープを頼りに標高差700mを下りに下る。日原街道に架かる平石橋に降り立った。奥多摩行きのバスは5分ほど前に出たところで、次のバスまでにはまだ1時間余りある。日の当たらない場所で寒さに震えながらバスを待つのも能がないので、奥多摩駅まで30分余りの道を歩き山行を終えた。

終日快晴で雲ひとつない天気に恵まれ、空気は凜と冷えているが陽射しが明るく、まさに初冬の山の趣を存分に味わうことができた。

概要

山名	本仁田山～平石山		
月日	平成20年12月7日(日)		
山域	奥多摩	地形図1/2.5万	奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	2B
目的	ゴンザス尾根～平石尾根へ		
費用	2,300円	交通機関	電車、
行程	我孫子駅5:33→立川→白丸駅8:24/30⇒ゴンザス尾根登山口8:55/9:00⇒電波中継所9:35/45⇒花折戸尾根合流点11:00⇒チクマ山11:05/10⇒花折戸尾根分岐11:40⇒本仁田山11:45/12:05⇒平石山12:35⇒安寺沢分岐13:15⇒平石橋13:48⇒大沢バス停13:50⇒奥多摩駅14:30/16:05→青梅→西国分寺→新松戸駅→我孫子駅18:45 <快晴　　歩行時間:5時間25分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ゴンザス尾根登山口は車道からの標識は無く、日向住宅内の神社横から入山する。 NHK電波中継所までは巡視路が九十九折になつて付いている。建設前は直登コースを登っていたようだ。 花折戸尾根との合流点直下は岩尾根の急登。 平石尾根取付点は本仁田山から北に200M下るが、取付点にテープ、標識なし。 安寺沢分岐に下るとき迷いやすい。 		
参加者	青山(L)、外崎、武内、小川誠、坂巻、矢野裕、須賀(ゲスト)、石黒(ゲスト) 男5名 女3名 計8名		



本仁田山への登り



本仁田山山頂にて

〈613〉忘年山行

城峯山
(1038m)

やまたんより転載

各班代表の感想と総合の感想文を記入しました。

A班の感想

雨の中での出発、乗り合いバスを待つ時間、気持ちは少しブルーでした。

冬の到来、葉を落とした木々、朽ち果てた木々までも白い雪が華を咲かせてくれました。頂上は雪山そのもので想像も出来ませんでした。冬山は装備に充分な注意が必要と感じました。

忘年山行を企画して頂きましたリーダーさん、宴会を準備してくださいました食担さん、そして全員の協力で楽しい忘年山行が出来ましたこと感謝します。ありがとうございます。



城峰山山頂にて

B班の感想

西門平バス停から A 班、C 班、B 班の順で出発。私達 B 班は余興練習のために作為的に最後尾となり、小川誠二郎さん制作の素敵な余興演目を練習しながら歩く。

重い雨が降り続く中、標高が高くなるに従い

雨は雪に変わり、思いもかけない霧氷を堪能しながら到着した鐘掛城跡は 5~6 cm 積もったミニ雪山となっていた。

石門峠東屋で昼食中の食担コース班と出会う。私達も昼食をとり、花摘みをし、身軽になり城峯山に向かう。城峯山には 1 等三角点と展望台がある。展望が望めないので展望台には登らず城峯神社に向かう。

城峯神社は千年祭が行われた平将門伝説の格式高い神社で、キャンプ場も併設されていた。キャンプ場横から関東ふれあい道登山道に入ると雪は消え、樹林帯の下山道で焚き火用枯れ木を拾いながら男衾(おぶすま) 登山口に下山。男衾登山口から 1 時間 20 分の車道歩きは枯れ木持参には辛かった。



鐘掛城址にて

C班の感想 (箕輪カオル)

登山を開始してほどなく雨が霧に雪にと変わった。石間峠、城峯山はすっかり雪山となっていた。予報にはなかった思わぬ雪景色に、寒さも忘れ郷愁さえ感じた。城峯山の展望台を兼ねたアンテナ塔から見た山の銀世界も素晴らしいようだ。城峯神社から表山道コースに入ることで、高橋重さんが地図確認をして間違いを修正してくれた。

かつては、養蚕でもしていたんだろうかと思われる石垣に建つ家々、人気のない集落。また、祠や道標などから古い歴史の痕跡を思わせるような集落。ゆっくり散策できないのが残念。予定より大幅に遅れて到着した満願の湯駐車場に止めたバスの傍に一本の冬桜が咲いていた。

C班の感想（品田千恵子）

朝起きると外は雨降り……。

満願の湯の駐車場に着く頃には本降りとなり、バスの中で雨具を着けての山行となる。駐車場脇で冬桜が雨に打たれながら咲いていた。「雨降りに登る物好きなグループもいるものだ」と言う声も囁かれていた。

そんな雨も、標高が上がるにつれ霧になりやがて城峯山の頂上に着く頃にはすっかり雪となり、一面銀世界。展望台に登ってみると、それは、それはすばらしい樹氷の世界が広がっていた。

マイナス1度の世界の中で冷たい昼食をあわただしく食べる頃になると、C班である私達の班名が何故かチャー班（チャーハン）と変わって呼ばれており、写真を撮ったり、点呼する時は「チャー班集合」などとみんなの笑いを誘い、なんとなく団結したような気がした。従つて班の出し物の鳩ポッポは即席で振り付けしたりには、一番良かったような気もする。なんてつたってチャーハンは大衆向きだから。

食担の方々が作って下さった豚汁も最高においしくいただきました。

今回の忘年山行は変化に富んだ天候となり、雨降りにボヤき、雪景色に歓声を上げ、晩秋の景色に心和ませ、里歩きでは干し柿の暖簾が沢山下がっており、日本の風景っていいへなって改めて思い、本当に参加できたことをうれしく思いました。

楽しい山行ありがとうございました。



赤レンジャー+黄レンジャーと狼の像。
城峯神社にて

食担班の感想

バスを降りたときからカッパをつけての山行になりそうなので少々憂鬱な気分。しかし、ラッキーなことに鉄塔を過ぎたあたりから雨が粉雪にかわり、鐘掛城跡・石間峠と進むにつれ雪が深くなり、城峰山頂は空も木もあたり一面まっ白で、白銀の世界。すでに5センチほどの積雪で寒いけれど気分はうきうき。食担コースなのでピストン。降りは巻き道だったのであまり雪はなかった。その先一般道の歩きは長く感じた。用意された焚き火はあったかく、豚汁もおいしかった。各班の出し物もユニークで笑了。岳人には役者さんが多いですね。昨年より腕の上がったコカリナ・オカリナの音も晴れわたった空に響きわたり、一年の最後を飾るにふさわしい忘年山行だった。帰りのバスの中もそれなりに楽しかった。

リーダーならびに関係者に感謝、感謝。



懇親会にて「いい湯だな」を熱唱

総合の感想

前日から天気予報は雨が予想されていたが、準備等が進んでいたので変更しないで強行した。前日に1名の追加参加申込みがあり、総勢34名になり予算上は楽になった。バスは雨の中でも目的地に予定より早めに到着した。その後は各班に分かれて行動する。途中から雨が雪に変わり雪景色の中の山行になる。石間峠で全班が集まり昼食を共にする。昼頃からは雪も止んで空は明るくなつて来た。下山途中に寒さ対策として枯木を集めて帰つて來たので、一般コースは予定時間より遅れて懇親会会場に到着する。食担班の心籠めた料理と温かいお酒で一年

を締めくくる山行の乾杯をする。

班毎の余興とコカリナ・オカリナ演奏で会場は最高の盛り上がりとなつた。参加者全員のご協力と事前から準備していただいた食担の皆様に感謝します。

但し、バスのマイクが1つ故障して使用出来なかつたので帰りの車中が盛り上がらなかつたのが残念でした。今後の良い反省としたい。来年も体力・技力&気力を高め、元気で山に挑戦しましょう。感謝します。



城峯山山頂展望塔より下を見ると……。
何班かな?



城峯山へ続く雪の道▲

新雪踏んで歩く▼



概要

山名	城峯山		
月日	2008年12月14日(日)		
山域	秩父	地形図1/2.5万	皆野
形式	日帰り	グレード:	1A
目的	一年の締めくくり		
費用	4,500円	交通機関	大型バス
行程	<p>我孫子駅北口 5:30/5:35→(貸切バス)→三芳PA 6:35/6:50→秩父温泉満願の湯 8:00 (荷物を懇親会会場に運ぶ)</p> <p>食担コース 満願の湯 8:15(タクシー)→西門平登山口 8:30/8:35⇒林道から登山道に入る 8:45⇒休憩 9:30/9:35⇒鐘掛城跡 9:57/10:00⇒石間峠 10:15⇒城峯山 10:35/10:45⇒石間峠(他の班と出合う) 10:55/11:07(昼食)⇒山道から林道に出る 11:58⇒西門平登山口 12:05⇒秩父華厳の滝 12:40⇒水潜寺入口 12:53⇒満願の湯キャンプ場着 13:20 <行動時間4時間45分 内歩行時間4時間15分、休憩時間30分></p> <p>一般コース 秩父温泉バス発 8:55→西門平登山口着 9:15/9:20⇒休憩(衣服調整) 9:40/9:45⇒休憩 10:15/10:20⇒鐘掛城址 10:30/10:35⇒石間峠(昼食) 10:55/11:10⇒城峯山 11:25/11:35⇒城峯神社 11:45⇒諏訪神社 11:50⇒猿田彦神社 13:30⇒万年橋(バス) 14:10/14:20→満願の湯キャンプ場懇親会会場 14:50 <行動時間4時間50分 内歩行時間4時間10分、休憩時間40分></p> <p>忘年懇親会 14:50~16:10 満願の湯バス発 16:25→三芳PA 17:40/17:55→我孫子駅北口 19:05 (解散) 雨(雪)のち曇り</p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 林道から山道に入ると雨でぬかるんで滑り易い道になる。途中から気温が急に低くなり雨が雪に変わる。案内標識には距離や時間の記入は無い。 鐘掛城跡手前が一番の急登で積雪の下の石が滑り易いので注意が必要。 石間峠には東屋とトイレも有り、登山道は危険な所は無く歩き易いルートである。 城峯山の頂上にはアンテナ塔を兼ねた展望台と一等三角点がある。 一般コースで下山する時、城峯神社付近でルート確認をする必要がある。 両コース共、車道に降りてからアプローチが長いので注意。
参加者	<p>A班 中村八(L)、箕輪完(SL)、日下、武内、飯沼、矢野、本間、高橋英(CL)</p> <p>B班 青山(L)、小松(SL)、柴、外崎、中村隆、瀬田、小川誠、本田</p> <p>C班 千葉(L)、坂巻(SL)、村松敏、榎原、箕輪力、桐生、高橋重、品田、堀口</p> <p>食担班 佐藤明(L)、藤倉(SL)、佐藤健、中村美、中野、細野清、細野省、佐々木、原田和(CL)</p> <p>男16名、女18名 計34名</p>

概念図



<614>クリスマス山行

八ヶ岳
(西岳～権現岳～編笠山)
(2398m) (2715m) (2524m)

外崎 蓮

猛烈な吹雪に消えた権現岳

12/20 (土) (晴)

今年のクリスマス山行は八ヶ岳西部の権現岳に決まった。赤岳に比べるとぐっと入山者が少ない。この山行は、5月の春山合宿と共に本格的な雪山に挑戦する。我孫子駅で6人が合流。中央本線の6枚綴りのあづき回数券を買うと、3割引のジパングよりも安くなった。新宿から2時間ほどで小淵沢に着き、タクシーで富士見高原まで行く。当初の計画では、観音平から権現岳を往復することにしていたが、12月の初旬から観音平行きの道が閉鎖されているため、西岳を経由することに変更。歩く時間を少しでも短縮し、時間内に青年小屋に着くためである。西岳は、登山者の間ではなかなか行けない山、いや、行かない山の一つと言われる。御多分にもれず、今回のメンバーも大喜びと相成った。私は5～6年ほど前に、立場川キャンプ場から信玄の隠岩という所を通って西岳に登ったことがある。その時タクシーの運転手に、ここから登るお客様を乗せたのは初めてだと言われ、少々不安な気分にさせられたことを覚えている。

富士見高原ゴルフコースを右に見ながら林の中に入る。ところが間もなく、地図にない作業道や林道が入り乱れ、標識の字も色あせて読めない有様。そのため、地図を見る人と勘で方角を言う人の意見も入り乱れ、右往左往しながらようやく西岳登山口の不動清水にたどり着く。ここまで来ればもう大丈夫。あとは一直線に登るのみ。林道が横断している1730m地点で少し早い昼食をとる。1950m地点を最後の林道が横断している。すでに西岳から下りて来た幾組かのパーティに出会う。2000m付近から雪が出てきた。2150m地点に来ると、そこだけ樹林が開けて明るい日差しが差し込んでいた。昭文社の地図に2138m小広場とあるが、ここを指すのだろうか。どう見ても広場らしいものはない

が、あとはまた深い樹林の中なので、あるとすればここ以外には考えられない。西岳の直下には、西岳によく似た南面の開けたガレ場が2箇所ある。その1箇所目を越えたあたりでリーダーは、とてもテント場までは行けないから、ビバークする場所を探そうと言い出した。しかし、斜面が急な上、密集した樹林の中に張れそうな場所など見つからない。もう少し上に行こうということになり躊躇局そのまま登って行って正解であった。ほどなく雪にスッポリ覆われた西岳に到着。私が登ったことのある立場川方面からの道が北西から登ってきているが、雪面には足跡がなかった。東面を眺めると、谷をはさんで編笠山の左手の鞍部にマッチ箱のような建物がポツンと見える。今晚の宿泊地の青年小屋である。ビバークの必要もなさそうである。

山頂をいったん下ると、あとは雪深い平坦地となる。しばらくは青年小屋のある位置から離れていくような感覚があるが、谷を大きく回りこんでいるため、歩いても歩いても遠く感じられた。暗い樹林からようやく雪野原に出ると、正面に見覚えのある小屋が現れた。母屋はとっくに閉まっていたが、冬季小屋が開いていた。うまい具合に土間の半分が板の間で、この上にテント2つがピッタリと収まった。どういうわけか小屋の中の方が底冷えがする。炊事はすべてテントの中で。今夜は一足早いクリスマス。清家さんがクリスマスケーキを作ってくれた。材料はポテトサラダである。マッシュポテトをラップに包んで丸く形を整え、周りに薄切りのサーモンをくるくる巻いてバラの花に見立てたものを幾つも飾り、ろうそくを立てるといっぱなケーキの出来上がりである。清家のすばらしいアイデアに感激し、皆で大拍手した。ランタンの明かりを消すと、一段とクリスマスの雰囲気が出てくる。気の抜けない仲間との105円以上のプレゼント交換も盛り上がった。



清家さんの手作りケーキ



12/21（日）（晴時々曇り時々雪）

4:30 起床のはずが、全員 5:00 に目覚める。朝食後テントを畳み、サブザックで権現岳に向かう。6:50 である。この頃になってリーダーが、吐き気がして体調が悪いと言う。列の後を遅れがちに着いてくる。森林限界に来るとパッと視界が広がり、雪を被った山々が目に飛び込んできた。尾根の突端のノロシ場に来たところでリーダーは、ここからのリーダーを吉川さんに託して小屋に戻ることになった。見上げれば、鋭く尖ったギボシの奥に、こちらも劣らぬ権現岳が聳えている。その高い稜線を歩く人影が見える。あまりの凄さに私は躊躇したが、結局自分の意志も定まらないままフラフラと皆の後を着いていく。両脇の切れ落ちた細い雪道を慎重にたどり、ギボシの岩肌に取り付く。八合目付近の鎖場に到達すると、ギボシを右に巻くようにならってトラバースする。幸い、鎖は凍らずに雪面から出ていた。ここを通過中、稜線を歩いていた3人のパーティとすれ違った。彼らはみごとな足裁きで、ギボシの急な斜面を軽快に駆け下りていく。横目でチラと見ながら、私は鎖を手繩り寄せては足を運ぶ。この頃から上空が俄かに曇り出し、強風が吹き荒れてきた。すぐ右手の権現岳が猛烈な吹雪にかき消され、鞍部に建つ権現小屋も白く霞んで見える。何という運の悪さ。あと少しだというのに。標識のある三叉路に来ると、稜線の向こう側からの風もあいまって横殴りの吹雪が体を揺する。目も開けていられないほどだ。4人は三叉路から右手の権現岳に向かったが、私はここで待つことにした。権現小屋は固く扉を閉ざし、隠れる場所もない。仕方がないので三叉路の下の僅かな凹地に立っていると、何分もしないうちに皆が引き返してきた。

ガイドブックによると、権現岳の最高点は大岩で、この上に檜峰神社の石祠と剣が祭られ、きわに立つこともできるが足下は絶壁。三叉路付近で充分に山頂気分が味わえるとある。帰りは逃げるように鎖場を通過し、アッという間に下りてきた。ノロシ場の見える道の窪地に身を寄せながら武内さんが持参してくれた甘酒を頂く。最高峰は踏めないまでも、冬の荒天の中を三叉路まで行けた満足感が湧いてきた。振り返って仰ぎ見れば、嵐は過ぎ去り、権現は何事もなかったかのように青い天空に剣を突き刺したまだ。ノロシ場に来ると、下からリーダーが上がって来た。心配でじっとしておれなかつたという。ここでリーダーのために断つておくが、吐き気は決して二日酔いではなく、風邪を引いていたとのことである。後悔は先に立たずだが、あと 30 分早く、つまり予定通りに起きていれば、嵐を避けて権現岳の石祠を拝めたかも知れなかつた。



雪の斜面を下る(ギボシ)

下山は編笠山を経由することにする。冬季小屋の扉を閉め、母屋の玄関前に転がった大きな黒っぽい岩を登りだす。岩の隙間に落ちることもなく登り切り、樹林を抜けると広々とした編笠山山頂に出た。すぐ目の前の権現岳、ギボシ、阿弥陀岳、赤岳が夏山の姿にさらに拍車をかけ、本格的な冬の到来に向けて威風堂々と聳えていた。風が強いので早々に山々に別れを告げ、観音平に向かって下山する。樹林の中の登山道はアイスバーン状態が続き、非常に困難を極めた。何度も滑って転んだことだろう。押手川で編笠山からの巻き道と合流。その後も代わる代わる滑っては尻餅をつく。やや坂道がゆるくなつて雲海展望台に着く。今では樹木がじやまで何も見えない。ここからは針葉樹林から抜け出した分、道も乾いて歩きやすくなつてくる。

観音平の広い駐車場はガランとしていた。下のゲートが閉まっているので一般車もタクシーも上がって来れない。そのため山道を下ることにする。天然記念物のヒカリゴケの檻の前からしばらく暗い林の中を下る。しっかりと標識もある。林のトンネルを抜けると、カラマツ林を切り開いた広い防火帯のような道に出た。快適に下って行くといつしか牧場になり、霜柱のはつた泥んこ道に悩まされながら右手へと導かれていく。八ヶ岳の裾野は実に広い。おそらく何年か前までは、この広い牧場もカラマツ林だったに違いない。やっとのことで観音平に通じている車道に出た。さらにゲートまでカラマツの落ち葉を踏みしめながら坂道を下って行く。



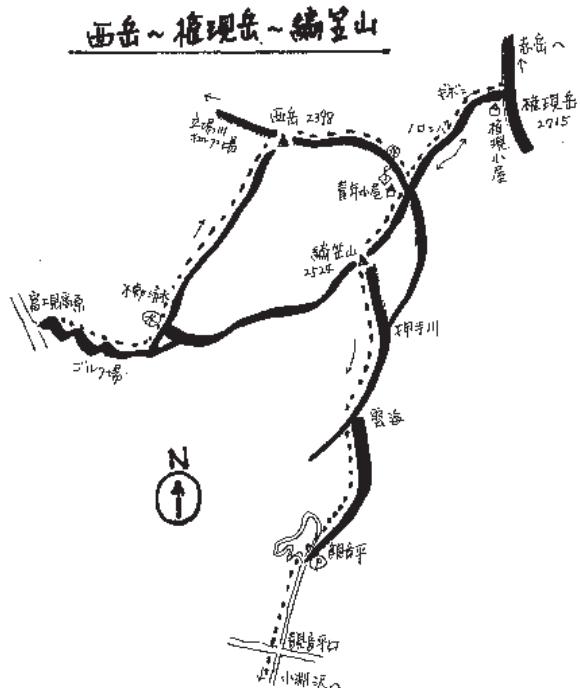
概要

山名	八ヶ岳(西岳～権現岳～編笠山)			
月日	平成 20 年 1 2 月 2 0 日 (土) ~ 2 1 日 (日)			
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳東部	
形式	テント泊	グレード	4 D	
目的	1. 恒例のクリスマスを祝う。 2. 厳しくも美しい雪山に挑戦 3. 1 年の山行の締めを雪とテントの中で。			
費用	1,300 円	交通機関	JR, タクシー	
行程	1 日 目	我孫子駅 5:30 → 新宿駅 7:00 (あずさ 2 号) → 小淵沢駅 8:54/9:05 (タクシー) → 富士見高原 9:20/9:30 ⇒ 林道との T 字路 10:20 ⇒ 長命水 10:43 ⇒ 1730m 地点の林道 11:23/11:35 ⇒ 展望台 14:00 ⇒ 西岳 14:15 ⇒ 青年小屋 15:45 (冬季避難小屋内テント泊)		
	2 日 目	青年小屋 6:50 ⇒ のろし場 7:30/7:40 ⇒ 権現小屋 8:50 ⇒ 稜線 8:55 ⇒ 青年小屋 8:58 ⇒ 青年小屋 10:30/11:00 ⇒ 編笠山 11:50/12:00 ⇒ 押手川 13:05 ⇒ 雲海 13:50 ⇒ 観音平 14:25/14:50 ⇒ ゲート入口 15:40 (タクシー) → 小淵沢駅 15:55/17:41 (あずさ) → 新宿駅 19:36 → 上野駅 20:14 → 我孫子駅着 20:55		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> この季節青年小屋までの最短ルートである観音平口は冬季車道が通行止めになるため観音平までタクシーが利用出来ない。このため西岳ルートに変更した。 富士見高原口からの登山道は林道、及び作業道が入り乱れ、尚且つ、道標が古く判別出来ない。頻繁にチェックが必要。 昭文社の地図に掲載されている小広場 (2138m) は見当たらない。もしかすると見落としたかも知れないが。 西岳の登りの登山道は厳しい急登もなく、何人かの往復するパーティに出会う。中途の不動清水ではこの季節でも水が湧き出していた。 西岳から青年小屋までは非常に長く感じた。地図上のタイムでは無理。雪はだんだん深くなってきた。 青年小屋前のテント場は一面の銀世界、風の通り道のせいか非常に強い風が吹いていた。このため隙間だらけの冬季小屋が開放されていたので小屋の中にテントを設営した。 			

- ・恒例のクリスマスパーティーはプレゼント交換に始まって食坦の方が苦労して運び、作ってくれたケーキもどきのケーキで祝い、多いに盛り上がった。
- ・権現岳への登りは3名の先行者がいたのでラッセルは必要なかった。森林限界を超えたノロシ場以降は本格的な雪山登山、ギボシ迄は急登が続く。滑落したら命はない。
- ・幸い鎖は出ていた。権現小屋をすぎて猛烈な風と天候の急変で頂上直下数10mで下山にかかる。
- ・青年小屋から編笠山への登りは急登で尚且つ大きな岩に雪が積もり非常に歩きづらい。足首を捻らないよう注意したい。
- ・編笠山からの下山は急降下のためスリップに充分注意したい。
- ・観音平からは防火帯のような広い道を1時間近く歩いてゲートに着く。取り付きが解りにくい。

参 加 者	村松(L)、清家(SL)、外崎、武内、青山、 吉川
	男 3名 女 3名 計6名

概念図



<615>

笛尾根（楨寄山）

(1188m)

矢野裕子

入会して4回目の山、初めての雪。先日の定例会研修「安全に雪山を楽しむ」では、一言ひと言大切にメモを取りました。山の上の寒さはどのくらいのものだろうか。何時間も雪の中を歩き続けられるのか。とにかくアイゼンやスパッツを用意しなくてはと、二日前に柏のエルデに行くと、お店の方は「笛尾根？あそこはいいよー。明日がきっと雪だから最高だね。」…そんなに良いのかしら。偶然お店に居合わせた桐生さんにも励まされ、99%の不安が少しだけわくわく気分に変化。千葉さんもメールで、「大丈夫よ行けるところまで行きましょ、降りるルートはたくさんあるから」と力強い言葉。前夜は部屋にダンボールを敷いて、何度もスパッツやアイゼンを付ける練習をしました。うん！なかなかかっこいい。

当日朝、メンバーは4人。リーダー、講師、隊長と新入り。大船に乗った感じです。駅からバスに乗ること一時間、車窓は次第に雪景色。大勢のグループも皆途中で降りて、仲の平は私達だけ。山里の方に会うたびに、「あれまあ、今日いくのかね。」「上には昨日の雪が大分あるよー。」「30cmくらいかねえ。気をつけてね。」こんな声をもらって、登り口の民家の脇でスパッツだけ付ける。すぐに雪道。快晴、無風。何と美しい真っ白の世界。一つ前のバスらしい人の大きな足跡を辿りながら上って行く。静寂の中、ギュッ、ギュッ、ギュッ。懸命に雪を踏む。

息が切れて体が熱くなりようやく西原峠、そして楨寄山へ。富士山こそ雲に隠れていきましたが、広々とした丹沢山系の眺望。時折吹く風に、梢の雪がさーっと舞い落ちてきらきら反射する。ここから始まる尾根は本当に最高でした。贅沢にも両側に、明るく雄大に連なる山々。もったいないなー、今日のこのコースはもっとたくさん参加があっても良いのに。

また林へ、尾根へとなだらかに繰り返す。この辺りから足跡のないふかふかの新雪。一番前を歩いてみる？気持ちいいよ！と声をかけてもらつ

てちょこっと先頭交替。平らに見える雪もよく見るとわずかに高低がある。少し盛り上がっている所は木の根っこ。だからその向こう側に足を踏み込むんだよ、と。真っ白な銀世界には、落ち葉も石ころも何も見えない。だけど想像力を働かせて、雪の下をイメージする。そして私の足跡をつけていく。なんていい気分！ふわっふわっとみんなで雪を蹴散らしながら、田和峠、笛ヶタワノ峰、数馬峠と進む。小さく点々と斜めに横切る足跡、これはウサギ、これはイノシシ、これはキツネって、物知り隊長が教えてくれます。夜中に駆け抜けていったのかな。また、山岳耐久レースコースという表示もあって、ここなら歩き続けたい気がします。

疲れてきました。笛吹峠、ここで昼食、気がつくともう1時半。最初のバスの時間です。武藏五日市側と上野原側、両方のバスの時刻と降り始める地点を検討しつつ、小柄峠まで行って下山開始。雪ゆえに、道はあって無いようなもの。ここから隊長、本領発揮。前方で下り口を探しながら、どんどん下る。降りるにつれて気温が上がり、足元はぬかるみ、雪の白から落ち葉の茶へ。分岐では皆で確かめ合って、最後は林の中を直滑降。ぴったりと麓のバス停のある寺の真上に降り立った。すごいです。どうもシカ道だったなあって。バスは1時間無いので商店でタクシーを呼んで、無事に上野原駅前で反省会をすることができました。素晴らしい冬山初体験！

概念図



山名	笹尾根 (檜寄山)		
月日	平成 21 年 1 月 10 日(土) 日帰り		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	猪丸
形式		グレード	2 B
目的	年初の尾根歩き		
費用	約 4,000 円	交通機関	JR、バス、タクシー
行程	我孫子 6:18→新松戸 6:32/6:38→西国分寺 7:35/7:38→立川 7:44/7:57→武藏五日市 8:36/9:00(バス)→仲の平バス停 10:00⇒観世音堂前(準備) 10:13/10:25⇒休憩 11:45/ 11:50⇒西原峠 11:55⇒檜寄山 12:00/12:03⇒ 田和峠 12:25⇒笹ヶタワノ峰 H1121m 13:05⇒ 笛吹展望地 13:25/13:45(昼食)⇒丸山 H1098m 14:10⇒小樋峠 14:35⇒沢渡地区に下山 15:40⇒バス停 16:00/16:15(タクシー)→上野原駅 16:35/17:56 (反省会)→高尾 18:24/ 18:30→西国分寺 18:51/19:03→新松戸 20:00/20:08→我孫子 20:23 (解散) <行動時間 6 時間 歩行時間 5 時間 20 分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・武藏五日市駅からバスで数馬方面へ向かったが、奥に入るほど道路沿いも雪が増えていった。笹尾根は 15~20 cm ほどの積雪。アイゼンをつけるほど凍っている場所はなかった。 ・笹尾根上の標識は要所要所にあり、わかりやすい。小樋峠から上野原側に下る道は途中倒木のある箇所あり。また標識がいくつも倒れていた。最後は登山道を外れてしまい、近道に入ったようで杉林を横断して墓地の上に出た。 ・笹尾根からの下山道は何ヶ所もあるが、檜原側、上野原側ともバスの便が不便なので、事前に時刻表を調べていく必要がある。 		
参加者	千葉(L)、原田和(SL)、矢野裕、小谷(ゲスト) 男 2 名、女 2 名、計 4 名		



▲木の間から見える大岳山。



▲檜寄山山頂にて。



▲新雪を踏みしめ歩く。笹尾根は緩やかで優しい。

◀檜寄山にて

< 6 1 6 >

大室山・赤鞍ヶ岳
(1588m) (1292m)

小川誠二郎

「冬山をがんばりました」

1日目 晴れ

丹沢の冬山を南から北へ越えて里で一泊、もう一山越えて里に出て帰る、昨年泊った民宿が大変よかったです、特に猪鍋がよかったです。今年再びの計画、とのこと。これまで冬山ではブレーキ役、猪鍋は食いたし、足は持つか、恐る恐る参加希望を申し出てお許しを得た。

小田急の新松田で北川さんと落合ってタクシー3台に分乗し、西丹沢自然教室（標高560m）まで約30分。ストレッチをして08:55出発、舗装道路を歩く。中型犬がみずから買って出て道案内をしてくれる。きょうの大室山は途中の「犬越路」（標高1168m）が当初の目標。武田信玄が小田原の北条を攻めたとき犬が道案内した故事に因むとか。この犬もその血を引くか。ジョンとか権太とか名前がついて黙々と案内してくれたが、沢沿いの川原でアイゼンを着けるとき、皆がザックを卸したのに何の餌も出なかったのを見ていつの間にか消えた。

沢沿いの道を離れて山に入る。アイゼンを外す。登り道は杉の落葉を踏む道で雪が無い。その後大室山頂上までアイゼンは着けなかった。

登り道はときたま傾斜が楽になるが、おおむね急勾配。岩などの階段状の段差を登るところが多くて、足には厳しい。標高差1000mをさて皆様と歩調を合せて登れるかどうか。一步一步やってみるしかない。

犬越路に来て食事休憩。ここには避難小屋がある。快晴無風。食事を済ませて出発。そこからは緩やかな登りと水平の繰返し。犬越路までの急勾配より楽な道だし、標高差は犬越路までで6割登っているが、航続距離の問題かバテ気味の我が足の運びが鈍くなってしまってスピードが出ない。村松リーダーから常々「山、特に冬山は時間との勝負だ。明るいうちに山行を終えないと大変なことになる」と言われているので、気は急くが足が動かない。果たせるかな最後尾の

リーダーから「ピッヂが遅い、スピードを上げろ」の号令。アラーの神様が言うには「能力も神が与えたものだから誰も能力以上のことはしなくてよい」とのことだが、救いの神様は頂上より遥か高きにあり、発破をかけるリーダーはすぐ後ろに迫る。頑張って一歩でも先を急ぐしかない。リーダーのご指示で我がザックを北川さんに背負って頂く。

頂上の肩に登り着くとしばらく水平の台地を進んでようやく頂上。13:08。歩き始めて4時間13分経っていた。予定より30分遅いようで、誠に申し訳ない次第。頂上も快晴無風の雪の原。別の登山者が一人居て、写真のシャッターをお願いして、アイゼンを着けて13:30そそくさと下山にかかる。一句、「写真撮るだけの頂上雪の山」。



西丹沢の山々の奥に富士。



▲1等三角点のある大室山山頂にて。

登りは南斜面だったが下山は北斜面で、打って変わって雪深い。アイゼンを着けて安心かと思

えばそう甘くない。雪の下が平らな土とは限らない。岩があつたり倒木があつたり、枯葉の層があつたりする。岩や倒木を踏むと足元がぐらつく。枯葉の層は地滑りのように塊になって滑る。一句、「倒木も岩も潜みて雪深し」。尻で滑ったり、転んだり、掘まる立木も撓うやら折れるやらで頼りにならない。急勾配を下りるのに一歩一歩足首の向きを斜面に向けて90度に構えアイゼンのエッジを利かせて下りる、が、それはいけないと村松リーダーのご指導。アイゼンは前後に強く横方向には弱い。こわがって横に構えるのはよくないとのこと。

悪戦苦闘、ようやく15:15林道に出た。アイゼンを外し、舗装道路を50分歩いて大栗部落の民宿「富士見荘」着。16:20。

この「富士見荘」は、玄関の長押の長材以外はすべて自家の山から切り出した材木で建てたという本格建築の日本家屋で柱は一尺角。二階のコタツの部屋で寛ぎ、風呂に入る。風呂は5人位入る大きさ。まず男衆が入る。足腰の作りが違うことを思い知らされる。一句、「筋骨を初湯にずぶり山男」。一階の大広間は30畳ほど。透かし彫りの欄間、高い天井。18:00からいよいよ猪鍋の宴会。猪鍋のほかにもいろいろ料理が並び、ビールの乾杯で落ち着いて、さて焼酎となると、気のいい女将がひとつ走り買って来た。あとで言うにはお代はいらないとのこと。手話踊りなどで盛り上がる。二階のコタツの部屋に戻り、寝るまで話す。鼾を逃げて夜這い的領海侵犯もあったような。



樁大橋から大室山を望む
(1日目下山後)

2日目、うす曇。

午後雨が来るとの予報。昨夜と同じ大広間で立派な朝飯。「夕ベは充分飲んだ。きょうの反省会はアルコールは要らない。ミルクでいい」とおっしゃる方もいらっしゃったような。女将よりおむすびとおやきのあんまんを頂いて(料金外サービスとか)、記念写真を撮って08:00出発。舗装道路を西へ。役場を通過して裏に回って登山口あり、しばらく林道を辿り山道に入る。

今日は昨日より楽な山越えと予想され、標高差も300mほど少ないので、若干気楽に取り掛かったが、どっこい、ジグザグの登りが延々と続く。ときたま傾斜のゆるいところで楽ができるが、おおむね登り通し。雪はあるが柔らかいのでアイゼンは着けない。急登を目前にして休憩。おやきのあんまんを頂く。さて、それか



赤鞍ヶ岳山頂にて

らが結構急登。鹿の親子がすぐ横に居たが横目でちらと見てせっせと登る。最終段階の標高差80mほどは勾配が楽になって、赤鞍ヶ岳頂上。一面の雪。

10:45から11:00まで写真を撮って腹にエネルギーを詰めて、きのうと同様北斜面の急勾配を下る。

棚入り山に来てリーダーより「コースタイムより10分早い。休憩」の号令。14:40のバスに乗る予定の行程は順調と思ったのだが。そこからさらに急勾配をテープを辿りながら下りたが、尾根筋が判らない。右の沢筋へ急勾配を下りる。枯葉の層と雪の混ぜ物に尻を乗せて地滑りのようにして下りる。全員無事沢筋に下りて、沢を伝って下る。岩の間を踏み越えて下る。これで里に出られると思って進むうち、滝のようになったところに出て前に行けない。右にも左にも行けそうもない。村松リーダーが右の山を見て、こともなげに「あの尾根に登ろう」。仰ぐと標高差100mはあろうと思える切り立った急斜面。「まじ？アンビリーバボー」と内心思ったが、全員平然と取り付く。リーダーが先頭を猿かと思える足取りでさっさと登る。見る間に高く離れて登る。あとを皆で追う。立木に掴まってよじ登り、その根方を足場にしてさらに登る。笹を4、5本束ねてそれに掴まって登る。笹が跳ねて顔を打つ。足を滑らせて笹にすがって立ち直る。偵察に行ったリーダーが上から「みんな登って来てよ」。全員さらに登る。リーダーが「とにかく尾根まで登ろう」。全員なんとか登り切った。標高差約110m。地図を確かめてこの尾根を下る。14:40のバスに間に合うかもしれない。沢の左岸の尾根が正解だったのか、結局下ったのは沢の右岸ということになる。さらに急勾配を下る。やがて沢の堰の横の開けたところに出た。14:45。バスは逃がしたようだ。



林道を里に出て、自動車道を無生野のバス停まで10分ほど歩く。結局雨には遭わなかった。次のバスもあるはあるが2時間ほどあとになる。道路端の加藤酒店に頼んで電話でタクシーを3台上野原から呼んでもらう。30分ほどかかると言う。ビールや酒を買ってしばし休憩。酒店の婆様の言うには、いまどきはこちらから赤鞍ヶ岳を歩いて越える人は居ないので道も傷んでいるとのこと。年金を貯めてまた来て下さいと言われてしまった。

タクシーで上野原に出て15:30から駅前の「一福」にて反省会。ビールとたんめんと焼酎。忘れ物の話題。手袋とか、帽子とか、靴下とか、カーディガンとか。皆様順調に加齢されているようで。靴下は富士見荘の女将が新品を提供下さった由。17:26上野原発。

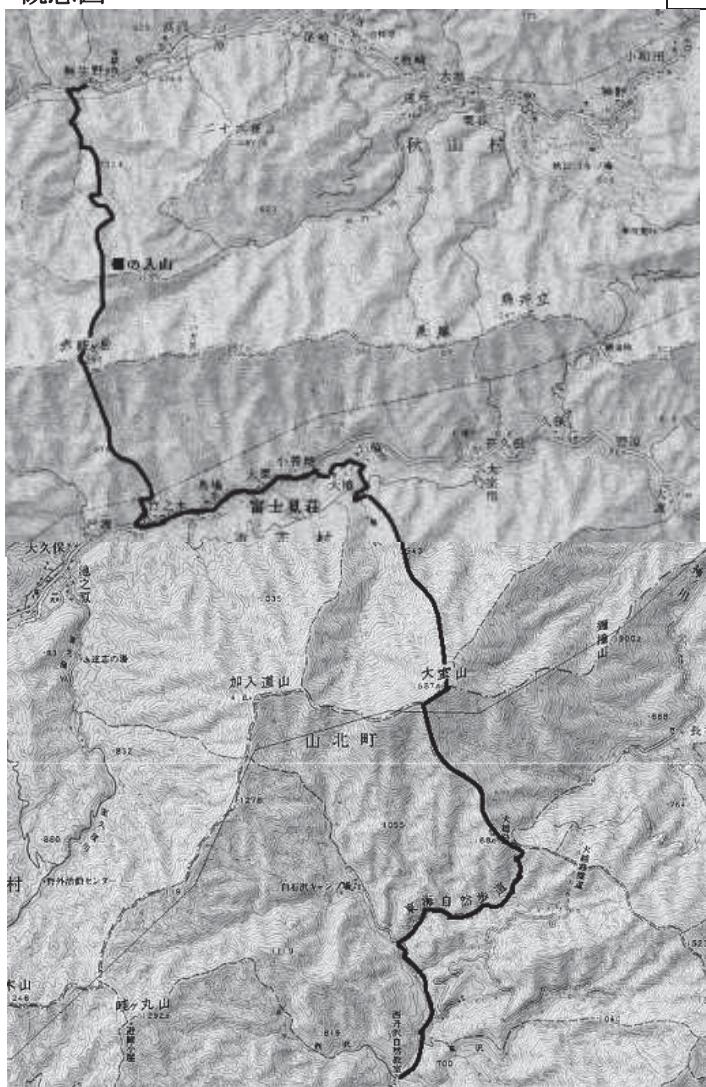
ハプニング的貴重な体験を含め結構厳しい山行を経験させて頂き達成感と共に感謝の念を強く感じている。こういう山行にいつまで参加させて頂けるか判らないが、またお許し頂けるなら挑戦してみたいと思う。ありがとうございました。

概要

山名	大室山・赤鞍ヶ岳		
月日	平成21年1月17日(土)～1月18日(日)		
山域	西丹沢、道志	地形図 1/2.5万	大室山、上野原
形式	山麓民宿泊	グレード 3B	
目的	①1年の初登りを静かな西丹沢と道志の山で。 ②サービス満点の民宿で豪華な山の幸で新年会と21年度の山の計画を。 ③地図を読みながら道標のないルート探し。		
費用	12,000円	交通機関	小田急、タクシー、JR
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿駅（小田急線）6:41→新松田駅 8:00(タクシー)→西丹沢自然教室 8:55⇒用木沢出合 9:30⇒犬越路（避難小屋）11:10⇒大室山 13:08/13:30⇒北尾根⇒林道 15:15⇒民宿（富士見荘）着 16:15		
行 程 2 日 目	富士見荘 8:00⇒登山口 8:45⇒赤鞍ヶ岳 10:43/11:00⇒棚ノ入山 11:30/11:40⇒806m地点 13:00⇒尾根から谷に降りる⇒左岸から尾根に上がる 14:00/14:05⇒堰堤 14:40⇒車道 14:55⇒無生野バス停 15:45(タクシー)→上野原駅 16:10/17:26→西国分寺駅→我孫子駅着 19:50		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 歩行時間を考慮して新松田駅からタクシーを利用した。(バスに乗るより約40分ほど早く着く)この計画が正解だったことが後で解った。 大室山までは一般登山道のためルート及び道標はしっかりとしている。雪は標高1000mを越えるとたっぷりある。大室山山頂では約30cm程度。 北尾根は山頂から名前のように真北の尾根に取り付く。中途の雨乞石が目標になる。1000m地点に椿分岐があり左の尾根に入る。古びた道標がたっているがこの道標は間違っているので注意したい。(逆を指している) 降りた林道はアイスバーンになって非常に滑りやすい。 赤鞍ヶ岳登山道入口は道志村役場を過ぎて30mぐらいの右側に小さな道標がある。入道山には山頂を踏まずにバイパス道が付いている。
	<ul style="list-style-type: none"> 秋山峠直下200m位は両手両足を使うほどの急登で幸い南面のため雪がなかったがあつたら危険な箇所だ。 赤鞍ヶ岳(昭文社の地図では朝日山、国土地理院では赤鞍ヶ岳、山頂表示板は赤鞍ヶ岳)の山頂では約30cmの積雪量だった。 雪の棚ノ入山からの下山には充分注意したい。雪のため滑るように降りたため注意力が散漫になつたためと道標がないため登山道を外し、真北の尾根を下山したため行き詰り、右の谷に降りた。 谷を20分程降りた所で滝に境遇したので右の尾根に這い上がって地図をチェックした後、林道に降りた。 実は谷に降りる前に地図をチェックした結果、最悪の場合右の尾根に逃げれば良い事は理解していた。故に谷は行ける所まで行って駄目だったら右の尾根に逃げる予定はしていた。

概念図



参加者

村松(L)、清家、外崎、武内、北川、小川誠、千葉、佐藤健、村松峯、桐生、坂巻
男6名、女5名、計11名



棚の入り山から赤鞍ヶ岳



棚の入り山には無生野に下る道標はしっかりとあるのだが…

斧窪御前山 (523m)

瀬田映子

山頂は、周囲の眺めが想像以上に良くて、また来たい山！

山行前日少量の雪が降ったので心配しながら当日の朝を迎えた。当日は雪もやみ積雪もなく晴天の中での山行となった。しかし、高尾をすぎると、車窓からの景色は一面薄い雪化粧に変わった。梁川駅に着くと、ホームから下り方面のトンネルの上に薄い雪化粧をした斧窪御前山が見えた。雪は少しあるがアイゼンは使用しないで出発する事になった。

トイレの脇から狭いトンネルの線路下をくぐって裏手に出た。中央高速道のトンネル上部の斧窪御前山をめざして進む道路は、雪と氷で足元が滑りやすくなっている。ゆっくり滑らないように慎重に歩いた。中央本線の線路に沿って登山口まで20分程歩く道のり、民家の庭先は、雪で白い花が一面に咲いているように見えた。

登山口から太田峠まではシノダケの道。雪の重みでシノダケが倒れ登山道をふさいでいた。ストックでシノダケを払いのけると弾みで雪が撥ね返り体中に舞い散る。シノダケを払いのける度に体中に落ちる雪のあまりの冷たさに「冷たい！！」と奇声をあげながら歩いた。



笹の雪道

概念図

太田峠より先は、二人一組になり先頭を交代しながら進んだ。笹藪のなか、道がわかりやすいところは、道なりに行き、わかりにくくなったら目印（赤テープ）を探しながら進む。白い雪の中、宝探しのように目印の赤いテープをみつけると「赤いテープみつけ！」と童心に帰ったように大声を上げながら歩いた。

凹んだ山腹を下って行く途中に、黄色くて可愛らしい小さな花を見つけたが、花の名前は分からなかった。すぐに明瞭な尾根となり40号鉄塔に着いた。この付近では、青い空の下に白い雪をかぶった雄大な富士山が大きくはっきりと見えた。ここで富士山を背景に1回目の記念撮影「ハイポーズ」。

急登をしばし登りヨソ木山の山頂に着いた。展望が良く、ここで待ちに待った25分の昼食タイム。昼食を終えヨソ木山で左折しわずかに下るとかなりの急斜面、雪で地面が滑りやすくなっているので慎重に下る。藪を分けながら急登して行くと、小広い斧窪御前山山頂に着いた。三等三角点標識とテレビアンテナが建っていた。山名票には

「釜窪御前山」が「斧窪御前山」に訂正されていた。晴天のため山頂からの眺めは最高！低山ながら中央沿線の山々や、すばらしい展望が広がっていた。ここで2回目の記念撮影「ハイ、ポーズ」。頂上の眺めをしばし満喫して下山にかかる。下山口を通り、朝来た道を戻ると中央本線の線路沿いの左下に、今朝は雪でかくれて見えなかつた産廃が放置されていた。私有地なのか見た目はかなり汚くがっかりした。しかし、民家の庭先に咲いていた雪の花々は雪がとけいろいろなつぼみの花をみせてくれた。「あ！これ梅の花だったの！」等々、同じ場所なのに今朝とは違う風景に何度も感動しながら歩いた。

途中下車をして、昇龍での反省会、タンメンと大きな餃子を前に乾杯！」・・ご苦労様

今回の斧窪御前山は、山頂での展望が想像以上に良く、冬晴れの非常に充実した山行でした。また来てみようかなあと思う山でした。リーダーをはじめ皆さんに感謝致します。有り難うございました。また、これからもいろいろな山行に参加させていただき、多くの事を学びたいと思います。宜しくお願ひします。

概要

山名	斧窪御前山		
月日	平成 21 年 1 月 25 日(日)		
山域	中央線沿線	地形図 1/2.5 万	上野原
形式	日帰り	グレード	1 B
目的	藪尾根に挑戦		
費用	約 2,300 円	交通機関	J R
行程	我孫子 6:32 → 西国分寺 7:50 → 高尾 8:14 / 8:20 → 梁川駅 8:45 / 9:00 ⇒ 登山口 9:22 大田峠 9:40 / 9:50 ⇒ 39 号鉄塔 10:45 / 10:50 ⇒ 40 号鉄塔 11:00 / 11:05 ⇒ ヨソ木山 11:20 / 11:45 (昼食) ⇒ 4 号鉄塔 12:30 ⇒ 斧窪御前山 13:00 / 13:20 ⇒ 下山口 13:45 ⇒ 梁川駅 14:09 / 14:26 → 高尾 14:52 / 15:04 → 神田 15:58 / 16:01 → 御徒町 16:05 / 17:00 (反省会昇龍) → 上野 17:24 → 我孫子 18:00		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・梁川駅、トイレの脇から線路下をくぐって北側に出る。(見落としやすい) ・大田峠、特に目印はない。眺望のない峠で、北面(左)に向かう踏み跡が一転して薄くなる。 ・ヨソ木山からの進路がわかりにくい。送電鉄塔の手前から南東へ向かう。枝葉につかまりながら斜面を横切り、南の尾根に出る。 		
参加者	中村八(L)、中村隆(SL)、細野清、細野省、日下、小川誠、高橋芳、箕輪完、箕輪力、瀬田、本田、矢野裕 男 5 名 女 7 名 計 12 名		



<618>県連ロングハイク

とみやま水仙遊歩道・石尊山 (348m)

斎藤 清一

ロングコース（23キロ）歩きと親睦

1日目（1月31日）雨

昨日からの雨と風まだ続く。我孫子駅北口にて、岳人あびこ8名、かがりび山の会2名、松戸山の会2名が松戸からの貸切バスを待つ。定時に鎌ヶ谷へ向かったが、車中の参加者はそれぞれの顔本日の天候と同じようだ。本日の山行はあきらめて明日のロングハイクに思いに馳せているメンバ一達の面々も多かった。

鎌ヶ谷で本日のバスでの参加者を乗せて走り出す頃からは空も明るくなりだしてきた。市原SAにて、ハイキング委員で本日の山行の御殿山を決行するか協議したが、バスで登山口まで飛ばし山の中を巡り七里川温泉へ予定より早めに到着することを決める。

鋸南富山ICを出て、道の駅でトイレ休憩タイムの間「とみやま水仙遊歩道」の案内板を眺めていた当会のTさんの提案でハイキング委員長が同意する。

今にも雨が落ちてくるかもとの雨空の下、竹林を抜け畑を両脇に見ながら上り詰めて行くと一面に広がる水仙と紅梅があちらの木こちらの木と咲き早春の香りが漂ってきた。山からの雨水が濁流となって流れている有様には驚かされた。急な階段を登って行くとベンチがあり観光客は一服するところだろう。



この水仙は農家で栽培しているもので採らないでください。との案内がある。蜂の巣箱があちらこちらに置いてあった。東北、北海道の養蜂家が房総の農家と契約して冬から春まで蜂の巣箱を置き、蜂の子育てと巣作りの為越冬させるとのテレビ放送を思い出した。お稲荷さんを拝み展望所に着く。更に進むと「嶺岡中央林道」にでるが水仙の中の坂道を下る。杉林を通り竹林を抜けてイチジク畑に出て駐車場に向かう90分の歩きで皆さんのが顔は水仙ロードを登ったことに満足げであった。

バスは「御殿山の登り口」、過去のロングハイクの山々「富山」「伊予ヶ岳」の登り口を通過、七里川温泉・沖津屋に着く。過去のロングハイクでは温泉に浸ることが少なかったので早めに着いたことを幸いに昨年増設された男性用露天風呂2つに入ることが出来た。

5時30分からのオリエンテーションは電車組を併せて50名の参集となった。各山の会の参加者との懇親会で友情を深め楽しい思い出つくりが出来た。小川さんが上総亀山より到着後ビンゴゲームに参加者が一機一憂胸を振るわせた。



とみやま水仙遊歩道 房総は春…自生の大群落と二分咲きの白梅。

2日目（2月1日）曇りのち快晴

1班から5班の編成で「岳人あびこ、かがりび山の会 計10人」が真ん中の3班となり無線で前後の状況報告をリーダーにする役目を仰せつかる。

暗闇の中1班から出立つを始める。3班「発ちま～す。」と大声をあげる。ほどなくして「4班 発ちま～す。」が聞こえてきた。朝5:20分頃からの「ちまき風」の朝食を頬張ったためかごろごろ腹の中を這いめぐっている気分を感じながら緩やかな坂道を登って行く。

尾根道にさしかかった頃東の空が明るくなってきた。いつものロングハイクでは富士山が海の彼方に見えるのであるが今朝は霞がかかっていて望むことが出来なかった。明るくなるにつれ山々と深い谷、谷を見ながらの尾根歩きが続く。一昨日からの風雨で枯れ木、枯れ枝が山道のあちこちに散乱していた。また倒木も見られた。

本日の目的地の一つ石尊山が近づく一気に上り詰めると先発隊が山頂で写真をうつしていた。後方に山頂が詰まっていることを伝達、一時立ち休憩！



房総の大木「もみ次郎」

三角点と祠を見つつ「われ等もハイポーズ」。石尊山から麻綿原への道中筑波山が展望が出来た。筑波山の前にビル群が聳えている。どこのビル群だろう！ 前方から蘇我のエリアだと声がかかる。

樅次郎、樅太郎と太く大きな大木である。カメラの枠に入らないとのため息が漏れる！ 目の前が開けた麻綿原高原に到着。外房の海がきらきらと輝いている快晴だ。アジサイのドライフラワー？があちこちに。

天拝園を通過後1班から5班の再確認をする。ゲートを開き長い緩やかな道を清澄寺へと向かう。清澄寺には3ヶ所のトイレがあることを知らせ昼食は昨年と同じ駐車場あたりだろうと予定変更もありうることを話す。腹が空きだしたよう

だ！ そのとおりになる。

黒門の脇のゲートを開き郷台林道に入る。郷台林道の展望台付近から雪をかぶった青空に富士山が美しい姿を見ることが出来た。なんと美しい。暫くは富士山の光景も共に歩いてくれた。



房総の連山の向こうには真っ白な富士山が……

元清澄山入り口は昨年のコース。今回はゲートを開いて初のコースへ、東大作業所でトイレ休憩を取る。作業所は本日は休みであるが平日の作業に一部として木材用品を作っているようである。

2年前に行なわれた紅葉狩りのコース猪川林道と向かう。林道を塞ぐように倒木が覆っていた。男性数名で枝きりをして谷に排除して応急者を通す。

前方で大きな物音がする猪が罠にかかっている。今にも罠から逃れて猪が斜面から駆け下りてくる勢いでもがいている。2班の女性達は走り出した。この光景を目の前にして3班の男性たちは用心しながら素早く進む！後方に無線で知らせる。

猪罠か檻があちこちにかけてあり又「要注意猪の罠有り」の注意書きもあちこちに張ってある。50メートル程の隧道を通過するが暗闇に入るが前方の明かりが見えるのであるが歩みが遅くなる。

大きなものが倒れている。鹿だ！鹿が林道に倒れて死んでいた。一昨日からの強風に枯れ枝と倒木、落石と土砂崩れ鹿も足を滑らして滑落したのだろうか！

幾つかの隧道を通過して猪川沿に歩く黒滝の滝は水が豊富でカメラのシャッターチャンス！ 予定通り 15:00 時バス停に到着 一路我孫子へお疲れ様でした！

概要

山名	とみやま水仙遊歩道・石尊山			
月日	平成21年1月31日(土)～2月1日(日)			
形式	旅館泊	グレード	3A	
山域	房総	地形図	上総中野、坂畠、安房小湊、安房古川、金束 1/2.5万	
目的	ロングコース歩きと親睦			
費用	10,000円	交通機関	貸切バス	
行程	1日目	我孫子駅北口 6:50 → 鎌ヶ谷市役所 7:17/7:34 → 市原 SA8:32/8:54 → 道の駅 9:50/10:45 道の駅富楽里とみやま ⇒ 水仙遊歩道入口 11:02 ⇒ お稻荷様 11:17 ⇒ 展望台 11:21 ⇒ 水仙歩道出口 11:45 ⇒ 道の駅富楽里とみやま 1:55/12:10 → 七里川温泉沖津屋 13:20 17:20 ガイダンス <歩行時間：1時間10分>		
	2日目	七里川温泉 5:56 ⇒ 石尊山 6:34/6:40 ⇒ 麻綿原高原 9:34/10:05 ⇒ 清澄寺（昼食）10:55/11:30 ⇒ 見晴台 12:00/12:10 ⇒ 元清澄山入口 12:49/12:57 ⇒ 郷台作業所 13:21/13:40 ⇒ 猪ノ川林道 ⇒ 黒滝 14:25 ⇒ 折木沢 15:00 ⇒ 駐車場 15:06/15:14 ⇒ 市原 SA16:49 ⇒ 鎌ヶ谷市役所 18:20 ⇒ 我孫子駅北口 18:50 <歩行時間：8時間11分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 東大演習林の林道は整備されているが昨夜からの強風と雨で枯れ木の枝が林道に落ちていた。 東大円演習林に入るには事前許可を受けなければならない。今回は3ヶ所のゲートをくぐった。 			
参加者	大串秀(L)、大串恵、斎藤、榎原、高橋芳、松本(SL)、小川誠、石垣 男5名 女3名 計8名			

概念図



麻綿原で一休み



<619>

伊豆ヶ岳東尾根
(850m)

堀口昭二

「人気の山に静かな道をたどる」と言う事で、久しぶりの会山行に参加しました。

西吾野駅に降りたつと、奥武藏の山々の基点となるだけあって、数組のパーティーが駅前の広場にて準備体操をして身体を解していた。寒風に見舞われるが、それ程の寒さが感じられないで衣服を一枚脱ぎ、準備体操・リーダーの指示により行動に移る。

駅から国道に出て東に進むと、右手に本陣山への表示が出て迷う事なく山道に入る事が出来た。樹林帯に入ると踏み後がハッキリしなくなり、谷に沿って進みルートファインディングをしながら下久通町の県道に出て、琴平神社に向かう。

神社にて休憩を取りながら、自分は靴の紐の緩まない結び方を教わり得した。その後、本当に紐が緩まなかった。有難う。

琴平神社奥の院の左手をしばらく行くと急登になる。地形図ではナダラカな尾根道のように読み取れたが、やはり距離的に短い所は地図では表示し切れないと思う。強風を避けながら、短時間の休憩を取り 542m・670mと思われる地点を通過して、伊豆ヶ岳直下にて直登と迂回するパーティーに別れて頂上を目指す。直登パーティーは頼りないロープに沿って進むが足場が悪く、脆い岩・木の根を頼りに頂上にひょっこり飛び出した。迂回パーティーの出迎えを受ける。相変わらず、強風の為、頂上での記念撮影を済ませて下山にかかる。下りで足に筋肉痛を訴えた人が出たがパーティーの援助で無事歩行して完登する事が出来ました。

人の入らない登山道と言う誘いで参加してみたが、12名もの出会い、初対面がありと、多人数の入る登山道に変化した。アイゼン歩行の研修に成っていたが、あいにくと雪が無い為に、アイゼンワークに変更するとの事でしたが、強風の為、それも無理と判断され中止になる。計画に変化は付きもので良し、ルートも変化に富んで良し、強風体験も良しと言う事で、楽しい山歩きが出来た事に感謝します。

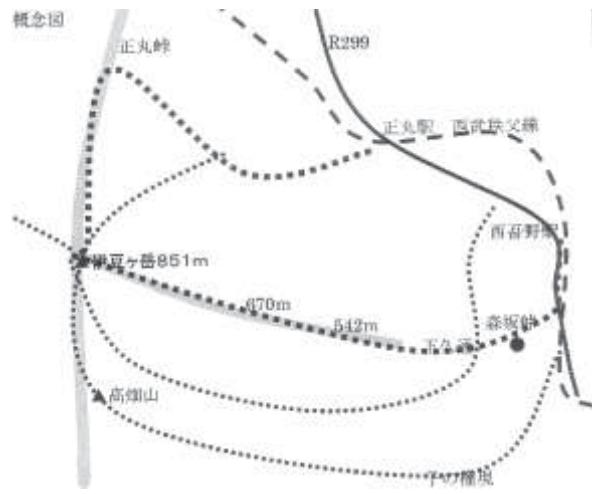
そしてリーダーの参加者への配慮の姿勢に感服しました。私も、今後の自分の山行の教訓にさせ

て戴きます。

2年間会長職ご苦労様でした。

概要

山名 伊豆ヶ岳			
月日	平成21年2月8日(日)		
山域	奥武藏	地形図 1/2.5万	正丸峠
形式	日帰り	グレード	2B
目的	1. 人気の山に静かな道をたどる。 2. (研修) アイゼンを付けて雪道を歩く。		
費用	2500円	交通機関	電車
行程	我孫子駅上野行快速 6:01→日暮里→池袋 6:49/7:04(西武池袋線)→(飯能直通)→西吾野駅 8:22/8:45⇒森坂峠 9:25⇒下久通 9:40⇒琴平神社 10:00⇒542m峰 10:30⇒670m峰 11:05/11:25(昼食)⇒伊豆ヶ岳 850m 11:55/12:10⇒正丸峠 13:45⇒大蔵山 14:15⇒正丸駅 14:40/14:55→飯能 15:31/15:53→所沢→秋津 16:29 (反省会) 新秋津 18:26→新松戸 19:14/19:22→我孫子 19:36 天気:晴れ、強風<歩行時間: 5時間>		
ルート状況	・駅から駅へ辿るコースで、バスの時間に拘束されないので気楽である。 ・地図にないルートなので人に会うこともまれなコースである。当日も頂上まで一人も逢わなかった。 ・一部踏み跡が薄く、急斜面では道なき道をよじ登ることもあり、コンパスをにらみながらのルートファインディングが必要。 ・頂上直下の崖登りにチャレンジ、岩やトラロープを頼りに登攀達成。特に5人のお転婆娘たちには脱帽。まき道もあるが斜面がきつく滑りやすい。 ・残雪を想定して軽アイゼン歩きの研修を予定していたが、雪は全くなく研修できなかつた。(本音) 雪がなくてよかった。されば大変ハードなコースであつ		
参加者	中村隆(L)、細野清、細野省、外崎、高橋英(SL)、原田君、小川誠(救護)、堀口、桐生、坂巻、矢野裕、斎田(ゲスト) 男6名、女6名 計12名		



崖をよじ登ればそこはもう頂上である。



伊豆ヶ岳山頂にて

< 6 2 0 >

金時山
(1213m)

坂口よしえ

アイゼン歩行ならず・・・

新宿西口 7:00 発の小田急高速バスで乙女峠バス停まで 2 時間弱で到着。乗り換えもなく乗ったままで現地まで運んでくれて快適。おまけにトイレつきなので安心だ。帰りもバスを利用できると有難いのだけれど、夕方は高速が混んで時間の予測がたたないので電車で帰るしかないのが残念。

途中バスの中からも見えていた富士山が乙女峠のバス停からもその全容を現している。青空の中、裾野までくっきりと見えている。乙女峠の登山口は富士見茶屋と道路を隔てて反対側にある。

日の当たらない樹林帯の道を進む。地面がカチカチに凍って左右の土の斜面には長い長い霜柱がたくさん出来ている。少し登って行くと展望が利くようになり、再び富士山が姿を現してくれた。

乙女茶屋のところの展望台で記念撮影。ここからは、日があたって霜柱が溶けかけ若干ぬかるみのようになっている。まだ、時間が早いのでそれほどでもないが、午後になるとどろどろの泥濘道になっていることだろう。

長尾山を過ぎると登山道は再び樹林の中を行く。起伏もあり木の根を超えていく急な斜面ありで、なかなか変化に富んでいて面白い。

頂上には、多くの人が休んでいた。日射しは暖かいのだが、風はとても冷たい。しばし、思い思いに休憩をとり矢倉沢峠への登山道を下る。霜が溶けて泥濘の道が続くのが少々鬱陶しいが危険な箇所はなく安心して歩ける。

金時登山口バス停に1時間ほどで到着。バスを乗り継いで、温泉会館で富士を見ながら入浴、そしてささやかに反省会。

本来なら教育研修山行（アイゼン歩行）となるはずでしたが雪ではなく、せっかく持ってきていただいたいアイゼンも日の目を見ないままだったのが本当に残念でした。例年なら雪が積もっているはずなのに。やはり、地球温暖化の影響なのでしようか。

バスや電車を乗り継いで我孫子をめざして帰路につきましたが、帰り道はそれはそれは長く、箱根はやっぱり遠いのだと実感しました。

概念図



概 要

山名	金時山		
月日	平成21年2月22日(日)		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	箱根	地形図 1/2.5万	御殿場・関本
目的	富士山展望 教育研修(アイゼン歩行)		
費用	約5,000円	交通機関	高速バス JR
行程 & ルート	<p>我孫子 5:31 → 日暮里 6:02 / 6:07 → 新宿 6:27 / 7:00 (高速バス) → 乙女峠 8:57 登山開始 9:10 ⇒ 展望台 9:50 / 9:55 ⇒ 長尾山 10:20 / 10:30 ⇒ 金時山 H1213m 11:10 / 11:50 (昼食) ⇒ 分岐 12:13 ⇒ 矢倉沢峠 12:30 ⇒ 仙石の一般道路に出る 12:53 ⇒ 金時山登山口 13:00 登山口バス停 13:15 → 温泉会館 13:35 / 15:00 (入浴と反省会) / バス発 15:36 → 御殿場 15:47 / 16:21 → 新松田 16:44 / 16:54 → 代々木上原 18:13 / 18:15 → 我孫子 19:26 (解散)</p> <p>晴れ <行動時間 3時間50分 内、歩行時間 2時間55分、休憩時間 55分></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 良く登られていてはっきりとした登山道 上部に急傾斜の岩稜帯あり 朝早くは地面が凍って滑りやすい個所あり、陽があたった後はぬかるみ状態 		
参加者	坂口(L)、清家(SL)、細野清、細野省、外崎、日下、原田君、原田和、坂巻、本田 男4名、女6名 計10名		



金時山から大きな大きな富士山



富士山を背景に、金時山頂上にて

乙女峠展望台にて



資料

推移グラフ（1996年～）

山行一覧表（2007年）

活動の記録（1996年～）

山行索引（1996年～2009.2）山名

活動の記録

その1

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996年 平成8年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
	10	12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
	11	12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
1997年 平成9年	1	7 市民プラザ	21 市民プラザ	
	2	12 市民プラザ	25 市民プラザ	
	3	11 市民プラザ	25 市民プラザ	
	4	6 市民プラザ	22 市民プラザ	
	5	7 市民プラザ	27 市民プラザ	
	6	14 市民プラザ	24 市民プラザ	
	7	5 市民会館	22 市民プラザ	
	8	9 市民プラザ	26 市民プラザ	
	9	6 市民プラザ	6, 19 市民プラザ	
	10	4 寿市民センター、	21 市民プラザ	
	11	8 市民プラザ	28 市民プラザ	
	12	13 市民プラザ	16 市民プラザ	
年	月	行 事	場 所	内 容
1997年 平成9年	1	11-13 雪崩講習会	谷川岳	県連（川名、清家、坪井参加）
	1	15 岩トレ	天覧山	
	2	15 公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2 公開ハイキング及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16 公開ハイキング	石老山	一般40名参加
	3	26 新入会員決定通知		23名入会
	4	1 臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
	4	6 第2回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	13 新人装備購入ツアー	カモシカ	6名参加
	4	20 新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1 千葉県清掃ハイキング	養老渓谷	県連
	6	14 新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	6	21-22 救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28-29 登山交流集会	船橋	県連
	7	5 新人研修会	市民会館	歩き方
	7	5 納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	1 秋の公開登山参加者募集	市民広報掲載	
	10	4 新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10-11 1周年記念山行	尾瀬集中登山	3コース
	10	19 公開登山説明会		
	10	25-26 公開登山	丹沢主脈縦走	
	11	4 雪崩机上講習会		県連
	12	7 忘年山行		
	12	20-21 クリスマス山行	笠取山	

活動の記録

その2

年	月	定例集会	運営委員会	備考
1998年 平成10年	1	10市民プラザ	20市民プラザ	
	2	11市民プラザ	17市民プラザ	
	3	14市民プラザ	17市民プラザ	
	4	5市民プラザ	21市民プラザ	
	5	9市民会館	26市民プラザ	
	6	13市民会館	23市民プラザ	
	7	11湖北台近隣センター	21市民プラザ	
	8	8市民プラザ	19市民プラザ	
	9	5市民会館	18市民プラザ	
	10	3湖北近隣センター	20市民プラザ	
	11	7湖北近隣センター	24久寺家通り会館	
	12	12市民会館	22市民プラザ	
年	月	行事	場所	内容
1998年 平成10年	1	10臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
	1	18新年山行	鐘撞堂山	
	2	10臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8公開登山	扇山	
	4	5第3回総会	市民会館	
	4	5新人研修	市民会館	ガイダンス、日帰り装備
	4	26新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2-5ゴーラーデンハイク合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
	5	24リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	7新人研修	伊豆ヶ岳	ロープワーク、三点確保
	6	9救急法机上講習会	県連	
	7	11岳人祭	湖北台中央公園	
	7	11新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8臨時運営委員会	市民プラザ	ハイキング部、ランニング制
	8	5新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10-11公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
	11	8機関紙発行者交流集会	柏	県連主催(中村出席)
	12	6忘年山行	裏筑波山	
	12	19-20クリスマス山行	甲武信岳	

年	月	定例集会	運営委員会	備考
1999年 平成11年	1	9市民プラザ	9, 26市民プラザ	
	2	13市民プラザ	23市民プラザ	
	3	13湖北台近隣センター	17, 27市民プラザ	
	4	4市民会館	20市民プラザ	
	5	8市民プラザ	25市民プラザ	
	6	12湖北台近隣センター	22市民プラザ	

活動の記録

その3

7	10	五本松公園	21	市民プラザ		
8	7	市民プラザ	24	市民プラザ		
9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ		
10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ		
11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ		
12	11	市民会館	21	市民プラザ		
年	月	日	行 事	場 所	内 容	
1999年	1	10	新年山行	鐘撞堂山		
平成11年	1	30-31	房総ロングハイキング	房総	県連主催	
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報		
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ		
	3	13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター		
	4	4	第4回総会	市民会館		
	4	5	新人研修	市民会館	ガイドソス、日帰り装備	
	4	18	新人歓迎山行	大鹿山、笛子雁ヶ腹摺山		
	5	1-4	ゴーランハイク合宿		雪山	
	5	22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”	
	5	23	登山学校開校式		県連主催（安田）	
	5	30	リーダー研修	岩山（鹿沼）		
	6	5-6	公開登山実施	両神山	一般13名、会員20名	
	6	13	新人研修	本社ヶ丸・鶴ヶ鳥屋山、高畠山		
	7	~2000/6	誌上「岳人あびこ登山教室」12回	《やまたん》	講師：村松敏彦（リーダー部長）	
	7	10-11	岳人祭	五本松公園	グレン作戦、テント講習、宴会、テント泊	
7	10	新人研修	五本松公園	テント講習他		
7	21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		96/10~98/12		
10	2	「ブナの山旅」講演会（公開）	湖北台近隣センター	講師：坪田和人氏		
10	3	岡発戸・都部の谷津を探勝	我孫子市内			
10	24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山		
11	13-14	新人研修山行	丹沢主脈縦走			
12	5	忘年山行	百蔵山			
12	23-25	クリスマス山行	甲武信岳一金峰山			
	12/28-1/5	海外トレッキング（県連主催）	ネパール	外崎、細野清参加		

年	月	定例集会	運営委員会		備考
2000年 平成12年	1	11 市民プラザ	21	市民プラザ	
	2	5 市民プラザ	6. 18. 26	市民プラザ	
	3	5 湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	4	8 市民プラザ	18	市民プラザ	
	5	10 湖北台近隣センター	23	市民プラザ	
	6	10 市民会館	20	市民プラザ	
	7	12 湖北台近隣センター	18	市民プラザ	
	8	9 市民プラザ	22	市民プラザ	
	9	9 五本松公園	26	市民プラザ	
	10	11 市民プラザ	24	市民プラザ	
	11	11 湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	42	9 市民会館	19	市民プラザ	

活動の記録

その4

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2000年 平成12年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	1	23	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：安田みづほ
	1	29-30	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	5	5周年記念山行実行委員会	湖北台近隣センター	
	2	5	会員募集説明会	湖北台近隣センター	
	3	5	第5回総会	湖北台近隣センター	
	3	5	新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	26	新人歓迎山行	浅間嶺	
	4	8	5周年記念山行実行委員会	市民プラザ	
	4	15	登山学校開校式	県連主催	榊原、大串（恵）
	5	3-6	ゴーラーデンソウイク合宿	浅草岳・守門岳	雪山
	5		ホームページ開設		H P担当 川下
	5	20	公開登山説明会	市民プラザ	”雲取山”
	6	3-4	公開登山実施	雲取山	一般14名、会員17名、計31名
	6	17-18	リーダー研修	丹沢	
	6	1999/7~	誌上「岳人あびこ登山教室」12回終了	《やまたん》	講師：村松敏彦（リーダー部長）
	7	2	新人研修	岩山	
	8	~2001/7	「楽しい登山学」（机上講習会）開始	《やまたん》	講師：柴 勇（登山部長）
	9	9-10	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、テント講習、懇親、テント泊
	11	11-12	新人研修山行	塔ノ岳-鍋割山	
	12	3	忘年山行	倉岳山	
	12	23-24	クリスマス山行	安達太良山	

年	月	定例集会		運営委員会	備 考
2001年 平成13年	1	10	市民プラザ	19 市民プラザ	
	2	7	市民プラザ	16, 24 市民プラザ	
	3	4	湖北台近隣センター	21 市民プラザ	
	4	7	市民プラザ	17 市民プラザ	
	5	9	湖北台近隣センター	22 市民プラザ	
	6	6	市民プラザ	19 市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣センター	17 市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	21 市民プラザ	
	9	9	アビイホール	25 市民プラザ	
	10	13	湖北台近隣センター	23 市民プラザ	
	11	7	湖北台近隣センター	20 市民プラザ	
	12	8	市民会館	18 市民プラザ	
年	月	日	行 事	場 所	内 容
2001年 平成13年	1	14	新年山行	石老山	5周年記念山行富士周辺スタート
	1	21	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：榊原、大串（恵）
	1	27-28	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	18	会員募集説明会	市民プラザ	
	3	4	第6回総会	湖北台近隣センター	
	3	4	新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	18	新人歓迎山行	越前岳（富士）	
	4	14-15	登山学校開校式	県連主催	受講者：川下

活動の記録

その5

5	2-5	春山合宿	大笠山・笈ヶ岳	雪山
5	19	公開登山説明会	湖北台近隣センター	”巻機山”
6	9-10	公開登山実施	巻機山（越後）	一般13名、会員24名、計37名
7	2000/8~	「楽しい登山学」(机上講習会) 終了	《やまたん》	講師：柴 勇（登山部長）
1~7月		5周年記念富士周辺シリーズ		14回
8	18-19/25-26	5周年記念山行	富士山	4コース
8		山行文集やまなみ 第2号の発行		平成11年1月～平成12年2月
9	9	創立5周年記念講演会	アビイホール	講師：田部井淳子、坪田和人
10	13	岳人祭	湖北台近隣センター	クリーン作戦、文化祭、5周年祝賀会
10		五周年記念山行文集「富士山と富士周辺の山々」の発行		平成13年1月～平成13年8月
12	2	忘年山行	助川山（常陸）	
12	23-24	クリスマス山行	木曾駒ヶ岳	
山技術講習 (集会時)	年	月	日	No. 項 目 講 師
	01	4	7	1 ウォーキング技術 村松、柴、清家
	01	6	6	2 救急処置法 外崎、清家
	01	11	8	3 山で遭難しないために ビデオ
	02	1	9	4 ストックの使い方 清家
	02	2	6	5 アイゼンとピッケルの使い方 柴

年	月	定例集会	運営委員会		備 考
2002年 平成14年	1	9 湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	2	6 市民プラザ	17、23	市民プラザ	
	3	10 湖北台近隣センター	20	市民プラザ	
	4	6 市民プラザ	16	市民プラザ	
	5	8 アビ스타	19	市民プラザ	
	6	6 湖北近隣センター	18	市民プラザ	
	7	10 市民プラザ	16	市民プラザ	
	8	7 アビ스타	20	市民プラザ	
	9	11 湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	10	19 五本松公園	22	市民プラザ	
	11	9 アビ스타	19	市民プラザ	
	12	5 湖北近隣センター	17	市民プラザ	
年	月	行 事	場 所	内 容	
2002年 平成14年	1	26-27 房総ロングハイキング	房総	県連主催	
	2	17 会員募集説明会	市民プラザ		
	3	10 第7回総会	湖北台近隣センター		
	3	10 新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備	
	3	24 新人歓迎山行	八溝山		
	5	3-6 春山合宿	鹿島槍ヶ岳	雪山	
	5	19 公開登山説明会	湖北台近隣センター	”安達太良山”	
	6	9 公開登山実施	安達太良山	一般29名、会員32名、計61名	
	6	7 ウィズハイク実行委員会	アビ스타		
	8	山行文集「やまなみ」第3号発行		平成12年3月～平成13年2月	
	9	28 ウィズハイク実施	(鋸山)	雨のため「大洗水族館」に変更	
	10	19-20 岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、講演会、実技研修、懇親、テント泊	
	12	8 忘年山行	加波山		

活動の記録

その6

	12	22-23	クリスマス山行	会津朝日岳	
登山技術講習 (集会時)	月	日	項目	講 師	
	8	7	ウォーキング技術	村松(敏)	
	10	19	講演会 最近の山の道具について	よしき店主 吉野清氏	
	10	19	テントの張り方、ロープワーク	リーダー部	
	12	4	山行計画の立て方	細野(省)	
	1	8	山の料理	清家	

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議		備 考
2003年 平成15年	1	8市民プラザ	21	市民プラザ	
	2	8アビ스타	16, 22	アビ스타、市民プラザ	
	3	9湖北台近隣センター	18	市民プラザ	
	4	9市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7アビ스타	18	市民プラザ	
	6	5湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	7	9市民プラザ	15	市民プラザ	
	8	6アビ스타	19	市民プラザ	
	9	4湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	10	4湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	11	5アビ스타	18	市民プラザ	
	12	3アビ스타	16	市民プラザ	
年	月	行 事	場 所	内 容	
2003年 平成15年	1	25-26房総ロングハイキング	房総	県連主催	
	2	16会員募集説明会	アビ스타		
	3	9第8回総会	湖北台近隣センター		
	3	9新人研修	湖北台近隣センター	ハイキング、日帰り装備	
	3	30新人歓迎山行	奥久慈男体山		
	5	2-5春山合宿	白馬岳	雪山	
	5	18公開登山説明会	湖北台近隣センター	赤城山	
	6	1公開登山実施	赤城山	一般33名、会員34名、計67名	
	9	27 ウィズハイク実施	鋸山		
	10	4-5岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、救急法講習会、懇親、テント泊	
	12	7忘年山行	足和田山		
	12	20-21クリスマス山行	和名倉山		
教育研修	月	机上研修	実技研修		
	3	山行の申し込み方、装備の点検	岩山	岩登り基礎。	
			奥久慈男体山	山のマナー、パッキングの仕方	
	4	地図の読み方、コンパスの使い方	モミゾ・源次郎沢	沢登り基礎。	
			百蔵山	地図読み山行	
	5	筋肉痛と水分補給	岩山	三点確保	
	6	楽しい山行計画の立て方			
	7	雷にあったら、蜂に刺されたら	黒姫山	テント泊体験	
	8	三角巾の使い方			
	9	心臓蘇生法	白笹・南月山	地図読み山行	
	10	心臓蘇生法 実技			
	11	山での歩き方	日和田山	ストックの使い方	

活動の記録

その7

12		足和田山	山での食事の作り方
12	山行計画作成（新人卒業山行）	安達太良山	冬山基礎、わかん、ピッケル。轟山の地図読み
2		笛尾根	冬山体験。新人の卒業山行

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備考
2004年 平成16年	1	7 アビ스타	14, 20 市民プラザ	
	2	5 湖北台近隣センター	15. 21 アビ스타、市民プラザ	
	3	7 湖北台近隣センター	16 市民プラザ	
	4	7 アビ스타	13 市民プラザ	
	5	7 アビ스타	18 市民プラザ	
	6	9 湖北近隣センター	15 市民プラザ	
	7	7 アビ스타	13 市民プラザ	
	8	4 アビ스타	17 市民プラザ	
	9	8 アビ스타	14 市民プラザ	
	10	6 アビ스타	19 市民プラザ	
	11	10 湖北近隣センター	16 市民プラザ	
	12	8 湖北近隣センター	12, 14 アビ스타、市民プラザ	
年	月	行事	場所	内容
2004年 平成16年	1	24-25 房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	15 会員募集説明会	アビ스타	
	3	7 第9回総会	湖北台近隣センター	
	3	7 山行文集「やまなみ」第4号発行		平成13年3月～平成15年2月
	3	7 新人研修	湖北台近隣センター	ガーデン、日帰り装備
	3	28 新人歓迎山行	足利行道山	
	5	2-4 春山合宿	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	雪山
	5	8 登山教室（机上）	市民プラザ	受講生7名参加
	5	23 公開登山説明会	市民プラザ	会津磐梯山
	6	6 公開登山実施	会津磐梯山	一般16名、会員34名、計50名
	6	12 登山教室（実技）	岩山	受講生5名、会員（講師）3名、計8名
	7	10 登山教室（机上）	市民プラザ	受講生5名参加
	9	11 登山教室（実技）	三頭山	受講生5名、会員（講師）2名、計7名
	10	2 登山教室（机上）	市民プラザ	受講生3名、新人1名参加
	10	23 ウィズハイク実施	鹿野山（マザー牧場）	福祉作業所16名、会員18名
	12	5 忘年山行	鳥場山	
	12	25 - 26 クリスマス山行	和名倉山	
	1	16 岳人祭	湖北台近隣センター	講演会（講師：谷口けい）、懇親
教育研修	月	机上研修	実技研修	
	3	山行の申し込み方、装備の点検	行道山	山のマナー、パッキングの仕方
	4	地図の読み方、コンパスの使い方	九鬼山	地図読み山行
			モミゾ・源次郎沢	沢登りを楽しむ。
	5	山の歩き方	赤ぼっこ	山の歩き方。ストックの使い方
	6	中高年の体力低下。日常のトレーニング	玉原高原	ブナを訪ねて
			南八ヶ岳	岩稜歩き
	7	山歩きの食事、十分な水分をとる	霞沢岳	山での食事（テント）
	8	基礎的な天気図の見方。観天望氣	背戸蛾廊	三点確保
	9	楽しい山行計画の立て方		

活動の記録

その8

10	地図の読み方、コンパスの使い方		
11		矢倉岳	地図読み山行
12	山の道具の使い方	鳥場山	行事山行時の食事の作り方
		金峰山	雪山を楽しむ
1	有効なストレッチ	鳴虫山	雪山の基礎

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議		備考
2005年 平成17年	1	16 湖北台近隣センター	18	市民プラザ	
	2	9 アビ스타	13, 19	アビ스타、市民プラザ	
	3	6 湖北台市民センター	15	市民プラザ	
	4	6 アビ스타	12	市民プラザ	
	5	11 アビ스타	17	市民プラザ	
	6	9 湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	7	6 アビ스타	12	市民プラザ	
	8	3 アビ스타	16	市民プラザ	
	9	6 湖北近隣センター	13	市民プラザ	
	10	12 アビ스타	18	市民プラザ	
	11	12 湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	12	8 湖北近隣センター	13	アビ스타	
年	月	日 行 事	場 所	内 容	
2005年 平成17年	1	29-30 房総横断ロングハイキング	房総	県連主催	
	2	13 会員募集説明会	アビ스타		
	3	6 第10回総会	湖北台市民センター		
	3	6 新人研修	湖北台市民センター	ガイダンス	
	3	27 新人歓迎山行	二ッ箭山		
	5	1-3 春山合宿	景鶴山・燧ヶ岳	雪山	
	5	24 第1回10周年記念準備委員会	市民プラザ		
	6	11 公開登山説明会	市民プラザ	早池峰山・栗駒山	
	6	17-19 公開登山実施	早池峰山・栗駒山	一般11名、会員20名、計31名	
	7	20 第2回10周年記念準備委員会	市民プラザ		
	8	21 登山教室説明会	市民プラザ	出席者 男2名、女2名	計5名
	8	28 登山教室（実技・岩トレ）	岩山	受講生5名、会員9名、計14名	
	9	6 山行文集「やまなみ」第5号発行		平成15年3月～平成16年2月	
	9	11 登山教室（実技・沢登り）	丹沢葛葉川本谷	受講生1名、会員11名、計12名	
	9	17-19 労山フェスタ	美しの森 たかね荘	日本の登山と労山の未来を考える	
	9	23 ウィズハイク実施	土岳・花貫渓谷	福祉作業所18名、会員24名	
	9	27 第3回10周年記念準備委員会	市民プラザ		
	11	12 第4回10周年記念準備委員会	湖北近隣センター		
	11	12 岳人祭	湖北近隣センター	山での事故対応。ゲーム。懇親会	
	12	5 忘年山行	蓬田岳		
2005年 平成18年	1	6 10周年実行委員会	市民プラザ		
	1	28-29 房総横断ロングハイキング	房総	県連主催	
	教育研修	月 机上研修		実技研修	
2005年 平成17年	3	オリエンテーション（山行の中込、住 意事項等） リーダーの役割、山の大気、緊急時の 対策（リーダー研修）	二ッ箭山	山のマナー、山の歩き方 ロープの結び方、便り方。 シラリンゲンによる寺古のトレ	
	4	地図の読み方	岩山		
	4		道志二十六夜山	地図読み山行	

活動の記録

その9

2006年	5	夏山に向けてのトレーディングおよび注意点	川乗谷逆川	沢を楽しむ
			塔ノ岳～檜洞丸	山小屋の利用の仕方
			早池峰	環境保護について考えよう
	7	ストックの応用		
			富士山	高度順応
			苗場山	山の歩き方。ストックの使い方
	10	雪山に向けての知識と準備	陣場山～高尾山	低山のロングハイクを楽しむ
	11	山の中で事故に遭ったら		
	1	ロープの結び方と使い方		

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備考
2006年	1		6 市民プラザ	10周年準備委員会
平成18年		11 アビ스타	17 市民プラザ	
	2	8 アビ스타	14 久寺家通り会館	
	3	5 湖北台市民センター	14 市民プラザ	
	4	12 アビ스타	18 市民プラザ	
	5	10 アビ스타	16 市民プラザ	
	6	8 湖北近隣センター	13 市民プラザ	
	7	5 アビ스타	11 市民プラザ	
	8	9 アビ스타	22 市民プラザ	
	9	5 湖北近隣センター	12 市民プラザ	
	10	4 アビ스타	17 市民プラザ	
	11	8 湖北近隣センター	14 市民プラザ	
	12	7 湖北近隣センター	12 アビ스타	
年	月	日	行事	場所
2006年	1	6	10周年準備委員会	市民プラザ
平成18年	1	28-29	房総横断ロングハイキング	房総
	2	19	会員募集説明会	アビ스타
	3	6	第11回総会	湖北台市民センター
	3	6	新人研修	湖北台市民センター カイダンス
	3	26	新人歓迎山行	難台山・吾国山
	5	3-5	春山合宿	上州武尊岳
	5	21	公開登山説明会	市民プラザ
	6	11	公開登山実施	男体山
	7	5	山行文集「やまなみ」第6号発行	平成16年3月～平成17年2月
	7	5	10周年記念 Tシャツ配布	
	7	12	10周年準備委員会	久寺家通り会館
	8	30	10周年準備委員会	市民プラザ
	9	23	ウィズハイク実施	佐白山・富士山 福祉作業所24名、会員25名
	10	13-15	10周年記念山行	八ヶ岳集中登山 懇親会会場 美しの森ファーム
	10	29	10周年記念祭	我孫子南近隣センター 講演：渡邊輝男（都岳連救助隊長） 「山で遭難しないために」 落語：山遊亭金太郎
	11	18-19	県連40周年記念レセプション	清和県民の森
	12	10	忘年山行	花香月山
2007年	2	7	山行文集「やまなみ」第7号発行	平成17年3月～平成18年2月

活動の記録

その10

平成19年	2	19	会員募集説明会	アビ스타	
教育研修	月	机上研修		実技研修	
2006年 平成18年	3	オツエノーフヨウ（云山行申込み、 注音事項その他の）	難台山・吾国山	山のマナー、山の歩き方	
	4	地図の読み方（尾根と谷）	鬼ヶ岳・節刀ヶ岳	地図読み山行	
	5	事故事例に学ぶ			
	7	山で雷にあつたら			
	10	環境保護について考えよう	八ヶ岳	テント生活を楽しむ	
	10	山の中で事故に遭つたら	殿平・鞍吾山	地図読み山行	
	12	雪山に向けての知識と準備	花香月山	行事山行時の食事の作り方	
	1	ロープの結び方と使い方	房総の山	ロングハイクを楽しむ	
平成19年	2		朝日山・赤鞍ヶ岳	雪山を楽しむ	
	3		奥久慈男体山	山行計画の作成と山行	

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備考
2007年	1	11 アビ스타	17 市民プラザ	
平成19年	2	8 アビ스타	14 久寺家通り会館	
	3	5 湖北台市民センター	14 市民プラザ	
	4	12 アビ스타	18 市民プラザ	
	5	10 アビ스타	16 市民プラザ	
	6	8 湖北近隣センター	13 市民プラザ	
	7	5 アビ스타	11 市民プラザ	
	8	9 アビ스타	22 市民プラザ	
	9	5 湖北近隣センター	12 市民プラザ	
	10	4 アビ스타	17 市民プラザ	
	11	8 湖北近隣センター	14 市民プラザ	
	12	7 湖北近隣センター	12 アビ스타	
2008年	1	10 アビ스타	16 アビ스타	
平成20年	2	7 アビ스타	13 市民プラザ	
			18 アビ스타	拡大委員会
年	月	日	行 事	場 所 内 容
2007年	3	4	第12回総会	湖北台市民センター
平成19年	3	6	新人研修	湖北台市民センター ガイダンス
	3	25	新人歓迎山行	古賀志山
	5	3-5	春山合宿	鹿島槍ヶ岳 雪山
	5	21	市民登山説明会	アビ스타
	6	9-10	市民登山実施	カヤの平・奥裾花 一般25名、会員19名、計45名
	9	22	ウィズハイク実施	大平山 福祉作業所25名、会員26名
	10	13-14	岳人祭	五本松公園
	12	9	忘年山行	高宕山～八良塚
2008年	1	9	山行文集「やまなみ」第8号発行	平成18年3月～平成19年2月
教育研修	月	机上研修		実技研修
2007年 平成19年	3	オツエノーフヨウ（云山行申込み、 注音事項その他の）		奥久慈男体山 卒業山行（自分たちで計画を立て山行を行う）
	3	古賀志山 山のマナー、山の歩き方		
	4	岩山 三点確保		
	5	モミゾ沢 沢登りを楽しむ（初級）		
	6	カヤの平・奥裾花 ブナの魅力（講師：坪田和人氏）		

活動の記録

その11

2008年 平成20年	7	ロープの結び方、使い方		
	8	無線免許の取得について	笠ヶ岳	山の花を楽しむ
	10		岳人祭（五本松公園）	テント生活を楽しむ
	11	雪山を楽しむ	夕日岳	地図読み山行
	12		高岩山～八良塚	行事山行時の食事の作り方
	1	山行計画の立て方	房総の山	県連の仲間との交流
			高山	雪山を楽しむ（雪山基礎）
	2		高尾山	卒業山行（自分たちで計画を立て山行を行う）

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議		備考
2008年	3	2 湖北台近隣センター	11	市民プラザ	
平成20年	4	9 アビ스타	15	市民プラザ	
	5	7 アビ스타	13	市民プラザ	
	6	5 湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	7	9 アビ스타	15	市民プラザ	
	8	6 アビ스타	19	市民プラザ	
	9	10 湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	10	8 アビ스타	14	市民プラザ	
	11	5 アビ스타	18	市民プラザ	
	12	10 湖北近隣センター	16	アビ스타	
	1	7 アビ스타	13	アビ스타	
	2	4 アビ스타	10	市民プラザ	
	2		15	久寺家会館	(拡大委員会)
年	月	日	行	事	場所
2008年	3	2	第13回総会		湖北台近隣センター
平成20年	3	30	新人歓迎山行		子の権現・伊豆ヶ岳
	5	4-6	春山合宿	奥穂高岳	(悪天候により涸沢・蝶ヶ岳に変更)
	5	17	市民登山説明会	湖北台近隣センター	蝶ヶ岳)
	6	7-8	市民登山実施	北八ヶ岳	一般14名、会員32名、計46名
	9	20	ウィズハイク実施	大平山	台風により中止
	11	15	岳人祭	五本松公園	
	12	10	山行文集「やまなみ」第9号発行		平成19年3月～平成20年2月
	12	14	忘年山行	城峰山	
2009年	2	15	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月	日	机上研修		実技研修
2008年	4	登山における体力作り	北八ヶ岳	冬山基礎（前年の赤城山に続き）	
平成20年	5	地図上で明神ヶ岳を歩こう	セドの沢	沢登りのグレードアップ	
	6		夕日岳	地図読み山行	
	6		苗場山	花と写真	
	6		谷川岳山麓	山で事故に遭遇したら（リーダー研修）	
	7	夏山に向けての注意事項	明神ヶ岳	地図読み山行	
	8	ストックの使い方、疲れない歩き方			
	10		石裂山	パッキングの仕方、日帰り装備	
	11	ロープの結び方と使い方（岳人祭）			
	12		八ヶ岳	雪山とテント生活を楽しむ	
2009年	1	安全に雪山を楽しむ			

活動の記録

その12

平成21年	2		伊豆ヶ岳	アイゼンを付けて雪山を歩こう
	2		金時山	アイゼンを付けて雪山を歩こう

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
1	あ	会津朝日岳 (創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298	あ	会津朝日岳	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492	あ	会津朝日岳	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎蓮	8	46
110	あ	会津駒ヶ岳	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269	あ	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
121	あ	荒川三山・赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225	あ	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497	あ	荒川三山～赤石岳	南ア	2007	8/4-7	山小屋	4C	外崎蓮	8	61
445	あ	岩菅山～赤岩山	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎蓮	7	47
258	あ	赤岩尾根	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴勇	4	133
582	あ	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
316	あ	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴勇	5	26
284	あ	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎蓮	1	98
323	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴勇	5	42
571	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋重	9	119
524	あ	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2008	2/3-5	山麓泊	3B	村松敏彦	8	135
616	あ	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
560	あ	赤薙山 (県連平日ハイク)	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
378	あ	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
330	あ	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
271	あ	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
545	あ	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴勇	9	52
174	あ	秋田駒ヶ岳	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎蓮	3	76
483	あ	熊野古道・悪四郎山	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	4B	細野清子	8	18
153	あ	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346	あ	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
21	あ	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
399	あ	朝日岳～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
22	あ	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	あ	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎蓮	2	63
524	あ	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
99	あ	朝日連峰 (ゴーレム・ソウイーク合宿)	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165	あ	朝日連峰	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴、清家	3	47
500	あ	朝日連峰	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204	あ	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+, C	細野清子	4	12
242	あ	浅間隠山	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4	95
411	あ	矢倉岳～足柄古道	箱根	2005	11/8	日帰り	3A	高橋芳恵	6	109
2	あ	愛鷹山連峰	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴勇	1	5
211	あ	愛鷹連峰縦走 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
355	あ	足和田山	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
446	あ	鳥帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋潔	7	49
379	あ	畦ガ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
266	あ	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
566	あ	愛宕山・ポンポン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
260	あ	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
29	あ	愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連・高橋英	1	56
138	あ	安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴勇	2	131
267	あ	安達太良山 (公開登山)	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
359	あ	安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
14	あ	吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴勇	1	22
74	あ	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228	あ	吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎蓮	4	60
109	あ	湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎蓮	2	58
512	あ	大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	3B	青山寿子	8	104
213	あ	雨ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎蓮	7	37
177	あ	雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559	あ	雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
443	あ	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
97	あ	天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
337	あ	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5	93
614	あ	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
405	あ	阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
32	あ	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121	あ	荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497	あ	荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎蓮	8	61
341	あ	末丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344	あ	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190	あ	荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3	104
351	あ	荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榎原文子	5	142
539	あ	荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
200	あ	有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎蓮	4	5
527	あ	有馬山～蕨山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8
239	あ	安房高山(ふれあいハイキング)	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4	90
292	い	北信三山(黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	い	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
220	い	飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴勇	4	48
554	い	飯豊連峰縦走(北股岳～大日岳～飯豊山)	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45	い	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
555	い	五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291	い	石鎚山	四国	2002	10/25夜-26	民宿	B	斎藤清一	4	235
194	い	石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110
55	い	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎蓮	1	97
16	い	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619	い	伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
327	い	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
578	い	子の権現・伊豆ヶ岳(新人歓迎)	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74	い	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
313	い	稻含山・御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332	い	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77	い	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
515	い	伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
388	い	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎蓮	6	48
233	い	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340	い	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
448	い	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
445	い	岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎蓮	7	47
402	い	岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
545	い	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	5B	柴 勇	9	52
601	い	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
237	い	岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311	い	岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14
417	い	岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478	い	宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	4B	青山寿子	8	7
532	い	岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17
51	い	岩山 (リーダー研修)	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105	い	岩山 (リーダー研修)	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162	い	岩山 (新人研修)	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42
202	い	岩山 (新人研修)	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307	い	岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴 勇	5	1
318	い	岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418	い	岩山(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴 勇	6	141
429	い	岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456	い	岩山 (登山教室)	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531	い	岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴 勇	9	15
279	う	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	う	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	5C	大串秀雄	6	67
552	う	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	5C	佐藤健一	9	68
205	う	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369	う	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464	う	裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354	う	裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴 勇	5	148
280	え	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465	え	越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀雄、高橋 潔	7	102
195	え	越前岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	フ	14
348	え	恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493	え	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	5B	大串秀雄	8	49
115	え	鳥帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
536	え	霧島・祖母山・鳥帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	5B	大串秀雄	9	27
446	え	鳥帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋 潔	7	49
582	え	赤岩尾根・鳥帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284	え	鳥帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
203	お	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
233	お	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285	お	大洗海岸水族館(ウイズハイク)	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎 蓮	4	217
437	お	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴 勇	7	28
203	お	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41	お	扇山(公開登山)	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249	お	扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本 豊	4	114
561	お	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	4B	大串秀雄	9	93
575	お	大霧山	奥武藏	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
10	お	大楠山(新人歓迎)	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281	お	大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543	お	大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372	お	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
561	お	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	5B	大串秀雄	9	93
140	お	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
95	お	大鹿山 (新人歓迎山行)	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
101	お	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
528	お	大高山	奥武藏	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
42	お	大岳山 (2期生卒業山行)	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1	80
455	お	大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495	お	大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243	お	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
551	お	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151	お	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3	13
373	お	鬼ヶ岳・釧迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
587	お	�行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87	お	大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
380	お	大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403	お	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北アルプス	2006	9/25-30	山小屋	6C	大串秀雄	6	87
366	お	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557	お	太平山 (ウイズハイク)	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140	お	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
606	お	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342	お	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
512	お	大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
101	お	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
347	お	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	お	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616	お	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
18	お	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	お	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302	お	大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
564	お	小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴 勇	9	100
484	お	小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
102	お	奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309	お	奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
231	お	日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
541	お	カヤの平・奥裾花 (市民登山)	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	2A	堀口昭二	9	39
229	お	奥秩父の沢、川胡桃沢・鶲冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B,D	村松敏彦	4	64
170	お	奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390	お	前穂高岳～奥穂高岳	北アルプス	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598	お	奥穂高岳	北アルプス	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69
61	お	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北アルプス	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
47	お	石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴 勇	1	87
430	お	石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12
603	お	石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
486	お	那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	4C	村松敏彦	8	25
602	お	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
577	お	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391	お	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北アルプス	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
537	お	鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479	お	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373	お	鬼ヶ岳・釧迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
617	お	大室山・赤鞍ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
180	お	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
481	お	帶那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425	お	お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17	お	表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴 勇	1	27
238	お	表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴 勇	4	88
371	お	表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榎原文子	6	10
401	お	表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
361	お	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
594	お	木曾御嶽山	木曾	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59
66	か	甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	テント&無人小屋	C	細野省二	1	125
218	か	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504	か	甲斐駒ヶ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
407	か	宮之浦岳・開聞岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	3C	細野清子	6	97
198	が	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275	か	加賀白山	白山	2002	7/19夜-7/	テント	B+	細野清子	4	181
587	か	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155	か	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251	か	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4	118
163	か	籠/登山・水/塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
27	か	尾瀬集中登山(創立記念) A : 笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	か	笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
553	か	笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋 重	9	70
36	か	笠取山、雁坂峠(クリスマス山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326	か	笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487	か	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
263	か	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	か	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278	か	鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533	か	鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593	か	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
389	か	霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
217	が	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
148	か	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347	か	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	か	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
83	か	鐘撞堂山(新年鍋山行)	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
408	か	鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297	か	加波山(忘年山行)	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476	か	兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305	か	鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
232	か	上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71
70	か	神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水族館他)	A	東葛	1	135
595	か	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122	か	茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608	か	茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95
385	か	榧ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541	か	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232	か	上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
583	か	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
423	か	諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
431	か	モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416	か	鳥場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
227	か	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452	か	唐松岳～鎧ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454	か	唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
81	か	切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴勇	1	162
7	か	川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11
100	か	川乗山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356	か	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439	か	川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32
205	が	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
513	が	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	5D	大串秀雄	8	106
580	か	勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89	か	官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
199	か	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	き	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266	き	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
338	き	御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
167	き	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246	き	木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279	き	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	き	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	き	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
376	き	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
76	き	北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494	き	北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549	き	塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	5C	外崎蓮	9	62
170	き	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
253	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586	き	北八ヶ岳 (市民登山)	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10	31
175	き	鬼怒沼	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602	き	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
69	き	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	き	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288	き	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303	き	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
367	ぎ	行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3
81	き	切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴勇	1	162
536	き	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52	き	霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154	き	霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榊原文子	3	22
485	き	霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榊原文子	8	23
555	き	五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	5C	千葉有子	9	78
123	き	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
191	き	金時山 <富士周辺シリーズ>	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	フ	7
620	き	金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
136	き	甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236	き	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	き	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418	き	金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
436	き	金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
33	く	九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369	く	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
415	く	草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496	く	草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
60	く	櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212	く	櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
120	く	葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325	く	葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456	く	葛葉川本谷 (登山教室)	丹沢	2005	9/11	日帰り		村松敏彦	7	131
438	く	熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
434	く	根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎蓮	7	21
483	く	熊野古道・悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79	く	雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158
158	く	雲取山 (公開登山)	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋／テント泊	B	日下芳十	3	27
308	く	雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
550	く	雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
487	く	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	6B	大串秀雄	8	27
168	く	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
516	く	殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	3B	武内勇二	8	115
107	く	高畠山～倉岳山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185	く	倉岳山 (忘年山行)	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574	く	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	3B	千葉有子	9	125
331	く	倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
328	く	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444	く	早池峰山・栗駒山 (市民登山)	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
602	く	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
13	く	黒川鶏冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
179	く	黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
189	く	三ッ峠山～黒岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
137	く	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292	く	北信三山 (黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	く	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
604	く	黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335	く	黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64	く	黒部五郎岳	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎蓮	1	116
518	け	鶏足山～花香月山 (忘年山行)	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120
435	け	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
544	け	袈裟丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎蓮	9	50
208	け	毛無山～十二ヶ岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
312	げ	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
480	げ	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	4D	佐藤健一	8	11
361	げ	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
131	け	乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293	け	乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
333	こ	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310	こ	甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113	こ	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	こ	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457	こ	甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65	こ	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597	こ	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
40	こ	古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴勇	1	76
316	こ	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴勇	5	26
525	こ	古賀志山 (新人歓迎山行)	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
84	こ	南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴勇	2	4
24	こ	小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456	ご	御座山・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、労山	7	133
164	ご	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
374	ご	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
394	こ	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	6C	大串秀雄	6	67
19	ご	御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178	ご	御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243	ご	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610	ご	御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
139	こ	小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
82	こ	甲武信岳 (クリスマス山行)	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136	こ	甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265	こ	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268	こ	甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎蓮	4	157
376	こ	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
156	こ	子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
514	こ	菰釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
196	こ	菰釣山・高指山 <富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴勇	7	18
227	ご	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454	ご	唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593	ご	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
182	ご	権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴勇	3	94
296	ご	権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337	ご	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5	93
614	ご	西岳～権現～編笠 (クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
463	ざ	蔵王周辺の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97
39	さ	笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193	さ	笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
362	さ	笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎蓮	5	168
576	さ	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎蓮	10	1
615	さ	笹尾根 (楨寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
250	さ	笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
581	さ	笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18
96	さ	笹子雁ヶ腹摺山 (新人歓迎山行)	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
501	さ	富士山～佐白山 (ウィズハイク)	茨城	2007	9/24	日帰り	2A	外崎蓮	8	71
556	ざ	笊ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎蓮	9	81
294	さ	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
198	さ	蛾ヶ岳～三方分山 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
413	さ	三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157	さ	南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263	さ	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	さ	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	4C	武内勇二	6	95
569	さ	三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
336	じ	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593	じ	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
65	し	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451	し	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549	し	塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎蓮	9	62
597	し	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
128	し	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎蓮	2	113
466	し	鹿俣山(玉原高原)	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
261	し	鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
209	し	思親山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	フ	32
332	し	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
215	し	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	フ	39
54	し	七里川清掃ハイキング	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144	し	七里川-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委員会	2	142
27	し	尾瀬集中登山(創立記念) C : 至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L村松敏	1	47
27	し	尾瀬集中登山(創立記念) A : 笠ヶ岳-至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	し	笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎蓮	5	127
373	し	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
393	し	白馬～杓子～鎧ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452	し	唐松岳～鎧ヶ岳～杓子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
128	し	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎蓮	2	113
565	し	社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443	し	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41
330	し	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180	じ	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎蓮	3	90
208	じ	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	フ	28
375	じ	十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
68	じ	上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴勇	1	132
289	じ	上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482	じ	上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15
135	じ	上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
352	し	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
314	し	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
259	し	生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4	135
250	し	笛尾根(日原峠～生藤山)	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
49	じ	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172	じ	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	じ	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
433	し	笙の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449	し	笙の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613	じ	城峯山(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
22	し	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	し	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎蓮	2	63
124	し	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
448	し	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
461	し	白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349	し	白筍山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387	し	白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
118	し	白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎蓮	2	77
21	し	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
317	し	白馬岳（雪山合宿）	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393	し	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399	し	朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	4C	石垣吉朗	6	78
166	し	白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
431	し	モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183	じ	陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榎原文子	4	1
251	じ	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本豊	4	118
314	じ	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
284	す	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
113	す	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	す	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600	す	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
245	す	助川山（忘年山行）	常陸	2001	12/2	日帰り	A, B	川下敬史	4	103
600	す	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
499	す	錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
153	す	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346	す	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
595	す	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
423	す	諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	1A	斎藤清一	6	134
184	す	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
420	せ	石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618	せ	とみやま水仙遊歩道・石尊山	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	3A	斎藤清一	10	122
8	せ	石老山（公開登山）	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188	せ	石老山＜富士周辺シリーズ＞	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	フ	1
479	せ	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	3B	武内勇二	8	9
395	せ	背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370	せ	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529	せ	セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535	せ	セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
607	せ	浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93
146	せ	浅間嶺	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
26	せ	仙丈ヶ岳	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218	せ	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219	せ	仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451	せ	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
73	せ	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	せ	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
396	そ	相馬山～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
116	そ	蕎麦粒山	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356	そ	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433	そ	笙の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449	そ	笙の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60
536	そ	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	4B	大串秀雄	9	27

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
321	だ	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
59	た	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
214	た	利尻山・大雪山	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404	だ	大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
400	だ	立山三山～大日三山	北アルプス	2005	9/17-21	山小屋	4C	外崎蓮	6	80
58	だ	大菩薩峠	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150	だ	大菩薩嶺	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364	だ	大菩薩嶺	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513	だ	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
78	だ	大無間山	南アルプス	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73	た	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	た	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286	た	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
609	た	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
159	た	高岩	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴勇	3	33
155	た	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
519	た	高尾山	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575	た	高尾山	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
244	た	高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
145	た	高川山	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368	た	高川山	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
568	た	高宕山～八郎塚(忘年山行)	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196	た	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴勇	7	18
184	た	高反山・諫訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111	た	夜叉神峠～高谷山	南アルプス	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
570	た	鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
319	た	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385	た	榧ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
107	た	高畑山～倉岳山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
234	た	高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
521	た	高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93	た	高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264	た	高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本豊	4	145
85	た	高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎・村松敏	2	6
306	た	日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488	た	高山(県連ハイク)	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子・県連	8	32
573	た	高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
199	た	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392	た	宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44	た	滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255	た	滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287	た	滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榎原文子	4	224
414	た	滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561	た	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	6B	大串秀雄	9	93
50	た	武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
59	た	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303	た	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
3	た	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
502	た	蓼科山	八ヶ岳	2006	9/30-10/1	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
117	た	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴 勇	2	72
450	た	剣岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
400	た	立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3 C	外崎 蓮	6	80
476	た	兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520	た	谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542	た	谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋 重	9	46
590	た	谷川岳山麓（リーダー研修）	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286	た	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
493	た	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71	た	太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342	た	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
160	た	リーダー研修 in 丹沢	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270	た	リーダー研修 in 丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B・C	村松敏彦	4	166
30	た	丹沢主脈縦走（公開登山）	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129	た	丹沢主脈縦走（新人研修）	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410	た	丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	3B	中村隆泰	6	106
53	た	丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴 勇	1	93
103	た	丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
383	た	玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
132	ち	秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2	121
441	ち	秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
94	ち	茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴 勇	2	20
263	ち	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	ち	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	5C	武内勇二	6	95
172	ち	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	ち	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
583	ち	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20	ち	鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴 勇	1	32
169	ち	鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎 蓼	3	60
217	ち	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456	ち	鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
49	ち	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
28	ち	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	ち	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
299	つ	筑波山（二期生新春山行）	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
43	つ	筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82
80	つ	筑波山（忘年山行）	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127	つ	筑波山（ふれあいハイク）	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2	110
358	つ	筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419	つ	筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
458	つ	土岳・花貫（ウイズハイク）	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
6	つ	燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119	つ	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172	つ	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	つ	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
530	つ	坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
108	つ	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467	つ	鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴 勇	7	107
117	つ	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴 勇	2	72

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
450	つ	剣岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226	つ	剣山	四国	2001	8/31夜-9/1	民宿	A	斎藤清一	4	55
606	つ	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	て	手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611	て	手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
334	て	光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎蓮	5	84
388	て	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎蓮	6	48
366	て	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
143	て	晃石山(テルイシ)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
45	て	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378	て	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508	て	天狗尾根 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
28	て	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴勇	1	54
206	て	長者ヶ岳～天子ヶ岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
152	て	天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
350	て	酉谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	て	酉谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
516	で	殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115
510	て	天女山 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100
4	て	天覧山	奥武藏	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
431	ど	道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
181	と	塔ノ岳～鍋割山 (新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365	と	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377	と	塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437	と	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴勇	7	28
292	と	北信三山(黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	と	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447	と	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46	と	徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
352	と	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324	と	戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54
515	と	伊予ヶ岳・富山 (県連40周年)	房総	2007	11/18-20	テント	2A	高橋英雄	8	112
618	と	とみやま水仙遊歩道・石尊山	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斎藤清一	10	122
447	と	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52
574	と	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
126	と	秋山郷～鳥甲山	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2	107
397	と	鳥甲山	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350	と	酉谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	と	酉谷山～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
63	な	苗場山	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎蓮	1	113
230	な	苗場山	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459	な	苗場山	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588	な	苗場山	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
391	な	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
487	な	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	7B	大串秀雄	8	27
403	な	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	5C	大串秀雄	6	87
151	な	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎蓮	3	13
280	な	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
5	な	鳴虫山	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
104	な	鳴虫山	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276	な	鳴虫山	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本 豊	4	185
422	な	鳴虫山	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
486	な	那須旭岳・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32	な	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
300	な	菜畑山	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
609	な	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
31	な	鍋割山(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91	な	鍋割山	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181	な	塔ノ岳～鍋割山(新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
606	な	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
90	な	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
477	な	難台山～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B/2B	柴 勇	8	3
538	な	男体山麓荒沢水源	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
584	に	二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
374	に	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
57	に	西沢渓谷	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337	に	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	に	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
3	に	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
442	に	西の湖・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榎原文子	7	39
548	に	焼岳～西穂高岳	北アルプス	2008	7/18-21	山小屋	4B	大串秀雄	9	59
61	に	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北アルプス	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77	に	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398	に	日光白根山	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540	に	日光白根山	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
489	に	日光男体山(市民登山)	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34
440	に	入笠山	南アルプス	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
271	に	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
67	に	女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342	に	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	ぬ	沼津アルプス<富士周辺シリーズ>	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	ね	鳥帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋 潔	7	49
589	ね	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434	ね	根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎 蓮	7	21
344	の	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
460	の	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
343	の	鋸山(ウイズハイク)	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎 蓮	5	112
551	の	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	3B	高橋英雄	9	67
338	の	御嶽山・乗鞍岳	木曽・北アルプス	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
577	は	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62	は	白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
252	は	箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
545	は	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	4B	柴 勇	9	52
173	は	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
601	は	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
568	は	高宕山～八郎塚(忘年山行)	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280	は	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503	は	八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
340	は	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
215	は	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
518	は	鶴足山～花香月山(忘年山行)	常磐	2007	12/11	日帰り	3B	川下敬史	8	120
523	は	花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204	は	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+, C	細野清子	4	12
409	は	破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	1A	日下芳十	6	104
522	は	浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98	は	ハマイバ丸(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴勇	2	28
372	は	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161	は	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
444	は	早池峰山・栗駒山(市民登山)	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336	は	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
171	は	榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
396	は	相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	3A	高橋芳恵	6	73
511	は	半月山(県連平日ハイク)	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
382	ば	磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
27	ひ	尾瀬集中登山(創立記念) B : 燐ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L柴	1	47
176	ひ	燐ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎蓮	3	81
435	ひ	燐ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
114	ひ	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴勇	2	66
447	び	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52
505	ひ	東八ヶ岳縦走(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴勇	8	84
374	ひ	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
225	ひ	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
437	ひ	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴勇	7	28
34	ひ	桧洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65
320	ひ	桧洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427	ひ	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
75	ひ	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363	ひ	日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424	ひ	日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
491	ひ	森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B/2A	細野清子	8	42
402	ひ	岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
612	ひ	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269	ひ	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜-2	テント	B+	武内勇二	4	161
503	ひ	八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	4B	大串秀雄	8	77
332	ひ	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
235	ひ	飛龍山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	高橋英雄	4	81
487	ひ	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	5B	大串秀雄	8	27
365	ひ	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
404	ひ	大山・蒜山	大山	2005	10/1-6	宿	3B	斎藤清一	6	90
88	ひ	日和田山～物見山	奥武藏	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	ひ	日和田山～物見山	奥武藏	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
265	ふ	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130	ふ	武甲山	奥武藏	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546	ぶ	武甲山	奥武藏	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
124	ふ	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	ふ	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
501	ふ	富士山～佐白山(ウィズハイク)	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎蓮	8	71

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
23	ふ	富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
221	ふ	富士山Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り(山小屋)	B	日下芳十	7	43
222	ふ	富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榎原文子	7	45
223	ふ	富士山Bコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7	50
224	ふ	富士山Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7	53
272	ふ	富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル		勞山	4	172
272	ふ	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
301	ふ	富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453	ふ	富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
272	ふ	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
381	ふ	水沢山～ニッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
428	ふ	二ツ箭山(新人歓迎山行)	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎 蓮	7	7
69	ぶ	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	ぶ	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
327	ぶ	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
447	ぶ	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426	ぶ	不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
125	ほ	鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339	ほ	鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558	ほ	鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87
596	ほ	鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
167	ほ	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552	ほ	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	4C	佐藤健一	9	68
86	ぼ	房総ツグハイキング	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県連	2	8
141	ぼ	房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137
248	ぼ	房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斎藤、県連	4	110
304	ぼ	房総ロングハイク	房総	2003	1/25-26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360	ぼ	房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473	ぼ	房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517	ぼ	房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572	ぼ	房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
421	ぼ	棒立山	谷川	2005	1/29～30	テント	4D	川下敬史	6	130
526	ぼ	棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎 蓼	9	5
48	ぼ	棒の折山(新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147	ぼ	棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433	ぼ	笙の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521	ぼ	高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	3A	千葉有子	8	129
115	ほ	鳥帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
134	ほ	本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612	ほ	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
605	ほ	本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
38	ほ	本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108	ほ	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534	ほ	本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
566	ぼ	愛宕山・ポンポン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	3A	細野清子	9	105
499	ま	錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	5C	村松敏彦	8	66
61	ま	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390	ま	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
9	ま	巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
210	ま	巻機山 (公開登山)	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321	ま	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
142	ま	幕山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
562	ま	丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469	ま	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469	ま	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498	ま	万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
273	み	御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313	み	稻舎山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254	み	三毳山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514	み	菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	3B	坂口よし江	8	109
341	み	末丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192	み	御正体山 <富士周辺シリーズ>	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	フ	11
201	み	御正体山 <富士周辺シリーズ>	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	フ	13
236	み	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	み	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
381	み	水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
262	み	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480	み	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
137	み	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163	み	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
75	み	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
601	み	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
420	み	石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	3A	斎藤清一	6	127
12	み	三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
189	み	三ツ峠山～黒岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	フ	3
386	み	三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43
547	み	三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599	み	三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
18	み	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	み	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377	み	塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451	み	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南アルプス	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
35	み	三頭山 (忘年山行)	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241	み	三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243	み	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412	み	三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
576	み	三頭山～笛尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
357	み	三頭山 (登山教室)	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴	6	142
157	み	南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349	み	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470	み	南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榊原文子	7	114
403	み	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北アルプス	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
506	み	南八ヶ岳(赤岳) B班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87
507	み	南八ヶ岳(赤岳) C班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384	み	南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
149	み	蓑山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478	み	宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
407	み	宮之浦岳・開聞岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
114	み	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴 勇	2	66
37	み	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592	み	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37	み	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123	み	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592	み	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
490	み	妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
186	む	六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319	む	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	め	飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
88	も	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	も	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
257	も	モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312	も	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370	も	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431	も	モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535	も	モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133	も	百蔵山(忘年山行)	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315	も	百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561	も	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
491	も	森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B/1A	細野清子	8	42
161	や	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
164	や	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
216	や	薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎 蓮	4	33
411	や	矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
474	や	矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
328	や	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462	や	焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96
288	や	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
548	や	焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
271	や	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
173	や	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
111	や	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472	や	矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
72	や	八ヶ岳(公開登山)(創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント&山小屋	A	柴 勇	1	137
92	や	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187	や	八ヶ岳(クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B,C	村松敏彦	3	100
277	や	八ヶ岳	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎 蓮	4	187
509	や	八ヶ岳本峰縦走(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283	や	谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
256	や	八溝山(新人歓迎)	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本 豊	4	130
119	や	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393	や	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	5C	高橋英雄	6	64
452	や	唐松岳～鐘ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
11	や	槍ヶ岳	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168	や	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
403	や	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	7C	大串秀雄	6	87
585	ゆ	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
322	ゆ	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2009年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
563	ゆ	夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎 蓮	9	98
589	ゆ	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21～22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109	ゆ	湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19～20	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
446	ゆ	鳥帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26～28	山麓泊	4B	高橋 潔	7	49
207	ゆ	湯檜曽川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榎原文子	4	19
266	ゆ	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1～3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
493	よ	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2～9	山麓泊	6B	大串秀雄	8	49
15	よ	養老渓谷(クリーンハイク)	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
148	よ	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471	よ	蓬田岳(忘年山行)	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
294	ら	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330	ら	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10～14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
214	り	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3～8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
106	り	両神山(公開登山)	奥秩父	1999	6/5～6	山小屋/テント	B	村松敏彦	2	49
591	り	両神山	奥秩父	2008	7/5～6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
90	わ	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
477	わ	難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B/3B	柴 勇	8	3
260	わ	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
357	わ	和名倉山	奥秩父	2003	12/20～21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487	わ	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2～6	山小屋	4B	大串秀雄	8	27
25	わ	蕨山	奥武藏	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200	わ	有間山～蕨山	奥武藏	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
240	わ	蕨山	奥武藏	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527	わ	有馬山～蕨山	奥武藏	2008	4/9	日帰り	4B	青山寿子	9	8
484	わ	小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	4B	堀口昭二	8	21

編集後記

やまなみ第10号の編集を終えた。第6号の編集を引き受けた時から掲載する最終山行から6ヶ月以内に発行したいとの目標をもって取り組んできました。結果的には、第6号は1年後の発行となり、第7号は11ヶ月後、第8号は10ヶ月後、そして第9号は9ヶ月後の発行と徐々にペースを上げて発行してきましたが、目標の6ヶ月以内には程遠くやや不甲斐ない気持ちは拭えませんでした。

本号はこれまでの経験と反省に立ち、メールを駆使して早め早目の原稿収集に取り組み、失礼を省みず山行の終わったものから直ぐに原稿の提出をお願いしましたところ、4月には殆んどの原稿の提出を受け編集も殆んど終えていて、これから校正作業をお願いしようと思っていた矢先に、坂口さんは鹿島槍東尾根で帰らぬ人となってしまいました。岳人あびこにとってはとても大切な人失い、誠に残念でなりません。

本号には坂口さんリーダーの奥穂高岳、そして遺稿となってしまった平成20年度岳人あびこ最後の山行の金時山が掲載されています。いずれもリーダーとしての坂口さんの細やかな気遣いが感じられ、人柄が偲ばれます。「何での悪天候に」と口惜しい限りですが、現実は素直に受け入れるしかありません。坂口さんのご冥福を衷心よりお祈りしたいと思います。

本号にはやまなみ第10号の記念を込めて、やまなみ第1号から第10号に掲載されている全ての山行の索引をつけました。今後の山行計画のお役に立てるものと思います。一時期、やまなみの発行を止めようとの議論がありましたが、あの時止めなくて本当によかった。これからも元気でますます充実した会山行が出来るよう祈って止みません。(YT)

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集 やまなみ 第10号

発行日 平成21年7月8日

発行者 岳人あびこ 会長 小川誠二郎

千葉県我孫子市泉6-5

編集者 会報部 やまなみ編集係

武内勇二 坂口よし江

印刷所 太平洋印刷株式会社

(会員限り 非売品)